

科目名		英語学入門 210					
教員名		平山 真奈美					
科目No.	125131100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、言語学の概念を用いて英語の構造を学ぶ。実際にデータを分析することを通して、実践的に学ぶ。必要に応じて日本語を始めとして他言語との比較も行いながら、英語を含めた自然言語とはどのようなものなのかについて学ぶ。							
〔到達目標〕							
DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-1（教養の修得）を実現するため、この授業では以下の3点を目標とする。 ・言語学の概念を学び、言語を学問的にとらえる。 ・英語の音声、音韻、形態、形態音韻、統語の構造、歴史および、社会における言語や語用論の概念を学ぶ。 ・英語の構造を言語学の概念を使って分析できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	Introduction: What is linguistics and English linguistics? Who speaks English?			Review of class Homework		30	
第2回	Phonetics I: Speech organs, transcription and symbols, consonants of English and Japanese			Review of class Homework		60	
第3回	Phonetics II: Vowels of English and Japanese			Review of class Homework		60	
第4回	Phonology I: Sounds in mind, phonemicization Quiz #1			Review of class Quiz preparation		120	
第5回	Phonology II: Derivation, the syllable			Review of class Homework		60	
第6回	Morphology I: Decomposing words			Review of class Homework		60	
第7回	Morphophonemics Quiz #2			Review of class Quiz preparation		120	
第8回	Morphology II: Internal structure of words, lexical stratum			Review of class Homework		60	
第9回	Syntax I: Simple sentences			Review of class Homework		60	
第10回	Syntax II: Complex sentences Quiz #3			Review of class Quiz preparation		120	
第11回	History of English			Review of class Quiz preparation		120	
第12回	Sociolinguistics: Language and society			Review of class Homework		60	
第13回	Pragmatics Quiz #4			Review of class Quiz preparation		120	
第14回	World Englishes Review of course			Review of class		30	
〔授業の方法〕							
講義をした後、内容について練習問題を行いながら授業を進める。項目が終わる毎に小テスト（quizzes）を行い、理解を深める。							
〔成績評価の方法〕							
Quizzes: 60% (4x15%) Final exam (during the exam week): 40%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 西光義弘（編）（1999）『英語学概論（増補版）』東京：くろしお出版（ISBN: 9784874241691）
〔参考書〕 窪菌晴夫（編）（2019）『よくわかる言語学』京都：ミネルヴァ書房 三原健一、高見健一（編）（2013）『日英対照 英語学の基礎』東京：くろしお出版 O' Grady, William and John Archibald. 2016. Contemporary Linguistic Analysis: An Introduction. (8th ed.) Pearson. 龍城正明（編）（2015）『英語学パースペクティヴ』東京：南雲堂
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語史 A312					
教員名		田辺 春美					
科目No.	125131220	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
英語という言語がどのようにして発達してきたかを外観する。 どの言語も時の流れの中で変化するが、英語が被った変化は目覚ましく、他のヨーロッパの言語には見られない方法で、疑問文や否定文、進行形を作る。語彙の多さも類を見ない。本演習では、印欧祖語から古英語、チョーサーの中英語、ショークスピアの初期近代英語を経て現代英語へと時代が変遷するにつれて生じた、発音、スペリング、形態、文法、語彙に生じた変化とそのメカニズムについて学ぶ。 英語の歴史について学ぶことは現代英語をよりよく理解することにつながるので、選択科目ではあるが英米文学科の学生の多くに履修してほしい。							
〔到達目標〕							
DP1-1、1-3（専門分野に関する知識・技能）、DP2-2(教養の修得)、DP3-2（課題の発見と解決）、DP4-1（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 （１）英語の始まりから現代英語までどのような変化があったか概略を理解する。 （２）標準英語がどのように成立したのか理解する。 （３）発音、語彙、形態、文法の変化はそれぞれ英語という言語の内的なメカニズムと文化的な事情により、個別に発達していることを理解する。 （４）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について考察							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業の紹介 Zoom のオリエンテーション			【予習・復習】シラバスを読み、授業の内容を理解する。教科書 1、 2 章を読む。		60 分	
第 2 回	1 章 はじめに 2 章 英語史の概観			【予習】教科書 1、 2 章を読む。配布された資料を読む。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 3 回	3 章 印欧祖語 グリムの法則			【予習】該当する教科書 3 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 4 回	4 章 古英語の文献・特殊文字 古英語の写本紹介			【予習】該当する教科書 4 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 5 回	5 章 古英語の豊富な語尾変化（1-1） 格変化、名詞の活用			【予習】該当する教科書 5 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 6 回	5 章 古英語の豊富な語尾変化（1-2） 定冠詞、演習問題			【予習】該当する教科書の 5 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 7 回	5 章 古英語の豊富な語尾変化（1-3） 人称代名詞、疑問詞、形容詞の語尾変化			【予習】該当する教科書 5 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 8 回	6 章 ヴァイキングが英語に与えた影響			【予習】該当する教科書 6 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 9 回	7 章、8 章 古英語の豊富な語尾変化（2） 古英語の動詞の変化と法（仮定法と命令法）			【予習】該当する教科書 7、 8 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 1 0 回	9 章 ノルマン人が英語に与えた影響―語彙を中心に―			【予習】該当する教科書 9 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 1 1 回	1 0 章 多義の回避―語順の変化			【予習】該当する教科書 1 0 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 1 2 回	1 2 章 分極の仮説―規則と例外 疑問文・否定文の do の発達			【予習】該当する教科書 1 2 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 1 3 回	1 3 章 綴りと発音の不一致 大母音推移			【予習】該当する教科書 1 3 章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。		6 0 分	
第 1 4 回	到達度確認試験実施			【復習】教科書や配布資料を見直し、復習する。		180 分	
〔授業の方法〕							
教科書、配布プリントをもとにした講義と練習問題。 補助教材として、DVD 教材であるメルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』 BBC の『ストーリー オブ イングリッシュ』を視聴しながら、楽しく進めたい。							
〔成績評価の方法〕							

平常点と到達度確認試験による。授業への積極的参加状況、クイズ、コメントシート、宿題の提出状況が 70%、到達度確認試験が 30%。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。 1) 英語の始まりから現代英語までの歴史の概略を説明できる。 (2) 標準英語がどのように成立したのか説明できる。 (3) 英語の発音、語彙、形態、文法の変化のメカニズムを理解している。 (4) 標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について概要を説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目：英語学入門 関連科目：英文法、英語音声学
〔テキスト〕 児馬修 『ファンダメンタル英語史 改訂版』 ひつじ書房、1728 円、ISBN 4894768771
〔参考書〕 「購入の必要なし」 寺澤盾『英語の歴史』（中公新書）、中央公論社、780 円、ISBN 978-4-12-101971-4 寺澤盾『英単語の世界』（中公新書）、中央公論社、780 円、ISBN 978-4-12-102407-7 堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、950 円、ISBN 978-4805727041 堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社、2376 円、 ISBN 978-4-627-40168-9 唐澤一
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		English Around the World 314					
教員名		田辺 春美					
科目No.	125131240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
今、我々が「英語」と呼ぶ言語には、実は様々なバラエティーが存在する。地域や社会により異なるバラエティーについて、それがどのような過程を経てきたのか、それを使う人や社会にはどのような価値づけや意味づけが自他からされるのかを学び、講義や配布資料を元に世界中の人々が英語を学ぶようになったことの長所と短所についても考察し、英語帝国主義とも評される英語中心のグローバルな力関係や教育における問題点などにも目を向ける。							
〔到達目標〕							
DP1-1、1-3（専門分野に関する知識・技能）、DP2-2(教養の修得)、DP3-2（課題の発見と解決）、DP4-1（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 （１） 英語が今の「英語」になるまで、どのような歴史を経てきたのか、説明ができる。 （２） 様々な英語のバラエティーの違いを説明できる。 （３） 標準英語をめぐる論争の異なる立場を説明できる。 （４） カチュールのモデルを使って、世界の様々な英語について分類したり解説でき、かつそのモデルの問題点も指摘できる。 （５） 言							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業の紹介 英語の起源と歴史			【予習・復習】シラバスを読んでおく。配布するプリントを読んでおく。		60分	
第2回	地球上へ広がった英語			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第3回	英語の様々なバラエティー 1：語彙			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第4回	英語の様々なバラエティー 2：文法			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第5回	英語の様々なバリエーション 3：発音			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第6回	標準英語とは何か 1：様々な見方			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第7回	標準英語とは何か 2：社会的ステータスと言語に伴う権力			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第8回	カチュールのモデル：インナー・サークル、アウター・サークル、エクспанディング・サークル			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第9回	英語は誰のものか、言語帝国主義			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第10回	文化政治的視点からの世界共通言語としての英語			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第11回	英語と「言語の死」			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第12回	言語とアイデンティティー			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第13回	世界共通語としての英語：長所と短所、そして未来			【予習・復習】配布するプリントを読んでおく。		60分	
第14回	まとめ			【予習・復習】テストの正答を復習し、授業を振り返る。		120分	
〔授業の方法〕							
配布プリントをもとにした講義とそれに基づく課題。							
〔成績評価の方法〕							
授業内の取り組み： 50% 予習・復習： 25% 学期末課題：25% （１）標準英語がどのようにして成立し、様々なバラエティーとどのような関係を持っているのかを理解しているかどうか							

(2) 世界の英語のモデルの説明や言語帝国主義、世界共通語としての英語の現状と課題について述べることができるかを評価の観点とする。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕 参考書・参考資料等 リーディング・リストを授業で配布する。以下はその一部。購入の必要なし。 Holmes, P. and Derivin, F. (Eds.). (2016). The cultural and intercultural dimensions of English as a lingua franca. Multilingual Matters. Jenkins, J. (2007). English as a lingua franca: Attitude and ident
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		対人関係の言語学 315					
教員名							
科目No.	125131250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		社会言語学 316					
教員名		森住 史					
科目No.	125131260	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
私たちが毎日使う言語は、私たちの住む社会や文化、価値観の影響を受けている。また、その逆もまたしかりである。社会言語学は、実際に使われている言語を分析し、様々な角度から社会と言語の関係をとらえる学問であり、授業では英語圏における、言語とジェンダー、言語とメディア、言語と年齢などのトピックを、権力・イデオロギー・政治の観点から読み解いていく。また、教科書で扱っているトピックは英語・英語圏社会であるが、毎回の授業を通して、日々、自分たちが使っている言語、目にする・耳にする言語についても批判的に捉えられるようになることを目標とする。							
〔到達目標〕							
DP1, DP2, DP5, DP6 に沿って以下を到達目標とする。 1. 英語で書かれた社会言語学のテキストを読み、理解し、解説できるようになる。 2. 社会言語学の基本的な概念・アプローチ、用語を身につける。 3. 自分の身の回りの言語事象・言語活動に対し、客観的で批判的な捉え方ができるようになる。 4. 自分で社会言語学の基礎的リサーチを行えるようになる。 5. 自らのリサーチを口頭で、また、文章で、説得力を持って発表できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	What is sociolinguistics?			指示に従って予習・復習・課題をすること。		60 min	
第 2 回	Language and politics 1			指示に従って予習・復習・課題をすること。		60 min	
第 3 回	Language and politics 2			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 4 回	How to write the term paper 1: Research methods, APA			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 5 回	Language and the media 1			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 6 回	Language and the media 2			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 7 回	Language and gender 1			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 8 回	Language and gender 2			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 9 回	Language and age 1			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 1 0 回	Language and age 2			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 1 1 回	Language, class and symbolic capital 1			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 1 2 回	Language, class and symbolic capital 2			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 1 3 回	How to write the the term paper 2: Organization, research question, APA			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
第 1 4 回	Term paper consultation			指示に従って予習・復習・課題をすること。		90 min	
〔授業の方法〕							
＊教科書は初回から使用。必ず購入して臨むこと。 （これより以下の授業の方法は、受講生の人数、対面授業かオンライン授業か、などにより、変わる可能性がある。） 毎回の授業は、「気付き」のシェア、あるいはリフレクションや課題の発表からスタート。 最初の 4 週間は担当教員が、ディスカッションやリサーチの時間をとりつつ講義を進める。 5 週目からは 12 週目は受講生が準備をして「授業」をする。「授業」担当者は内容について 100%理解していることが求められる。不明な点があれば必ず担当教員に確認すること。 社会言語学のトピックを扱うだけでなく、リサーチ手法についても授業で紹介し、最終的には各自で社会言語学的リサーチをして term paper にまとめて提出する。 また、毎週何らかの課題が出されるので、欠席した場合には CoursePower で授業資料を確認し、他の受講生と同様に提出をすること。							

〔成績評価の方法〕 （評価の方法は、受講生の人数、対面授業かオンライン授業か、などにより、変わる可能性がある） 授業への積極的な参加・貢献 30% 毎週の課題 20% 「授業」 20% Term paper 30%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 Language, Society and Power: An Introduction. 5th edition. Annabelle Mooney and Betsy Evans. (2018). Routledge. (Approx. 4,300 yen) ISBN 9780415786249
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		英語学研究基礎 A317					
教員名		篠原 和子					
科目No.	125131270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、現代言語学の方法によって明らかにされてきた英語の構造的・意味的特徴のなかから、いくつかの基本的な項目を取り上げて講義します。まず最初に現代言語学の大きな流れを概観することで、客観的な言語研究の方法論、特に認知言語学の考え方に触れ、つぎに英語の構造のうち主要なポイントを具体的に考えていきます。音韻構造、形態素や語の構造、動詞の類型、名詞の類型、カテゴリー構造などを取り上げ、基本概念と分析事例を解説します。講義でこれらの項目を扱い、可能なところでは相互のやりとりでディスカッションをします。							
〔到達目標〕							
D P 6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を涵養するため、次の点を到達目標とする。 1. 英語学の前提となる現代言語学の主な理論の考え方と背景を理解し説明できる。 2. 英語の音韻構造の特徴、形態素や語の構造、動詞類型論、名詞類型論、カテゴリー構造など、主要なポイントを理解し、英語の特徴を説明できる。 3. 学習した理論・諸概念にもとづき、あてはまる英語表現の事例を自力でみつけ、適切に記述・説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・ガイダンス 授業の方法や内容、日程その他必要事項について説明を行う。 【導入クイズ】 ・世界の言語についての概観			シラバスをよく読み、講義内容や授業の方法などを理解し、 ノートのとり方を考える。		60	
第 2 回	英語研究の方法論：現代言語学の流れ [1] ・言語の起源と発展 ・音声言語と文字 ・歴史言語学			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 3 回	英語研究の方法論：現代言語学の流れ [2] ・ソシュールの思想からアメリカ構造主義へ			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 4 回	英語研究の方法論：現代言語学の流れ [3] ・20 世紀後半の理論言語学：生成文法、認知言語学			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 5 回	自然言語の特徴 ・恣意性、生産性、階層性、超越性 ・人間の言語の特殊性 ・言語の普遍性と個別性			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 6 回	英語の構成レベル ・音韻、形態、統語 ・英語学の下位分野：音韻論、形態論、統語論、意味論、語用 論 ・音声学の位置づけ			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 7 回	英語の音韻体系 ・音声と音韻 ・子音と母音 ・音節構造 ・英語と日本語の違い			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 8 回	語構造の特徴 1. ・形態素 ・屈折と派生 ・語の基本構造			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 9 回	語構造の特徴 2. ・接辞のカテゴリー、接頭辞と接尾辞 ・複合語の形成、右主要部規則			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講 義内容をよく復習し、理解する。		60	
第 1 0 回	動詞の類型 ・移動事象表現と類型論 Verb-framed language vs. Satellite-framed language ・日本語と英語の移動表現の比較 ・英語の移動様態動詞			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 1 1 回	語義ネットワーク ・特定意味領域動詞（破壊動詞、着衣動詞など）の日英比較 ・分類詞、前置詞			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 1 2 回	名詞の類型 ・可算性と不可算性 ・言語類型と認知			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。		60	
第 1 3 回	カテゴリー化 ・古典的カテゴリー論 ・プロトタイプと放射状構造			【復習】 ノートをきちんと取り、授業資料を利用して講義 内容をよく復習し、理解する。 これまでの学習内容全体にわたって復習をする。		120	
第 1 4 回	全体の振り返りとまとめ、学習効果のチェック ・学期全体の講義内容について、学習効果の確認を行う。			【復習】 学習が不十分であった箇所を点検し、補うかたち で復習をする。		120	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。 毎回オリジナルの資料を新たに用いるので、先の方まで予習をする必要はないが、講義内容をよく理解するために、自分でノートを取ることと毎回の復習は重要である。							

毎回コメントシートを用いて質問を受け付け、次の授業で補足・解説をおこなう。 適宜小テストを行い、必要な場合は宿題を出す。 学期末に全体にわたって総合的な理解度チェックを行う。
講義の進度は受講生の理解度をみながら適宜調整するので、上記の計画とずれることがありうる。状況により、トピックの追加、削除をする可能性がある。
〔成績評価の方法〕 以下の項目を総合的に評価する。 ・平常点（授業への参加・提出物）：20% ・小テストおよび全体の理解チェックのスコア：80%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 購入の必要なし。
〔参考書〕 参考書は必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 コメントシート，またメールで受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		英語学研究基礎 B318					
教員名							
科目No.	125131280	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語史 B 412					
教員名		田辺 春美					
科目No.	125131320	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
「英語史 A」で得た古英語から現代英語までの変遷に関する基本的な知識に基づき、古英語時代、中英語時代、初期近代英語時代、後期近代英語時代を代表する作品から抜粋を少しずつ精読する。単に英語史の概略的な知識を得るだけでは本当の面白さはわからない。本当のおもしろさは、実際にさまざまな時代の英文を読むことで体験できるので、是非いろいろな時代の様々な文体の英語を読むことで英語史の流れを実感してほしい。各作品を読むに際しては、語彙リストを配布したり、背景的な説明を行って、学習の手助けとするので、後期からの履修も歓迎する。							
〔到達目標〕							
DP1-1、1-3（専門分野に関する知識・技能）、DP2-2(教養の修得)、DP3-2（課題の発見と解決）、DP4-1（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 （１）古英語時代、中英語時代、初期近代英語時代、後期近代英語時代の英語の抜粋の精読を通して、それぞれの時代の英語の変遷を理解する。 （２）古英語時代、中英語時代、初期近代英語時代、後期近代英語時代の英語の文法構造、語形や語彙の変化、文字の変化を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業の紹介 古英語文法の基礎			【予習・復習】シラバスを読み、授業の内容を理解する。前期の教科書で古英語のところを復習する。		60 分	
第 2 回	古英語散文ロマンズ Apoloni ^{us} of Tyre の抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 3 回	古英語英雄叙事詩 Beowulf の抜粋精読 映画『ベオオウルフ』（ゼメキス監督）視聴			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 4 回	1 4 世紀 The Canterbury Tales の解説、抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 5 回	1 4 世紀 The Canterbury Tales の抜粋精読 Ellesmere 写本を読む			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 6 回	1 5 世紀 Paston Letters (Agnes Paston) の解説、抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 7 回	1 5 世紀 Paston Letters (Margery Paston) の解説、抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 8 回	1 6 世紀 Shakespeare の英語の解説、Romeo and Juliet、抜粋精読 映画『ロミオとジュリエット』（ゼフエレッリ監督）視聴			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 9 回	1 7 世紀欽定訳聖書（ルカ伝）からの抜粋精読と解説			【予習・復習】配布資料をよく見て、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 1 0 回	1 8 世紀のジョンソン博士の辞書の抜粋精読と解説			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 1 1 回	1 9 世紀の Jane Austen の英語の解説、Sense and Sensibility からの抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 1 2 回	1 9 世紀の Jane Austen, Sense and Sensibility の抜粋精読 DVD『いつか晴れた日に』（アン・リー監督）視聴			【予習・復習】配布資料をよく読んで、抜粋の英文を精読する。		6 0 分	
第 1 3 回	2 0 世紀の Arthur Conan Doyle The Adventures of Sherlock Holms の抜粋精読			【予習・復習】配布資料をよく見て、抜粋の英文を精読する。		60 分	
第 1 4 回	まとめと到達度確認試験			【予習・復習】配布資料と授業で取り上げた抜粋を読み直し、到達度確認テストの用意をする。		180 分	
〔授業の方法〕							
配布プリントをもとにした講義とそれに基づく課題。ビデオ教材『ストーリーオブイングリッシュ(The Story of English)』、『英語の冒険(The Adventures of English)』や映像作品の視聴。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への積極的な取り組みと課題の達成度、リアクションペーパーの提出状況、Microsoft Forms による力試しなど） 7 0 %と到達度確認テスト 3 0 %。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。 （１）古英語時代、中英語時代、初期近代英語時代、後期近代英語時代の文法構造、語形や語彙の変化、文字の変化など、それぞれの時代の英語の特徴を説明できる。 （２）現代英語はどのようにしていまの形になったのかを 1500 年の流れの中で説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目：英語学入門 関連科目：英語史 A 3 1 2、英文法、英語音声学
〔テキスト〕 特にテキストは使用しない。
〔参考書〕 「購入の必要なし」 児馬修『ファンダメンタル英語史 改訂版』ひつじ書房、ISBN 4-938669-74-9、1545 円。 寺澤盾『英語の歴史』（中公新書）、中央公論社 家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房、978-4-89476-349-4。 堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部。 唐澤一友『英語のルーツ』春風社 978-4-86110-283-7 宇賀治正朋『英語史』（現代の英語学シリーズ 8）、開拓社、3500 円、4-7589-0218
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英文法 414					
教員名		長谷川 宏					
科目No.	125131340	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
ノーム・チョムスキーの提案した生成文法理論に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校文法だけではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。							
〔到達目標〕							
(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。 (2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説 (innateness hypothesis) について学ぶ。			生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 2 回	生成文法理論の基本的なしくみ、特に初期の理論における句構造規則 (phrase structure rules) について学ぶ。			句構造規則について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 3 回	引き続き句構造規則について学び、さらに理解を深める。			引き続き句構造規則について、授業で紹介する資料を参照しつつさらに復習する。		60 分	
第 4 回	埋め込み文 (embedded sentence) の構造について、埋め込みを含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			埋め込み文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 5 回	不定詞節 (infinitival clause) について、want や persuade のような動詞の後ろに不定詞節がくる構文を分析しつつ、その特性について考察する。			不定詞節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 6 回	生成文法理論の中で重要な位置を占める、移動現象のしくみについて学ぶ。特に、名詞句移動 (NP-Movement) について取り上げ、繰り上げ (Raising) と呼ばれる現象について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			名詞句移動と繰り上げについて、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 7 回	引き続き名詞句移動 (NP-Movement) について取り上げ、受動文（受け身文; passive sentence）と呼ばれる構文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			受動文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 8 回	Wh 移動と呼ばれる現象について学ぶ。Wh 移動が作用すると考えられる、Wh 疑問文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			Wh 疑問文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 9 回	引き続き Wh 移動と呼ばれる現象について学ぶ。Wh 移動が作用すると考えられる、関係節 (relative clause) について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			関係節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 1 0 回	不定詞関係節 (infinitival relative clause) と呼ばれる構造について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。			不定詞関係節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 1 1 回	言語の持つ回帰性 (recursion) について学ぶ。英語の多重埋め込み文などの構造を分析しつつ、その特性について考察する。			言語の回帰性について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 1 2 回	移動に課せられる制約について学ぶ。島の制約 (island constraints) について、移動現象がかかわる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する			島の制約について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 1 3 回	引き続き島の制約 (island constraints) について、移動現象がかかわる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する			引き続き島の制約について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
第 1 4 回	島の制約を説明する下接の条件 (subjacency condition) について学ぶ 小テスト			下接の条件について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。		60 分	
〔授業の方法〕							
必要に応じてプリントを配布しながら、講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいくので、授業には毎回出席するようにしてください。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。							
〔成績評価の方法〕							
学期末に「到達度確認小テスト」を行います。「到達度確認小テスト」70%、平常点（授業への参加状況）30%で評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学概論 I・II

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布します。

〔参考書〕
英語構文事典、中島平三編、大修館書店
増補版 チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷・金子義明 編、研究社
授業の際に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後に時間を取りますので、質問がある人は事前に連絡してください。

〔特記事項〕

科目名		英語学研究発展A415					
教員名		篠原 和子					
科目No.	125131350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、英語にみられる意味的現象のいくつかを取り上げます。認知構造や身体的経験の構造がどのように言語の意味に反映されているか、意味拡張はどのようにして構造化されているのか、英語と日本語の違いはどういった点にあるかなどを考察する作業を通して、英語の意味構造と認知構造の関係についてのより深い理解と考察力を養成し、英語を言語のひとつとして客観的に見る力を養います。具体的には、認知言語学の概念メタファー理論を基盤として、感情表現・時空間表現・音象徴など、各種表現例からその基底にある概念対応の構造を分析し、その動機づけの考察を通じて、言語普遍性と言語差について考えます。							
〔到達目標〕 D P 6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を涵養するため、次の点を到達目標とする。 1. 概念メタファー理論のしくみと意義を理解し、多角的な英語の解釈力をつける。 2. 講義で取り上げる英語の意味現象を理解し、日本語との違いを説明できるようにする。 3. 学んだ内容を自らの言語体験と関連づけ、英語の意味現象を主体的に考察できる力をつける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	1. ガイダンス ・授業の進め方の説明 ・講義内容の全体的説明 ・授業の受け方 ・ノートの取り方 2. 受講者アンケート			【復習】 説明された内容をしっかり記録し、理解する。授業への対応の準備をし、ノートの取り方を検討する。		60	
第2回	感情表現(1)：事例観察 ・英語の感情表現事例 ・文字通りの意味とメタファーの意味 ・メタファー構造の観察と発見			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第3回	感情表現(2)：概念対応分析 ・感情メタファーの概念対応 ・「怒り」のメタファー構造 ・身体部位と感情 ・日英語の比較			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第4回	概念メタファー理論の概観 ・修辭的比喩と概念メタファー ・Source Domain と Target Domain ・概念メタファーの特徴			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第5回	感情表現(3)：言語差 ・日本語の感情メタファー ・臓器と自然現象 ・身体性と民族差			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第6回	感情表現(4)：応用研究 ・マルチモーダルメタファー ・文化的差異 ・視覚メディアの感情表現			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第7回	概念メタファーの種類 ・方向性のメタファー ・フレームに基づくメタファー			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第8回	時間表現 [1]：事例観察 ・英語と日本語の時間メタファー事例 ・時間メタファーの分類			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第9回	時間表現 [2]：分類と理論化 ・空間概念構造に基づく時間メタファー ・前後軸の利用 ・自己中心的視点と移動 ・順序構造と移動			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第10回	時間表現 [3]：言語間比較 ・日英語の時間メタファーの違い ・時間の空間的表象：前後軸と上下軸 ・書記体系と時間概念			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第11回	音象徴 [1]：導入 ・恣意性と有契性 ・怪獣や動物の名前にみられる音のイメージ ・音象徴とは何か			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第12回	音象徴 [2]：研究事例 ・形と大きさの音象徴 ・音声学からの説明：障害音と共鳴音、有声音 ・身体性と言語普遍性			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		60	
第13回	音象徴 [3]：応用と発展 ・男女のイメージ、強さ、性格、感情 ・商品名の研究 ・ポケモン、ディズニー、プリキュア ・言語差の発見			【復習】 ノートをしっかり整理し、講義内容を復習して理解することにより、次回の講義をスムーズに理解できるようにする。		120	

第 1 4 回	講義全体の振り返り・理解度チェック	【予習・復習】 講義全体についてふりかえり、自分の理解度を確認する。	120
〔授業の方法〕 ・講義を中心とするが、理解を深めるために授業内クイズなども採り入れる。 ・特定の教科書は用いず、授業に即した資料を配布する。 ・コメントシートで質問やコメントを受け付け、次回の授業で紹介・回答をする。 ・適宜小テストを行い、必要に応じて宿題を出す。 ・講義の進度、および資料の量は、受講生の理解度をみながら調整する。進度によっては上記の計画の追加、削除、入れ替えなどがありうる。 ・最後に全体的な理解度チェックを授業内に行う。			
〔成績評価の方法〕 以下の項目を総合的に評価する。 1. 授業への積極的な参加、グループ活動・発言などによる貢献： 30% 2. 小テストおよび理解度チェックのスコア、提出課題： 70%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 以下の項目にもとづいて評価する。 1. 講義で取り上げる英語の意味現象を正しく理解し、日本語との違いを含め、適切に識別し、説明できるか。 2. 講義で取り上げる英語の意味現象の具体例を観察により発見し、自ら主体的に考察できるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 参考書や参考資料は必要に応じて授業中に紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 コメントシートを受け付けるほか、個人メールでも質問・相談を受け付ける。			
〔特記事項〕 なし			

科目名		英語学研究発展 B416					
教員名							
科目No.	125131360	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語学研究発展 C417					
教員名							
科目No.	125131370	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化入門 220					
教員名		権田 建二					
科目No.	125132100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
複数の人間によって形成される共同体において、そのうちの何人かが中心的な存在となり、それ以外の何人が周縁的な存在となるのは、社会一般に関して広く認められる現象だろう。アメリカ合衆国も例外ではない。むしろアメリカは他者を排除しようという中心性が極めて強く働く場であり、中心的存在・周縁的存在という分類が明瞭に現れるところである。しかし、アメリカにおいて特徴的であると思われるのは、そのように周縁に追いやられた人たちがその立場に甘んじない点だ。しばしば彼ら・彼女たちはアメリカ人として自らの存在の正当性を主張する。アメリカの歴史を眺めれば、中心性と周縁性の相克がアメリカを形成しているとさえ言えるだろう。本講義では以上のような観点からいくつかのテーマにそって、アメリカ社会において中心性と周縁性がどのように働いてきたか、働いているのか見ていきたい。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする 1) アメリカの歴史・文化を理解するための視座を得る。 2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクションー合衆国と自由・平等・民主主義			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 2 回	自由はどこまで可能かー統規制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 3 回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り Iー合衆国と宗教、ピューリタン、メイフラワー誓約、「丘の上の町」			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 4 回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り IIーセイラムの魔女裁判			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 5 回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り IIIー魔女狩りのその後			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 6 回	西部開拓とネイティブ・アメリカン Iーモンロー宣言、「明白な運命」、フロンティアの消滅			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 7 回	西部開拓とネイティブ・アメリカン IIーメアリー・ロウランドソンの『俘虜記』、インディアンへの強制移住			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 8 回	西部開拓とネイティブ・アメリカン IIIーヘレン・ハント・ジャクソン、インディアン・アクティヴィズム			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 9 回	西部開拓とネイティブ・アメリカン IVーネイティヴ・アメリカンと同化			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 0 回	人種差別と黒人 Iー奴隷解放と「分離すれど平等」の原理ーブレシー判決			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 1 回	人種差別と黒人 IIー黒人に対する差別			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 2 回	人種差別と黒人 IIIーブラウン判決と公民権運動			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 3 回	人種差別と黒人 IVー公民権運動の後とアフターマティヴ・アクション			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 4 回	まとめ：セルフレビュー			【予習】 セルフレビューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。		60	
〔授業の方法〕							
教科書は使用しません。毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。 プリントは CoursePower を使って配布します。 また、毎回授業中にリアクション・ペーパーを書くこととなりますが、これも CoursePower を使って配布・回収します。							
〔成績評価の方法〕							
レスポンス・ペーパー（90%）＋セルフレビュー（10%） リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。 毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べるようになります。							

毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使わない。必要な文献等は毎回プリントにして配布。
〔参考書〕 ハワード・ジン『民衆のアメリカ史』 上下 明石書店, 2005. エリック・フォーナー『アメリカ自由の物語：植民地時代から現代まで』岩波書店, 2008 年. 有賀夏紀・油井大三郎 編 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣 2003 年. 亀井俊介 編 『アメリカ文化入門』 昭和堂 2006 年. 大下尚一 有賀貞 志邨晃佑 平野孝 『史料で語るアメリカ メイフラワーから包括通商法まで』 有斐閣 1989 年.
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 321（精神分析）					
教員名		遠藤 不比人					
科目No.	125132210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
人間の発言はもちろん、様々な文化テキスト（小説や映画など）には「無意識」の領域があります。これは、発言をした本人、小説や映画を作った人でも自分では知ることができない心の領域です。しかしこの「無意識」が知らぬまに人の発言や作品を支配しています。これらを真に理解するためには、無意識へのアプローチが必要になります。そのための理論が精神分析です。この講義では、特に人間の「夢」がこの無意識によって紡がれている構造を学び、それを具体的な映画の分析に応用することを目指します。講義によって基礎知識を得た後で具体的な映像分析をする予定です。対象テキストにはジブリ映画などを考えています。							
〔到達目標〕							
精神分析という英語圏の文化研究における基礎的な教養を習得し（DP1：教養の習得）、国内外の映像テキスト（映画やアニメーションなど）に潜在する不可視の欲望や葛藤を理解することにより（DP6：文化現象の総合的理解）、卒業論文における文化研究のための基礎的な理論の習得とその実践的な応用をすることが目標です。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	フロイトの精神分析とは何か？			シラバスを読みこの授業の意図を理解する。できれば精神分析についてネットなどで情報を得る。		6 0 分	
第 2 回	フロイトの夢理論について 1			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 3 回	フロイトの夢理論について 2			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 4 回	空飛ぶ夢			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 5 回	消去できない音			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 6 回	重層的な時間構造			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 7 回	夢における知			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 8 回	エディプスの欲望と葛藤			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 9 回	反復する欲望			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 0 回	夢と転生			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 1 回	夢と語り			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 2 回	具体的な映像分析 1			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 3 回	具体的な映像分析 2			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 4 回	具体的な映像分析 3			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
〔授業の方法〕							
指定したテキストの内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの講義の締めくくりとして、受講者は習得した精神分析の夢に関する基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（6 0 %）、学期末の term paper（4 0 %）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 新宮一成『夢分析』（岩波新書）ISBN: 4-00-430653-1 受講希望者は事前に必ず購入しておいてください。
〔参考書〕 適宜複数を指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティヴ・ラーニング

科目名		英語圏文化 323（ジェンダー）					
教員名		小林 英里					
科目No.	125132230	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本授業では、ジェンダー論やフェミニズム批評を補助線にして、イギリスロマン派の作品から 2000 年代のイギリス映画のノベライズ本にいたるまでの作品を読み、映像を視聴していく。ジェンダー非対称な社会のなかで、そのことに敏感に反応した（男女を問わない）作家たちが、どのような文学上の戦略をとりながら、いかにして平等な社会実現へむけた試みをおこなったのかを考察していきたい。							
〔到達目標〕							
【DP1-1】、【DP1-4】、【DP1-5】、【DP2-3】、【DP2-4】に基づいて、以下の事柄の修得を目標とする。 ①イギリス文学の作品に精通する。 ②批評理論（ジェンダー論、フェミニズム批評理論）の基本概念を理解する。 ③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	導入			あらかじめシラバスに目を通しておく。		60 分	
第 2 回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 3 回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 4 回	Charles Dickens, Oliver Twist (1838) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 5 回	Charles Dickens, Oliver Twist (1838) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 6 回	Elizabeth Gaskell, Mary Barton (1848)			授業内容を確認する。		60 分	
第 7 回	James Joyce, Ulysses (1922)			授業内容を確認する。		60 分	
第 8 回	Virginia Woolf, Mrs. Dalloway (1925)			授業内容を確認する。		60 分	
第 9 回	Keith Waterhouse, Billy Liar (1959) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 0 回	Keith Waterhouse, Billy Liar (1959) ② Shelagh Delaney, A Taste of Honey (1959) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 1 回	Shelagh Delaney, A Taste of Honey (1959) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 2 回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985)			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 3 回	Billy Elliot (2000/2008)			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 4 回	総括			授業内容を確認する。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末には、コースパワーを通じて、レポートを提出する。							
〔成績評価の方法〕							
授業への貢献度（30％）、コースパワーを通じた課題の提出（30％）、学期末レポート（40％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。
〔テキスト〕 特になし。（資料はコースパワーを通じて提示する。）
〔参考書〕 以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。 メアリー・シェリー、『フランケンシュタイン』（光文社古典新訳文庫） チャールズ・ディケンズ、『オリバー・ツイスト』（光文社古典新訳文庫） エリザベス・ギヤスケル、『メアリー・バートン』（近代文芸社） ジェイムズ・ジョイス、『ユリシーズ』（集英社文庫ヘリテージ） ヴァージニア・ウルフ、『ダロウェイ夫人』（集英社文庫） シーラ・ディレーニー、『蜜の味』（晶文社） マーガレット・アトウッド、『侍女の物語』（早川書房）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 324（人種）					
教員名		権田 建二					
科目No.	125132240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
奴隷制とそのインパクト—アフリカ系アメリカ人の歴史 19 世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や 1 9 世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テクストを読むだけではなく、奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテクストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする 1) アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。 2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション—黒人の歴史・アメリカの歴史			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 2 回	黒人の歴史・アメリカの歴史 一黒人歴史月間			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 3 回	黒人に対する補償—奴隷制という過去 新世界における奴隷制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 4 回	黒人に対する補償—現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 5 回	黒人と経済的格差—Gated Community			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 6 回	新世界における奴隷制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 7 回	合衆国における奴隷制の発展			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 8 回	合衆国憲法と奴隷制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 9 回	独立革命と奴隷制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 0 回	トマス・ジェファソンと奴隷制			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 1 回	奴隷制廃止運動			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 2 回	奴隷州と自由州の対立			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 3 回	奴隷の法的扱い			【復習】 今回分資料を再読。		60	
第 1 4 回	南北戦争とリンカーン			【予習】 セルフレビューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。		60	
〔授業の方法〕							
基本的に講義形式です。教科書は使用しません。毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。							
〔成績評価の方法〕							
レスポンス・ペーパー（90%）＋セルフ・レビュー（10%）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。
〔参考書〕 本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店，新版 1994 年） 荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫，2008 年） ベンジャミン・クオールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店，1994 年） アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店，2007 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化研究基礎 A325					
教員名		小野 俊太郎					
科目No.	125132250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
「変身」という概念は古代から現在まで普遍的に存在しながら、文学や文化において、大きな役割を果たしてきた。同時に人間の心理や身体をめぐる問題系を浮かび上がらせる意想となる。そこで、19 世紀から 20 世紀にかけての 3 作品、ステューヴンソンの『ジキル博士とハイド氏』、ワイルドの『ドリアン・グレイの肖像』、フィッツジェラルドの「ベンジャミン・バトン」を取り上げて、その変身の扱いの違いと背景を探っていく。							
〔到達目標〕							
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の 3 点を目標とする。 ①歴史的文化的な背景を踏まえて変身という現象を把握できるようになる。 ②変身と関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。 ③変身の背景を理解した上での確かな分析レポートが書けるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	変身物語の系譜			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 2 回	『ジキル博士とハイド氏』の背景			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 3 回	二重人格と変身			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 4 回	薬物と変身			内容の復習と資料のチェック		6 0 分	
第 5 回	作品と映像との関連 課題レポート①			課題レポートのための復習		120 分	
第 6 回	『ドリアン・グレイの肖像』の背景			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 7 回	ジェンダーとセクシュアリティ			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 8 回	人とモノとの関係			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 9 回	作品と映像との関連 課題レポート②			課題レポートのための復習		120 分	
第 1 0 回	「ベンジャミン・バトン」の背景			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 1 回	時間と変身			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 2 回	過去と未来			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 3 回	作品と映像との関連 課題レポート③			課題レポートのための復習		120 分	
第 1 4 回	全体のまとめと振り返り			内容の復習と資料のチェック		60 分	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義を中心に、必要に応じて意見交換などを交える。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上での確に分析ができているのかを評価する。							
〔成績評価の方法〕							
3 回のレポート提出（75%）、授業への積極的な参加（25%）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。変身という歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかの評価の対象となる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時、メールで受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化研究基礎 B 326					
教員名							
科目No.	125132260	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化研究基礎 C 327					
教員名							
科目No.	125132270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 421（戦争）					
教員名		遠藤 不比人					
科目No.	125132310	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
テーマとしての「戦争」を狭い意味で定義をするのではなく、人間が潜在的に持つ暴力性一般をも考察の対象にしながら、たとえばいま社会で問題となっている「いじめ」「差別」などについても扱いたい。人文系の学問において重要なことは、人間の負の側面から目をそらすことなく、それを批判的に分析し、その克服を最終的な目的とすることである。そのためにこの講義では、人種表象をめぐる理論、精神分析理論などの基礎を学び、それを具体的な映画などの映像テキストの分析に応用したい。そうすることによって、卒業論文における文化研究の基礎的知識も身につけることにする。この学期の締めくくりとして、具体的な映画の分析を実践する。いわゆる戦争映画だけでなく、上記の目的にかなった作品、たとえば、北米における人種問題を扱った映画なども扱う予定である。							
〔到達目標〕							
英語圏の文化研究の根幹をなす精神分析や人種表象あるいは他者表象をめぐる文化理論を習得することにより（DP1 教養の修得）、現在世界中で問題となっている戦争、人種差別、いじめなどという現象を理論的に解明すると同時に（DP6 文化現象の総合的理解）、その解決の可能性をも考察する（DP2 課題の発見と解決）。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	講義の目標についての具体的な説明			シラバスを読み講義の目的について最低限度の理解をし、できればネットなどで問題の所在を確認する。		6 0 分	
第 2 回	精神分析：死の欲動理論 1 （マゾヒズム、サディズム）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 3 回	精神分析：死の欲動理論 2 （反復強迫）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 4 回	精神分析：死の欲動理論 3 （暴力と享楽）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 5 回	戦争と他者表象 1 （人種）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 6 回	戦争と他者表象 2 （国民国家）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 7 回	戦争と他者表象 3 （日本の場合）			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 8 回	理論的知識の復習とそれを踏まえた質疑応答			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 9 回	映像分析 1			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 0 回	映像分析 2			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 1 回	映像分析 3			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 2 回	映像分析 4			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 3 回	映像分析 5			前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。		9 0 分	
第 1 4 回	これまでの議論と分析の総括			前回までの講義内容を理解し最終的な総括ができるようにする。		1 2 0 分	
〔授業の方法〕							
講義した諸理論の内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの後半では、受講者は習得した基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（6 0 %）、学期末の term paper（4 0 %）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 授業担当者が用意する。
〔参考書〕 適宜複数を紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティヴ・ラーニング

科目名		英語圏文化 423（ポストコロニアリズム）					
教員名		小林 英里					
科目No.	125132330	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本授業では、イギリス文学の正典作品と、それを（旧）植民地の立場から書き直した作品を併置して読んでいく。ポストコロニアル時代の作家たちが用いるヘゲモニー転覆のための文学的戦略とはいったいどのようなものなのか、このことを考察することで、「宗主国」対「植民地」、「男」対「女」、「中央」対「周縁」、そして「主体」対「他者」といった二項対立を崩そうとする言説の試みのなかに、平等な社会実現の志向とその可能性を探る。							
〔到達目標〕							
【DP1-1】、【DP1-4】、【DP1-5】、【DP2-3】、【DP2-4】に基づいて、以下の事柄の修得を目標とする。 ①イギリス文学の正典作品とポストコロニアル文学作品に精通する。 ②批評理論（ポストコロニアル理論）の基本概念を理解する。 ③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	導入			あらかじめシラバスに目を通しておく。		60 分	
第 2 回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 3 回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 4 回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 5 回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 6 回	Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 7 回	Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 8 回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 9 回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (1966) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 0 回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 1 回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 2 回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ①			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 3 回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ②			授業内容を確認する。		60 分	
第 1 4 回	総括			授業内容を確認する。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末には、コースパワーを通じて、レポートを提出する。							
〔成績評価の方法〕							
授業への貢献度（30％）、コースパワーを通じた課題の提出（30％）、学期末レポート（40％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。
〔テキスト〕 特になし。（資料はコースパワーを通じて提示する。）
〔参考書〕 以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。 ダニエル・デフォー、『ロビンソン・クルーソー』（岩波文庫、上下巻） J. M. クッツェー、『敵あるいはフォー』（白水社） シャーロット・ブロンテ、『ジェイン・エア』（岩波文庫、上下巻） ジーン・リース、『サルガッソーの広い海』（河出書房新社） エミリー・ブロンテ、『嵐が丘』（岩波文庫、上下巻） 小林英里、「『中央』と『周縁』のあいだで」、『二十世紀英文学再評価』（金星堂、2003 年） 小林英里、「帝国の失われた子どもたち」、『二十一世紀の
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 424 (レイシズム)					
教員名							
科目No.	125132340	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 425（児童文学）					
教員名		川端 有子					
科目No.	125132350	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本科目では英語圏の児童文学を題材に、その歴史的背景、社会的意義、文化的位置づけを考察したうえで、今日的意義を問う。 本講義では、19 世紀の『不思議の国のアリス』から始め、20 世紀の『ナルニア国年代記』、21 世紀の『ハリー・ポッター』シリーズなどを取り上げ、児童文学の変遷と子ども観の変容、ジャンルの広がりや浸透を追う。英米文化の草の根となっている児童文学をその原点から知り、年代順に読み解くことで英語圏文学の一つの流れを考察する。							
〔到達目標〕							
この授業では児童文学を題材に DP 1－4 英語圏文学・文化の成り立ちを理解し、代表的作品に触れ、それらについて専門の見地から分析し理解することができる DP 2－3 階級・人種・ジェンダー・精神分析といった領域横断的な批評理論の基本的知識を身につけることで、複数のコンテクストを踏まえて思考・判断を行うことができる ことを目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンスと英米児童文学の前史			予習 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習 配布プリントを読み直し、児童文学とは何かを理解する。	30 30		
第 2 回	『不思議の国のアリス』を読み解く イギリスの古典ファンタジー			予習 『アリス』のあらすじを押さえておく 復習 『アリス』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 3 回	『若草物語』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少女編)			予習 『若草物語』のあらすじを押さえておく 復習 『若草物語』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 4 回	『トム・ソーヤの冒険』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少年編)			予習 『トム・ソーヤ』のあらすじを押さえておく 復習 『トム・ソーヤ』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 5 回	『ピーター・パン』を読み解く エドワード朝、大人と子ども・女と男			予習 『ピーター・パン』のあらすじを押さえておく 復習 『ピーターパン』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 6 回	『クマのプーさん』を読み解く ぬいぐるみと父と息子			予習 『プーさん』のあらすじを押さえておく 復習 『プーさん』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 7 回	『風に乗ってきたメアリー・ポピンズ』を読み解く 乳母と魔法使い			予習 『メアリーポピンズ』のあらすじを押さえておく 復習 『メアリーポピンズ』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 8 回	『ライオンと魔女』を読み解く ナルニア国年代記を読む			予習 『ライオンと魔女』のあらすじを押さえておく 復習 『ライオンと魔女』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 9 回	『ホビットの冒険』を読み解く 指輪物語への序章			予習 『ホビット』のあらすじを押さえておく 復習 『ホビット』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 1 0 回	『トムは真夜中の庭で』を読み解く タイムファンタジーを知る			予習 『トムは真夜中の庭で』のあらすじを押さえておく 復習 『トムは真夜中の庭で』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 1 1 回	『床下の小人足たち』を読み解く 魔力を持たない小人たちの行方			予習 『床下の小人たち』のあらすじを押さえておく 復習 『床下の小人たち』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 1 2 回	『影との戦い』を読み解く アメリカのファンタジー「ゲド戦記」の世界			予習 『ゲド戦記』のあらすじを押さえておく 復習 『ゲド戦記』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 1 3 回	『ハリーポッター』シリーズを概観する			予習 『賢者の石』のあらすじを押さえておく 復習 『賢者の石』を授業内容に即して読み返す	30 30		
第 1 4 回	到達度確認テストの実施 到達度確認テストの答え合わせ			予習 1－1 3 回の授業を復習しポイントを把握しておく 復習 まちがったところを改め、理解を深める	60 30		
〔授業の方法〕							
授業は普段は講義形式で進める。 各時間ごとに感想・コメント・質問等のリアクションをポータルサイトに書き込んでもらう。また 3 回課題レポートを課す。復習、予習に課した時間は目安であり、各自の速度に合わせて行うこと。 1 リアクションペーパー 毎回 2 課題レポート 3 回 指示した本を読みその内容について簡単にまとめ自分の見解を付す内容。 3 最終回に到達度確認テストを行い、終了後に答え合わせをする							
〔成績評価の方法〕							

リアクションペーパーから見る授業参加度（30%） 課題3回（10×3＝30%） 到達度確認テスト（40%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度から評価する。 1 英語圏児童文学の成り立ちを理解し、代表的作品を専門的見地から分析し理解することができているか 2 階級・人種・ジェンダー・精神分析といった理論から思考・判断を行えているか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 扱う題材は邦訳があるので少なくともそれには授業前に目を通しておく。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 『英語圏の児童文学 I 物語ジャンルと歴史 改訂版』ミネルバ書房 購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化 426（英語教育）					
教員名		斉田 智里					
科目No.	125132360	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
テーマ：英語の科学的な学び方・教え方、英語力の評価、日本人が目指すべき英語力 概要：英語力を高めていくために、科学的な根拠に基づいた学習法及び指導法について理解する。英語力の評価について基本的な考え方を理解する。外国語運用能力の指標として参照される CEFR の理念と内容を理解し、日本における外国語教育での活用の在り方を考える。日本人が目指すべき英語力について考える。							
〔到達目標〕							
1) 英語力とは何か（英語力の構成概念）を理解している。 2) 英語力を高めるための科学的な学習法及び指導法を理解し、学習や指導に活かすことができる。 3) 英語力の評価についての基本的な考え方を理解している。 4) CEFR の理念と内容を理解し、日本における外国語教育での適切な活用の在り方を考えている。 5) 日本人が目指すべき英語力について、根拠に基づき自らの考えを述べることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション（講義の内容、内容、講義計画、課題、評価方法、参考図書の紹介）			参考図書として提示のあった文献を入手する。		90 分	
第 2 回	言語はどのようにして学ばれるか？：第二言語習得理論			第 1 回の復習レポート作成 第 2 回の予習課題		90 分	
第 3 回	外国語教授法の変遷			第 2 回の復習レポート作成 第 3 回の予習課題		90 分	
第 4 回	英語力とは何か？構成概念			第 3 回の復習レポート作成 第 4 回の予習課題		90 分	
第 5 回	リスニングのプロセス、学習法、指導法			第 4 回の復習レポート作成 第 5 回の予習課題		90 分	
第 6 回	スピーキングのプロセス、学習法、指導法			第 5 回の復習レポート作成 第 6 回の予習課題		90 分	
第 7 回	リーディングのプロセス、学習法、指導法			第 6 回の復習レポート作成 第 7 回の予習課題		90 分	
第 8 回	ライティングのプロセス、学習法、指導法			第 7 回の復習レポート作成 第 8 回の予習課題		90 分	
第 9 回	文法知識習得のプロセス、学習法、指導法			第 8 回の復習レポート作成 第 9 回の予習課題		90 分	
第 1 0 回	語彙知識習得のプロセス、学習法、指導法			第 9 回の復習レポート作成 第 1 0 回の予習課題		90 分	
第 1 1 回	英語力の評価			第 1 0 回の復習レポート作成 第 1 1 回の予習課題		90 分	
第 1 2 回	CEFR の理念と運用(1)：理念、目的、内容			第 1 1 回の復習レポート作成 第 1 2 回の予習課題		90 分	
第 1 3 回	CEFR の理念と運用(2)：日本の英語教育における活用			第 1 2 回の復習レポート作成 第 1 3 回の予習課題		90 分	
第 1 4 回	日本人が目指すべき英語力とは：ディスカッション			第 1 3 回の復習レポート作成 第 1 4 回の予習課題		90 分	
〔授業の方法〕							
授業内容は、講義及び演習形式を組み合わせる。 毎回出される予習課題に取組み、授業中では個人・ペア・グループで発表を行い、全体で討議を行う。 授業のまとめりに課題レポート、及び最終課題を課す。							
〔成績評価の方法〕							
総合評価（課題レポート提出状況：40%、授業における取組状況：20%、最終課題：40%）							
〔成績評価の基準〕							

課題レポート・最終課題では、授業内容の理解度、簡潔にして要領を得たまとめ、事実に基づく考察の深まりを評価する。 授業における取組状況では、授業での貢献度を評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 ・中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省） ・高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成 30 年 3 月 文部科学省） ・小学校学習指導要領解説 外国語編・外国語活動編（平成 29 年 7 月 文部科学省） ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校、中学校、高等学校 外国語）国立教育政策研究所 最新版 ・必要に応じて紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 プロジェクト型授業、アクティブ・ラーニング、ICT 活用

科目名		英語圏文化研究発展 A427					
教員名		小野 俊太郎					
科目No.	125132370	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
9 世紀末から 20 世紀初頭にかけて英米で大きな力をもった思想として、アール・ヌーヴォー、退化論、世紀末思想、アール・デコをとりあげる。建築や美術と関連する着想は、空間的な背景を作り出し、社会背景は文学作品の前提を生み出す。思想の影響関係を理解するために、モリスの『ユートピアだより』、ウェルズの『タイム・マシン』、ジェームズの『ねじの回転』、フィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』をとりあげる。各作品やその作者が、それぞれの思想とどのように関係しているのかを具体的に検討する。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野知識と理解）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するために次の 3 点を目標とする。 ①作品や作者に影響を及ぼす思想的な背景を理解して説明できるようになる。 ②思想と関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。 ③背景を理解した上で作品分析のレポートが書けるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	世紀を挟んだ思想的な展開			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 2 回	ウィリアム・モリスとアール・ヌーヴォー			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 3 回	『ユートピアだより』と公害			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 4 回	『ユートピアだより』と中世主義			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 5 回	H・G・ウェルズと退化論			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 6 回	『タイム・マシン』と階級対立			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 7 回	『タイム・マシン』と時間軸 課題レポート①			課題レポートのための復習		120 分	
第 8 回	ヘンリー・ジェームズと世紀末思想			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 9 回	『ねじの回転』と不安			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 0 回	『ねじの回転』と世紀の転換			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 1 回	F・スコット・フィッツジェラルドとアール・デコ			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 2 回	『偉大なるギャツビー』と成り上がり			内容の復習と資料のチェック		60 分	
第 1 3 回	『偉大なるギャツビー』と広告 課題レポート②			課題レポートのための復習		120 分	
第 1 4 回	全体のまとめと振り返り			内容の復習と資料のチェック		60 分	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義を中心に、必要に応じて意見交換などを交える。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。							
〔成績評価の方法〕							
課題レポート 2 回(70%) 授業への積極的な参加(30%)							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。英米の思想の影響を作品や作家がどのように受けているかを理解し、説明できるようになったかを評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時、メールで受け付ける
〔特記事項〕

科目名		英語圏文化研究発展 B 428					
教員名		下河辺 美知子					
科目No.	125132380	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
グローバリゼーションの世界と災害 グローバリゼーションは、地球という globe(球)のすべての活動の一つにまとめあげようとする運動であり、その本質を理解するためには、さまざまな分野からのアプローチが必要である。本講義では二十一世紀地球をおそった二つの災害を取り上げて文化的文脈で検証する。一つは、2001 年のテロ攻撃 9． 1 1 であり、もう一つは 2019 年から現在も続く COVID-19 (新型コロナウイルス) である。前者はアメリカを標的になされたものであり、後者は全世界にまたがる災害である。しかし、グローバリゼーションの推進力の中核となっているアメリカを軸にすえて見ていくと、災害にたいする政治的、経済的、文化的、そして心理的な様相が浮き上がってくるはずである。							
〔到達目標〕							
DP3 (課題の発見と解決)、DP6 (文化現象の総合的理解)、DP7 (問題発見能力および多面的な分析能力) を実現するために次の 3 点を目標とする。 ①グローバリゼーションについての基本的概念を得る。 ②災害に見舞われた共同体 (国家など) がどのような対応をとるのかを、文化を基盤に分析する ③災害における人間の行為や心理を文学はどのように書き起こし記録しているかを分析する ④文化的アプローチに、心理的、経済的、政治的視点を入れた上で二十一世紀世界の危機感を洞察するレポートを書けるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第 1 回	イントロダクション：授業のテーマと授業の方法について説明する。			シラバスを読み、授業の意味と進め方について把握する。		60 分	
第 2 回	・グローバリゼーションという概念について ・グローバリゼーションとアメリカについて			配布したテキストをもとに、グローバリゼーションについて現在各々がもっている概念・知識を整理しておくこと		60 分	
第 3 回	文学の中の疫病 (1) E. A. Poe, "The Masque of the Red Death" を読む			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 4 回	文学の中の疫病 (2) E. A. Poe, "The Masque of the Red Death" を読む			配布されたテキストを読んでおくこと		6 0 分	
第 5 回	COVID-19 をめぐる言語 (1)			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 6 回	政治の中の 9・11			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 7 回	文学の中の 9.11 (1) Don DeLillo, "Falling Man"			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 8 回	文学の中の 9.11 (2) Don DeLillo, "Falling Man"			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 9 回	文学の中の 9.11 (3) Don DeLillo, "Falling Man"			配布されたテキストを読んでおくこと		60 分	
第 1 0 回	映画の中の 9.11(1)			指定されている映画について情報を集めておくこと		60 分	
第 1 1 回	映画の中の 9.11(2)			指定されている映画について情報を集めておくこと		60 分	
第 1 2 回	COVID-19 をめぐる言語 (2)			COVID-19 をについての言葉を新聞・雑誌・ネットから収集すること。		60 分	
第 1 3 回	授業内課題レポート			前もって出されている課題について考えておくこと		100 分	
第 1 4 回	全体のまとめと振り返り			講義全体で検討された内容をまとめ、そこで浮き上がってきたテーマについて日本人としての自分の立場を考えておくこと		60 分	
〔授業の方法〕							
前もって配布した資料について、まず講義を行う。その後、受講者同士での意見交換、受講者と講師とのディスカッションなどによって、当日の課題についての議論を重ねていく。毎回アンケートという形で授業にたいするレスポンスを提出。小レポートおよび最終課題レポートは Course Power を使って期限内に提出する。							
〔成績評価の方法〕							
平常点で成績評価を行う。授業への参加状況 (30 %)、小レポート (20 %)、授業内課題レポート (50%) を総合して行います。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 2020 年度後期アメリカ文学史Ⅱを受講していることが望ましいが、そうでない場合もグローバリゼーションと災害について興味がある人は歓迎です。
〔テキスト〕 Edgar A. Poe, "The Masque of the Red Death" (Penguin) 「購入の必要なし」 Don DeLillo, "Falling Man" (Scribner, 2007) 洋書ペーパーバックを入手することが望ましい。 下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星的想像力』（みすず書房、2015）「購入の必要なし」
〔参考書〕 適宜授業内で指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時、メールで受け付ける。教員メールアドレスは Course Power で知らせます。
〔特記事項〕

科目名		英語圏芸術・文学入門 230					
教員名		ラルフ　バーナビー　ジェイムズ					
科目No.	125133100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
This course deals with the idea of the liberal arts and looks at different types of the arts in Western culture, especially considering literature, painting, sculpture, music, architecture and rhetoric. It is useful for giving students a deep look at the elements of culture and how they can be understood both on their own terms and in relation to each other.							
〔到達目標〕							
This course will give students a valuable perspective on different aspects of cultural output. They will learn analytical techniques and gain useful information on leading artists, writers and other historical figures. It will also help students gain an i							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	What is culture? What is cultural capital and how do we measure it?			Reading Bourdieu.		60 min	
第 2 回	Painting 1: style, technique and genre			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 3 回	Painting 2: understanding aesthetic choices, considering popularity, and determining "value"			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 4 回	Sculpture 1: style, technique and genre			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 5 回	Sculpture 2: understanding aesthetic choices, considering popularity, and determining "value"			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 6 回	Rhetoric 1: The origins and structure of an oration, considering stylists from Quintilian and Cicero to Toulmin			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 7 回	Rhetoric 2: Tropes, schemes and the elements of delivery, with examples from politics and the media			Working on handouts and pre-reading. Preparing an oration.		60 min	
第 8 回	Student presentations/orations: Using rhetoric			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 9 回	Music as commodity 1: Perceptions of "high culture"			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 1 0 回	Music as commodity 2: Perceptions of "low culture"			Working on handouts and pre-reading		60 min	
第 1 1 回	Literature as commodity: The rise of the professional writer and the contestability of literary awards			Working on handouts and pre-reading, starting essay		60 min	
第 1 2 回	The language of buildings: architecture as rhetoric			Preparation for final exam, revising essay		60 min	
第 1 3 回	Final Exam			Finish final essay		60 min	
第 1 4 回	Summary and overview of cultural studies. Final essay due			Reflecting on course content and self-revision		Self-determined	
〔授業の方法〕							
This class will combine solo work, group discussions and presentations and mini-lectures.							
〔成績評価の方法〕							
In-class work 15% Oration 15% Essay 40% Exam 30%							
〔成績評価の基準〕							

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 None
〔テキスト〕 Materials will be provided by the lecturer
〔参考書〕 A list of reference materials will be provided via Course Power and in-class.
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 Questions are accepted immediately before and after class. Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.
〔特記事項〕 This class will be conducted only in English

科目名		アメリカ文学史 331					
教員名		庄司 宏子					
科目No.	125133210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか。15 世紀の大航海時代ヨーロッパで想像された新世界のイメージ、17 世紀初頭から 1776 年までのイギリス植民地時代、18 世紀末の独立戦争とアメリカ合衆国の建国期、19 世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860 年代の南北戦争期まで、再建期から 20 世紀半ば、20 世紀後半から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを歴史と文化と関連させながら辿る。ある国がどのような文学を生み出すかは、風土・地形・気候という自然環境的な要素、歴史・政治・経済などの社会的な要素が関わっている。またグローバリズムという国境を越えた人間や情報の繋がりも文学に影響を与える。授業では文学の中に刻印されたアメリカ的な理念や概念、アメリカ文学史に通底するテーマ、文学と国民国家の関わり等について講義する。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 5 点を到達目標とする。 ・文学史とは、国民国家の歴史や文化と深く結びつきながら形成されることを理解する。 ・文学に現れた時代の出来事を反映する要素、そこから生み出されるアメリカ的なテーマについて理解し知識を修得する。 ・文学は、国民国家が提示する歴史や文化とは別の視点を提示しうる優れて批評的なメディアであることを理解する。 ・アメリカ文学に触れながら、文学を歴史・社会・政治・文化と関連させながら読み解き、時代や社会をみる批評意							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション：大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか——Jan van der Straet の絵にみる「ヨーロッパ」と「アメリカ」の出会いについて			シラバスを読み、アメリカ文学史 I の授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてください。グローバリズムは 1 5 世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといってよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。		60 分	
第 2 回	植民地時代のアメリカ (1)：William Bradford, <i>Of Plymouth Plantation</i> を中心に			大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。		60 分	
第 3 回	植民地時代のアメリカ (2)：Captivity Narrative と Native Americans の表象, Mary Rowlandson, <i>A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandson</i> を中心に			植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが 1675 年に起こる King Philip’s War です。戦いのなかで捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。		60 分	
第 4 回	植民地時代のアメリカ (3)：ピューリタニズムとセイレム魔女事件			1692 年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。		60 分	
第 5 回	建国期のアメリカ (1) アメリカとは何か——Crèvecoeur, <i>Letters from an American Farmer</i> と Thomas Jefferson の “The Declaration of Independence” と <i>Notes on the State of Virginia</i> を中心に			17 世紀初頭に始まって約 200 年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783 年に独立を遂げます。Thomas Jefferson が中心になって起草された独立宣言文書や <i>Notes on the State of Virginia</i> からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。		60 分	
第 6 回	建国期のアメリカ (2) Charles Brockden Brown と Washington Irving の文学			Charles Brockden Brown や Washington Irving がどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。		60 分	
第 7 回	西漸運動と Manifest Destiny：James Fenimore Cooper, <i>The Last of the Mohicans</i> と Alexis de Tocqueville, <i>Democracy in America</i>			アメリカの荒野を描くロマティシズムの文学 James Fenimore Cooper の <i>The Last of the Mohicans</i> について調べてみましょう。また 18 世紀末に独立し、19 世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカの領土拡大について調べてみましょう。		60 分	
第 8 回	アメリカ・ルネサンスの文学 (1)：トランセンデンタリズム——Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau, Margaret Fuller			独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのが Transcendentalism（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。		60 分	
第 9 回	アメリカ・ルネサンスの文学 (2)：Edgar Allan Poe			Edgar Allan Poe の作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつ Poe の短篇を読んでみましょう。		60 分	
第 1 0 回	アメリカ・ルネサンスの文学 (3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville			アメリカ文学史上最高傑作といってよい Nathaniel Hawthorne の <i>The Scarlet Letter</i> (『緋文字』) と Herman Melville の <i>Moby-Dick</i> (『白鯨』) を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。考えます。この作品の内容について調べてください。		60 分	
第 1 1 回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, <i>Uncle Tom’s Cabin</i> と Frederick Douglass, <i>Narrative of the Life of Frederick Douglass</i>			19 世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐる北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。Stowe, <i>Uncle Tom’s Cabin</i> (『アンクル・トムの小屋』) と Douglass の <i>Narrative of the Life of Frederick Douglass</i> (『数奇なる奴隷の半生』) から当時の社会を考		60 分	

		えます。この作品の内容について調べてください。	
第 1 2 回	再建時代から 20 世紀半ばのアメリカ文学：Nella Larsen, Langston Hughes, Richard Wright, William Faulkner など	Nella Larsen の <i>Passings</i> は 1920 年代に数多く描かれる「人種の境界を越える (passing)」というテーマを描いた文学の代表作です。passing というテーマと時代との関わり、21 世紀における passing の概念について考えます。併せて Hughes, Wright, Faulkner の文学も概説します。	60 分
第 1 3 回	20 世紀後半から現代のアメリカ文学：Toni Morrison と Colson Whitehead を中心に	現代アメリカ文学を代表する Morrison および Morrison の次の世代のアフリカ系アメリカ人文学の代表者 Whitehead の文学について概説します。	60 分
第 1 4 回	授業のまとめ 授業内で「到達度確認テスト」を実施する。	この授業の講義内容を配布した handout で振り返り、作家や作品、作品に現れる重要なテーマと時代との関係など、「到達度確認テスト」の準備をすること。	90 分
〔授業の方法〕 講義形式。講義内容の理解を深めるため、パワーポイントによる資料を提示する。			
〔成績評価の方法〕 平常点で成績評価を行います。平常点とは小テスト（2 回程度予定）と到達度確認テストです。 (1) 小テスト（2 回程度）・・・40% (2) 到達度確認テスト（1 回）・・・60% ＊小テストおよび到達度確認テストともに授業内で CoursePower により実施を予定しています。実施についての詳細は授業で説明します。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 教科書は使用しない。授業で配布する handout は CoursePower から配布する。			
〔参考書〕 Peter B. High, <i>An Outline of American Literature</i> (Longman Echo-sha) Emory Elliott, ed., <i>The Columbia Literary History of the United States</i> (Columbia UP): ISBN: 0231058128 Emory Elliott, ed., <i>The Columbia History of the American Novel</i>			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 教員メールアドレスは CoursePower により周知します。			
〔特記事項〕			

科目名		イギリス文学史 332					
教員名		正岡 和恵					
科目No.	125133220	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、イギリスにおける文学作品の誕生から 1 8 世紀にいたるまでの全体的な流れを把握し、個々の作家や作品に関する基礎知識を学習する。民族と言語の形成から始めて、中世、ルネサンス、王政復古期からロマン派の誕生に至るまで、それぞれの時代における代表的な作家や作品について、歴史、文化、テクストの相互作用を考慮しつつ概観する。							
〔到達目標〕							
D P 7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の 3 点を到達目標とする。 ①イギリス文学史の基本的知識を身に付け、説明できる。 ②作品や作家の固有性を時代や文化の文脈をふまえたうえで、説明できる。 ③文学伝統や影響関係についての感覚を養うことで、テクストをよりの確に分析できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション			教科書の目次に目を通しておいください。		60	
第 2 回	イントロダクション：イギリス文学史の誕生			教科書の目次に目を通しておいください。		60	
第 3 回	英語の形成と『ベオウルフ』			教科書の『ベオウルフ』および古英語の項目を読んでおくこと。		60	
第 4 回	最後の侵略者			【予習】ノルマン征服についてネットで調べておくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 5 回	チョーサーの世界			【予習】チョーサーの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 6 回	アーサー王伝説の成立			【予習】トマス・マロリーの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 7 回	国造りの書『ユートピア』			【予習】トマス・モアの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 8 回	スペンサーとその時代			【予習】スペンサーの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 9 回	演劇の伝統			【予習】道徳劇の項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		90	
第 1 0 回	シェイクスピアの世界			【予習】シェイクスピアの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 1 1 回	内乱の時代と聖書			【予習】ベン・ジョンソンの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 1 2 回	ジョン・ミルトン——清教徒文学の巨峰			【予習】ミルトンの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 1 3 回	新古典主義時代——ドライデンからボープヘ			【予習】ドライデンとボープの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		60	
第 1 4 回	ロマン派の詩人たち			【予習】ロマン派の項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業の内容を理解しておくこと。		6 0	
〔授業の方法〕							
講義形式。理解度をチェックするため、中間レポートを課し、学期末には試験を行う。							
〔成績評価の方法〕							
中間レポート 4 0 %および学期末試験 6 0 %によって評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 『はじめて学ぶイギリス文学史』 神山妙子編（ミネルヴァ書房）
〔参考書〕 マクラム、ロバート他 『英語物語』 文芸春秋 『オックスフォード ブリテン諸島の歴史』 慶應義塾大学出版会 『たのしく読めるイギリス文学』 中村邦生・木下卓・大神田丈二編（ミネルヴァ書房） 購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		音楽芸術研究基礎 333					
教員名		ラルフ バーナビー ジェイムズ					
科目No.	125133230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 This is an introduction to musicology, particularly focussing on Western music. It looks at instrumentation, genres, history, analytical tools and the complicated relationship between music and culture. Students taking this course do not need to have formal training in music, but simply an interest in the area and a willingness to learn. The course is divided into four "blocks," each of which covers a period and set of genres. The blocks are early music, classical music, 20th-century music and popular music. Students will need to listen to numerous examples and will have to recognize and write about musical styles in the final test.							
〔到達目標〕 Students who undertake this course will learn about the history of Western music, as well as how music connects with culture. They will learn basic music theory and how to understand and write about harmony, melody and rhythm. They will also learn to reco							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	What is musicology? An introduction to ways to study and consider music and culture.			Listening/analysis work		60 min	
第2回	Block 1a: Early Music Medieval music and the development of early instruments			Listening/analysis work		60 min	
第3回	Block 1b: Early Music The Renaissance, polyphony and sacred/secular divisions			Listening/analysis work		60 min	
第4回	Block 1c: Early Music The early Baroque and the first seeds of opera			Listening/analysis work		60 min	
第5回	Block 2a: Classical Music High Baroque and the development of style			Listening/analysis work		60 min	
第6回	Block 2b: Classical Music Classical chamber music in Europe			Listening/analysis work		60 min	
第7回	Block 2c: Classical Music The growth of music, from opera to the orchestra			Listening/analysis work		60 min	
第8回	Block 3a: 20th-century music Modernism and early experiments with the atonal in Richard Strauss and others			Listening/analysis work		60 min	
第9回	Block 3b: 20th-century music The rise of the avant-garde and the detachment of meaning			Listening/analysis work Start planning essay		60 min	
第10回	Block 3c: 20th-century music Modern opera, film music and the musical			Listening/analysis work Working on essay		60 min	
第11回	Block 4a: Popular music Jazz and blues in America and beyond			Listening/analysis work Working on essay		60 min	
第12回	Block b: Popular music The rise of rock and pop as a global phenomenon			Listening/analysis work Finish final essay		60 min	
第13回	Block 4c: Popular music A multitude of styles, from electronica to alternative Final essay due			Review for exam		60+ min	
第14回	Final Exam (listening test, essay writing)			Self-review of materials and course		Own choice	
〔授業の方法〕 The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.							
〔成績評価の方法〕 Mini-tests and in class work 30 % Essay 40% Final exam 30%							
〔成績評価の基準〕							

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕

科目名		視覚芸術研究基礎 A334（映画）					
教員名		生井 英考					
科目No.	125133240	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
“Documenting America: Documentary Films and US Society” ドキュメンタリー映画は、ジャーナリズムとも劇映画とも異なった一分野として今日のアメリカ社会の姿を映し出し、その文化にさまざまな影響を与えています。この科目では古今のドキュメンタリー映画を素材に、映画とアメリカの社会・文化について学べ視点を獲得しましょう。履修者が分担してひとつずつ映画を担当し、くわしく発表して討論をおこないます。							
〔到達目標〕							
映画について研究するには、ふだんから浴びるように映画を見ていなければなりません。しかし映画の専門学科生ではない大学生たちにそれを期待するのは困難でしょう。したがってここではあらかじめ、観ておくべきドキュメンタリー映画を選び、履修生で手分けしてそれぞれについて報告（発表）し、くわしく分析して議論をリードします。したがってこのクラスでは映画についての分析と議論の方法、およびプレゼンテーションのスキルを身につけることが期待されます。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	はじめに——クラスの紹介と授業運営について。特に見ておくべきアメリカ映画作品についての説明。			初回到配布した映画リストをもとに、それぞれに視聴計画を立てる。		60	
第 2 回	「アメリカ映画」とはなにか——映画術の成立と歴史的環境			第 1 回目で配布または指示する文献や資料の該当部分をふまえて初歩的な知識を予習する。		60	
第 3 回	映画とアメリカの大衆社会——娯楽産業と映画の関わり			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 4 回	ドキュメンタリー映画の分析(1) 『極北のナヌーク』『移民』を素材に分析し、議論する。1 回目は授業担当者が発表する。			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 5 回	ドキュメンタリー映画の分析(2) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 6 回	ドキュメンタリー映画の分析(3) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 7 回	ドキュメンタリー映画の分析(4) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 8 回	ドキュメンタリー映画の分析(5) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 9 回	ドキュメンタリー映画の分析(6) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 1 0 回	ドキュメンタリー映画の分析(7) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 1 1 回	ドキュメンタリー映画の分析(8) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 1 2 回	ドキュメンタリー映画の分析(9) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 1 3 回	ドキュメンタリー映画の分析(10) 履修生による発表とクラス討論			指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。		60	
第 1 4 回	まとめ			レポート作成の準備		120	
〔授業の方法〕							
最初の数回は授業担当者がアメリカ映画とその歴史について、基本的な事柄を講義します。並行して履修生はフィルムグラフィの映画を自習して鑑賞し、それぞれ手分けして自分が担当した映画について、クラス討論のたたき台になる発表をおこないます。この繰り返しでしっかりした鑑賞・分析・発表のスキルを身につけます。							
〔成績評価の方法〕							
毎回の授業への参加（出席は当然のこととしますが、それだけでは単位取得の最低要件にはなりません）——つまり発言・提案・問題提起・質問その他もろもろ——を重視します。これを全体の 5 割とします（これは「毎回リモート上でも発言しなければ、単位取得がややうい」ことを意味します）。課題レポート——期末レポートは必須とします。ほかに学期中にもなんらかのレポート（的なもの）をお願いする事があります。これらを合計した評価上の割合が 5 割です。							
〔成績評価の基準〕							

授業への貢献（参加・発表・討論）——60% 課題レポート（複数回）——40%
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 開講後、適宜指示します。
〔テキスト〕 ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史——映画がつくったアメリカ』上下（講談社学術文庫） 上下ともあいにく版元品切れですが、初版（『映画がつくったアメリカ』として草思社から出ました）をふくめ、大学図書館や地域の図書館には多く所蔵されています。また古本でも購入する価値おおいにあり。
〔参考書〕 エリック・バーナウ『ドキュメンタリー映画史 』（筑摩書房）5000 円を越える高価な本なので購入の必要はありませんが、図書館などで指定した部分を必ず読むこと。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業の最後または終了後に受け付けます。その場で答えられるものはその場で、長くなる時は次回の冒頭で回答します。
〔特記事項〕

科目名		視覚芸術研究基礎 B.335 (図像)					
教員名							
科目No.	125133250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		舞台芸術研究基礎 336					
教員名		日比野 啓					
科目No.	125133260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 《アメリカン・ミュージカル研究》以下の二つの作品の映画版・記録音源と、その舞台版脚本を検討することで、ミュージカルについての基本概念をどのように作品分析で用いるか、学んでいきます。 Finian's Rainbow (1947 年初演) My Fair Lady (1956 年初演)							
〔到達目標〕 #1 代表的なアメリカン・ミュージカル作品二つについて、その成立の歴史、上演史、作品構造などを知る #2 アメリカン・ミュージカルの通時的特徴と共時的特徴を学び、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる これらの目標を達成することによって、DP2・DP3およびDP7を実現します。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション：〔映画鑑賞〕『フィニアンの虹』Finian's Rainbow (1968 年、141 分)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（1）を作成する		50	
第2回	〔映画鑑賞〕『フィニアンの虹』（続き）：〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act One, Scene 1 (pp. 363-376)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（2）提出を作成する 講義で学んだことをもとに、復習ノート（1）を作成する		100	
第3回	〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act One, Scenes 2-3 (pp. 376-387)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（3）提出を作成する		100	
第4回	〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act One, Scene 4 (pp. 387-398)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（4）提出を作成する		100	
第5回	〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act One, Scene 5 (pp. 398-408)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（5）提出を作成する		100	
第6回	〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act Two, Scenes 1-2 (pp. 409-422)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（6）提出を作成する		100	
第7回	〔テキスト精読〕Finian's Rainbow, Act Two, Scenes 3-4 (pp. 422-434)			講義で学んだことをもとに、復習ノート（2）を作成する		100	
第8回	〔映画鑑賞〕『マイ・フェア・レディ』My Fair Lady (1964 年、170 分)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（7）を作成する		100	
第9回	〔映画鑑賞〕『マイ・フェア・レディ』（続き）、〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act One, Scenes 1-2 (pp. 167-178)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（8）提出を作成する 講義で学んだことをもとに、復習ノート（3）を作成する		100	
第10回	〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act One, Scenes 3-4 (pp. 178-191)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（9）を作成する		100	
第11回	〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act One, Scene 5 (pp. 191-207)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（10）を作成する		100	
第12回	〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act One, Scenes 6-11 (pp. 207-222)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（11）を作成する		100	
第13回	〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act Two, Scenes 1-3 (pp. 223-239)			翌週に扱う範囲のテキストを読み、予習ノート（12）を作成する		100	
第14回	〔テキスト精読〕My Fair Lady, Act Two, Scenes 4-7 (pp. 239-254)			講義で学んだことをもとに、復習ノート（4）を作成する		100	
〔授業の方法〕 講義形式が基本ですが、ディスカッションでは履修者の積極的な発言を求めます。 受講者が十分少なければ報告をしてもらうこともあるかもしれません。							
〔成績評価の方法〕 予習ノート 60% 復習ノート 40% 試験は実施しません。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 教養カリキュラム・舞台芸術論を事前に履修していることがのぞましい。
〔テキスト〕 購入の必要なし。 （以下を使用するが、絶版なのでコピーを配布する。） American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Eight Broadway Classics 1927 -1949 (Library of America, 2014). ISBN-13: 978-1598532586 Laurence Maslon, ed., American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Ei
〔参考書〕 日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）ISBN-13：978-4791772612 その他、講義で随時指示。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		英語圏芸術と文学研究基礎 337					
教員名		相原 直美					
科目No.	125133270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、20 世紀アメリカを代表する劇作家テネシー・ウィリアムズ(Tennessee Williams, 1911-83)の戯曲『ガラスの動物園』（The Glass Menagerie, 1945）を精読する。アメリカ南部の清教徒的価値観の中で、自らの homosexuality と相対峙して生きてきたウィリアムズにとって、自分の内なる促しに従って自由奔放に生きることは、彼自身の内に棲息する罪悪感と絶えず格闘することを意味していた。自伝的色彩の濃い上記作品では、この劇作家の青春時代の心の葛藤が、追憶のヴェールに包まれつつ、みずみずしい感性、鋭い自己分析、そして彼の提唱する plastic theatre という手法を通じて見事に描き出されている。この作品はウィリアムズの記念すべきブロードウェイ・デビュー作であり、今なお世界中で愛され、上演されているウィリアムズの代表作の一つでもある。作品理解に不可欠な作家の人間像にも迫りながら、作品の中にみられる今日のテーマについても考察していきたい。映像資料も利用する。							
〔到達目標〕							
①演劇という形式のテキストの特徴を意識した読み方に慣れ親しみ、エンターテインメントの枠に留まらない文学世界としての演劇についての知識を深め、説明できる。 ②戯曲に提示されるモラル、アイデンティティ、ジェンダーといった今日のテーマについて分析的に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ウィリアムズについての説明。			【予習・復習】 シラバスをよく読むこと。		60	
第 2 回	『ガラスの動物園』が書かれた背景と Production Notes について説明する。 Scene One (pp. 5-8)を精読。			【予習・復習】 Production Notes と Scene One（提示部）(pp. 5-8)を読み、舞台セットや照明等、また時代的背景などを意識しつつ読み進める。		60	
第 3 回	Scene One (pp. 9-12)を精読。			【予習・復習】 Scene One で登場する人物の性格・人間関係を整理しつつ読み進める。		60	
第 4 回	Scene Two (pp. 13-19)を精読。			【予習・復習】 Scene One と Two で提示されている情報を整理しつつ劇的葛藤の発端を確認する。		60	
第 5 回	Scene Three (pp. 20-26)を精読。			【予習・復習】 Scene One～Two にかけて提示された劇的葛藤が上昇の一途をたどる様を確認しつつ読み進める。		60	
第 6 回	Scene Four (pp. 27-37) を精読。 ※小テスト（1）			【予習・復習】 劇的葛藤の高まりから劇の「展開」への移行を確認しつつ、読み進める。		60	
第 7 回	Scene Five (pp. 38-43)を精読。			【予習・復習】 Scene Five 以降、提示される象徴性について確認しつつ、読み進める。		60	
第 8 回	Scene Five (pp. 44-48)を精読。			【予習・復習】 Scene Five に於ける人物の内面と象徴性の関係を整理しつつ読み進める。		60	
第 9 回	Scene Six (pp. 49-56)を精読。			【予習・復習】 Scene Six で示されるクライマックスへの序奏部分の情報を確認しつつ読み進める。		60	
第 1 0 回	Scene Six (pp. 57-64)を精読。			【予習・復習】 クライマックスの序奏部分（つづき）の情報を確認しつつ、読み進める。		60	
第 1 1 回	Scene Seven (pp. 65-72)を精読。 ※小テスト（2）			【予習・復習】 色濃く提示される象徴性に気をつけながらクライマックスへの高まりを確認する。		60	
第 1 2 回	Scene Seven (pp. 73-80)を精読。			【予習・復習】 多層的な象徴性に気をつけながらクライマックスへと読み進める。		60	
第 1 3 回	Scene Seven (pp. 81-92)を精読。			クライマックスから解決部への流れを確認し、同時に劇中の象徴性についても考察する。		60	
第 1 4 回	作品全体のまとめ。他のウィリアムズ作品との関連など。 ※小テスト（3）			【予習・復習】 劇全体から浮かび上がるテーマを考える。		60	
〔授業の方法〕							
- 基本的に講義形式をとるが、臨機応変な授業時の意見交換などに受講生の積極的参加を期待する。 - 戯曲のテキストを精読していくが、この作品は映画化されているので、そちらも授業内で参照する。映画との比較から更に原作である戯曲の本質を探っていきたいと思う。 3 回の小テストの実施を通じて、戯曲のあらすじ、登場人物、舞台設定など、作品を正しく理解する上での基本的な内容が把握できているかを確認する。 - 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							

小テスト（3回・40%）、レポート（50%）、平常点（授業への積極的参加や宿題の提出状況など・10%）による総合的評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①演劇という形式の特徴（台詞・ト書き）を捉えて説明できているか。 ②戯曲の中に提示されるモラルや今日的テーマを掘い上げ、例を示しながら分析的に説明できているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 『ガラスの動物園』(The Glass Menagerie) (Tennessee Williams)（英宝社）ISBN 978-4-269-09015-6
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		英語圏芸術・文学A431（インターテクスチュアリティ）					
教員名		庄司 宏子					
科目No.	125133310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> 1980 年代からアメリカ合衆国で高まる多文化主義（multiculturalism）は、アメリカの奴隷制度や人種をめぐる過去の歴史を公教育の場で歴史遺産として教えることを促した。そのため、奴隷制度に関するわかりやすい物語、感情移入しやすいシンボルやアイコンが生み出されることになった。「地下鉄道」や folk hero の “John Henry” はそうした例である。これらのアイコンは悲惨な奴隷制度の歴史を口当たりのよい形で語り、現在も持続する奴隷制度の爪痕から人々の関心をそらすものだという批判がある。本講義では、公教育や博物館などの場で歴史記憶遺産の目的でつくり出される社会コントロール的な歴史構築に対して、文学はどのように関わるのか、Colson Whitehead の 2016 年の小説<I>The Underground Railroad</I>を中心に、そこにみられる対抗的な力を考察する。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ・文学作品とは、言葉によって構築された、時空を超えた人々の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて、社会や文化を批判的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識する。 ・文学作品を通じて、自らの視点で社会や文化的現象をさまざまな関係性において考察する力を獲得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業の内容と方法について説明する。 “The Underground Railroad”（地下鉄道）とは何か、その歴史と神話について—“white” slave narrative と歴史の “whitewashing” の観点から			シラバスを読み、授業の内容を把握すること。現代アメリカに関するニュースや情報を集め、自身の関心を育むこと。		60 分	
第 2 回	“The Underground Railroad”（地下鉄道）とは何か、その歴史と神話について概説する。20 世紀末からの「地下鉄道」ブーム —1998 年の National Underground Railroad Network to Freedom Act の制定と Network to Freedom program について			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 3 回	1980 年代以降、多文化主義と “The Underground Railroad” の関わりについて—教育と歴史記憶の観点から			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 4 回	“The Underground Railroad” に関するドラマ Underground (WGN, 2016)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 5 回	“The Underground Railroad” に関する映画<I>Harriet</I> (2019)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 6 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (1)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 7 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (2)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 8 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (3)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 9 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (4)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 1 0 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (5)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 1 1 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (6)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 1 2 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (7)			配布したテキストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 1 3 回	Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I> (2016) (8)			授業内で提示した課題について調べてくること。		60 分	
第 1 4 回	後期授業の内容を総括する。			後期の授業で学んだことを考えてくること。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式。講義内容の理解を深めるため、パワーポイントによる資料を提示する。							
〔成績評価の方法〕							
平常点で成績評価を行います。平常点として、授業への参加状況、宿題（CoursePower から提出）、学期末の課題レポート（3,000 字程度で CoursePower から提出）から総合的に評価します。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 アメリカ文学史
〔テキスト〕 授業で用いるテキストは印刷して配布するか、もしくは PDF ファイルを CoursePower から配布します。
〔参考書〕 Colson Whitehead, <I>The Underground Railroad</I>, Fleet, 2017. ISBN: 978-0708898406 コルゾン・ホワイトヘッド『地下鉄道』早川書房、2017 年。ISBN: 978-4152097309 映画<I>Harriet</I>（2019） その他、文献は適宜授業で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。
〔特記事項〕

科目名		英語圏芸術・文学B432（ボディ・アンド・マインド）					
教員名		正岡 和恵					
科目No.	125133320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本授業では、シェイクスピアの四大悲劇の一つである『ハムレット』をとりあげる。悩める青年というイメージをもつハムレットは、その謎めいた心理がもたら批評の対象になってきた。だが心と身体は切り離すことができない。ハムレットは自らの身体についてどのように把握しているのだろう。身体・セクシュアリティ・ジェンダー・主体の構築という観点から、『ハムレット』という作品を通じて、「身体」に対する概念がそれぞれの時代のイデオロギーによっていかに構築されているのかを考えてみたい。							
〔到達目標〕							
DP1－6（主要な英語圏の芸術・思想について熟知し、それらについて専門的見地から分析し理解することができる）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①『ハムレット』に関する専門的な知識および解釈の手法を修得している。 ②文学作品の背景をなす思想について理解している。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：『ハムレット』について 作品の内容、創作年代、材源、上演史など、解釈の背景をなすさまざまなトピックについて学ぶ。			『ハムレット』（翻訳）を読んでおいてください。		60	
第2回	イントロダクション：『ハムレット』について 構造や主題など、解釈の背景をなすさまざまなトピックについて学ぶ。			『ハムレット』（翻訳）を読んで、登場人物やあらすじを理解しておくこと。		60	
第3回	1幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。		60	
第4回	1幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。		60	
第5回	1幕を振り返り、主要登場人物の身体表象と、ハムレットがおのれと他の登場人物の身体をいかに認識しているかについて考える。			1幕の重要なポイントや台詞について考えておくこと。		60	
第6回	2幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。		60	
第7回	2幕を振り返り、1幕で提示された身体をめぐる主題がいかに展開しているかを考える。			2幕の重要なポイントや台詞について考えておくこと。		60	
第8回	3幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。		60	
第9回	3幕を振り返り、女性登場人物の身体表象について考える。			3幕の重要なポイントや台詞について考えておくこと。		60	
第10回	4幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。		60	
第11回	4幕を振り返り、ハムレットが心情を吐露しているいくつかの独白について検討する。			4幕の重要なポイントや台詞について考えておくこと。		60	
第12回	5幕を読む。			作品の指定された箇所を読んでくること。		60	
第13回	5幕を振り返り、『ハムレット』における身体観を概観する。			5幕の重要なポイントや台詞について考えておくこと。		60	
第14回	まとめ。			『ハムレット』の全体像について考えをまとめておく。		60	
〔授業の方法〕							
教員による講義と受講者による発表を交互に行いながら授業を進めていく。授業で問題になったトピックについて、随時課題を出す。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）60％および期末レポート40％によって評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 イギリス文学史の基本的な知識が必要です。
〔テキスト〕 Shakespeare, William. Hamlet. Edited by Richard Andrews et al. Cambridge School Shakespeare, Cambridge UP, 2014.
〔参考書〕 授業中に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		英語圏思想A433（近代以前）					
教員名		ラルフ　バーナビー　ジェイムズ					
科目No.	125133330	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
This course is designed to introduce you to the language of rhetoric and some of its many applications. The techniques and principles of rhetoric provide a structure to understand not only oratory (formal speaking) but also art, literature and related areas, such as architecture, dance and drama. The course will cover the development of rhetoric and many of its applications from the Classical period to the twenty-first century. The use of rhetoric in advertising and modern politics will also be considered. The course will be taught in English. It is in accordance with DP6.							
〔到達目標〕							
to understand Western philosophy, history and the arts much more clearly than before. You will also have a very good grasp of techniques which will help you to write effective academic essays that are clearly structured and argued. We are also going to ha							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	Classical Rhetoric in Greece and Rome - the moral orator and the parts of an oration			Three positives and three negatives to do with rhetoric		Approx. 30 mins	
第2回	Ethical debates and role plays in the Classical tradition			Ethical debate questions		Approx. 1 hour	
第3回	The structure of rhetoric - tropes, figures, schemes			Find the figure (worksheet) Construct a passage/letter using figures		Approx. 1 hour	
第4回	Rhetoric in the Middle Ages Medieval sermons and mystery plays The education of the masses Translating the Bible			Use six rhetorical figures to write a short passage (identify them)		Approx. 1 hour	
第5回	The humours Elizabethan Music			Review of materials and preparation for presentation		Approx. 1 hour	
第6回	Rhetoric in the Renaissance English poetry and its defence			Review of materials and preparation for presentation		Approx. 1 hour	
第7回	Looking at Art and Gesture rhetorically Presentations - Group			Reading for next week - Sidney and others		Approx. 1 hour	
第8回	Rhetoric and the Defence of Poetry			Readings for next week		Approx. 1 hour	
第9回	Rhetoric in 18th-century England and 19th-century America			Source materials for next week's class		Approx. 1 hour	
第10回	Rhetoric and Art			Find sources for next week's class		Approx. 1 hour	
第11回	Applying Rhetoric to other areas (Architecture, Aesthetics, Drama, Dance)			Prepare individual presentation		Approx. 1 hour	
第12回	Presentations - Individual			Prepare arguments/materials for political rhetoric session		Approx. 1 hour	
第13回	Modern Rhetoric - Politics You are a political candidate trying to get elected!			Readings for next week		Approx. 1 hour	
第14回	Modern Rhetoric - Theory How is rhetorical language currently defined?			Test preparation		Approx. 1 hour	
〔授業の方法〕							
Each week, part of the sessions will concentrate on listening to and discussing areas of rhetoric. A series of mini-lectures will be presented (each about 10-15 minutes long), with an opportunity to talk about the content after each one. There will be worksheets and quizzes to make sure that you understand the ideas and to help you fix concepts firmly in your memory. As noted above, all instruction will be in English.							
〔成績評価の方法〕							
Assessment:							
・ In-class participation and work				20%			
・ Post-lecture quizzes				10%			

・	Group presentation	20%	
・	Solo presentation	30%	
・	Final Test		30%
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第 11 条の 2）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕			
There is no set textbook. Readings and handouts will be distributed by the teacher.			
〔参考書〕			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕			
ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		英語圏思想 B434 (現代)					
教員名							
科目No.	125133340	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 10 回							
第 11 回							
第 12 回							
第 13 回							
第 14 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名	宗教と芸術 435						
教員名	竹内 智子						
科目No.	125133350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 キリスト教音楽—英米独自の流れ：バラッドからスピリチュアルへ パレスチナで生まれたキリスト教が世界に伝わる過程で変容を重ねたように、キリスト教の音楽も各地の風土・文化を反映して多彩です。授業では、ヨーロッパの基層文化・ケルトからアメリカのスピリチュアルまでをつなぐ英米のキリスト教音楽の流れを、特に口承伝承：人間の「声」に注目してとります。まず概論としてアメリカの音楽と宗教の特徴を広く概観した上で、ヨーロッパのケルト文化から始め、ケルトと初期キリスト教の出会い、パレスチナ由来のキリスト教初期の音楽性の残るガリア聖歌、ケルトの伝統を継ぐイギリスのバラッドと賛美歌の関係を軸に、宗教改革とルネサンス期の新しい音楽、ピューリタンの出現と新大陸アメリカへの移住、アメリカの植民地社会と賛美歌の変容、黒人奴隷の歴史とリヴァイヴァル運動における白人・黒人のスピリチュアルの誕生、公民権運動における音楽の力などを通し、その宗教観や音楽の特質を、背景にある歴史・文化と共に広い視野で捉えます。今日コロナ禍の世界においてますます分断が進む中、宗教・異文化の問題や非暴力の可能性について考える意味は大きいと思います。バラッドからスピリチュアルまで、同じ一つの水脈から湧きあがった民衆の声が、1000年以上の時を経て途切れることなく継承されたのはなぜか？また何を継承してきたのか？—歴史に学びながら、今を冷静に受け止め、批評する力を養い、将来につなげてほしいと思います。							
〔到達目標〕 DP1-1（専門分野の知識・理解）、3-1（課題の発見と解決）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①キリスト教と音楽の流れを、背景にある歴史・文化と共に通史的にたどることで、その多様性・重層性を捉え、歴史への客観的視野を養い、異文化理解を深める。 ②宗教改革・ルネサンス・リヴァイヴァルなどの変革期に、宗教や思想・音楽がなぜ、どのように変容したか、またそれに伴い音楽や文学がどのような役割を果たしたかを認識する。 ③人間の内面：人間性・感性への洞察を深め、それを土台として宗教・芸術の意味を問うこ							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	導入—授業の視点と概要：英米のキリスト教音楽の流れ ・この授業の視点を提示する。 ・授業の流れを把握する。			・予習：キリスト教と音楽の関連について、自分なりに考えておく。 ・復習：学んだ授業の視点と概要を確認する。		60	
第2回	概論Ⅰ—アメリカ音楽のルーツと独自性：ピューリタンの賛美歌からガーシュインへ ・アメリカ音楽の流れを、初期植民地からの歴史を背景に学ぶ。 ・アメリカ音楽の独自性を把握する。			・予習：解説①を読み、アメリカ音楽の特徴を把握する。 ・アメリカ音楽のルーツと背景の歴史を確認する。		60	
第3回	概論Ⅱ—アメリカ音楽の背景：独自の思想、日本の唱歌と賛美歌・ミッションスクールの誕生 ・アメリカ独自の思想を文学的視野から把握する。 ・明治期のアメリカの日本への伝道に伴う文化的影響を学ぶ。			・予習：解説①を読み、歴史的背景のポイントをつかむ。 ・復習：アメリカの音楽とその背景にある思想の独自性を確認する。		60	
第4回	ヨーロッパ文化の基層・ケルト—ケルトの世界観、アイルランドの伝統芸術 ・宗教に根差したケルトの世界観を理解する。 ・ケルトの世界観が反映された芸術を鑑賞する。			・予習：概論で学んだことを確認した上で、解説②を読む。 ・復習：ケルト文化の特徴、特に口承伝承によるバラッドの意味を確認する。		60	
第5回	ケルトとキリスト教の出会い—アイルランドのケルト・キリスト教文化 ・ケルト文化と融合したアイルランドのキリスト教の特徴を学ぶ。 ・パレスチナ由来の初期キリスト教音楽の特徴を把握する。			・予習：ケルトの宗教観・世界観を明確にした上で、解説②の特に初期キリスト教修道院文化について把握する。 ・復習：アイルランドのキリスト教文化の独自性を確認する。		60	
第6回	イギリス・バラッドの流れとルネサンス前夜 ・英語の変遷を軸に、バラッドの発展過程を把握する。 ・ルネサンスに至るまでの社会・文化の動向を理解する。			・予習：ケルト文化の詩の伝統を確認し、資料③を読む。 ・復習：バラッドと言語や世相との関連、時代の変化の背景を確認する。		60	
第7回	ルネサンスと宗教改革—ルネサンスの世界観、英国国教会の音楽と詩編歌 ・ルネサンスの世界観を、各国の文学・芸術を通して理解する。 ・プロテスタントの新しい賛美歌を把握する。			・予習：解説②・資料③を読み、ルネサンスまでの歴史的過程を把握する。 ・復習：ルネサンスの世界観、社会・宗教・文学・音楽の変化を確認する。		60	
第8回	イギリス・ルネサンス文化—シェイクスピアとバラッド ・イギリス・ルネサンスの特徴を理解する。 ・エリザベス期に開花した演劇文化を通して、この時代の思想を把握する。			・予習：解説③を読み、イギリス・ルネサンスの特徴をつかんでおく。 ・復習：イギリスの演劇文化の特徴、社会の変化の背景にある思想について確認する。		60	
第9回	ピューリタンのオランダ—新大陸アメリカ移住：信仰の自由を求めて ・アメリカの初期植民地社会の特徴を学ぶ。 ・アメリカ音楽のルーツを把握する。			・予習：解説④を読み、ピューリタン出現と移住の背景を把握する。 ・復習：ピューリタンのオランダでの経験、アメリカ移住の要因、初期植民地社会の特徴を確認する。		60	
第10回	植民地社会と賛美歌の変容—詩編歌～民謡的賛美歌へ ・後続のピューリタン社会の特徴と、その社会の変化に伴う音楽の変化を学ぶ。			・予習：解説④を読み、後続のピューリタン社会の特徴をつかむ。 ・ピューリタン社会の変化、バラッドの伝統と宗教・音楽との関連を確認する。		60	
第11回	リヴァイヴァル運動と新しい賛美歌—スピリチュアルの誕生 ・リヴァイヴァル運動の背景にある思想・宗教界の変化を把握する。 ・その運動の中で生まれた新しい音楽の特徴を学ぶ。			・予習：解説⑤を読み、アメリカ建国期の思想の特徴をつかむ。 ・復習：リヴァイヴァル運動と、新しい賛美歌の特徴を確認する。		60	
第12回	黒人奴隷の歴史と黒人霊歌 ・黒人奴隷の歴史を通して、人間の差別の問題を普遍化して考える。 ・黒人霊歌成立の経緯を把握し、関連の文化、宗教について学ぶ。			・予習：解説⑥を読み、差別の問題について自分なりに考えておく。 ・復習：黒人奴隷の歴史、クレオール文化、黒人霊歌成立の経緯を確認する。		60	

第 1 3 回	黒人霊歌とゴスペルの音楽性：体験的音楽・身体的歌唱 ・宗教的体験としての黒人霊歌の独自性・普遍性を理解する。 ・ゴスペル成立の経緯と音楽の特徴を学ぶ。	・予習：解説⑥を読み、黒人霊歌・ゴスペルの音楽の特徴を把握する。 ・復習：アメリカの黒人の歴史における音楽の意味について確認する。	60
第 1 4 回	キング牧師の公民権運動における非暴力と音楽の力ー授業のまとめ ・公民権運動における非暴力の意味を考え、音楽が果たした役割を学ぶ。 ・黒人の音楽の普遍性を学ぶことで、宗教・音楽の本質を理解し、本授業のまとめにつなげる。	・予習：学んできた黒人の歴史に加え解説⑦を読み、現代までのその歩みを把握し、今日的課題について考えておく。 ・復習：黒人霊歌の社会性、普遍性について復習し、本授業の視点を再確認する。	60
〔授業の方法〕 授業は講義中心に行うが、視聴覚の鑑賞を多用する。学生は質問・意見など積極的に発信、共有し、授業理解に役立ててほしい。尚、小課題、期末レポートを通して、この授業への理解度を確かめる。 ・小課題を一回提出し、それまでの授業の理解度を確認する。また期末レポートでは、この授業全体のポイントへの理解度と、各自の思考力を確認する。			
〔成績評価の方法〕 小課題（一回・30%）、期末レポート（70%）による総合評価。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①各授業のテーマに対する基本的な理解が出来ているか。 ②歴史を客観的に捉える力、今日的課題に対する思考力が養われているか。 ③鑑賞に関する各自の感想を、的確に表現出来るか。 ④宗教・芸術を通して、人間の内面的世界への感性が養われたか			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、社会的諸問題に対する思考力を養うことを重要視しているので、今日の世界の状況を常に関心を持って考察してほしい。			
〔テキスト〕 特になし。適宜解説・資料を配布する。			
〔参考書〕 特にないが、授業内で参考文献を適宜紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		批評理論 436					
教員名		日比野 啓					
科目No.	125133360	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 批評理論上重要な4つの主題について、それぞれ3週間にわたり概観します。 第一部：小説の快楽 第二部：何が「リアル」か 第三部：「内容」と「形式」は一致する？ 第四部：小説とその外部							
〔到達目標〕 批評理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義ではアリストレス『詩学』から20世紀後半の構造主義（ロラン・バルト）やポスト構造主義（ジャック・デリダ）まで広範にわたる「理論」を概観しますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会だととら							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：なぜ「文学理論」か？			予習：ナサニエル・ホーソーン『緋文字』を読み始めてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第2回	小説とは何か：「語り」（narration）と「描写」（description）			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。2 作者の介入／3 サスペンス／5 書簡体小説／26 描写と語り 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第3回	「語り手」「視点」の諸問題			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。6 視点／7 ミステリー／34 信用できない語り手／46 メタフィクション 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第4回	「内面」の成立			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。9 意識の流れ／10 内的独白／14 人物紹介／25 表層にとどまる 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第5回	事実（facts）と虚構（fiction）、真理（truth）、本当らしさ（reality） 第1回小テスト			予習：ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。1 書き出し／8 名前／15 驚き／40 動機づけ 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第6回	理想主義（idealism）およびさまざまな反リアリズム			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。24 マジック・リアリズム／31 寓話／33 偶然／38 シュルレアリスム 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第7回	ミメシス（mimesis）／表象（representation）とその批判			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。18 天気／22 実験小説／30 象徴性／42 言外の意味 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。 ミッドターム・ペーパーの提出準備を始めてください。		100	
第8回	文体と声 第2回小テスト			予習：スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。4 ティーンエイジ・スカース／20 凝った文章／27 複数の声で語る／47 怪奇 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第9回	レトリックとアイロニー			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。11 異化／19 反復／23 コミック・ノベル／39 アイロニー 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第10回	時間と構造			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。36 章分け、その他／43 題名／48 物語構造／50 結末 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第11回	社会・経済 第3回小テスト			予習：レベッカ・ブラウン『体の贈り物』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。12 場の感覚／13 リスト／35 異国性／44 思想 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	
第12回	テクノロジーとメディア			予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。16 時間の移動／29 未来を想像する／37 電話／41 持続感 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		100	

第 1 3 回	伝統 第 4 回小テスト	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。 17 テキストの中の読者／21 間テキスト性／28 過去感覚／ 45 ノンフィクション小説 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念 の理解を深めてください。	100
第 1 4 回	到達度確認テスト	予習：講義内容をよく復習してテストに備えてください。	100
〔授業の方法〕 講義形式。レジュメを毎回配布。			
〔成績評価の方法〕 小テスト（8 点×4 回）：一つのテーマが終了した翌週に小テスト（12 分）を行います。 小テストは二つのセクションに分かれます。キーワードについて簡単な説明を求めるものと、講義のなかでもっとも印象に残った内容について記すものです。 ミッドタームペーパー：24 点 「語り」と「描写」の違い、多様な「語り手」「視点」や、様々な「内面」の描写など、それまで学んだことをもとに、「自分が今日大学に来るまでのこと」を 小説にして書いてもらいます。「朝起きて家を出るまで」「家を出てから大学の門をくぐるまで」「大学の門			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。文学理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価しま す。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありませんが、文学理論Ⅰとあわせて受講すると、より広範な角度から文学作品および批評理論をとらえることができるようになるでしょう。			
〔テキスト〕 デイヴィッド・ロッジ、柴田元幸・斎藤兆史訳『小説の技巧』（白水社、一九九七年）ISBN-13：978-4560046340 ナサニエル・ホーソーン、八木敏雄訳『緋文字』（岩波文庫、1992 年）ISBN-13：978-4003230411 ヘンリー・ジェイムズ、小川高義訳『ねじの回転』（新潮文庫、2017 年）ISBN-13：978-4102041031 スコット・フィッツジェラルド、野崎孝訳『グレート・ギャツビー』（新潮文庫、2013 年）ISBN-13：978-4087606652 レ			
〔参考書〕 多数。初回授業時に詳細なリストを配布。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕			

科目名	21 世紀の英語圏芸術と文学 437						
教員名							
科目No.	125133370	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		英語圏芸術と文学ワークショップ 438					
教員名		相原 直美					
科目No.	125133380	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
20 世紀アメリカを代表する劇作家テネシー・ウィリアムズ (Tennessee Williams, 1911-83) の才能と魅力が全開し、アメリカ演劇史上に新しい歴史を刻んだとされる初期の代表作『欲望という名の電車』(A Streetcar Named Desire, 1947)を精読する。アメリカ南部の清教徒的価値観の中で、自らの homosexuality と相対峙して生きてきたウィリアムズにとって、自分の内なる促しに従って自由奔放に生きることは、彼自身の内に棲息する罪意識と絶えず格闘することをも意味していた。アメリカ南部を舞台としたこの戯曲は、そのような作者の内的葛藤と苦悩する魂の救済の物語として捉えることも可能であろう。しかし、この戯曲に於ける最大の魅力は、何といてもアメリカ演劇史上類を見ないほどの複雑な美しさを放つヒロインのブランチである。彼女の心の中に潜む聖と俗、光と影、欲望と死といった拮抗する力学がこの戯曲そのものを多層的にしており、時代を超えた普遍性を生み出しているのである。本講義では、本作品を理解する上で不可欠な作家の人間像にも迫りながら、また彼の提唱する plastic theatre というドラマツルギーをも視野に入れつつ読み進めていき、最終的には本作品に於ける今日のテーマについても考察していきたい。映像資料も使用する。							
〔到達目標〕							
・演劇という形式のテキストの読み方に慣れ親しみ、エンターテインメントの枠に留まらない文学的世界としての演劇について知識を深めることが出来る。 ・戯曲に提示されるモラル、アイデンティティ、ジェンダーといった今日のテーマについて分析的に説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方の説明をする。 ・テネシー・ウィリアムズと彼の作品世界について説明する。			【予習・復習】シラバスをよく読み、あらかじめ講義内容を把握する。		30	
第 2 回	・『欲望という名の電車』が書かれた時代的背景について説明する。 ・ Scene One を読む。			【予習・復習】 Scene One (提示部 1) で示される舞台セットの象徴性を意識しつつ、読み進める。		60	
第 3 回	・ Scene Two を読む。			【予習・復習】 Scene Two (提示部 2) までに登場した人物達の性格・関係性を整理しつつ、読み進める。		60	
第 4 回	・ Scene Three を読む。			【予習・復習】 Scene Three (提示部 3) までに語られる登場人物達の過去と現在についての情報を整理しつつ、読み進める。		60	
第 5 回	・ Scene Four を読む。			【予習・復習】 Scene 1～4 (提示部) で提示された様々な情報を整理しつつ、最後に提示される劇的葛藤の発端を確認する。		60	
第 6 回	・ Scene Five を読む。 ※Scene One ～ Four の内容についての小テスト。			【予習・復習】 Scene Four の最後に提示された劇的葛藤が徐々に高まりを見せていく様を確認しつつ、Scene Five (展開部 1) を読み進める。		60	
第 7 回	・ Scene Six を読む (1)。 ※Scene One ～Four の小テストの答え合わせ・解説			【予習・復習】 劇的葛藤が更に上昇していくきっかけとなる誘発的出来事を確認しつつ、Scene Six (展開部 2) を読み進める。		60	
第 8 回	・ Scene Six を読む (2)。			【予習・復習】 劇的葛藤が更に上昇の一途をたどる様を確認しつつ、Scene Six の最後まで読む。		60	
第 9 回	・ Scene Seven を読む。 ※Scene Five～Six の内容についての小テスト。			【予習・復習】 クライマックスへと進む様を確認しつつ、読み進める。		60	
第 1 0 回	・ Scene Eight を読む。 ※Scene Five～Six の内容についての小テストの答え合わせ・解説			【予習・復習】 クライマックスへと進む様を更に確認しつつ、読み進める。		60	
第 1 1 回	・ Scene Nine を読む。			【予習・復習】 クライマックスへと進む様を更に確認しつつ、読み進める。		60	
第 1 2 回	・ Scene Ten を読む。			【予習・復習】 Scene Ten で迎えるクライマックスを確認しつつ、読み進める。		60	
第 1 3 回	・ Scene Eleven を読む。			【予習・復習】 「解決部」となる Scene Eleven をよく読み、特にラストシーンの意味を考えながら、読み進める。		60	
第 1 4 回	・まとめ ※Scene One～Eleven までの内容についての小テスト			【予習・復習】 作品全体としてどのようなメッセージが込められているのかを考えながら、作品全体を振り返る。		60	
〔授業の方法〕							
・基本的に講義形式をとるが、臨機応変な授業時の意見交換などに受講生の積極的な参加を期待する。 ・戯曲のテキストを精読していくが、この作品は映画化されているので、そちらも授業内で参照する。映画との比較から更に原作である戯曲の本質を探っていきたいと思う。 ・3 回の小テストの実施を通じて、戯曲の基本的な内容 (登場人物、あらすじなど) が正しく理解できているかを確認する。 ・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							

小テスト（3回・40%）、レポート（50%）、平常点（授業への積極的参加や宿題の提出状況など・10%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①演劇という形式のテキストの特徴（台詞・ト書き）を捉えて説明できているか。 ②戯曲の中に提示されるモラルや今日的テーマを掘い上げ、分析的に説明できているか。 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 A Streetcar Named Desire （『欲望という名の電車』）（金星堂 ISBN4-7647-0325-4 C3082）
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		日本語法					
教員名		森 雄一					
科目No.	125211850	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
日本語の仕組みを、音声・音韻、文字・表記、語彙、文法の諸分野において解説する。 入門的な授業であることに鑑みて、一方向的な授業にならないよう随所でやりがいのある問題演習を行う。							
〔到達目標〕							
DP1-1（専門分野の知識・技能の習得）を実現するために、日本語学の基礎知識を身につけるとともに、言語現象の初歩的な分析を行えるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	日本語の音声・音韻（１）清音と濁音			シラバスを読み、授業の流れを理解する。事前配布される資料に目を通しておく。		60	
第 2 回	日本語の音声・音韻（２）五十音図			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 3 回	日本語の音声・音韻（３）特殊音素			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 4 回	日本語の文字・表記（１）			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 5 回	日本語の文字・表記（２）			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 6 回	日本語の語彙			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 7 回	日本語の文法（１）品詞			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 8 回	日本語の文法（２）ヴォイス			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 9 回	日本語の文法（３）時制とモダリティ			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 1 0 回	日本語の文法（４）視点と指示語			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 1 1 回	日本語の文法（５）助詞			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 1 2 回	日本語の文法（６）複文			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 1 3 回	日本語の敬語			配布資料を読み、前回の授業の復習を行うとともに今回の授業で取り扱う分野の概略を理解しておく。また、指示がある場合にはタスクを解いておく。		60	
第 1 4 回	授業内レポート			授業内レポート執筆のため、今までの授業全体の総復習をおこなっておく。		120	
〔授業の方法〕							
講義形式 私語等、他の受講生の迷惑となる行為を行う者には厳しく対処する。							
〔成績評価の方法〕							
最終授業で執筆、提出してもらう授業内レポートを 50%、授業中に提出を求める小課題（回数は授業進度によって調整する）の合計評価点を 50%とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本語学の主要分野について基本的な知識が身についているか。
・日本語の言語現象の初歩的な分析ができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

（関連科目）

日本語研究の基礎

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書〕

授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		古典日本文学史 A					
教員名							
科目No.	125231100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		古典日本文学史B					
教員名		桜井 宏徳					
科目No.	125231110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 日本の古典文学のうち、中古文学（平安時代の文学）のさまざまなジャンルと作品について、文学史的な位置づけも踏まえながら、原文に即して鑑賞し、理解を深めてゆきます。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の2点を到達目標とする。 ① 中古文学の展開を把握し、その変遷の過程について文学史的な視点から説明できる。 ② 個々の作品の概要や世界観を理解し、自分なりに鑑賞・分析できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	中古文学概説			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第2回	『竹取物語』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第3回	『古今和歌集』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第4回	『土佐日記』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第5回	『伊勢物語』『大和物語』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第6回	『蜻蛉日記』『和泉式部日記（物語）』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第7回	『枕草子』『紫式部日記』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第8回	『源氏物語』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第9回	『更級日記』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第10回	平安後期物語			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第11回	『栄花物語』『大鏡』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第12回	『後拾遺和歌集』			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第13回	説話と軍記			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
第14回	平安朝漢文学 / レポート課題提示			プリント・ノートを読み返し、国語便覧なども活用して、授業内容についての理解を確実なものとしておく。		60	
〔授業の方法〕 講義形式で行います。新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、対面授業が不可能になった場合は、Zoomを用いてリアルタイムのオンライン授業を行います。レポートでは、中古文学についての基礎知識が十分に身についているかどうか、また、自分なりに作品を「読む」ことができるかどうかを確認します。							
〔成績評価の方法〕 レポート（80％）・平常点（20％）によって評価します。 レポートは、CoursePowerの「レポート」機能を通じて提出していただきます。また、平常点は、リアクションペーパーの提出状況など、授業への参加度によって評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。 評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度によって評価します。 ① 中古文学について、基礎的な知識が十分に身についているか。 ② 中古文学の展開について、その変遷の過程を文学史的な視点から説明することができるか。 ③ 中古文学の具体的な作品について、自分なりに分析・鑑賞することができるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高等学校で学んだ文学史の知識（特に中古文学について）が身についていることを前提として話を進めてゆきます。不安のある方は、下記の「参考書」で紹介している便覧などを参考に、事前にある程度の知識を得ておいてください。 また、他の中古文学に関する科目もあわせて受講すると、理解が深まります。
〔テキスト〕 特定のテキストは指定しません。毎回プリントを配布します。
〔参考書〕 足立直子・二宮美那子・本廣陽子・森田貴之 監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版、2017 年） 本体 900 円＋税 ISBN 978-4-410-33912-7 高等学校などで配布される国語便覧を、手元に 1 冊置いておきましょう。持っていない方は、上記の本がおすすめです。中古文学についての高校レベルの知識に不安がある際は、これらの便覧を活用して受講前に確認しておくこと。 原豊二・古瀬雅義・星山健 編『「女」が語る平安文学 『無名草子』からはじまる卒論のための基礎知識』（和泉書院、2021 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学史 A					
教員名							
科目No.	125231120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学史B					
教員名		小橋 孝子					
科目No.	125231130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
小説、詩歌、評論などの作品に触れながら、時代の状況の変化とともにあった日本近現代文学の流れを学ぶ。							
〔到達目標〕							
DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、日本近現代文学の展開について基礎的な知識を修得する。 DP3(課題の発見と解決)の実現として、時代の状況の変化を踏まえ、明治文学の展開とその課題について考察することが出来る。 DP3(課題の発見と解決)の実現として、文学史的な意義とともに作品を考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修 の目安(分)	
第1回	ガイダンス 明治の文学①			(予習)シラバスを読み、授業の全体像を確認する。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		10 60	
第2回	明治の文学②			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第3回	大正文学の展望 耽美派の文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第4回	白樺派の文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第5回	新思潮派の文学 (芥川龍之介)			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第6回	大正の詩歌			(予習)基礎的な事項を確認し、資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第7回	児童文学			(予習)基礎的な事項を確認し、資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第8回	関東大震災後の文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第9回	プロレタリア文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第10回	新感覚派の文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第11回	モダニズム文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第12回	大衆文学			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第13回	昭和文学展望			(予習)基礎的な事項を確認し、テキストを学修しておく。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第14回	まとめ			半期の学修を振り返り、理解を深める。		120	
〔授業の方法〕							
講義形式。 随時、指定した作品についてのレポート作成を求める。							
〔成績評価の方法〕							
通常授業時の小レポート(50%) 指定した作品についてのレポート(50%)							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文学史の基礎的な事項については、予習として確認しておくことが必要。

〔テキスト〕
安藤宏『日本近代小説史 新装版』 中公選書 110 1700 円＋税 ISBN978-4-12-110110-5
その他、資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。またメールでも受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		日本語の歴史A					
教員名		吉田 永弘					
科目No.	125232100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義は、講義名の通り、日本語の歴史を扱う講義であるが、前期開講の「日本語の歴史A」では、おもに文字・表記の歴史と音韻の歴史について概説する（文法と語彙の歴史については後期開講の「日本語の歴史B」で扱う）。 日本語の歴史を扱う日本語史の研究では、過去の日本語をどのように観察して、どのように歴史を描いているのか、日本語史の考え方や資料の扱い方などを身につけ、基本的な術語について理解し、説明できるようになることを目的とする。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本語史の考え方を理解することができる。 ・日本語の歴史の流れを説明することができる。 ・日本語学・日本語史の基本的な術語を説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 日本語が変化することを確認する。			【予習】シラバスとテキストの目次を熟読して、どのような講義内容なのか把握する。 【復習】講義の内容について確認する。		【予習】30分 【復習】90分	
第2回	資料と時代区分			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第3回	文字の獲得			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第4回	上代の表記			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第5回	中古の表記 ー平仮名と片仮名の成立ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第6回	中世・近世の表記			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第7回	現代の音韻			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第8回	上代の音韻			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第9回	母音の変遷			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第10回	子音の変遷ーハ行子音ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第11回	子音の変遷ーサ行・タ行などー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第12回	仮名遣いの歴史			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第13回	アクセントの変遷			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120分	
第14回	講義のまとめと総復習。「到達度確認テスト」を行う。			【復習】本講義の内容を振り返る。		120分	
〔授業の方法〕							
基本的に講義形式で行うが、問題演習や確認テストなどを行いながら双方向的な講義を目指す。							
〔成績評価の方法〕							
毎週行う「ミニレポート」（50%）と期末に行う「到達度確認テスト」（50%）によって評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 『新訂国語史要説』、 金田弘 宮腰賢、大日本図書、1,650 円、ISBN978-4-477-00732-8
〔参考書〕 講義中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		日本語の歴史 B					
教員名		吉田 永弘					
科目No.	125232110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義は、講義名の通り、日本語の歴史を扱う講義であるが、「日本語の歴史 B」では、おもに文法の歴史、語彙の歴史、文体の歴史について概説する（文字・表記と音韻の歴史については前期開講の「日本語の歴史 A」で扱う）。 日本語の歴史を扱う日本語史の研究では、過去の日本語をどのように観察して、どのように歴史を描いているのか、日本語史の考え方や資料の扱い方などを身につけ、基本的な術語について理解し、説明できるようになることを目的とする。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ・日本語史の考え方を理解することができる。 ・日本語の歴史の流れを説明することができる。 ・日本語学・日本語史の基本的な術語を説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	活用表の現古対照			【予習】シラバスとテキストの目次を熟読して、どのような講義内容なのか把握する。 【復習】講義の内容について確認する。		【予習】 30 分 【復習】 90 分	
第 2 回	動詞の変遷 ー連体形終止形の同形化ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 3 回	動詞の変遷 ー二段活用的一段化ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 4 回	動詞の変遷ーナ変と下一段ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 5 回	係り結びの変遷			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 6 回	形容詞・形容動詞の変遷			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 7 回	助詞・助動詞の変遷			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 8 回	語彙史ー古代語の語彙ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 9 回	語彙史ー近代語の語彙ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 1 0 回	文体史ー古代語の文体ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 1 1 回	文体史ー近代語の文体ー			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 1 2 回	表現の歴史			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 1 3 回	方言と日本語の歴史			【復習】前回の講義の内容を教科書・プリント等を活用して確認する。 【予習】テキストを読む。		120 分	
第 1 4 回	講義のまとめと総復習。「到達度確認テスト」を行う。			【復習】本講義の内容を振り返る。		1 2 0 分	
〔授業の方法〕							
基本的に講義形式で行うが、問題演習や確認テストなどを行いながら双方向的な講義を目指す。							
〔成績評価の方法〕							
毎週行う「ミニレポート」（50％）と期末に行う「到達度確認テスト」（50％）によって評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「日本語の歴史 A」を受講していることが望ましい。
〔テキスト〕 『新訂国語史要説』、金田弘 宮腰賢、大日本図書、1,650 円、ISBN978-4-477-00732-8
〔参考書〕 講義中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		日本語学講義 A					
教員名		松浦 光					
科目No.	125232120	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本授業では認知言語学の基礎を扱う。現代日本語を分析する際に、どのようなアプローチが可能なのか認知言語学（それと関連する語用論・レトリック・語学教育など）の視点から考えていく。認知言語学の考え方と分析手法の習得を目指す。							
〔到達目標〕							
認知言語学の基礎を理解する。 現代日本語に関する自分の興味あるテーマを論じることができる。 認知言語学の分析手法を用いて言語現象を考察できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業の要望アンケート			気になる言語現象についてまとめて、自分がどんなテーマに興味があるか言えるようにしてくる。		60 分	
第 2 回	認知言語学の言語観			学修した内容をふり返りながら、気に留まった言語表現をメモする。その日本語についての疑問点を考えておく。		60 分	
第 3 回	「ものの見方」と意味・文法			配布する資料を読んで復習する。		60 分	
第 4 回	カテゴリー化			配布する資料を読んで復習する。		60 分	
第 5 回	スキーマ化			配布する資料を読んで復習する。		60 分	
第 6 回	イメージ・スキーマ			配布する資料を読んで復習する。		60 分	
第 7 回	意味のネットワーク			多義語の実例を考えて復習する。		60 分	
第 8 回	メタファー			メタファーの役割や効果について考察を深めておく。		60 分	
第 9 回	メトニミー			メトニミーの役割や効果について考察を深めておく。		60 分	
第 1 0 回	概念メタファー			概念メタファーの働きについて理解を深めておく。		60 分	
第 1 1 回	「色」とことば			色に関する比喻表現を考えてくる。		60 分	
第 1 2 回	日本語の構文と文法化			現代日本語の構文と文法化について実例を通して考えておく。		60 分	
第 1 3 回	ことばのダイナミズム			気になる新規表現について考えてくる。		60 分	
第 1 4 回	言語の普遍性と相対性			他の言語と日本語について相違点に考える。		60 分	
〔授業の方法〕							
テキストを講義するとともに、各自のコメントペーパー・レポートを基に議論をする。 ただし、受講者の人数によっては方法を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
授業参加状況（40％）・小レポート（10％）・期末レポート（50％）等を総合して評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 谷ロー美『学びのエクササイズ 認知言語学』（ひつじ書房） 必要に応じてハンドアウトも配布する。
〔参考書〕 授業時に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に受け付ける。
〔特記事項〕 特になし

科目名		日本語学講義B					
教員名		山本 真吾					
科目No.	125232130	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
古代日本語の歴史 古代日本語の歴史について、文字・表記、音韻、語彙、文法、敬語、文体の各観点からそれぞれの時代の特徴を、文献資料に即して概説する。 その際には、（１）文学作品、訓点資料、片仮名文といった多様な文献資料の性格を踏まえること、（２）生活、社会、文化、宗教等の言語外事実にも留意すること、の２点を重視しながら考察してゆくものとする。							
〔到達目標〕							
1, 日本語史（古代日本語）の基本的な知識を身につけ、説明できる。 2, 日本語史の研究方法について理解し、分析できる。 3, 日本語の変化のメカニズムを生活、社会、文化との関わりで理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	序論：日本語史研究始め			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第2回	輸入：文字の獲得・漢字の伝来			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第3回	付度：『古事記』文体の創出			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第4回	仮借：古代日本語の音韻			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第5回	擬製：国字について			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第6回	表裏：『竹取物語』の「をり」の用法			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第7回	有無：古今集歌「鶯の鳴くなる声は」をよむ			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第8回	口承：歌物語の文連接法			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第9回	自他：かげろふ日記の人物呼称			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第10回	成立：道真と貫之の役割			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第11回	選択：片仮名の諸問題			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第12回	象徴：擬音語・擬態語の特徴			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第13回	承接：古典助動詞の相互承接			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
第14回	機能：音便の日本語史的意義 全体の総括			参考文献に掲げた『日本語史概説』の該当箇所をあらかじめ読んでおき、『日本語学大辞典』で理解の及ばない用語等について調べておく。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。宿題レポート（3回）を作成し、次の視点から評価を行う。 1, 日本語史（古代）についての基礎的な知識を整理して示すことができるか。 2, 研究の着眼点や方法について理解したところを正確に表現することができるか。 3, 自分の考えや感想を的確に表現することができるか。							
〔成績評価の方法〕							
宿題レポート70%と講義中の発言や質問など授業への積極的な参加状況30%により、総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- 1, 日本語史（古代）についての基礎的な知識を整理して示すことができるか。
- 2, 研究の着眼点や方法について理解したところを正確に表現することができるか。
- 3, 自分の考えや感想を的確に表現することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

購入の必要なし。プリント配布（pdf）

〔参考書〕

『日本語学大辞典』、日本語学会編、東京堂出版、37, 500 円、
『日本語史概説』、沖森卓也他、朝倉書店、2860 円
上記は、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本語学講義C					
教員名		久保田 篤					
科目No.	125232140	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
仮名遣いの歴史および現代仮名遣いについて解説します。 日本語の仮名は、音を表すための文字として成立しました。したがって本来は一つの音に一つの仮名という対応になるはずですが、音が時代とともに種々変化する一方で、文字には固定性があるため、仮名遣いの問題が発生しました。しかし、例えば現代語で「ゐ」「ゑ」を用いないように、不要となった仮名を捨てる等の選択もあったはずですが。それをせずに、何百年もの間、一つの音に多表記という状態を続けてきた様相を、仮名遣い発生の事情や仮名遣いの展開の実態を見ながら、考察することになります。 また、現代日本語の表記のきまりとして、「常用漢字表」や「送り仮名の付け方」などと同様に、「現代仮名遣い」が内閣告示されています。ただ、このきまりの詳細や、各語の仮名遣いの理由等について、理解している日本人はあまり居ません。仮名遣いが関わる部分の多くは、一般的な文章では漢字で書かれるため、このきまりを知らずとも不便はないからです。きまりに合わない表記（例（歌詞）おもったとりに かなえられてく「未来予想図Ⅱ」の「ととり」など）を見ても、殆どの人は気にしないでしょう。それでも、きまりを知っておくことは大事であり、理解していれば誤用に気づくこともできます。この授業では、「現代仮名遣い」の解説も行い、指摘されている問題点についても考えます。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①仮名遣いに関する基本的な知識を修得し、日本語の文字・表記の専門的な分析を行うことができる。 ②現代日本語の表記の決まりについて深く理解し、説明することができる。 ③様々な資料から広く仮名表記の用例を収集し、的確で論理的な考察を行うことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	授業の概要の説明 仮名遣いとは			仮名遣いについて知っていることを確認する。		30	
第2回	仮名遣いの発生（1） ・仮名の本質 ・万葉仮名から「仮名」へ ・平仮名・片仮名の成立			課題の復習を行う。		60	
第3回	仮名遣いの発生（2） ・平安初期の仮名表記 ・平安前期の音韻変化			課題の復習を行う。		60	
第4回	仮名遣いの発生（3） ・ハ行転呼音の発生 ・ハ行転呼音と仮名遣い ・「平安かなづかい」			課題の復習を行う。		60	
第5回	仮名遣いの成立（1） ・『下官集』について ・定家仮名遣いの原理 ・藤原定家の文字遣い			課題の復習を行う。		60	
第6回	仮名遣いの成立（2） ・『仮名文字遣』 ・定家仮名遣いの成立			課題の復習を行う。		60	
第7回	仮名遣いの展開（1） ・中世の仮名遣い ・『新撰仮名文字遣』について			課題の復習を行う。		60	
第8回	仮名遣いの展開（2） ・近世初期の仮名遣い ・契沖仮名遣い			練習問題の復習を行う。		90	
第9回	仮名遣書の展開 ・近世初期の仮名遣書 ・契沖仮名遣いの仮名遣書			課題の復習を行う。		60	
第10回	仮名遣いの展開（3） ・明治時代の仮名遣い ・国字問題の歴史			課題の復習を行う。		60	
第11回	「現代仮名遣い」解説（1） ・戦後の文字改革 ・表音主義と非表音的部分			課題の復習を行う。		60	
第12回	「現代仮名遣い」解説（2） ・四つ仮名・長音表記の規則 現代仮名遣いの問題点（1） ・四つ仮名・オ段長音			課題の復習を行う。 レポート提出の準備をする。		80	
第13回	現代仮名遣いの問題点（2） レポート作成のための相談			レポート提出の準備をする。		120	
第14回	レポート作成のための相談 レポート提出			レポートを作成する。		120	
〔授業の方法〕							

講義が中心であるが、毎回、仮名遣いを含め日本語の文字・表記に関する課題を考えてもらう時間も設ける。 また、各時代や現代の仮名表記の用例を収集・分析し、随時提出してもらう。
〔成績評価の方法〕 レポート（65%）、課題への取り組みや宿題提出など授業への積極的な参加（35%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 ①仮名遣いに関する専門的な知識を身につけ、その内容を的確に説明できる。 ②現代日本語の表記の決まりを十分に理解し、分かりやすく説明できる。 ③仮名遣いに関わる用例を幅広く収集し、分析・考察することができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		日本語学講義E					
教員名							
科目No.	125232160	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本語学講義F					
教員名							
科目No.	125232170	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		文学作品をどう読むか					
教員名		浜田 雄介					
科目No.	125233100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
文学作品の読みの深め方を学ぶことを目的とする講義であり、今年度は、1920 年から 1950 年まで、すなわち両大戦間に刊行され、特に探偵小説を日本に根づかせる運動体となった雑誌『新青年』の、各時代に掲載された作品を取り上げ、時代やメディア、関連資料を検討しつつ読んでゆく。							
〔到達目標〕							
議論すること、資料や背景を調べることを通して、文学作品の読みの深め方を学ぶ。 『新青年』という雑誌、大正・昭和初期という時代、探偵小説というジャンル、それぞれの作家や作品についての理解を深める。 DP 1－1、1－3 を中心に、DP 1、DP 2、DP 3、DP 4 に関わる力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスを読み、メディアや作家についての概略を調べておく。		60	
第 2 回	大正期（作品読解）			取り上げるテキストを読み、初読のメモを担当教員に送信する。		60	
第 3 回	大正期（概説）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 4 回	モダニズム期（作品読解）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 5 回	モダニズム期（概説）			取り上げるテキストを読み、初読のメモを担当教員に送信する。		60	
第 6 回	文芸復興期（作品読解）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 7 回	文芸復興期（概説）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 8 回	戦時期（作品読解）			取り上げるテキストを読み、初読のメモを担当教員に送信する。		60	
第 9 回	戦時期（概説）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 1 0 回	戦後（作品読解）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 1 1 回	戦後（概説）			取り上げるテキストを読み、初読のメモを担当教員に送信する。		60	
第 1 2 回	補遺（作品読解）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 1 3 回	補遺（作品読解 2）			講義を通して考えたことをまとめ、担当教員に送信する。		60	
第 1 4 回	振り返り学習			半期の講義を振り返り、学習内容を確認する。		60	
〔授業の方法〕							
具体的な方法は初回の講義にて説明する。 大枠としては、取り上げる作品ごとに参加者は初読のメモを提出し、それをもとに作品に関するディスカッションを行う。 その上で、担当教員による講義を行うが、場合によっては講義参加者にホスト役として自らの読みを発表してもらうかもしれない。 「授業の計画・内容」はあくまで計画であり、講義参加者との議論や関心の流れにより、作品ごとの回数が増減したり順序を変えたり、別の作品を読んだりという変更がありうるが、その場合は Course Power 等により告知する。							
〔成績評価の方法〕							
（1）随時の課題や講義中の発言など講義への参加の度合いと、（2）授業内レポートの結果とをそれぞれ約 5 0 % の割合で総合評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. レポートについては、時代背景や作家情報など作品の背景となる知識が正確であること、作品の読みがテキスト本文をきちんと踏まえて説得力があること、自らの頭や足を使ったオリジナルな要素があること、などが評価される。通常の課題や発言等については必ずしも確定した基準があるわけではないが、上記に
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 あらゆる学問は関連し合っている。
〔テキスト〕 『『新青年』名作コレクション（仮題）』、『新青年』研究会編、2021 年 4 月、ちくま文庫にて刊行予定。
〔参考書〕 講義中に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		古代日本文学講義 A					
教員名		中嶋 真也					
科目No.	125233110	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義のテーマは、「山部赤人を考える」です。 現存最古の歌集『万葉集』の代表的歌人と目されている赤人の歌を丹念に読んでいき、文学史的評価がふさわしいのかどうか検証していきます。							
〔到達目標〕							
文学部日本文学科 DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。 ①山部赤人に関する基礎知識を習得する。 ②『万葉集』の歌を自分の力で読み解けるようになる。 ③古代文学史を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			『万葉集』ならびに山部赤人に関して、本などから理解を深めましょう。		60	
第 2 回	『万葉集』概説			1 回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。		60	
第 3 回	赤人と富士山① 富士山と雪			2 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 4 回	赤人と富士山② 虫麻呂歌との比較			3 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 5 回	赤人と東国① ママノテコナをめぐる			4 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 6 回	赤人と東国② 虫麻呂歌との比較			5 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 7 回	赤人と紀伊 「若の浦」をめぐる			6 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 8 回	赤人と吉野① 鳥の声			7 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 9 回	赤人と吉野② 吉野讃歌の系譜			8 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 1 0 回	赤人と難波 金村と千年と			9 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 1 1 回	赤人と播磨 海の歌			10 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 1 2 回	赤人と明日香 「孤悲」をめぐる			11 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 1 3 回	赤人と春 春の雪			12 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第 1 4 回	到達度確認テスト			到達しえていなかった箇所を学びなおしましょう。		60	
〔授業の方法〕							
・主に講義形式で行いますが、適宜ワークシートなど利用して、自ら思考してもらいます。 ・山部赤人という一人の歌人を軸にしますが、関わる人々の歌も具体的に読み解きながら、『万葉集』全体の理解を深めます。 ・毎回の授業のふりかえりを、e－ラーニングを活用して行います。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト 70%、平常点（課題の提出状況や授業への参加状況） 30%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ・取り上げた古代文学作品の基礎知識を習得しているか。 ・取り上げた古代文学作品の読解は正確か。 ・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 後期に開講される古代日本文学講義Bは、本講義に深く関連する科目です。
〔テキスト〕 井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』和泉書院、2200 円＋税、ISBN978-4-7576-0490-2 その他、プリントも適宜配布します。
〔参考書〕 必要に応じて、授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕
・ICT 活用

科目名		古代日本文学講義B					
教員名		中嶋 真也					
科目No.	125233120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義のテーマは、「平安時代の『万葉集』」です。 勅撰和歌集の序文での位置づけを確認し、具体的な表現に関しては、『和漢朗詠集』、『古今和歌六帖』における所収状況を踏まえて、平安時代における『万葉集』の状況を見ていきます。							
〔到達目標〕 文学部日文学科 DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ①『万葉集』の享受に関する基礎知識を習得する。 ②『万葉集』の歌や平安和歌を自分の力で読み解けるようになる。 ③古代文学史を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス			『万葉集』に関して、本などから理解を深めましょう。		60	
第2回	『万葉集』概説			1回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。		60	
第3回	『古今和歌集』「仮名序」における『万葉集』① 古と今			2回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第4回	『古今和歌集』「仮名序」における『万葉集』② 人麻呂と赤人			3回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第5回	勅撰和歌集の序文における『万葉集』			4回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第6回	『万葉集』の訓点史① 新点			5回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第7回	『万葉集』の訓点史② 古点・次点			6回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第8回	『和漢朗詠集』春 志貴皇子をめぐって			7回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第9回	『和漢朗詠集』秋 七夕をめぐって			8回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第10回	『和漢朗詠集』秋 家持をめぐって			9回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第11回	『和漢朗詠集』無常			10回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第12回	平安時代の人麻呂			11回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第13回	平安時代の赤人			12回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60	
第14回	到達度確認テスト			到達しえていなかった箇所を学びなおしましょう。		60	
〔授業の方法〕 ・主に講義形式で行いますが、適宜ワークシートなど利用して、自ら思考してもらいます。 ・平安時代の作品を取り上げながら、元にある『万葉集』の表現も理解し、共通点、相違点を検証していきます。 ・毎回の授業のふりかえりを、eラーニングを活用して行います。							
〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト 70%、平常点（課題の提出状況や授業への参加状況） 30%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ・取り上げた古代文学作品の基礎知識を習得しているか。 ・取り上げた古代文学作品の読解は正確か。 ・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 前期に開講される古代日本文学講義 A は、本講義に深く関連する科目です。
〔テキスト〕 井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』和泉書院、2200 円＋税、ISBN978-4-7576-0490-2 その他、プリントも適宜配布します。
〔参考書〕 必要に応じて、授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕
・ICT 活用

科目名		古代日本文学講義C					
教員名		吉野 瑞恵					
科目No.	125233130	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
『源氏物語』の天皇像							
単なる恋物語と考えられることも多い『源氏物語』であるが、実はこの物語は、背後に存在するそれぞれ異なる性格を持つ天皇たちの「歴史」を語っている。 この講義では、『源氏物語』に描かれた4人の天皇（桐壺帝・朱雀帝・冷泉帝・今上帝）の造型について、光源氏の物語とからめながら読み解いていきたい。 具体的には次のような問題設定をしながら、考察する予定である ① 『源氏物語』が想定する理想的な天皇像とはどのようなものか。 ② 平安時代において天皇を描くことにタブーはないのか。 ③ 光源氏はそれぞれの天皇とどのように関わっているのか。							
〔到達目標〕							
以下の2点を到達目標とする。 ①物語と歴史との関わりについて説明できるようになる。 ②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。			あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。		60	
第2回	『源氏物語』概説 ・『源氏物語』の概略について説明する。			『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。		60	
第3回	古注釈の準拠説 ・古注釈では、『源氏物語』がモデルとした時代についてどのように論じているのか説明する。			授業前には前回の授業の配布資料をもとに、『源氏物語』に関する基礎知識を確認する。授業後は、配布資料を熟読する。		60	
第4回	桐壺帝① ・『源氏物語』桐壺巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した桐壺巻の該当箇所を熟読する。		60	
第5回	桐壺帝② ・『源氏物語』紅葉賀巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した紅葉賀巻の該当箇所を熟読する。		60	
第6回	桐壺帝③ ・『源氏物語』明石巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した明石巻の該当箇所を熟読する。		60	
第7回	朱雀帝① ・『源氏物語』賢木巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した賢木巻の該当箇所を熟読する。		60	
第8回	朱雀帝② ・『源氏物語』須磨・明石巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した須磨・明石巻の該当箇所を熟読する。		60	
第9回	朱雀帝③ ・『源氏物語』若菜上巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した若菜上巻の該当箇所を熟読する。		60	
第10回	冷泉帝① ・『源氏物語』絵合巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した絵合巻の該当箇所を熟読する。		60	
第11回	冷泉帝② ・『源氏物語』薄雲巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した薄雲巻の該当箇所を熟読する。		60	
第12回	冷泉帝③ ・『源氏物語』行幸巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した行幸巻の該当箇所を熟読する		60	
第13回	総括・まとめ ・『源氏物語』の天皇像の特徴について解説する。			授業前にはこれまでの配布資料を確認し、授業後には半年の講義内容をまとめる		60	
第14回	到達度確認テスト ・半年間の授業内容が理解できているか確認する。			授業前にはこれまでの講義内容を振り返る。		120	
〔授業の方法〕							
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。 ・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							

毎回のリアクションペーパー（４０％）、到達度確認テスト（６０％）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。 ・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 『源氏物語』に関する基礎的な知識。
〔テキスト〕 以下のテキストの一部をコピーして配布します。 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。
〔参考書〕 授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		古代日本文学講義D					
教員名		吉野 瑞恵					
科目No.	125233140	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
『源氏物語』に登場する中流貴族男性たちの恋の幻想 『源氏物語』は光源氏が暮らす上流貴族社会を舞台にしているが、物語の中には中流貴族も登場する。光源氏と身分的に不釣り合いなために、葛藤を抱えつつ光源氏と関わることになる空蝉や明石の君は、上流貴族の血を引きながら、現在は中流貴族になっている女性たちであった。彼女たちが物語の中でも存在感を放っているのに対して、光源氏の従者の惟光に代表される中流貴族男性は、脇役的な役割にとどまっており、物語の中では周縁化された人々である。しかし、彼らの恋愛観は物語を展開させていく上で、大きな意味を持っている。 この講義では、中流貴族男性の恋愛観、特に「荒れ果てた屋敷に住む没落した美しい女性と恋に落ちてみたい」という彼らの恋の幻想が、どのように物語の展開に寄与しているのかを考察していきたい。							
〔到達目標〕							
以下の2点を到達目標とする。 ①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。 ②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。			あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。		60	
第2回	『源氏物語』概説 ・『源氏物語』の概略について説明する。			『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。		60	
第3回	上流貴族と中流貴族、光源氏の従者たち ・平安時代の身分社会について説明する。			授業前には前回の授業の配布資料をもとに、『源氏物語』に関する基礎知識を確認する。授業後は、配布資料を熟読する。		60	
第4回	実直な中流貴族男性 ・『源氏物語』で伊予介・常陸介などが登場する場面を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した資料の該当箇所を熟読する。		60	
第5回	「色好み」と「すき」 ・「色好み」と「すき」の意味について確認する。			授業前には「色好み」と「すき」の意味を辞書で調べる。授業後は、配布した資料を熟読する。		60	
第6回	雨夜の品定め ・『源氏物語』帚木巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した帚木巻の該当箇所を熟読する。		60	
第7回	中流貴族男性の恋の幻想 ・『源氏物語』帚木巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した帚木巻の該当箇所を熟読する。		60	
第8回	「葎の門の女」の系譜 ・『うつほ物語』、『大和物語』を講読する。			授業前には『うつほ物語』と『大和物語』の概略を確認する。授業後は、配布した資料を熟読する。		60	
第9回	空蝉の夫・伊予介 ・『源氏物語』帚木巻・空蝉巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した帚木巻・空蝉巻の該当箇所を熟読する。		60	
第10回	「すき者」惟光 ・『源氏物語』夕顔巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した夕顔巻の該当箇所を熟読する。		60	
第11回	上流貴族にとっての「葎の門の女」 ・『源氏物語』末摘花巻を講読する。			授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した末摘花巻の該当箇所を熟読する。		60	
第12回	「葎の門の女」幻想の悲劇① ・『狭衣物語』を講読する。			授業前には『狭衣物語』の概略を確認する。授業後は、配布した資料を熟読する		60	
第13回	「葎の門の女」幻想の悲劇② ・『狭衣物語』を講読する。			授業前には前回の資料を確認する。授業後は、配布した資料を熟読する		60	
第14回	到達度確認テスト ・半年間の授業内容が理解できているか確認する。			授業前にはこれまでの講義内容を振り返る。		120	
〔授業の方法〕							
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。 ・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
毎回のリアクションペーパー（40％）、到達度確認テスト（60％）							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。 ・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 『源氏物語』に関する基礎的な知識。
〔テキスト〕 以下のテキストの一部をコピーして配布します。 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。 片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』小学館新編日本古典文学全集 小町谷照彦・後藤祥子『狭衣物語①』小学館新編日本古典文学全集
〔参考書〕 授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		中世日本文学講義 A					
教員名		中村 文					
科目No.	125233150	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
和歌、特に王朝和歌は日本の古典文学のあらゆるジャンルの基礎をなすと言ってあやまたない文芸である。しかしながら、明治時代の初めに「短歌」となり伝統を捨てたことで、「和歌」は現代の我々にとって理解しにくいものとなっている。この授業では、鎌倉時代初頭に著された『無名抄』という和歌に関する書物を取り上げる。和歌を含む短いエピソードを集めたこの作品を通して、王朝和歌がどのような性格を持つ文芸であるのかを学び取ってもらいたい。 『無名抄』の作者は、『方丈記』で有名な鴨長明である。長明は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて歌人として活躍した人物である。この時代は、政治的にも大きな動乱が続いたが、和歌においても新しい姿が求められるようになる。長明自身も旧派の詠みぶりから前衛的な新古今歌風へと指向を変容させた。つまり、長明の経験や見聞を書き留めた本書を読み進めると、中古から中世にかけての文学的意識の変遷をたどることができるのである。 「和歌は分からない」という声をよく聞くが、和歌はさまざまなルールに則って詠まれるものであり、基本的な概念を押さえ、語の用い方や修辭の意義を知りさえすれば、壁は越えられる。この授業では和歌を読み解く方法も伝えていく。							
〔到達目標〕							
D P 1－1（専門分野に関する知識と技能の修得）を実現するために、次の4点を到達目標とする。							
①古典和歌の性格を理解し、その詠風について時代的な変遷を把握できる。							
②古典和歌に用いられる修辭の機能について理解し説明できる。							
③古典和歌をめぐる用語や、和歌に用いられる表現について、適切な参考資料を使用して調査できる。							
④調査の結果を踏まえて、和歌の内容を読解し、それを自分の言葉で表現できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の進め方を説明する。 ・鴨長明の人物像を紹介する。 ・この授業に必要な文学上の諸概念について学修する。			【予習】テキストの「解説」（p273～286）を熟読しておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第2回	中古和歌から中世和歌への変遷 ・「題詠」はどう起こったか、またその一般化により和歌がどう変容したのかについて学修する。			【予習】テキストの第一段および同段の現代語訳を熟読しておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	〈数寄〉とはどんな姿勢か ・平安後期において和歌の主流をなした文学的態度について学修し、その思潮に沿って詠まれた和歌を読解する。			【予習】テキストの第16段、第63段、第80段、および、配布されたプリントに載る「能因」他、指定された説話を熟読しておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	〈風情主義〉が目指すもの ・院政期の和歌が「新奇さ」に価値を置いた背景について学修し、その思潮に沿って詠まれた和歌を読解する。			【予習】テキストの第8段、第9段、第56段を熟読しておく。 【復習】和歌に用いられる修辭技巧について、説明できるようにする。		60	
第5回	長明の和歌の師俊恵（しゅんえ） ・和歌の師弟関係および門流について概説し、俊恵の自序で開かれていた和歌の場〈歌林苑〉の特質について学修する。			【予習】テキストの第14段および第50段を熟読しておく。 【復習】濁点・句読点が付されていない古典の文章を自分の力で読めるようにする。		60	
第6回	管絃の師中原有安 ・管絃者としても著名であった長明の一面について学修し、有安の諫言から長明の歌人としての位置やその性格を考える。			【予習】テキストの第12段および第13段を熟読しておく。 【復習】カタカナ書きの典籍を、自分の力で読めるようにする。		60	
第7回	歌人長明の初学期 ・歌人としての始発時に長明が詠んだ和歌を取り上げて、その特質を学修する。また、歌人としての位置を探る方法について学修する。			【予習】テキストの第3段および第5段を熟読しておく。【復習】長明の歌に用いられた修辭について整理し、説明できるようにする。		60	
第8回	〈新古今歌風〉への道 ・長明の動向が不明とされる鎌倉初頭の詠作を取り上げ、〈風情主義〉から〈新古今歌風〉への変遷の過程について学修する。			【予習】テキストの第11段を熟読しておく。「賀茂社」について各自調べておく。 【復習】長明の歌に用いられた修辭について説明できるようにする。		60	
第9回	〈新古今歌風〉とはどのような詠みぶりか ・前代の歌人の文学的姿勢との連続性に触れつつ、詠風の独自性について学修する。			【予習】テキストの第40段を熟読しておく。		60	
第10回	藤原俊成の文学的達成 ・〈新古今歌風〉への道を拓く基礎を築いた藤原俊成の文学的試みについて学修する。			【予習】テキストの第58～61段を熟読しておく。 【復習】俊成の歌の特性について、説明できるようにする。		60	
第11回	藤原清輔の歌学 ・俊成と文学上のライバル関係にあった清輔が和歌についてどのように考えていたのか、彼の和歌注釈に触れながら学修する。			【予習】テキストの第10段、第57段、第61段を熟読しておく。		60	
第12回	その後の鴨長明 ・後鳥羽院政下の和歌の隆盛と、新古今時代における長明の歌人としての活躍と没落について学修する。			【予習】テキストの第66段～第69段を熟読しておく。 【復習】長明の歌に用いられた修辭について、説明できるようにする。		90	
第13回	和歌の新風とは ・新古今歌風について長明がどのように認識・理解していたのかについて学修する。			【予習】テキストの第71段を熟読しておく。 【復習】新風和歌の特徴について説明できるようにする。		120	
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕							

授業は講義を中心に進める。テキストの詳細な読解が授業の軸となるが、読解に必要な様々な調査方法や参照すべき資料等についても、プリント等を利用しながら具体的に触れる。参考資料を扱う際には、履修生にも作業への参加を求める。積極的に資料に触れ、扱い方に習熟してもらいたい。 和歌に関する用語に親しみその概念を獲得し、また和歌の読解方法の習得を目指して、毎授業の最後に小テストを実施する。 なお、小テストおよび到達度確認テストは、いずれも何らかの事柄について説明してもらう（すなわち、文章を記述する）方式で実施する。その狙いは以下の通りである。 ・小テスト：各授業で学んだキーワードの理解を確認する。また、授業で取り上げた和歌の構造や具体的な修辞の理解を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。
〔成績評価の方法〕 小テスト（13回：30%）、到達度確認テスト（1回：50%）、講義中の発言や質問など、授業への積極的な参加（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①古典和歌のあり方について概念し、中古から中世にかけての詠みぶりの変遷について説明できる。 ②和歌に関する用語について理解し、説明できる。 ③和歌について調べようとするとき、適切な参考資料を選択し、使いこなせる。 ④和歌の構想や修辞について理解し、一首の内容を適切に読み解ける。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特にない。
〔テキスト〕 久保田淳訳注『無名抄』角川文庫 17891,角川学芸出版、ISBN 978-4-04-400111-7,1143 円
〔参考書〕 参考書は必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	中世日本文学講義B						
教員名	中村 文						
科目No.	125233160	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 鎌倉時代前期に成立した『建礼門院右京大夫集』（以下、『右京大夫集』）を取り上げる。『右京大夫集』の作者は高倉天皇の後（中宮徳子）に仕えた女房で、平清盛一族が栄華を極めた頃から、源平の争乱の中で滅亡するまでの時代を、ごく身近な立場で経験した。右京大夫の恋人であった平資盛（清盛孫）が戦死したことから、この作品は「愛と追憶の書」と呼ばれたりもするが、授業では文学作品をどう読み解くかという立場から、客観的・分析的に読み進める。 『右京大夫集』は「私家集」にジャンル分けされる作品だが、個人の詠み溜めた詠作を集め載せるのが一般的な「私家集」とは大いに異なる性格を持つ。和歌の配列は詠作年次順でもなく部類にも従わない。また、経験時に詠まれた歌ばかりではなく、作品としてまとめる際に詠まれたと思われる歌が多量に入り込んで、歌集というよりも日記文学的な性格が色濃い。 和歌文学の作品としては異色の、こうした性格は、なぜ生じたのか。書き記された事柄の照応や表現を分析的に読み解きながら、作者の意図を探ることとする。『右京大夫集』は分厚い研究史を持つ作品である。先人の諸論も参照しながら、文学作品に切り込む視点や、問題の立て方、それを掘り下げていく方法等も学修する。							
〔到達目標〕 DP1-1(専門分野に関する知識・技能の修得)、および、DP1-3(日本文学研究における基本的な知識と研究方法の修得)を実現するために、次の3点を到達目標とする。 ①参考図書を適切に使用し、注釈書を参照しながら、古典の文章および古典和歌の内容を理解することができる。 ②作者の意図を探り、作品の性格を明らかにすることを最終目標として、作品の個々の（あるいはいくつかの）場面から適切に問題を設定することができる。 ③先人の研究成果を参照しつつ、問題点を掘り下げて、考察を深めることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の進め方 ・『建礼門院右京大夫集』の特性 ・歌集の種別 ・参考文献の調べ方			【予習】久保田淳校注・訳『建礼門院右京大夫集』（「テキスト」項参照）「解説」を熟読しておく。 【復習】キーワードについて説明できるようになる。		60	
第2回	右京大夫が生きた時代素描 ・院政と武士の台頭 ・後白河院と平清盛 ・治承・寿永の内乱（源平の争乱）			【予習】前週配布のプリントを熟読し、平安末期から鎌倉初期に到る時代の流れについて学んでおく。 【復習】キーワードについて説明できるようになる。		60	
第3回	作品の構想を読み取る ・取り上げる題材の共通性に着目し、作品の枠組みと性格について考える。			【予習】『右京大夫集』1、2 番歌および 203、204 番歌を読んでおく。前週指定した論文を読んでおく。		60	
第4回	〈平和な時代〉の描き方 ・貴顕の姿と自己像の描き方を検討する。 ・配列の詳細と時間意識について考える。			【予習】『右京大夫集』3～13 番歌、および 57・58 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第5回	〈題詠歌群〉の詠み方 ・歌人としての活動を知る。 ・題詠とは何か ・編集意識との関わりを考える。			【予習】『右京大夫集』14～53 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第6回	〈恋愛〉の描き方（1） ・景物を通して感情を暗示する和歌表現の特質について学修する。			【予習】『右京大夫集』61～79 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第7回	〈恋愛〉の描き方（2） ・自らの体験については叙せず、他者の恋愛を以て語ろうとする姿勢について学修する。			【予習】『右京大夫集』54・55 番歌、73・74 番歌を読み、共通する要素について考えておく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第8回	〈王朝的な場面〉に隠された鎮魂 ・死者を悼む意識を直叙せず、和歌の取り合わせと配列によって表現する技法について学修する。			【予習】『右京大夫集』95～100 番歌を読んで、配列に不自然な点はないか考えておく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第9回	〈経験時〉の感懐と〈執筆時〉の感懐 ・過去の経験を語る文脈に、家集編纂時の感懐が入り込むこの作品の特質に着目し、そうした描き方が選ばれた理由について考える。			【予習】『右京大夫集』115・116 番歌を読んで、二首の共通点について考えておく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第10回	二つの私家集 ・『右京大夫集』と『隆信集』に共通して収載される贈答歌を取り上げ、それぞれの集による改変により、贈答の性格がどう変化しているかについて学修する。			【予習】『右京大夫集』131～158 番歌を読んでおく。前週配布のプリント（隆信集）を読んで、二つの週の相違を把握しておく。前週指定の論文を読んでおく。		90	
第11回	〈罪人〉となった人への鎮魂 ・南都焼き討ちの張本人とされた平重衡をめぐる記述を取り上げ、文学作品と史実を照らし合わせた時に読解が変容することを学修する。			【予習】『右京大夫集』193～198 番歌、212～215 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第12回	資盛の死後に語られる恋愛の実相 ・資盛の生前を語る箇所では明示されなかった恋愛関係の具体相が、関係喪失の後に明示する構造について学修する。			【予習】『右京大夫集』228～239 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		90	
第13回	〈悲嘆〉をどう乗り越えるか ・恋人を失う痛切な体験から右京大夫がどう立ち直ったのか。詞書や和歌の表現から作者の意図を読み取る方法について学修する。			【予習】『右京大夫集』240～259 番歌を読んでおく。前週指定の論文を読んでおく。		60	
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	

〔授業の方法〕 授業は講義を中心として行う。『建礼門院右京大夫集』の講読を軸としながらも、作品の構造や表現の特質を細かに検討し、各時間にトピックを立てて、受講生が問題を共に考えていける形で進める。特に和歌の表現を理解するために必要な参考資料を紹介し、その使い方に習熟できるように試みる。また、取り上げるトピックに関連する参考文献（論文）を授業前の準備として読んでもらうこととするが、各時間に報告担当者を決めて、論文の要旨を簡潔に報告してもらい（要旨報告）、受講生および教員でディスカッションを行う。毎授業の最後に、その日扱った和歌の読解や、取り上げたトピックをめぐる考察などを記述し、小レポートとして提出してもらう（第1回、第2回のみキーワードに関する小テスト）。 なお、各小レポートおよびテストの狙いは以下の通りである。 ・要旨報告：研究方法の諸相を知るとともに、自分で発見した問題点について考察し、その過程を説明できるようにする。 ・小レポート：和歌について調べる方法や和歌の読解が学修できたか確認する。また、自分の考察を文章の形にして説明できる。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。
〔成績評価の方法〕 要旨報告（1回、10%）、小レポート（13回、20%）、到達度確認テスト（1回、50%）、講義中の発言や質問など、授業への積極的な参加（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①古典の文章および和歌の内容について、参考資料や注釈書を参照しながら、書かれていることを適切に読み取ることができる。 ②古典文学作品の構造や表現に着目し、作品の性格や作者の意図を明らかにするためのテーマ（問題）を設定することができる。 ③先人の研究成果を読んで内容を把握し、様々な研究方法を知ると同時に、自分自身の考察をさらに深めてい契機にできる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 平安末期の社会状況について、高校の日本史の教科書程度の把握をしておいてもらいたい。
〔テキスト〕 久保田淳校注・訳『建礼門院右京大夫集・とはずがたり』（新編日本古典文学全集47）小学館、1999年、4657円 購入の必要なし
〔参考書〕 参考書および参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		中世日本文学講義C					
教員名		平野 多恵					
科目No.	125233170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
テーマは『徒然草』の文学史。近年、『徒然草』やその作者・兼好法師の研究は著しく進展している。本授業では、その最新状況をふまえたうえで、兼好法師の『徒然草』の章段を具体的な手がかりとして、日本の古典文学において『徒然草』がどのような位置づけの作品なのかを考える。ペア・ワークやグループ・ワークによって、文学作品を体験しながら学んでいく。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）、D P 2（教養の習得）、D P 3（課題の発見と解決）、D P 4（表現力、発信力）、D P 5（多様な人々との協働）、D P 6（自発性、積極性）を実現するため、以下の4点を到達目標とする。 ①『徒然草』や古典作品の内容を理解し、それを人にわかりやすく伝えられる。 ②先行研究から古典文学研究や歴史研究の方法を学ぶ。 ③他の参加者のワークで意見を交換し、協働して課題に取り組み、自分の意見を積極的に発表できる。 ④『徒然草』に関連する研究課題を見つけて考察し、レポートを書くこ							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション			CoursePower の説明を読んでおく。授業後は配布資料を復習する。		60分	
第2回	『徒然草』の研究状況			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第3回	兼好法師って、どんな人？			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第4回	『徒然草』と随筆－『枕草子』と『方丈記』			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第5回	『徒然草』と物語－源氏物語とのかかわり			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第6回	『徒然草』と説話			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第7回	『徒然草』と説話			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第8回	『徒然草』の論理性			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第9回	『徒然草』と宗教・信仰			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第10回	『徒然草』と有職故実			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第11回	『徒然草』の受容－注釈			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第12回	『徒然草』の受容－パロディ			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第13回	『徒然草』の現代語訳			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		60分	
第14回	まとめ			半期のふりかえりをおこなう。		60分	
〔授業の方法〕							
講義とグループワークを合わせたアクティブラーニング型授業である。ペアやグループでの話し合いや発表を随時行う。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）60％、課題レポート40％により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の 6 点に着目し、その達成度により評価する。

①『徒然草』や古典作品の内容を理解し、それを人にわかりやすく伝えられるか。

②先行研究から古典文学研究や歴史研究の方法を習得できたか。

③他の参加者のワークで意見を交換し、協働して課題に取り組み、自分の意見を積極的に発表できたか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「中世文学講義 A」「中世文学講義 B」は関連講義として受講を推奨する。

〔テキスト〕

プリントで配布する。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング。ICT 活用。

科目名		中世日本文学講義D					
教員名		平野 多恵					
科目No.	125233180	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
テーマは「御伽草子の文学史」「御伽草子」とは室町時代を中心に成立した短編の物語である。絵巻や絵本として多くつくられ、江戸時代には絵入りの版本として広く流布した。一寸法師・浦島太郎・鉢かづき・酒吞童子など、昔話としてよく知られるものも含まれている。御伽草子の作品数は 400 以上、内容也多岐にわたり、公家物・僧侶物・武家物・庶民物・異国物・異類物に 6 分類される。本授業では中世の豊かな物語世界を切り口に、当時の文学と文化へ関心を広げていきたい。ペア・ワークやグループ・ワークによって、作品世界を体験しながら学んでいく。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の習得）、D P 3（課題の発見と解決）、DP 4（表現力、発信力）、DP 5（多様な人々との協働）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下の 4 点を到達目標とする。 ①御伽草子の内容を理解し、それを人にわかりやすく伝えられる。 ②先行研究から古典文学研究や歴史研究の方法を学ぶ。 ③他の参加者のワークで意見を交換し、協働して課題に取り組み、自分の意見を積極的に発表できる。 ④御伽草子に関連する研究課題を見つけて考察し、レポートを書くことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション			CoursePower の説明を読んでおく。授業後は配布資料を復習する。		6 0 分	
第 2 回	御伽草子とは？			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 3 回	一寸法師の世界			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 4 回	奈良絵本「小男の草子」を読む			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 5 回	渋川版「一寸法師」を読む			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 6 回	明治時代の「一寸法師」			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 7 回	現代の「一寸法師」			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 8 回	怪物退治のヒーローたち—酒吞童子			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 9 回	お姫さまに憧れて—鉢かづき			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 1 0 回	猫と鼠の物語—猫の草子			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 1 1 回	動物と結婚—鼠の草子			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 1 2 回	孝行息子のお嫁さん—蛤の草紙			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 1 3 回	現代におけるお伽草子			配布資料を予習。指定の課題をおこなう。		6 0 分	
第 1 4 回	まとめ			半期のふりかえりをおこなう。		6 0 分	
〔授業の方法〕							
講義とグループワークを合わせたアクティブラーニング型授業である。ペアやグループでの話し合いや発表を随時おこなう。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況） 6 0 ％、課題レポート 4 0 ％ により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の 6 点に着目し、その達成度により評価する。

①御伽草子作品の内容を理解し、それを人にわかりやすく伝えられるか。

②先行研究から古典文学研究や歴史研究の方法を習得できたか。

③他の参加者のワークで意見を交換し、協働して課題に取り組み、自分の意見を積極的に発表できたか。

④

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

「中世文学講義 A」「中世文学講義 B」は関連講義として受講を推奨する。

〔テキスト〕

プリントで配布する。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング。ICT 活用。

科目名		近世日本文学講義 A					
教員名		伊與田 麻里江					
科目No.	125233190	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
講義テーマ：江戸時代の娯楽小説を読む 江戸時代後期に誕生した後期読本（こうきよみほん）と呼ばれる文芸ジャンルは、日本ではじめて誕生した「長編娯楽小説」だと言われています。近世後期は、江戸の出版文化も成熟し、読者も増加していました。作者達は読者を楽しませるために様々な工夫を凝らしながら、同時に自分なりの表現、創作方法なども作り上げていきます。前期の授業では、このジャンルの誕生・形成に深く関わった山東京伝の作品を読解しながら、後期読本ジャンルの創作方法や表現方法、作者の創作意識などを、造本の工夫や挿絵にも注目して考察していきます。							
〔到達目標〕							
①後期読本ジャンルの誕生、形成とその背景について理解する ②近世後期の文学作品を読解し、内容を理解する ③作品本文の記述に沿いながら作者の創作意識を考察する							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 授業概要、授業方針などの説明			シラバスを参照して授業の流れを確認する		20	
第 2 回	「読本」とはなにか 読本ジャンルの誕生と近世後期の出版界について確認する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直ししながら、授業内容を振り返る		60	
第 3 回	『忠臣水滸伝』を読む① 第一回を読みながら基本的な創作方法を把握する			【予習】事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 4 回	『忠臣水滸伝』を読む② 第六回を読みながら早野勘平の人物造型を考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 5 回	『忠臣水滸伝』を読む③ 第十一回を読みながら作品の構想について考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 6 回	「勧善懲悪」と読本 後期読本のキーワードでもある「勧善懲悪」という概念について考察する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直ししながら、授業内容を振り返る		60	
第 7 回	『曙草紙』を読む① 巻之一を読みながら弥陀次郎の人物造型を考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 8 回	『曙草紙』を読む② 巻之二を読みながら野分の方、玉琴の人物造型、作品構成を把握する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 9 回	『曙草紙』を読む③ 巻之五を読みながら作品の主題と仏教との関わりについて考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 1 0 回	近世の女性観と『曙草紙』の女性たち 『曙草紙』に登場する女性キャラクターを通して、近世期の女性に対するイメージを考察する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直しながら、授業内容を振り返る		60	
第 1 1 回	『昔話稲妻表紙』を読む① 六字南無右衛門と家族の物語を読みながら、怪異の表現方法と物語内容の関連を考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 1 2 回	『昔話稲妻表紙』を読む② 名古屋山三郎と敵討の物語を読みながら山三郎の人物像と南無右衛門の人物像を比較する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 1 3 回	『昔話稲妻表紙』を読む③ 巻之五を読みながら作品主題と後編『本朝酔菩提全伝』との関連を考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第 1 4 回	まとめ			【予習】前期の講義を振り返る		60	
〔授業の方法〕							
授業では、作品本文を読みながら、創作方法や作者の創作意識、主題などについて考察していきます。講義形式で授業を行いますが、授業内容の理解度を確認するために、適宜リアクションペーパーやワークシートの課題に取り組んでいただきます。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況や、リアクションペーパー・ワークシートの提出状況）50%、学期末に提出していただくレポート 50%をもとに総合的に判断する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
主に次の点に注目し、その達成度により評価します

- ・後期読本という文芸ジャンルについて理解しているか
- ・講義の内容を理解した上で、自分なりの考察ができているか
- ・自分の意見をわかりやすく伝えられているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし。教員が適宜プリントを配布します。

〔参考書〕

『読本事典—江戸の伝奇小説』笠間書院
『山東京伝』ミネルヴァ書房
『山東京傳全集』ベリカン社
『復讐奇談安積沼 桜姫全伝曙草紙』（現代語訳）国書刊行会など。
その他、適宜授業内に指示します。
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		近世日本文学講義B					
教員名		伊與田 麻里江					
科目No.	125233200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
講義テーマ：江戸時代の娯楽小説を読む 江戸時代後期に誕生した後期読本（こうきよみほん）と呼ばれる文芸ジャンルは、日本ではじめて誕生した「長編娯楽小説」だと言われています。近世後期は、江戸の出版文化も成熟し、読者も増加していました。作者達は読者を楽しませるために様々な工夫を凝らしながら、同時に自分なりの表現、創作方法なども作り上げていきます。後期の授業では、このジャンルの発展に深く関わった曲亭馬琴の作品を読解しながら、後期読本ジャンルの創作方法や表現方法、作者の創作意識などを、造本の工夫や挿絵にも注目して考察していきます。							
〔到達目標〕							
①後期読本ジャンルの発展とその背景について理解する ②近世後期の文学作品を読解し、内容を理解する能力を身につける ③作品本文とその素材となる作品を比較しながら、創作方法や作者の創作意識を考察する							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス 授業概要、授業方針の説明			シラバスを読み、授業の流れを把握する		20	
第2回	曲亭馬琴について 山東京伝と曲亭馬琴の関係や馬琴の作風などについて解説する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直しながら、授業内容を振り返る		60	
第3回	『椿説弓張月』を読む① 素材となった『保元物語』と比較しながら史実を脚色して悲劇の英雄を蘇らせる方法を考察する			【予習】事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第4回	『椿説弓張月』を読む② 作品内の琉球の描かれ方を確認しながら地誌を利用した創作の方法などを考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第5回	『椿説弓張月』を読む③ ①②を踏まえながら、作品の構想と創作意識を考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第6回	読本と「稗史」 馬琴の読本観と中国文学との関連などを解説する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直しながら、授業内容を振り返る		60	
第7回	『新累解脱物語』を読む① 素材となった累伝承と比較しながら創作方法を把握する			【予習】事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第8回	『新累解脱物語』を読む② 素材となった累伝承と比較しながら作品の全体構成と鳥有上人の役割について考察する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第9回	『南総里見八犬伝』を読む① 『水滸伝』と比較しながら作品の発端部分を考察する			【予習】事前に配布したテキストの指定した範囲を熟読する		60	
第10回	『南総里見八犬伝』を読む② 犬塚信乃の物語を読みながら「孝」の玉を持つ犬塚信乃の人物造型を確認する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第11回	『南総里見八犬伝』を読む③ 犬坂毛野の物語を読みながら「智」の玉を持つ犬坂毛野の人物造型を確認する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第12回	『南総里見八犬伝』を読む④ 毒婦船虫の物語を読みながら悪人の造型方法を確認する			【予習】前回の授業内容をふりかえりながら、事前に配布したテキストの指定された範囲を熟読する		60	
第13回	馬琴の小説理論と『南総里見八犬伝』 馬琴の小説理論「稗史七則」と、『南総里見八犬伝』の関連について解説する			【復習】授業で配布した資料やノートを見直しながら、授業内容を振り返る		60	
第14回	まとめ			【予習】これまでの講義の内容をふりかえる		60	
〔授業の方法〕							
授業では、作品本文を読みながら、創作方法や作者の創作意識、主題などについて考察していきます。主に講義形式で授業を行ないますが、授業内容の理解度を確認するために、適宜リアクションペーパーやワークシートの課題に取り組んでいただきます。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー・ワークシートの提出状況）50%、学期末に提出していただくレポート50%をもとに総合的に判断します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。 主に次の点に注目し、その達成度により評価します。 ・後期読本という文芸ジャンルについて理解できているか ・講義の内容を理解した上で、自分なりの考察ができているか ・自分の意見をわかりやすく伝えられているか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必須ではありませんが、前期に開講予定の近世日本文学講義 A を受講されることをおすすめします。
〔テキスト〕 特になし。教員が適宜授業内にプリントを配布する。
〔参考書〕 『江戸文学と中国文学』三省堂 『曲亭馬琴の文学域』若草書房 『曲亭馬琴の世界―戯作とその周縁』笠間書院 『滝沢馬琴』ミネルヴァ書房 など その他、適宜授業内に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		近世日本文学講義C					
教員名		牧野 悟資					
科目No.	125233210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本授業の目的は、狂歌の歴史を知り、近世狂歌の位置づけを確認することである。 狂歌とは、概ね①歌意におかしみがある②和歌に用いない言葉を用いる③独特な修辞技法を用いる、の三つの要素の一つ以上含むことにより、通常とは異なる和歌のことである。本授業では、和歌と狂歌の関係に注目しつつ実際の作品を読みながら狂歌史を概観することにより近世狂歌の位置づけを理解する。							
〔到達目標〕							
DP1-1（日本文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・狂歌の定義を理解する。 ・狂歌の歴史を学ぶ。 ・和歌と狂歌の関係を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス 狂歌とは何か			【予習】シラバスを読んでおく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、狂歌の定義を確認しておく。		30	
第2回	和歌と狂歌			【予習】和歌と狂歌の違いを考えておく 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、和歌と狂歌の違いを確認しておく。		60	
第3回	戯咲歌を読む			【予習】戯咲歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、戯咲歌について理解する。		60	
第4回	俳諧歌を読む			【予習】俳諧歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、俳諧歌について理解する。		60	
第5回	中世の狂歌を読む			【予習】中世の狂歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、中世の狂歌について理解する。		60	
第6回	職人歌合・落首・道歌を読む			【予習】職人歌合・落首・道歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、職人歌合・落首・道歌について理解する。		60	
第7回	近世初期狂歌を読む			【予習】近世初期狂歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、近世初期狂歌について理解する。		60	
第8回	上方狂歌を読むⅠ－貞柳の狂歌－			【予習】上方狂歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、貞柳の狂歌について理解する。		60	
第9回	上方狂歌を読むⅡ－上方狂歌の諸派－			【予習】第8回の授業内容を復習しておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、上方狂歌の諸派について理解する。		60	
第10回	江戸狂歌を読むⅠ－天明期の狂歌－			【予習】江戸狂歌について簡単に下調べしておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、天明期の狂歌について理解する。		60	
第11回	江戸狂歌を読むⅡ－真顔の俳諧歌－			【予習】第10回の授業内容を復習しておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、真顔の俳諧歌について理解する。		60	
第12回	江戸狂歌を読むⅢ－天明調・文政調・天保調－			【予習】第10回、第11回の授業内容を復習しておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、天明調・文政調・天保調について理解する。		60	
第13回	江戸狂歌を読むⅣ－狂歌の近代－			【予習】狂歌は今どうなったか考えておく。 【復習】配布資料及び授業ノートを復習し、狂歌の終焉について理解する。		60	
第14回	まとめ及び到達度確認テスト			【予習】これまでの復習をしておく。 【復習】これまでの復習をしておく。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づき講義形式で行う。テーマに関する概説をした後、実際に作品を読んでいく。なお課題を出したり質問を多めにしたりし受講者が積極的に授業参加できるかたちにする。授業冒頭に予習・復習を兼ねた簡単な小テストを実施する。							
〔成績評価の方法〕							
第14回の授業内に実施する到達度確認テスト（60%）、毎回実施する予習・復習を兼ねた小テスト（40%）に授業態度を加味した総合評価。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・狂歌の定義について理解し説明できる。
- ・狂歌の歴史を理解し、その中における近世狂歌の位置づけを説明できる。
- ・和歌と狂歌の関係について理解し説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特になし。

〔テキスト〕

特になし。こちらで用意した資料を配布する。

〔参考書〕

参考書は必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配付することもある。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		近世日本文学講義D					
教員名		牧 藍子					
科目No.	125233220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
和歌・連歌の流れを継承しつつ、俗語をいわず卑近な日常を詠むことのできた俳諧は、江戸時代を通じて、庶民から大名にいたるまで非常に多くの人々に親しまれました。しかし、それぞれの俳諧が行われた時期や地域、主たる作者層の違いなどによりその性格は様々で、一括りに論じることはできない。本授業では各時期・各地域を代表する俳人に焦点を当て、その文芸活動の意義を当時の社会の様相に照らし合わせることで、近世における文芸のありようを掘り下げる。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、PD3（課題の発見と解決）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・近世の主要な俳人の文芸活動について学び、近世俳諧史の展開を知る。 ・俳諧の多様性を学ぶ。 ・近世文芸の性格について理解を深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 俳句と俳諧			シラバスを読んでおく。 配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第2回	荒木田守武 連歌の時代			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第3回	松永貞徳 啓蒙と俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第4回	西山宗因 連歌師の俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第5回	井原西鶴 即吟と阿蘭陀流			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第6回	松尾芭蕉 旅と不易流行			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第7回	向井去来 蕉風俳論			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第8回	宝井其角 都市の俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第9回	各務支考 地方行脚と門人開拓			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第10回	立羽不角 前句付俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第11回	柄井川柳 雑俳			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第12回	与謝蕪村 文人の俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。		60	
第13回	小林一茶 江戸時代後期の俳諧			配布資料を読み直し、理解を深める。る。		60	
第14回	まとめ			これまでの学修内容を確認しておく。		60～	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況・リアクションペーパー等）50%、課題レポート（あるいは到達度確認テスト）50%による総合評価							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ・近世の主要な俳人の文芸活動について学び、近世俳諧史の展開を把握しているか。 ・俳諧の多様性を具体的に説明できるか。 ・近世文芸の性格について理解を深めることができたか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。ただし授業内で古文を扱うので、基本的な古典文法の知識があるとよい。
〔テキスト〕 資料を配布する。
〔参考書〕 授業内で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学講義A					
教員名		小橋 孝子					
科目No.	125233230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 明治文学。 文学史の流れや時代背景を捉えながら、明治期の小説、詩歌、評論などの作品を学ぶ。							
〔到達目標〕 明治文学の展開について基礎的な知識を修得する。 時代の状況の変化を踏まえ、明治文学の展開とその課題について考察することが出来る。 文学史的な意義とともに作品を考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス 明治開化期の文学			(予習)シラバスを読み、授業の全体像を確認する。 (復習)資料を再読し、理解を深める。		10 60	
第2回	近代文学の始動① 坪内逍遙と二葉亭四迷			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第3回	近代文学の始動② 言文一致の試みと文体の模索			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第5回	「文学界」と樋口一葉			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第6回	明治三十年代の文学 泉鏡花と国木田独步			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第7回	明治の新体詩			(予習) 基礎的な事項を確認し、資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第8回	「明星」と「ホトトギス」①			(予習) 基礎的な事項を確認し、資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第9回	「明星」と「ホトトギス」②			(予習) 基礎的な事項を確認し、資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第10回	自然主義文学の展開			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストを学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第11回	森鷗外と夏目漱石			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第12回	大正文学展望①			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストと資料を学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第13回	大正文学展望②			(予習) 基礎的な事項を確認し、テキストを学修しておく。 (復習) 資料を再読し、理解を深める。		60 30	
第14回	まとめ			半期の学修を振り返り、理解を深める。		120	
〔授業の方法〕 講義形式。 随時、指定した作品についてのレポート作成を求める。							
〔成績評価の方法〕 通常授業時の小レポート（50％） 指定した作品についてのレポート（50％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 文学史の基礎的な事項については、随時、予習として確認しておくことが必要。
〔テキスト〕 安藤宏『日本近代小説史 新装版』 中公選書 110 1700 円＋税 ISBN978-4-12-110110-5 その他、資料を配布する。
〔参考書〕 授業内で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。またメールでも受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学講義B					
教員名		鈴木 優作					
科目No.	125233240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、近代日本の探偵小説の歴史を作品に触れつつ学ぶ。西洋からの輸入に始まる日本の探偵小説は明治期に創作が試みられ、大正期には大衆文学の一ジャンルとして数々の作家が鎬を削り、昭和初期には隆盛期を迎える。戦時には執筆が困難となるが戦後は「推理小説」や「ミステリー」と称され再び脚光を浴び、今日においても小説のみならず多様なメディアを通じて高い人気を誇っている。そこで改めて日本の探偵小説の歴史を振り返り作品を味わいつつ、社会背景とともに学ばれたい。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の探偵小説の歴史について基礎的な知識を習得できる。 ②日本の探偵小説の歴史を近代史の流れのなかに位置づけることができる。 ③探偵小説作品を文学的意義の観点から読み解くことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	・ガイダンス 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明。 ・日本の探偵小説史の概略を説明する。			【予習】シラバスを読み、予め授業内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		30 30	
第2回	明治期の探偵小説 ・明治期の探偵小説の流れについて学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第3回	既成作家による探偵小説 ・岡本綺堂、谷崎潤一郎、芥川龍之介、佐藤春夫ら既成作家による探偵小説について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第4回	『新青年』と江戸川乱歩登場 ・雑誌『新青年』と、同誌における江戸川乱歩の初期探偵小説について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第5回	大正末期の探偵小説文壇 ・横溝正史、小酒井不木、甲賀三郎ら大正末期デビュー作家とその作品について学修する。 ※課題レポート①提出			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第6回	都市文化と探偵小説 ・モダニズムやエロ・グロ・ナンセンスといった都市文化と探偵小説の関わりについて学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第7回	昭和初期の探偵小説文壇 ・小栗虫太郎、木々高太郎、久夫十蘭ら昭和初期デビュー作家とその作品について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第8回	探偵小説ジャンルをめぐる言説 ・健全／不健全、本格／変格といったジャンル規定をめぐる言説について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第9回	江戸川乱歩の通俗探偵小説 ・江戸川乱歩の通俗探偵小説を取り上げその文学的意義について学修する。 ※課題レポート②提出			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第10回	SF的趣向の探偵小説について ・海野十三、蘭郁二郎らのSF的趣向の探偵小説について、同時代の科学的視点から学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第11回	「奇書」を読む 夢野久作「ドグラ・マグラ」と小栗虫太郎「黒死館殺人事件」の文学的意義について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第12回	戦時期の探偵小説文壇 ・戦時に冒険小説や捕物帳など様々な方向に可能性を探った探偵小説文壇の様相について学修する。			【予習】授業内容に関する基礎知識を確認しておく。 【復習】授業で扱った作品や提示した資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について理解度を確認するためのテスト ※課題レポート③提出			【予習】到達度確認テストに備えて、これまでの学修内容を確認する。		120	
第14回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ			【復習】到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義を中心に進める。授業において定期的に課題を提示する。学生はその都度、課題についてレポートを作成し提出することを求められる。なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 ・課題レポート①～③：作品の読解力を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。							
〔成績評価の方法〕							
課題レポート（3回：30%）、到達度確認テスト（1回：50%）、授業中の発言や質問など授業への積極的な参加（20%）による総合評価。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①日本の探偵小説の歴史について基礎的な知識を習得している。 ②日本の探偵小説の歴史を近代史の流れのなかで説明することができる。 ③探偵小説作品を文学的意義の観点から読み解くことができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学講義C					
教員名		大橋 崇行					
科目No.	125233250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義のテーマは、「近代における演芸と小説」である。 坪内逍遙が二葉亭四迷が「浮雲」を書くときに三遊亭円朝の落語を参考にするを説いたように、明治期においては小説と落語・講談は、いわゆる言文一致の問題だけでなく、内容面でも現代以上に密接な関係を持っていた。 本講義では、近代において演芸がどのようなメディアだったのかを考えるとともに、それらが小説とどのように関わったのかについて、具体的なテキストから考えていく。							
〔到達目標〕							
DP 1－3、1－4、2－2、4－1、4－2を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ・江戸期から現代に至る落語、講談がどのような演芸なのかについて理解できるようになる。 ・テキストを分析するための基本的な方法を理解できるようになる。 ・古典文学と近現代文学、文学と社会科学など、学際的な知識を用いながら、それぞれの関係性について考えることができるようになる。 ・学修した内容について討議を行い、自身の問題意識に沿って意見を言ったり、討議を行うことができるようになる。 ・授業内容を踏まえて、レポート							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業内容、進め方、予習・復習について説明をする。 ・近代の演芸について概説する。			【予習】シラバスとテキストを読み、授業内容を確認する。 【復習】授業中に配付されたプリントを読む。		60	
第2回	落語というメディア ・落語という演芸がどのような形式なのか、実際に演じられた映像を見ながら説明する。			【予習】配付資料を読む。 【復習】授業内容を踏まえてミニレポート①を作成する。		90	
第3回	近代の落語と江戸期からのつながり ・江戸時代の落語やその周辺にある文芸が、明治時代にどのように展開したのかを学ぶ。 ※ミニレポート①を提出する。			【予習】落語の映像を見て、ミニレポート②を書く。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		120	
第4回	三遊亭円朝「真景累ヶ淵」と怪談 ・「真景累ヶ淵」を読解する。 ※ミニレポート②、課題プリントを提出する。			【予習】配付された「真景累ヶ淵」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第5回	三遊亭円朝「怪談牡丹灯籠」と落語速記 ・「怪談牡丹灯籠」を読解する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】配付された「怪談牡丹灯籠」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第6回	二葉亭四迷「浮雲」と言文一致 ・言文一致についての基本的な知識を学修する。 ・「浮雲」を読解する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】配付された「浮雲」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。中間レポートを執筆する。		90	
第7回	明治期の翻訳・翻案小説と落語 ・明治期の外国文学の受容と落語との関係を学修する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】配付された「錦の舞衣」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。中間レポートを執筆する。		90	
第8回	明治期の「一発芸」と落語家たち ・語り以外の演芸と、語りとの関わりについて学修する。 ※課題プリントを提出する。			【予習・復習】中間レポートを完成させ、これまでの授業内容を振り返る。		120	
第9回	小説家を書く落語 一山田美妙「素人洋食」 ・小説がどのように落語に変容したのかを学修する。 ※中間レポートを提出する。課題プリントを提出する。			【予習】配付された「素人洋食」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第10回	講談というメディア ・実際に講談が演じられた映像を見て、落語との差異について考える。 ※ミニレポート③を提出する。			【予習】講談の映像を見て、ミニレポート③を書く。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		120	
第11回	落語と講談の関係、談洲楼燕枝「西海屋騒動」 ・講談から派生した落語テキストを読み、どのように落語として再創造されているかを考える。 ※課題プリントを提出する。			【予習】配付された「西海屋騒動」の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第12回	講談と時代小説との関わり ・講談の題材になった史伝と、講談を題材にした時代小説について学修する。			【予習・復習】史伝と講談との関係について調べ、ミニレポート④にまとめる。		120	
第13回	書き講談（新講談）とメディアとの関わり ・講談とメディアとの関わりについて学修する。 ※ミニレポート④を提出する。			【予習】配付された『講談倶楽部』の本文を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第14回	「教育講談」と「愛国」言説 ・言説分析によって演芸を読み解く方法を学修する。			【予習】配付された「千人針」についての資料を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
〔授業の方法〕							
講義を中心に、数回のミニレポート提出を実施する。また、第9回目の授業で中間レポートを提出する。 各回の授業では、予習および授業内で用いる課題プリントを配付し、それに各自で取り組んでもらった上で受講してもらう他、グループで討議を行うこともある。それらを踏まえて、配付する資料を基に詳説していく。この他、映像資料を見る課題があるため、パソコンの使用が必須となる。 ・中間レポート 授業で扱った以外の落語の映像を見て、明治期の落語と現代の落語の差異について考える。							

・ミニレポート① 落語の映像テキストを、自分なりの視点で分析できているかを確認する。 ・ミニレポート② 落語の速記テキストを読解できているかどうかを確認する。 ・ミニレポート③ 講談の映像テキストを、自分なりの視点で分析できているかを確認する。 ・ミニレポート④ メディアの特性を踏まえながら、近代以降の演芸を分析できているかどうかを確認する。
〔成績評価の方法〕 試験４０％、中間レポート４０％、授業への参加状況２０％ により総合的に評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ① 明治期の落語や講談、小説についての基本的な知識を修得している。 ② テキストを分析するための基本的な方法を修得している。 ③ 日本文化、日本文学について領域横断的に理解し、思考することができる。 ④ 自分の考えを他者にむけてわかりやすく発信し、討議することができる。 ⑤
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、活字テキストだけでなく、落語や漫才、講談といった演芸に興味を持って授業に取り組めることが望ましい。
〔テキスト〕 授業中にプリント等で配付する。
〔参考書〕 授業中に適宜指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング、情報リテラシー教育科目

科目名	近現代日本文学講義D						
教員名	大橋 崇行						
科目No.	125233260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義のテーマは、「日本近現代文学とアダプテーション」である。 分析理論としてのアダプテーションはリンダ・ハッチオンが示したものであり、原作が他の表現メディアに移された際の様態を分析するための視点である。近現代文学では小説を原作とするテキストが映像化、舞台化されたり、逆に、映像のテキストがノベライズされたりなど、メディアを横断する形で展開することが少なくない。本講義では、リンダ・ハッチオンのアダプテーション理論を学んだ上で、近現代の小説テキストと映像テキストとの関係を相互に分析していくための方法を学ぶ。 ・中間レポート：授業で扱った以外的小説テキストと、それを映像化したテキストを比較し、分析したものをまとめる。アダプテーションの理論をどのように理解し、批評的に捉えているのかを確認する。 ・ミニレポート①：リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』を読み、概要をまとめる。分析理論をどの程度理解できているのかを確認する。 ・ミニレポート②：小説を原作とするマンガ作品を1つ選び、問題点をまとめる。自分の問題意識に基づいて、テキストを選定できているかどうかを確認する。 ※授業の進捗によって、内容等を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1-4、2-1、2-2、4-1、4-2を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ・小説と映像に関わる日本文化について幅広い知識を身に付け、分析することができるようになる。 ・人文科学、社会科学に関わる分析理論を学び、それについて批評的に捉えることができるようになる。 ・日本文学に関わる複数の学問領域について、総合的に理解することができるようになる。 ・学修した内容について討議を行い、自身の問題意識に沿って意見を言ったり、討議を行うことができるようになる。 ・授業内容を踏まえて、レポートをま							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方について説明をする。 ・文学テキストと映像テキストとの関わりについて学修する。			【予習】シラバスとテキストを読み、授業内容を確認する。 【復習】授業中に配付されたプリントを読む。		60	
第2回	アダプテーションとは何か ・アダプテーションという概念について学修する。			【予習】配付資料を読む。 【復習】授業内容を踏まえてミニレポート①を作成する。		90	
第3回	アダプテーション理論をめぐる先行研究 ・アダプテーションの理論に基づいた先行研究を読む。 ※ミニレポート①を提出する。課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第4回	芥川龍之介「魔術」を読む ・芥川龍之介の小説「魔術」を読む。 ※課題プリントを提出する。			【予習】芥川龍之介「魔術」を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第5回	ドラマ『BUNGO 日本文学シネマ』「魔術」を読む ・「魔術」の映像テキストと、小説テキストとの差異について考える。 ※課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		60	
第6回	坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む ・坂口安吾の小説「桜の森の満開の下」を読む。 ※課題プリントを提出する。			【予習】坂口安吾「桜の森の満開の下」を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第7回	アニメ『青い文学』「桜の森の満開の下」を読む ・アニメ映像と小説テキストとの差異について考える。 ※課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読み、中間レポートを作成する。		120	
第8回	「桜の森の満開の下」におけるその他の翻案（アダプテーション） ・多メディア展開するアダプテーションのあり方について学修する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読み、中間レポートを作成する。		120	
第9回	現代文化に見られる「文豪」表象 ・「文豪」を扱ったコンテンツと、その問題点について説明する。			【予習・復習】中間レポートを完成させ、これまでの授業を振り返る。		120	
第10回	田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」を読む ・田辺聖子の小説「ジョゼと虎と魚たち」について考察する。 ※中間レポートを提出する。			【予習】田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		90	
第11回	実写映画版「ジョゼと虎と魚たち」を読む ・実写映画が持つ様式性の問題を学修する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		60	
第12回	アニメ映画版、マンガ版「ジョゼと虎と魚たち」を読む ・実写映画とアニメーション映画、マンガとの関係について考察する。 ※ミニレポート②を提出する。			【予習】ミニレポート②を作成する。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		60	
第13回	綿矢りさ「私をくいとめて」を読む ・綿矢りさの小説「私をくいとめて」について考察する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】綿矢りさ「私をくいとめて」を読み、課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		120	
第14回	映画版「私をくいとめて」を読む ・現代における映像テキストと小説とをめぐる問題点について学修する。 ※課題プリントを提出する。			【予習】課題プリントに取り組む。 【復習】授業中に配付した資料を読む。		60	

〔授業の方法〕 講義を中心に、数回のミニレポート提出を実施する。また、第 10 回目の授業で中間レポートを提出する。 各回の授業では、予習および授業内で用いる課題プリントを配付し、それに各自で取り組んでもらった上で受講してもらう他、グループで討議を行うこともある。それらを踏まえて、配付する資料を基に詳説していく。また、映像資料を見る課題が出ることもあるため、パソコン等映像機器の使用が必須となる。
〔成績評価の方法〕 試験 4 0 %、中間レポート 4 0 %、授業への参加状況 2 0 % により総合的に評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ① 小説と映像に関わる日本文化についての基本的な知識を修得している。 ② 人文科学、社会科学に関わる分析理論について、基本的な知識を身に付けている。 ③ 日本文学に関わる複数の学問領域について理解し、思考することができる。 ④ 自分の考えを他者にむけてわかりやすく発信し、討議す
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、文芸批評に関わる英文テキストと日本語訳テキストとを同時に読んでいくことがあるので、そうした文章についても読解できるだけの学修を進めていることが重要である。
〔テキスト〕 授業中にプリント等で配付する。
〔参考書〕 授業中に適宜指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング、情報リテラシー教育科目

科目名		近現代日本文学講義E					
教員名							
科目No.	125233270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		近現代日本文学講義 F					
教員名							
科目No.	125233280	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		比較文学 A					
教員名		有光 隆司					
科目No.	125234100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
前期はテキスト（『比較文学への誘い』）に従って、第一章「比較文学の原点」、第二章「文学研究の歩みと比較文学（その一）」、第三章「文学研究の歩みと比較文学（その二）」、第四章「文体分析と作品解釈」、第五章「伝記的事実と作品解釈」、第六章「短篇小説の特徴」を扱う。具体的には芥川龍之介、上田敏、尾崎紅葉等を引き合いに、比較文学の諸相について学習する。							
〔到達目標〕							
自国の文学、文化と異国のそれを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	1. 比較文学の原点 1			テキスト第 1 章を読んでくること。 「比較文学」という呼称について調べてくること。 第 1 回の復習をすること。		90 分	
第 2 回	1. 比較文学の原点 2			芥川龍之介『蜘蛛の糸』を読んでくること。 第 2 回の復習をすること。		90 分	
第 3 回	1. 比較文学の原点 3			ポール・ケーラス『カルマ』、トルストイ『カルマ』、ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』について調べること。 第 3 回の復習をすること。		90 分	
第 4 回	2. 文学研究の歩みと比較文学 1			「文学」について調べること。 第 4 回の復習をすること。		90 分	
第 5 回	2. 文学研究の歩みと比較文学 290			「古典主義文学」について調べること。 第 5 回の復習をすること。		90 分	
第 6 回	2. 文学研究の歩みと比較文学 3			「ロマン主義文学」について調べること。 第 6 回の復習をすること。		90 分	
第 7 回	3. 文体研究と作品解釈 1			上田敏『海潮音』について調べること。 第 7 回の復習をすること。		90 分	
第 8 回	3. 文体研究と作品解釈 2			カール・ブッセについて調べること。 第 8 回の復習をすること。		90 分	
第 9 回	3. 文体研究と作品解釈 3			「リズム」と「韻律」について調べること。 第 9 回の復習をすること。		90 分	
第 1 0 回	4. 伝記的事実と作品解釈 1			松尾芭蕉『野ざらし紀行』について調べること。 第 10 回の復習をすること。		90 分	
第 1 1 回	4. 伝記的事実と作品解釈 2			幸田露伴『白芥子句考』について調べること。 第 11 回の復習をすること。		90 分	
第 1 2 回	4. 伝記的事実と作品解釈 3			「伝記」について調べること。 第 12 回の復習をすること。		90 分	
第 1 3 回	5. 短篇小説をめぐって 1			「短篇小説」の起源について調べること。 第 13 回の復習をすること。		90 分	
第 1 4 回	5. 短篇小説をめぐって 2			ボッカチオ『デカメロン』について調べること。 第 14 回の復習をすること。		90 分	
〔授業の方法〕							
各章、原則として 2 回完結型形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。教員はそれを次の授業にフィードバックしながら講義を進める。							
〔成績評価の方法〕							
毎回提出のリアクションペーパー（30%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 比較文学 B (関連科目)
〔テキスト〕 『比較文学への誘い——東西文学十六章——』（新田義之著、大学教育出版）
〔参考書〕 『講座比較文学』全 8 巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		比較文学B					
教員名		有光 隆司					
科目No.	125234110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 後期はテキスト(『比較文学への誘い』)に従って、第七章「メーメルヒェンとお伽話」、第八章「お伽話から童話へ」、第九章「杵物語の系譜」、第十章「文学研究法のいろいろ〈その一〉」、第十一章「文学研究法のいろいろ〈その二〉」、第十二章「日本の説話」、第十三章「叙事詩とバラード」、第十四章「抒情的なものについて」、第十五章「悲劇的なものについて」、第十六章「比較文学から比較文化へ」を扱う。その内とくに第七章では巖谷小波とグリム、第八章では浜田広介とアンデルセン、第九章ではアラビアンナイト、第十二章ではラフカディオ・ハーンと夏目漱石、第十五章ではソフォクレスと国木田独歩について比較検討する。							
〔到達目標〕 自国の文学、文化と異国のそれとを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修 の目安(分)	
第1回	1. メーメルヒェンとお伽話 1			「メーメルヒェン」という用語について調べてくること。 第1回の復習をすること。		90 分	
第2回	1. メーメルヒェンとお伽話 2			巖谷小波について文学事典、人名事典等で調べてくること。 第2回の復習をすること。		90 分	
第3回	2. お伽話から童話へ 1			浜田広介について文学事典、人名事典等で調べてくること。 第3回の復習をすること。		90 分	
第4回	2. お伽話から童話へ 2			アンデルセンについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第4回の復習をすること。		90 分	
第5回	3. 杵物語の系譜 1			「杵物語」という用語について調べてくること。 第5回の復習をすること。		90 分	
第6回	3. 杵物語の系譜 2			『千夜一夜物語』の一編を読んでくること。 第6回の復習をすること。		90 分	
第7回	4. 文学研究方法をめぐって 1			「作品論」と「作家論」のちがいで自分なりに考えてくること。 第7回の復習をすること。		90 分	
第8回	4. 文学研究方法をめぐって 2			「民俗学」「社会学」という用語について調べてくること。 第8回の復習をすること。		90 分	
第9回	5. 日本の説話 1			「昔話」と「伝説」のちがいで自分なりに考えてくること。 第9回の復習をすること。		90 分	
第10回	5. 日本の説話 2			ハーン 『怪談』の一編を読んでくること。 第10回の復習をすること。		90 分	
第11回	6. 叙事詩とバラード			「叙事詩」という用語について調べてくること。 第11回の復習をすること。		90 分	
第12回	7. 抒情的なものについて			「抒情詩」という用語について調べてくること。 第12回の復習をすること。		90 分	
第13回	8. 悲劇的なものについて			ソボクレスについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第13回の復習をすること。		90 分	
第14回	9. 比較文学から比較文化へ			「文学」と「文化」のちがいで自分なりに考えてくること。 第14回の復習をすること。		90 分	
〔授業の方法〕 原則として 2 回完結形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。教員はそれを次の授業にフィードバックしながら講義を進める。							
〔成績評価の方法〕 毎回のリアクション(30%)及び学期末に1回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 比較文学 A (関連科目)
〔テキスト〕 『比較文学への誘い——東西文学十六章——』（新田義之著、大学教育出版）
〔参考書〕 『講座比較文学』全 8 巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		漢文基礎					
教員名		山口 旬					
科目No.	125234120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 「漢文訓読の基礎」 漢文訓読法の基礎を初歩から学びながら、江戸の代表的漢詩人の著作と、それに影響を与えた中国の漢詩文を文芸作品として読解していく。テキストとして前半は散文、後半は詩を取り上げる。							
〔到達目標〕 漢文の基本的な訓読法を修得する。また、具体的な漢詩文の特色を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	漢文とは何か 語学的文化的性質。日本漢文の位置。／『笑府』と江戸漢文笑話（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 2 回	訓読とは何か 文語文としての性質。／『笑府』と江戸漢文笑話（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 3 回	漢字の読み方（1）字体。／『世説新語』と江戸漢文説話（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 4 回	漢字の読み方（2）音と訓、再読文字と置き字。／『世説新語』と江戸漢文説話（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 5 回	漢文の文型（1）主語述語目的語。／『入蜀記』と江戸紀行文（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 6 回	漢文の文型（2）修飾被修飾、並列。／『入蜀記』と江戸紀行文（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 7 回	返り点の原則。／『唐詩選』と江戸格調派詩人（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 8 回	返り点の例外。／『唐詩選』と江戸格調派詩人（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 9 回	送り仮名（1）現代語と同様のもの。／『誠齋集』と江戸清新派詩人（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 1 0 回	送り仮名（2）訓読特有のもの。／『誠齋集』と江戸清新派詩人（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 1 1 回	書き下し文の実際（1）熟語、短文。／『誠齋集』と江戸清新派詩人（3）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 1 2 回	書き下し文の実際（2）長文。／『随園詩話』と漢詩批評詩『五山堂詩話』（1）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 1 3 回	漢詩の読み方 漢詩特有の訓読。／『随園詩話』と漢詩批評詩『五山堂詩話』（2）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
第 1 4 回	書き下し文の実際（3）漢詩。／『随園詩話』と漢詩批評詩『五山堂詩話』（3）			【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。		60	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で進め必要に応じて練習の時間を設ける。							
〔成績評価の方法〕 毎回の小レポート 4 2 %、レポート中間提出 8 %、学期末の大レポート 5 0 %の割合で総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 CoursePower など授業資料を配布する。
〔参考書〕 『漢文訓読入門』（古田島洋介・湯城吉信、明治書院）、『江戸漢詩選 上・下』（揖斐高編訳、岩波文庫）等
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時Eメールで受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		日本語・日本文学総合テーマ講義C					
教員名							
科目No.	125234150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本語・日本文学総合テーマ講義D					
教員名							
科目No.	125234160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本語・日本文学総合テーマ講義E					
教員名							
科目No.	125234170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		漢文学 A					
教員名							
科目No.	125234180	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		漢文学B					
教員名							
科目No.	125234190	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名	中国文学史A						
教員名	伊藤 文生						
科目No.	125234200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 ・中国文学史について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。 ・基本テキストとして『千字文』（前半）を用い、一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、中国文学史の一端を知る。 （『千字文』は、ちょうど千字のすべて異なる漢字から成る四言古詩である。『古事記』によれば、『論語』とともに日本に伝わった書物であり、古来、幼学書として多くの人に読み書きされてきた）							
〔到達目標〕 ・友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたいような面白くかつ有意義な中国文学史上の名作や名句の一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 ・中国文学史の基礎知識について確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第2回	『千字文』（1～40）「天地玄黄、宇宙洪荒。日月盈昃、辰宿列张。寒来暑往、秋收冬藏。閏餘成歲、律召調陽。雲騰致雨、露結為霜」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『易経』坤卦文言伝ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第3回	『千字文』（41～80）「金生麗水、玉出崑岡。劍号巨闕、珠称夜光。果珍李柰、菜重芥薑。海鹹河淡、鱗潛羽翔。龍師火帝、鳥官人皇」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『世説新語』佚善篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第4回	『千字文』（81～120）「始制文字、乃服衣裳。推位讓国、有虞陶唐。弔民伐罪、周發殷湯。坐朝問道、垂拱平章。愛有黎首、臣伏戎羌」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『孟子』梁惠王下篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第5回	『千字文』（121～160）「遐邇耄耆、率賓婦王。鳴鳳在樹、白駒食場。化被草木、賴及万方。蓋此身髮、四大五常。恭惟鞠養、豈敢毀傷」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『孝経』ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第6回	『千字文』（161～200）「女慕貞絜、男効才良。知過必改、得能莫忘。罔談彼短、靡恃己長。信使可覆、器欲難量。墨悲糸染、詩譴羔羊」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『墨子』所染篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第7回	『千字文』（201～240）「景行維賢、克念作聖。德建名立、形端表正。空谷伝声、虛堂習聽。禍因惡積、福緣善慶。尺璧非宝、寸陰是競」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『淮南子』原道訓ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第8回	『千字文』（241～280）「資父事君、日嚴与敬。孝当竭力、忠則尽命。臨深履薄、夙興溫清。似蘭斯馨、如松之盛。川流不息、淵澄取映」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『論語』子罕篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第9回	『千字文』（281～320）「容止若思、言辭安定。篤初誠美、慎終宜令。榮業所基、籍甚無竟。學優登仕、攝職從政。存以甘棠、去而益詠」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『詩経』召南・甘棠篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第10回	『千字文』（321～360）「染殊貴賤、礼別尊卑。上和下睦、夫唱婦隨。外受傳訓、入奉母儀。諸姑伯叔、猶子比兒。孔懷兄弟、同氣連枝」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『礼記』檀弓上篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第11回	『千字文』（361～400）「交友投分、切磨箴規。仁慈隱惻、造次弗離。節義廉退、顛沛匪虧。性靜情逸、心動神疲。守真志滿、逐物意移」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『孟子』公孫丑上篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	

第 1 2 回	『千字文』(401～440)「堅持雅操、好爵自縻。都邑華夏、東西二京。背邙面洛、浮渭拋涇。宮殿盤鬱、樓觀飛驚。図写禽獸、画采仙靈」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『春秋左氏伝』莊公二十八年ほかの資料を確認する。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第 1 3 回	『千字文』(441～480)「丙舎傍啓、甲帳対楹。肆筵設席、鼓瑟吹笙。升階納陛、弁輦疑星。右通広内、左達承明。既集墳典、亦聚群英」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『漢書』東方朔伝ほかの資料を確認する。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第 1 4 回	『千字文』(481～500)「杜稿鍾隸、漆書壁經。府羅将相、路俠槐卿。戸封八果」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『尚書』序ほかの資料を確認する。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
〔授業の方法〕 『千字文』の精読を中心として、数回の小テストを実施する。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。			
〔成績評価の方法〕 小テスト 50%、課題レポート 20%、平常点 30% とし、授業態度を総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 授業で扱った資料を中心に、中国文学史についての基本的・一般常識的な理解が大学生としての水準に到達できているかを見る。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。 中国語に関する知識は求めない。			
〔テキスト〕 資料プリントを配付する。			
〔参考書〕 『千字文』、小川環樹・木田章義注解、岩波文庫、1,320 円、ISBN978-4-00-332201-7（購入の必要なし） 『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN978-4-385-13755-1（購入の必要なし） その他は授業時に紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名	中国文学史B						
教員名	伊藤 文生						
科目No.	125234210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要] ・中国文学史について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。 ・基本テキストとして『千字文』（後半）を用い、一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、中国文学史の一端を知る。 （『千字文』は、ちょうど千字のすべて異なる漢字から成る四言古詩である。『古事記』によれば、『論語』とともに日本に伝わった書物であり、古来、幼学書として多くの人に読み書きされてきた）							
[到達目標] ・友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたいような面白くかつ有意義な中国文学史上の名作や名句の一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 ・『千字文』の概要を確認し、後半冒頭（501～520）「家給千兵。高冠陪輦、驅轂振纓。世祿侈富、車駕肥輕」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『論語』雍也篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第2回	『千字文』（521～560）「策功茂実、勒碑刻銘。確溪伊尹、佐時阿衡。奄曲曲阜、微旦孰營。桓公匡合、濟弱扶傾。綺回漢惠、說感武丁」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、前漢の司馬相如『封禪文』ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第3回	『千字文』（561～600）「俊乂密勿、多士寔寧。晋楚更霸、趙魏困橫。假途滅虢、踐土會盟。何遵約法、韓弊煩刑。起翦頗牧、用軍最精」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『史記』韓非列伝・商君列伝ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第4回	『千字文』（601～640）「宣威沙漠、馳誉丹青。九州禹跡、百郡秦併。岳宗恒岱、禪主云亭。雁門紫塞、鷄田赤城。昆池碣石、鉅野洞庭」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、鮑照（414?～466）『蕪城賦』ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第5回	『千字文』（641～680）「曠遠綿邈、巖岫杳冥。治本於農、務茲稼穡。俶載南畝、我藝黍稷。稅熟貢新、勸賞黜陟。孟軻敦素、史魚秉直」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『詩經』小雅・大田篇、楚茨篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第6回	『千字文』（681～720）「庶幾中庸、勞謙謹勅。聆音察理、鑑貌辨色。貽厥嘉猷、勉其祗植。省躬譏諫、寵增抗極。殆辱近恥、林阜幸即」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『礼記』中庸篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第7回	『千字文』（721～760）「兩疏見機、解組誰逼。索居閑处、沈黙寂寥。求古尋論、散慮逍遙。欣奏累遣、感謝歡招。渠荷的歷、園莽抽条」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『漢書』疏広伝ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第8回	『千字文』（761～800）「枇杷晚翠、梧桐早彫。陳根委翳、落葉飄颻。遊鵲独運、凌摩絳霄。耽詠旣市、寓目囊箱。易輟攸畏、厲耳垣牆」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『後漢書』王充伝ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第9回	『千字文』（801～840）「具膳餐飯、適口充腸。飽飫烹宰、飢厭糟糠。親戚故旧、老少異糧。妾御績紡、侍巾帷房。執扇圓潔、銀燭煌煌」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『礼記』王制篇ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第10回	『千字文』（841～880）「昼眠夕寐、籃笋象床。弦歌酒譟、接杯舉觴。矯手頓足、悅豫且康。嫡後嗣統、祭祀蒸嘗。稽顙再拜、悚懼恐惶」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『戰国策』齊策下ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	
第11回	『千字文』（881～920）「牋牒簡要、顧答審詳。骸垢想浴、執熱願涼。驢驛懷特、駭躍超驤。誅斬賊盜、捕獲叛亡。布射僚丸、嵇琴阮嘯」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『晋書』阮籍伝ほかの資料を確認する。			配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。		毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。	

第 1 2 回	『千字文』(921～960)「恬筆倫紙、鈎巧任鈞。枳紛利俗、並皆佳妙。毛施淑姿、工顰妍笑。年矢每催、羲暉朗曜。旋璣懸幹、晦魄環照」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『莊子』齊物論ほかの資料を確認する。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第 1 3 回	『千字文』(961～1000)「指薪修祜、永綏吉劭。矩步引領、俯仰廊廟。束帶矜莊、徘徊瞻眺。孤陋寡聞、愚蒙等詭。謂語助者、焉哉乎也」を精読し、中国文学史上の関連する文献として、『礼記』学記篇ほかの資料を確認する。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第 1 4 回	・まとめとして、資料を再点検し、質問に答える。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
〔授業の方法〕 『千字文』の精読を中心として、数回の小テストを実施する。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。			
〔成績評価の方法〕 課題レポート 20%、小テスト 50%、平常点 30% とし、授業態度を総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 授業で扱った資料を中心に、中国文学史についての基本的・一般常識的な理解が大学生としての水準に到達できているかを見る。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。 中国語に関する知識は求めない。			
〔テキスト〕 資料プリントを配付する。			
〔参考書〕 『千字文』、小川環樹・木田章義注解、岩波文庫、1,320 円、ISBN978-4-00-332201-7（購入の必要なし） 『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN978-4-385-13755-1（購入の必要なし） その他は授業時に紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		日本探究特別講義A／（近代日本の狂気）					
教員名		鈴木 優作					
科目No.	125235100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、〈狂気〉を扱った近代文学作品を歴史的背景から読み解く。近代日本においてさまざまな精神疾患は〈狂気〉と名ざされ、患者は座敷牢や精神病院に監置されるなど差別的な処遇を受けることが多かった。いわばその「声」を奪われた状態にあったわけだが、文学作品はそうした〈狂気〉を扱い表現することでその「声」に代わる役割を果たしてもいたと考えられる。そこで本講義では、〈狂気〉を扱った作品を読み解きそれがいかに文学的に表現されているかを理解し、同時に背景にある近代社会の法制度やメディア言説に迫りたい。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・近代日本の〈狂気〉をめぐる歴史について基礎的な知識を習得できる。 ・〈狂気〉を扱った文学作品を、歴史的背景の観点から読み解くことができる。 ・〈狂気〉に対する処遇を理解することを通じて、近代社会の特質を捉えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	・ガイダンス ・〈狂気〉を視座とした近代日本の歴史を概説する。			【予習】シラバスを読み、予め授業内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		30 30	
第2回	広津和郎「神経病時代」 ・作品の読解と分析を通じて、都市生活と神経病という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第3回	梶井基次郎「檸檬」 作品の読解と分析を通じて、西欧化社会と〈狂気〉という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第4回	岡本綺堂「影を踏まれた女」 ・作品の読解と分析を通じて、心の病をめぐる怪談における近世的な精神病治療や解釈、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第5回	芥川龍之介「河童」 ・作品の読解と分析を通じて、作中に風刺化された当時の社会の諸問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第6回	島崎藤村「夜明け前」 ・作品の読解と分析を通じて、明治期の近代化の特質とそこにおける精神病患者の処遇という問題、および作品の意義について学修する。 ※課題レポート①提出			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		90 30	
第7回	小栗虫太郎「後光殺人事件」 ・作品の読解と分析を通じて、新宗教ブームとそれを狂信とみなした社会との相克という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第8回	夢野久作「ドグラ・マグラ」 ・作品の読解と分析を通じて、当時には科学とされていた優生学と犯罪人類学の抱えていた問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		90 30	
第9回	江戸川乱歩「緑衣の鬼」 ・作品の読解と分析を通じて、精神疾患に対する社会のまなざしがもつ問題、および作品の意義について学修する。 ※課題レポート②提出			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		90 30	
第10回	横溝正史「真珠郎」 ・作品の読解と分析を通じて、精神病患者監護法と私宅監置という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第11回	太宰治「HUMAN LOST」 ・作品の読解と分析を通じて、〈狂気〉の語りと文学表現という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第12回	井伏鱒二「遙拝隊長」 作品の読解と分析を通じて、戦争のもたらす〈狂気〉という問題、および作品の意義について学修する。			【予習】取り上げる作品を読んでおく。 【復習】作品や授業で扱った資料を再読し、さらに理解を深める。		60 30	
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について理解度を確認するためのテスト ※課題レポート③提出			【予習】到達度確認テストに備えて、これまでの学修内容を確認する。		120	
第14回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ			【復習】到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義を中心に進める。授業において定期的に課題を提示する。学生はその都度、課題についてレポートを作成し提出することを求められる。なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 ・課題レポート①～③：作品の読解力を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。							
〔成績評価の方法〕							

課題レポート（3回：30%）、到達度確認テスト（1回：50%）、授業中の発言や質問など授業への積極的な参加（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①近代日本の〈狂気〉をめぐる歴史について基礎的な知識を習得している。 ②〈狂気〉を扱った文学作品を、歴史的背景の観点から読み解くことができる。 ③〈狂気〉に対する処遇を視座とした近代社会の特質を説明することができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 『探偵小説と〈狂気〉』鈴木優作、国書刊行会、3500円（+税）、購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		日本探究特別講義B／（中世文学から見る他者論）					
教員名		立木 宏哉					
科目No.	125235110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 日本思想史の研究では、神仏・死者を捉える際に「冥」という観念を用いることが提案され、定着しだしてきている。 本講義では、文学研究において、どのように「冥」という観念を受け止めていけるのか、日本の中世を中心に、文学作品や歴史史料などの精読を通して考察していく。 レヴィナスなど西洋における「他者」をめぐる思考も参考にしつつ、見ていきたい。							
〔到達目標〕 ・ 古典作品や歴史史料を精読し、その背景にある当時の人々の思考法について知る。 ・ ごく当たり前の現代の考え方を、古典を通して多角的かつ批判的に見る視座を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	・ ガイダンス			適宜		20 分	
第2回	・ 「冥／顕」という視座。レヴィナスの他者論。			・ プリントの下調べ ・ 復習		60 分	
第3回	・ 慈円『愚管抄』、神仏・死者・動物という他者。観音という範型。			同上		60 分	
第4回	・ 「顔」を隠す神。明恵の夢における春日明神。			同上		60 分	
第5回	・ 『春日権現験記絵』。描かれた「神」。神祇の図像。			同上		60 分	
第6回	・ 説話集に見る神。見ることのタブー。			同上		60 分	
第7回	・ もののけ。文学における怪異。			同上		60 分	
第8回	・ 表現としての「他者」。「サスペンス」。恐怖表現。			同上		60 分	
第9回	・ 和歌に見る、神の詠まれ方。和歌を詠む神。西行。			同上		60 分	
第10回	・ 中世歌論に見る「幽玄」。歌の呪力。			同上		60 分	
第11回	・ 中世能楽論に見る「幽玄」。			同上		60 分	
第12回	・ 他者としての動物①。畜生道。			同上		60 分	
第13回	・ 他者としての動物②異類として。			同上		60 分	
第14回	・ まとめ			同上		60 分	
〔授業の方法〕 ・ 講義形式で行う。適宜、発言を求める場合もあるので、答えられるように予習を進めるように。 ・ 授業の終わりにコースパワーを介して、毎回、リアクションペーパーを求める。							
〔成績評価の方法〕 三回のレポート（70点）、平常点（30点）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ①講義内容を踏まえ、
②自らの問題意識によって疑問やテーマを見つけ出し、
③それを自らの言葉で論理的に説明するための意欲・努力がなされているか、
という点を注視し、達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。授業内に適宜、指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
コースパワーを介して受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本美術史A					
教員名		三宅 秀和					
科目No.	125235120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
縄文時代から鎌倉・南北朝時代までの日本美術の流れを概観する。各時代の特色や歴史背景を見るときともに、絵画では屏風、絵巻、掛幅という画面形式についても各1回をあてて、その特徴や、室町時代以降の展開を見る。							
〔到達目標〕							
日本美術史に関する基礎的な知識を修得する。各時代にどのような作品が作られたのか、それらはどのような背景事情があって作られることになったのかということを知り、説明できるようにする。 また、日本の美術作品の見所を知り、鑑賞できるようになることも目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	縄文・弥生・古墳時代 土器や土偶、漆工芸、竹工芸、金属工芸、装身具、古墳壁画などを見る。			予習は縄文・弥生・古墳時代の特質や、この時期の土器や土偶、漆芸品、竹工芸品、金工品、装身具、古墳壁画にいかなるものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分～120分	
第2回	飛鳥・奈良時代（1） 彫刻			予習は飛鳥時代、奈良時代はどのような時代であったかを押さえることと、この時期の彫刻にいかなるものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第3回	飛鳥・奈良時代（2） 絵画			予習は飛鳥時代、奈良時代の絵画にいかなるものがあるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第4回	正倉院宝物			予習は正倉院についておよび正倉院宝物について、また正倉院宝物にいかなるものがあるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第5回	平安時代（1） 彫刻			予習は平安時代はどのような時代であったか、その流れの把握と、この時期の彫刻にいかなるものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分～120分	
第6回	平安時代（2） 密教絵画			予習は密教とは何か、密教の絵画にはいかなるものがあるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第7回	平安時代（3） 唐絵とやまと絵			予習は唐絵とは何か、平安時代のやまと絵とはいかなるものであったか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第8回	平安時代（4） 浄土の美術			予習は平安時代の浄土信仰の様相とこれにかかわる美術はいかなるものがあるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第9回	屏風とその展開			予習は屏風とはどのようなものか、またいかなる作品があるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第10回	絵巻			予習は絵巻とは何か、いかなる作品があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第11回	鎌倉時代（1） 絵巻			予習は鎌倉時代はどのような時代であったかを押さえることと、鎌倉時代の絵巻にどのようなものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第12回	鎌倉時代（2） 彫刻			予習は鎌倉時代の彫刻にいかなる作品があるか。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第13回	肖像画			予習は鎌倉時代から南北朝時代の流れを押さえることと、この時期の肖像画にいかなる作品があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第14回	掛幅			予習は掛幅（掛軸）とはどのようなものであるか、どのような作品があるか、表装ないし表具とは何かを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
〔授業の方法〕							
講義形式で授業を行い、数回的小テストとレポート提出を課す。配布プリントを基に、パワーポイントによるスライドを写して講義内容を詳説する。							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加状況と小テストの平常点とレポートによる総合評価。 ・平常点（授業への参加状況・小テスト）：60％ ・レポート：40％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
以下の判断基準も加える。

- ・日本美術史に関する基礎的知識を修得しているか。
- ・作品についてその様態などを自分の言葉で適切に説明できるか。
- ・自分の考えを述べることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は、日本の歴史の流れ。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1,900 円＋税、ISBN：4568400651
・『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』山下裕二・高岸輝監修、美術出版社、2,800 円＋税、ISBN：978-4568389074
※予習・復習用として挙げるが、他の図書などで学習できるようなら、いずれも購入の必要なし

〔参考書〕
各社の日本美術全集

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本美術史B					
教員名		三宅 秀和					
科目No.	125235130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
鎌倉時代の水墨画受容から江戸時代の末に至るまでの日本美術の流れを、中国および西洋からの影響とその日本化の様相を軸として、絵画を中心に概観する。各時代の特色とともに、歴史的背景も見る。							
〔到達目標〕							
日本美術史に関する基礎的な知識を修得する。各時代にどのような作品が作られたのか、それらはどのような背景事情があって作られることになったのかというところを知り、説明できるようになる。 また、日本の美術作品の見所を知り、鑑賞できるようになることも目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	唐物趣味と宋元画 中国美術（唐物）に対する憧憬とその収集、鑑賞の様相			予習は唐物とは何か、宋元画とは何か、どのような作品があるかを調べること。また南北朝時代、室町時代はどのような時代でどのような流れがあるのかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分～120分	
第2回	初期水墨画の展開 黙庵、可翁から明兆にいたる初期水墨画について			予習は水墨画とは何か、黙庵、可翁、明兆はどのような人物で彼らの作品にはどのようなものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第3回	如拙・周文と詩画軸 詩画軸の流行と如拙、周文について			予習は詩画軸とは何か、如拙、周文とはどのような人物で彼らの作品にはどのようなものがあるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第4回	雪舟・雪村と戦国画壇			予習は雪舟、雪村とはどのような人物で、どのような作品があるか、また戦国時代には他にどのような画家がいるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		90分	
第5回	土佐派と狩野派 やまと絵の系譜と土佐光信、土佐光茂、および狩野正信・狩野元信について			予習は土佐派、狩野派とはどのような存在か、土佐光信・光茂、狩野正信、元信にはどのような作品があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第6回	狩野永徳と桃山絵画 狩野永徳と狩野山楽、長谷川等伯、海北友松、雲谷等願について			予習は安土桃山時代はどのような時代か、狩野永徳、狩野山楽、長谷川等伯、海北友松、雲谷等願はどのような人々で作品に何があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		90分	
第7回	洛中洛外図と南蛮屏風 洛中洛外図、南蛮屏風を中心とする近世初期の風俗画について			予習は洛中洛外図と南蛮屏風はどのような作品か、どのような作例があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第8回	狩野探幽と江戸狩野 江戸狩野様式を創造した、江戸幕府御用絵師の狩野探幽について			予習は江戸時代はどのような時代か、流れを押さえ、狩野探幽とはどのような人物で作品には何があるかを調べること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第9回	障壁画 多様な障壁画を紹介し、それぞれの特質を見る。			予習は障壁画とはどのような作品かを調べ、どのような作例があるかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第10回	琳派の絵画 本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳と、酒井抱一から続く江戸琳派について			予習は琳派とは何かを調べ、光悦、宗達、光琳、抱一と鈴木其一の作品に何があるかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第11回	大雅、蕪村と文人画 日本の文人画と、池大雅、与謝蕪村らについて			予習は文人と文人画とは何かを調べ、日本の文人画にはどのような人々がいるか、また彼らの作品に何があるかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第12回	円山応挙の写生画と「奇想の画家」 円山応挙の写生画と伊藤若冲、曾我蕭白、長沢芦雪について			予習は沈南嶺と、円山応挙、伊藤若冲、曾我蕭白、長沢芦雪がどのような人々か、作品に何があるかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第13回	浮世絵の流れ 浮世絵の成立から鈴木春信による錦絵の誕生、清長、歌麿、写楽、北斎、広重、国芳に至る浮世絵の流れ			予習は浮世絵とは何かと、浮世絵の展開の概略を押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
第14回	秋田蘭画と洋風画 秋田蘭画と司馬江漢、亜欧堂田善らによる洋風画について			予習は洋風画とは何か、秋田蘭画とは何か、秋田蘭画および洋風画の画家たちの作品に何があるかを押さえること。復習は授業内容と各自の関心に基づいての発展。		60分	
〔授業の方法〕							
講義形式で授業を行い、数回的小テストとレポート提出を課す。配布プリントを基に、パワーポイントによるスライドを写して講義内容を詳説する。							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加状況と小テストの平常点とレポートによる総合評価。 ・平常点（授業への参加状況・小テスト）：60％ ・レポート：40％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
以下の判断基準も加える。

- ・日本美術史に関する基礎的知識を修得しているか。
- ・作品についてその様態などを自分の言葉で適切に説明できるか。
- ・自分の考えを述べることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は、日本の歴史の流れ。

〔テキスト〕

- ・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1,900 円＋税、ISBN：4568400651
- ・『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』山下裕二・高岸輝監修、美術出版社、2,800 円＋税、ISBN：978-4568389074

※予習・復習用として挙げるが、他の図書などで学習できるようなら、いずれも購入の必要なし

〔参考書〕

各社の日本美術全集

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本民俗学A					
教員名		山崎 祐子					
科目No.	125235140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼、民間信仰、口承文芸などを取り上げる。それらを異界という概念で読み解き、私たちの祖先が、生命をどのように考えていたのかをさぐる。すでに行われなくなった民俗ばかりではなく、現代の身近な事象も取り上げる。資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説などを幅広く用いる。							
〔到達目標〕							
基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や辞典の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。民俗、昔話についての概説を行う。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 2 回	衣食住（住居） 民家における晴と葵の空間認識を考察する。民家を例に共同体のあり方を学び、身体尺の考え方、間取り図の読み方の基礎を学ぶ。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 3 回	衣食住（自給自足の暮らし方） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を知る。いわゆるスローフードや食の伝統にちいて考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 4 回	衣食住（食生活） 各地の事例を紹介し、主食について考察しする。スシを例に発酵食品と主食の関係を学ぶ。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 5 回	通過儀礼（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 6 回	通過儀礼（結婚） 結婚の形態を学び、嫁入婚の儀礼と葬送儀礼の類似点を考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 7 回	通過儀礼（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を学び、「祖霊」について考察する。「間引き絵馬」を例に、資料の読み方を学ぶ。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 8 回	異界をのぞく（幽霊と妖怪） 柳田國男の「妖怪談義」を読み、柳田の妖怪の考え方を学び、「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているか考察する			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 9 回	異界をのぞく（祈願） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、現代の不安と民俗について考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 1 0 回	異界をのぞく（伝説） 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 1 1 回	異界をのぞく（都市伝説） 学校の怪談や都市伝説を資料として、現代の不安について考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 1 2 回	異界をのぞく（遠野物語） 柳田国男の「遠野物語」を山と女性という視点で読む			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 1 3 回	異界をのぞく（狐の伝承） 「狐の窓」「や多摩ニュータウンの狐話を例に、狐に関わる伝承を考察する。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
第 1 4 回	まとめ 到達度確認テストと解説。重要語彙の復習。			授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。学期途中で、ミニ課題を課す。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト（配布プリントと自筆ノートの持ち込み可）60 パーセント、平常点（中間課題含む）40 パーセントとし、総合的に評価をする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に専門知識を必要とはしていない。
〔テキスト〕 使用しない。毎回、資料のプリントを配信する。
〔参考書〕 配布資料に記載するほか、適宜指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業の前後で対応する。
〔特記事項〕

科目名		日本民俗学B					
教員名		山崎 祐子					
科目No.	125235150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げ、一年の暮らしのリズムがどのように組み立てられていたのかを考察する。							
〔到達目標〕 太陰太陽暦の仕組みを理解し、年中行事や祭礼に関する民俗学の理論を理解する。民俗芸能の基本的な学術語彙を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や辞典の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。太陰太陽暦と季節感の考え方の基礎を解説する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 2 回	太陰太陽暦の構造 自然暦の考え方、太陰太陽暦の仕組み、近世の大小暦の基礎知識を学ぶ。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 3 回	年中行事 1 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や昔話を資料とし、正月について考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 4 回	年中行事 2 正月・小正月の具体的な行事、および豪雪地帯の冬の生活について映像資料を視聴し、年神を迎える意味や予祝儀礼について考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 5 回	年中行事 3 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗の事例を知り、盆行事について考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 6 回	年中行事 4 年中行事の基礎知識を学ぶ。端午の節供を例に、地方の年中行事にまつわる贈答について考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 7 回	民俗芸能 1 民俗芸能の基本事項を概説し、続けて備中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置を、依代について考察する。			重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。		60 分	
第 8 回	民俗芸能 2 三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能を支える伝承母体について考察する。			重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。		60 分	
第 9 回	民俗芸能 3 西浦田楽の映像を視聴し、民俗芸能の重要な学術語彙を復習する。			重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。		60 分	
第 1 0 回	年中行事 5 成人儀礼に関わる年中行事を例に、日本の民俗では成人をどう考えてきたかを考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 1 1 回	年中行事 7 秩父地方の子どもが中心になっておこなう年中行事の映像を視聴し、年中行事の教育としての意味を考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 1 2 回	年中行事 7 『東都歳事記』などを資料として、各地の事例と比較しつつ江戸の正月について学ぶ。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 1 3 回	東日本大震災の復興を無形民俗文化財の面から考察する。災害や開発によって、景観や自然が変わることが無形民俗文化財にどのような影響をあたえたかについて考察する。			重要語句の復習をする。		60 分	
第 1 4 回	まとめ 到達度確認テストと解説を行う。			重要語句の復習をする。		60 分	
〔授業の方法〕 講義形式で行う。学期の途中、課題（ワークシート）を課す。これは、第 7 回から 9 回の映像を視聴してまとめるものを予定している。							
〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト 60 パーセント、平常点（学期の途中に提出する課題 1 回を含む）40 パーセントとし、総合的に評価をする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 テキストは使用しないが、毎回、授業で用いる資料のプリントを配布する。
〔参考書〕 プリントに記載する。必要に応じて授業時に指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業の前後に「教室で対応する。
〔特記事項〕

科目名		日本の文学と思想					
教員名		立木 宏哉					
科目No.	125235160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、中世日本で人々がどのような「思想」をもって生活していたのか、文学作品や歴史史料などに描かれた人の営みに着目し、これを精読することでさぐる。 テーマを設定し、代表的な古典作品を通して、その「思想」を辿っていく。大きな柱として「死」というテーマで読み取っていきたい。 なお、本講義では日本の「中世」をおよそ院政期ころから戦国期ころまでとする。							
〔到達目標〕							
・ 古典作品や歴史史料を精読し、その背景にある当時の「思想」について知る。 ・ ごく当たり前の現代の考え方を、古典を通して多角的かつ批判的に見る視座を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・ ガイダンス			適宜		20 分	
第 2 回	・ 西行① 臨終をめぐる和歌			・ プリントの下調べ ・ 復習		60 分	
第 3 回	・ 西行② 葬送地をめぐる和歌			同上		60 分	
第 4 回	・ 『方丈記』① 五大災厄			同上		60 分	
第 5 回	・ 『方丈記』② 養和の飢饉			同上		60 分	
第 6 回	・ 説話①『宝物集』 仏教的枠組みにおける「死苦」			同上		60 分	
第 7 回	・ 説話②『発心集』 入水往生譚			同上		60 分	
第 8 回	・ 慈円 怨霊観、『六道釈』			同上		60 分	
第 9 回	・ 『平家物語』① 建礼門院の大原入り			同上		60 分	
第 1 0 回	・ 『平家物語』② 六道語り			同上		60 分	
第 1 1 回	・ 謡曲『敦盛』 夢幻能			同上		60 分	
第 1 2 回	・ 法然の念仏思想			同上		60 分	
第 1 3 回	・ 仮名法語と『徒然草』			同上		60 分	
第 1 4 回	・ まとめ			同上		60 分	
〔授業の方法〕							
・ 講義形式で行う。適宜、発言を求める場合もあるので、答えられるように予習を進めるように。 ・ 授業の終わりにコースパワーを介して、毎回、リアクションペーパーを求める。							
〔成績評価の方法〕							
三回のレポート（70 点）、平常点（30 点）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ①講義内容を踏まえ、
②自らの問題意識によって疑問やテーマを見つけ出し、
③それを自らの言葉で論理的に説明するための意欲・努力がなされているか、
という点を注視し、達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。授業内に適宜、指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
コースパワーを介して受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		日本演劇史					
教員名		牧 藍子					
科目No.	125235170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
古典芸能として現代まで伝承・上演され、現代の演劇や文化にも大きな影響を与えている能・狂言・人形浄瑠璃（文楽）・歌舞伎について、その歴史的展開と芸能としての特色を考察するとともに、現代における舞台鑑賞の視点を身につける。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・諸芸能の成立と展開について概要を説明できる。 ・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解する。 ・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス 翁猿楽			シラバスを読んでおく。 配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		30	
第2回	能① 能の歴史			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第3回	能② 能の舞台と表現			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第4回	能③ 鑑賞			指定の課題を行う。		60	
第5回	狂言① 狂言の歴史			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第6回	狂言② 狂言の舞台と表現			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第7回	狂言③ 鑑賞			指定の課題を行う。		60	
第8回	人形浄瑠璃① 人形浄瑠璃の歴史			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第9回	人形浄瑠璃② 人形浄瑠璃の舞台と表現			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第10回	人形浄瑠璃③ 鑑賞			指定の課題を行う。		60	
第11回	歌舞伎① 歌舞伎の歴史			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第12回	歌舞伎② 歌舞伎の舞台と表現			配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。		60	
第13回	歌舞伎③ 鑑賞			指定の課題を行う。		60	
第14回	まとめ			これまでの学修内容を確認しておく。		60～	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。 作品鑑賞の回には小レポートを課す。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況・小レポート等）50%、課題レポート（あるいは到達度確認テスト）50%による総合評価							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ・諸芸能の成立と展開について概要を説明できるか。 ・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解しているか。 ・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につけられたか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 資料を配布する。
〔参考書〕 授業内で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		物語と絵画					
教員名		木谷 眞理子					
科目No.	125235180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
テーマは〈絵巻〉です。 絵巻は、横に長い長い巻物に、文章と絵で物語を表したものです。現代人にとってはあまりなじみがないかもしれませんが、高畑勲氏の名著『十二世紀のアニメーション—国宝絵巻物に見る映画的・アニメ的なもの』（徳間書店、1999 年）のタイトルが語っているように、絵巻は映画やアニメにも通じる特徴を持っている、非常に魅力的な表現媒体なのです。 この授業では、絵巻の名作を複数取り上げて、絵巻という表現媒体の特徴や、物語の絵画化の手法について、丁寧に見ていきます。							
〔到達目標〕							
D P 1【専門分野の知識・技能】、D P 2【教養の修得】、D P 3【課題の発見と解決】、D P 4【表現力、発信力】を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。							
① 絵巻にかんする基本的な知識を有している。							
② 絵巻という表現媒体の特徴について、具体例を挙げて説明することができる。							
③ 物語の絵画化の手法について、具体例を挙げて説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス 絵巻の基礎			授業の進め方を確認する。		60	
第 2 回	絵因果経			指定された課題を行う。		60	
第 3 回	源氏物語絵巻			指定された課題を行う。		60	
第 4 回	春日権現験記絵			指定された課題を行う。		60	
第 5 回	信貴山縁起絵巻①			指定された課題を行う。		60	
第 6 回	信貴山縁起絵巻②			指定された課題を行う。		60	
第 7 回	信貴山縁起絵巻③			指定された課題を行う。		60	
第 8 回	信貴山縁起絵巻④			指定された課題を行う。		60	
第 9 回	信貴山縁起絵巻⑤			指定された課題を行う。		60	
第 1 0 回	人間と神仏の出会い			指定された課題を行う。		60	
第 1 1 回	ワンシーン・ワンカット			指定された課題を行う。		60	
第 1 2 回	伴大納言絵巻①			指定された課題を行う。		60	
第 1 3 回	伴大納言絵巻②			指定された課題を行う。		60	
第 1 4 回	伴大納言絵巻③			指定された課題を行う。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で進めていきますが、毎回、課題を出します。							
〔成績評価の方法〕							
授業時の課題を 40%、レポート（CoursePower から提出）を 60%、の割合で評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① 絵巻にかんする基本的な知識を有しているか。
- ② 絵巻という表現媒体の特徴について、具体例を挙げて説明することができるか。
- ③ 物語の絵画化の手法について、具体例を挙げて説明することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布しますので、購入の必要はありません。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		貴族社会の暮らしと文学					
教員名		桜井 宏徳					
科目No.	125235190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 平安時代の文学を学ぶための前提となる、貴族たちの暮らしについての基礎知識を身につけるための授業です。千年の昔、平安京という都市に生きた貴族たちの衣・食・住を中心とした生活について、また、誕生から死までのライフサイクルについて、さまざまな文学テキストの描写を具体例として取り上げながら学んでゆきます。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の2点を到達目標とします。 ① 平安時代の文学を理解するために不可欠な、平安貴族の暮らしについての基礎知識を身につける。 ② 平安時代の文学テキストを読んで、そこに描かれた貴族の暮らしの様子を具体的にイメージすることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	「貴族社会の暮らしと文学」概説（ガイダンスを含む）			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第2回	平安京・大内裏			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第3回	住宅・庭園			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第4回	調度			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第5回	乗り物			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第6回	衣服			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第7回	食事 / 終了後にレポートあり			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。 〔課題〕提示された課題に取り組み、期限までに提出する。		120	
第8回	音楽・楽器			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第9回	遊戯・娯楽			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第10回	信仰・俗信			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第11回	懐妊・出産			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第12回	恋愛・結婚			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。		60	
第13回	死・葬送 / 終了後にレポートあり			〔復習〕配布されたプリントを熟読し、ノートも併用して授業内容を確実に習得しておく。 〔課題〕提示された課題に取り組み、期限までに提出する。		120	
第14回	授業のまとめ（課題の解説など）			〔復習〕これまでに配布された資料を見直し、授業で得た知識を確かなものにする。		120	
〔授業の方法〕 講義形式で行います。 なお、新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、対面授業が不可能になった場合は、Zoomを用いてリアルタイムのオンライン授業を行います。 2回のレポートでは、これまでの授業内容がきちんと理解できているかどうか、定着の度合いを確認します。							
〔成績評価の方法〕 レポート（80％）と平常点（20％）によって評価します。 レポートは、第7回・第13回の終了後にそれぞれ課す記述式の課題（各40％・計80％）の合計点によります。課題は、それまでの授業で学んだことが身についているかどうか、基礎知識を確認する内容にする予定です。なお、レポートが1回でも未提出の場合、単位の取得は認められません。 平常点は、リアクションペーパーの提出など、授業への参加度によって評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。
〔テキスト〕 特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。また、ビジュアル資料を多用します。
〔参考書〕 池田亀鑑『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫）（筑摩書房、2012 年） 秋山虔・小町谷照彦 編／須貝稔 作図『源氏物語図典』（小学館、1997 年） 五島邦治 監修／風俗博物館 編集『源氏物語 六條院の生活』改訂版（青幻舎、1999 年） その他、授業時に適宜紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	日本語表現の特質（文字表現）						
教員名	久保田 篤						
科目No.	125236120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 日本語は、世界の言語のなかでも、文字・表記が特殊であるとしばしば指摘されます。一般的な文章において、漢字、平仮名、片仮名、ローマ字、アラビア数字と、5種類もの文字が使用されるという、文字の種類が多い点も、特殊性の一つです、そのため、正書法を定めることが困難なのですが、文章表記に選択の余地があって、用字や表記でも個性を発揮できるという面もあります。特に、漢字に関する選択が多く、漢字関連の専門的な事項を知ることによって、個性的な文章表記を、意識的に行えると言えます。この授業で漢字の高度な知識を身に付け、文字を活用した文章表現すなわち文章の見た目の工夫にも注意を払うようになってもらいたいと思います。 授業では、漢字の書体、旧字体・新字体、音読み・訓読み、国字（和製漢字）、漢字制限およびそれに伴う書き換え、送り仮名の問題等について、解説を行います。送り仮名については、現代表記のきまりである「送り仮名の付け方」に関する詳しい解説もします。また、これらの説明を理解した上で、例えば書体については、印鑑など篆書で、また新聞の題字など隷書で示すことが、どのような印象をもたらすか、また以下のような選択が可能であることが、どのような印象に繋がるかなどについて、考えてみたいします。「尽くす」か「盡くす」か（旧字体・新字体）、「歌う」か「唄う」か「詠う」か「謳う」か（表外字・表外訓）、「のれん」か「暖簾」か「簾」か（唐音由来の語の漢字表記・当て字）、「面影」か「俤」か（国字）、「収集」か「蒐集」か（同音の漢字による書きかえ）、「浮かぶ」か「浮ぶ」か（送り仮名の許容）など。毎回、表外音訓の読み、表外字の読み書き、国字の読み書き、旧字体と新字体との対応、書き換えの定着した熟語と本来の用字、送り仮名などに関する、やや高度な練習問題を解いて、漢字能力を高めてもらったりもします。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、4（表現力・発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①漢字に関する高度な知識を学び、日本語の文字・表記の専門的な分析を行うことができる。 ②現代日本語の表記の決まりについて深く理解し、説明することができる。 ③難易度の高い漢字の読み書き能力を身につけ、それを活用した表現ができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業の概要の説明 漢字の知識の確認 漢字の読み書き能力の確認			漢字について知りたい事項を考える。		30	
第2回	書体の変遷（1） ・契文 ・金文 ・篆書 表外音訓の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第3回	書体の変遷（2） ・隷書 ・楷書・草書・行書等 六書について（1） 表外音訓の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第4回	六書について（2） 国字の造字法 国字の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第5回	旧字体・新字体 国字・旧字体の練習問題 表外訓の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第6回	旧字体・新字体と部首 部首名について 字体の練習問題 表外字の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第7回	漢字の音読み（1） ・漢字音の構造 ・漢語の印象 音読みの練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第8回	漢字の音読み（2） ・呉音・漢音・唐音等 ・唐音を用いた漢語 表外字の練習問題			練習問題の復習を行う。		90	
第9回	漢字の訓読み（1） 表外字（訓読み）の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第10回	漢字の訓読み（2） 「送り仮名の付け方」解説（1） ・本則と例外 表外字・表外訓の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第11回	「送り仮名の付け方」解説（2） ・不変化語尾のある場合 送り仮名の練習問題			練習問題の復習を行う。		60	
第12回	「送り仮名の付け方」解説（3） ・副用語の送り仮名 漢字制限の歴史 表外字の書きかえ（1） 書きかえの練習問題			練習問題の復習を行う。		80	

第 1 3 回	表外字の書きかえ（2） ・「同音の漢字による書きかえ」 書きかえの練習問題 レポート作成のための相談	レポート提出の準備をする。	120
第 1 4 回	レポート作成のための相談 レポート提出	レポートを作成する。	120
〔授業の方法〕 授業の前半では講義を行い、後半では漢字に関する練習問題を考えてもらう。練習問題については適宜解説も加える。また、練習問題の復習を毎回提出してもらう。			
〔成績評価の方法〕 レポート（50%）、練習問題への取り組みや宿題提出など授業への積極的な参加（50%）、による総合評価。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 ①漢字に関する専門的な知識を身につけ、その内容を的確に説明できる。 ②現代日本語の表記の決まりを十分に理解し、分かりやすく説明できる。 ③難易度の高い漢字の読み書き能力を会得し、活用することができる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		国際関係論入門					
教員名		川村 陶子					
科目No.	125331100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野についての概説を行う。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、実際のニュースや国際問題を取り上げながら解説する。 国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として 20 世紀に確立した新しい学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。 *授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。 ①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めること。 ②現代の国際関係、国際社会の歴史的变化を、自分なりに分析し考察できるようになること。 ③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。			シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分もっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。		60	
第 2 回	国際社会をとらえる基礎概念（1） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 3 回	国際社会をとらえる基礎概念（2） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 4 回	国際関係をとらえる基礎概念（3） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 5 回	国際社会のとらえかた（1） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のダイレンマといった鍵概念への理解を深める。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 6 回	国際社会のとらえかた（2） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 7 回	国際社会のとらえかた（3） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 8 回	国際関係のマネジメント（1） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 9 回	国際関係のマネジメント（2） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 10 回	国際関係のマネジメント（3） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 11 回	国際関係の制度化（1） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 12 回	国際関係の制度化（2） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 13 回	国際関係研究の拡大 今日の国際社会の現状、新たな動向を整理するとともに、そうした展開をふまえた国際関係研究の広がりを確認する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	

第 1 4 回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修を総括し、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120
〔授業の方法〕 講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。 毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。 授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。 受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。			
〔成績評価の方法〕 平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（CoursePower で提出）30%をめやすに総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 以下の点に着目し、その達成度により評価する。 ①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深める。 ②現代の国際関係、国際社会の歴史的变化を、自分なりに分析し考察できるようになる。 ③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず、自主的な学修を推奨する。 関連科目：平和学、国際文化論、国際政治経済学等			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2010 年。 村田晃司ほか編『国際政治学をつかむ』（新版）、有斐閣、2015 年。 ほか、開講時および授業中に随時紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		平和学入門					
教員名		墓田 桂					
科目No.	125331110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
【平和と安全はどのように維持できるかー安全保障の多面的考察】 「平和」とはどのような状態を指すのだろうか？誰が、どのように維持しているのだろうか？混沌とした国際情勢にあって、「国際の平和と安全」を維持する目的で作られた国連は今でも有効だろうか？国連が機能不全にあるとしたら、誰がどのように平和を担うことになるのか？ この授業では、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。より具体的には、平和と安全の多様な担い手の活動に着目するとともに、平和と安全保障の個別の課題を検証する。安全保障の前提にある脅威認識について触れながら、集団防衛を含めた安全保障の方法論を考えてみたい。 なお、担当教員は外務省（専門調査員、外務事務官）および法務省（難民審査参与員）での実務経験を有する。保秘義務に反しない範囲で、実務経験に基づく知見を授業内で共有する機会を設けたい。 （おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）							
〔到達目標〕							
DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現し、特に DP1-1「国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる」ようにするため、下記を到達目標とする。							
☐ 国際関係を巨視的な観点で考えることができる。							
☐ 現代世界が直面する諸問題を理解できる。							
☐ 国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ーこの授業で学ぶこと			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 2 回	変動する国際環境 ーVUCA の時代			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 3 回	世界をどう捉えるか ーアクターとアプローチ			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 4 回	脅威の認識			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 5 回	さまざまな戦争の形			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 6 回	安全保障の方法論			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 7 回	国連を通じた平和の実現とその限界			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 8 回	集団防衛を通じた平和と安全ーNATO と日米安保			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 9 回	平和構築の取り組み			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 1 0 回	平和構築と移行期正義			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 1 1 回	武力紛争と人々の保護			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 1 2 回	インド太平洋時代の平和と繁栄 ー世界と日本			授業に関連する事項を予習する。		90	
第 1 3 回	到達度確認テスト			これまでの授業で学んだ事項を復習する。		※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。	
第 1 4 回	まとめ			これまでの授業で学んだ事項を復習する。		90	
〔授業の方法〕							
講義形式。関連した映像資料を見ることもある。なお、おおむね上記の授業計画で進めるつもりだが、変更する可能性もある。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目はなし。（※予備知識がなくとも、国際情勢への関心があれば授業についていくことは可能です。）
〔テキスト〕 特に指定しません。
〔参考書〕 授業中に配布するレジュメの中で提示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	国際文化論						
教員名	川村 陶子						
科目No.	125331120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容にとくに注意を払う。各トピックに関する主要な研究動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することを目指したい。 授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かす力をもっていることを意識できるようになればと考えている。 *授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整・変更する可能性がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。 ①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむこと。 ②国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広く身近なものとして考えられるようになること。 ③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	（以下のような流れで進める予定である。受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。） イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。			シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分も持っている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。		60	
第2回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第3回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第4回	文化からみる国際関係（1） 国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第5回	文化からみる国際関係（2） 文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第6回	文化からみる国際関係（3） 文化的境界に沿った対立・衝突 20世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第7回	文化からみる国際関係（4） グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第8回	文化からみる国際関係（5） 負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第9回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（1） 国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第10回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（2） 国際関係の文化的運営の歴史的展開・1 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第11回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（3） 国際関係の文化的運営の歴史・2 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第12回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（4） グローバル化時代の国際文化関係運営 ポスト冷戦期における国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介するとともに、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。			ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	

第 1 3 回	国際文化関係の現在 今日の世界において、とりわけコロナ禍との関連で、文化でみる国際関係、文化でつくる／文化がつくる国際関係がどのように展開しつつあるか、その現状と展望を整理する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第 1 4 回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120
〔授業の方法〕 講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。 毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。 授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。 受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。			
〔成績評価の方法〕 平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、レポート（学期末に CoursePower で提出）20%をめぐりに総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 以下の点に着目し、その到達度により評価する。 ①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりや概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむ。 ②国際関係を、幅広く身近なものとして考えられるようになる。 ③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。 講義は現代史の知識を前提とした内容になる。高校での関連科目選択の有無にかかわらず、自主的な学修を行うことが望ましい。 本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用いて			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。 以下は一般的な国際関係論（国際政治学）のテキストとハンドブックである。本講義とは内容を異にするが、講義内容の理解を深めるための参考として勉強を奨めたい。 村田晃司ほか『国際政治学をつかむ』（新版）有斐閣、2015 年。 ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争一理論と歴史 原書第 9 版』有斐閣、2013 年。 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』〔新版〕有斐閣ブックス、			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		国際政治経済学					
教員名		須田 祐子					
科目No.	125331130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。							
〔到達目標〕							
政治と経済の相互作用について国際的文脈から学び、グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題について考察できるようになるとともに、国際政治経済を律する取り決めが国内に（しかも意外に身近なところに）どのような影響を及ぼしているのか説明できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第2回	モノの移動 国際貿易を律するグローバルな枠組みである G A T T と世界貿易機関（W T O）の歴史的展開と現在の課題について解説する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第3回	T R I P S と医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（T R I P S）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第4回	サービスの移動 サービス貿易一般協定（G A T S）について通信分野と放送分野に焦点をあてて解説する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第5回	情報の移動 デジタルデバイド（情報格差）やインターネット資源の管理など情報通信をめぐる政治と経済の問題を概観する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第6回	人の移動 G A T S と「人の移動」、F T A ・ E P A による労働力移動の自由化について解説する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第7回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。課題に取り組む。		90	
第8回	オゾン層保護と気候変動対策 オゾン層と地球温暖化に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第9回	有害物質の管理 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第10回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		60	
第11回	遺伝資源 遺伝資源、特に植物遺伝資源をめぐる政治と経済について学習する。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。課題で間違えた箇所があればしっかり確認する。		60	
第12回	認証と資源管理 森林管理協議会（F S C）と海洋管理協議会（M S C）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。課題に取り組む。		60	
第13回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的取り決めがどのように発展してきたのかを考える。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。		90	
第14回	たばことアルコール たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。			授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。課題で間違えた箇所があればしっかり確認する。		60	
〔授業の方法〕							
授業は対面で実施する。毎回、シラバスを配布する。授業では、まず講義を聴き、最後に授業内課題に取り組む。授業内課題では、講義の内容をどの程度理解しているのかを評価する。							
〔成績評価の方法〕							
授業内課題（70%） 理解度確認テスト（30%）							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。期末試験では、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名	国際協力論						
教員名	小峯 茂嗣						
科目No.	125331140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 一国では解決できない問題の解決や低減について、国境を越えて取り組む行動の総称である国際協力は、開発、環境、自然保護、安全保障、経済、人権保護、保健衛生、人道支援といった様々な課題のものがある。またそれらに取り組むアクターも、国連その他の国際機関、政府や政府系援助機関、民間企業、NGO/NPOといったグローバルな市民社会など多様である。方法もまた多様であり、たとえば途上国において直接的な支援活動等を行うものから、貧困や環境といった国際的な問題について広く関心を喚起する取り組みや、政策提言によって市民社会が各国政府を動かすという取り組みもある。この授業は国際協力の概論として、これらの具体的な課題やアクター、その方法論について講義を行う。							
〔到達目標〕 国際協力の諸課題と、様々なアクターがどのような方法でその解決や低減に取り組んでいるかを理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション-授業の概要と進め方について			シラバスを確認しておくこと。		15 分	
第2回	国際開発協力（1）-第二次世界大戦後の国際開発協力の沿革 ・反共政策としての戦後復興支援計画 ・植民地独立後の開発協力 ・経済開発から社会開発、参加型開発へ			事前に配布する資料の熟読。		60	
第3回	国際開発協力（2）-ミレニアム開発目標（MDGs）／持続可能な開発目標（SDGs） ・国連ミレニアムサミットと MDGs ・MDGs の評価と SDGs			事前に配布する資料の熟読。		60	
第4回	国際開発協力（3）-ソーシャルビジネス、BoP（貧困層）ビジネス ・ソーシャルビジネス、BoP ビジネスという概念 ・グラミン銀行 ・ソーシャルビジネス、BoP ビジネスの製品・サービスの具体例 ・（株）日本ポリグルの水質浄化剤とその国際展開の事例			事前に配布する資料の熟読。		60	
第5回	国際協力活動事例報告（1）			事前に配布する資料の熟読。		60	
第6回	国際平和協力（1）-冷戦と国連の紛争解決 ・国連による紛争の平和的解決制度 ・平和維持活動（PKO）の誕生と発展			事前に配布する資料の熟読。		60	
第7回	国際平和協力（2）-冷戦後の武力紛争と国際平和協力の変容 ・冷戦の終結 ・局地的武力紛争頻発の背景 ・国連事務総長報告「平和への課題」 ・開発援助機関が取り組む平和構築の課題 ・冷戦後の紛争事例（カンボジア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルワンダ、コソボ、東ティモール、アフガニスタン、シリア、イラク 等）			事前に配布する資料の熟読。		60	
第8回	国際協力活動事例報告（2）			事前に配布する資料の熟読。		60	
第9回	国際平和協力（3）-国連平和維持活動（PKO） ・冷戦後の PKO の変容 ・文民保護、「保護する責任（R2P）」 ・南スーダン PKO の事例			事前に配布する資料の熟読。		60	
第10回	国際平和協力（4）-シリア内戦と難民問題 ・シリア内戦の背景 ・シリア難民が置かれている状況 ・難民支援の実情と課題			事前に配布する資料の熟読。		60	
第11回	国際平和協力（5）-人命救助は平和をつくるのか？ ・国際人道支援の沿革 ・国際人道支援と平和構築 ・国際人道支援の今後の課題			事前に配布する資料の熟読。		60	
第12回	国際平和協力（6）-暴力を経た社会における「和解」 ・ルワンダのジェノサイド ・正義と和解 ・ガチャチャ裁判			事前に配布する資料の熟読。		60	
第13回	国際平和協力（7）-武力紛争と子ども兵士問題 ・子どもが紛争に動員される背景 ・紛争が子ども兵士に与える心身への影響 ・子ども兵士の社会復帰の問題			事前に配布する資料の熟読。		60	

第 1 4 回	国際平和協力（8）—紛争鉱物とその取り締まり ・天然資源が紛争を助長する構造 ・紛争ダイヤモンド問題の事例 ・資源を通じて先進国と紛争国の関係の理解を深める	事前に配布する資料の熟読。	60
[授業の方法] 講義を中心に行うが、グループディスカッション（5～6 人で一組）などによる参加型・双方向の授業にも重点を置く。このような形態に馴染めない、または積極的に取り組めない者は、履修しないことをすすめる。 理解を深めるために、資料映像等も使用していく。 2 回程度の宿題を課する。内容に関して疑問に思ったことを「問い」として立て、それについての答えを文献資料等の調査を踏まえて論ずる。			
[成績評価の方法] 平常点、2 回の宿題、期末レポートにより、評価する。 評価項目ごとの評価割合（％）は、平常点（30％）、2 回の宿題の提出（20％）、期末レポート（50％）。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 配点は、平常点（30 点）、2 回の宿題の提出（20 点）、期末レポート（50 点）。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] ●関連科目：平和学			
[テキスト] 特になし。			
[参考書] 授業中に提示する。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] 授業終了後に教室で受け付ける。			
[特記事項]			

科目名		国際関係論特講A					
教員名							
科目No.	125331150	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		国際関係論特講B					
教員名		上原 史子					
科目No.	125331160	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義ではヨーロッパの現状を理解するために EC の誕生から現在までのヨーロッパ統合の歩みを概観するとともに、Covid-19 禍の EU が抱えている外交、経済社会問題、政治文化問題、Brexit 問題の行方等を広く学ぶことを目標とする。 その際、リージョナリズムの一例としてのヨーロッパ統合が直面している安全保障や地球環境といった諸問題、SDG s に関連する EU 諸政策、ヨーロッパの地域統合のアジアへの応用可能性についても受講生の皆さんと議論する予定。							
〔到達目標〕 2021 年はアメリカの政権交代から始まり、ヨーロッパでも政権交代の可能性が高い。したがってヨーロッパの現状を正しく理解し、21 世紀世界の行方を考えられる力を身に着けることが当授業の目標である。 また、Covid-19 パンデミックというアクシデントを受けて、ヨーロッパでは Covid-19 からの復興と気候変動・エネルギー安全保障政策の改革が進められている。日本の Covid-19 からの復興に有用な政策もみられることから、次世代を担う皆さんもその実態を知り、日本の将来あるべき姿についてしっかり考えられるよう							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：本講義のねらい、文献などの説明、受講上の留意点等			国際情勢をニュースで把握しておく。		60	
第 2 回	Covid-19 とヨーロッパ			前回授業での課題解決と復習		70	
第 3 回	ヨーロッパ統合前史 1：二つの世界大戦とヨーロッパ			前回授業での課題解決と復習		80	
第 4 回	ヨーロッパ統合前史 2：ヨーロッパにおける平和模索			前回授業での課題解決と復習		80	
第 5 回	ヨーロッパ統合史 1：戦後復興と ECSC の誕生			前回授業での課題解決と復習		80	
第 6 回	ヨーロッパ統合史 2：ヨーロッパの協調と対立			前回授業での課題解決と復習		80	
第 7 回	ヨーロッパ統合の深化と拡大 1：ECSC から EC へ			前回授業での課題解決と復習		80	
第 8 回	ヨーロッパ統合の深化と拡大 2：1970 年代から 1990 年代までの加盟国の増加			前回授業での課題解決と復習		80	
第 9 回	ヨーロッパ統合の深化と拡大 3：EC から EU へ			前回授業での課題解決と復習		80	
第 1 0 回	ヨーロッパ統合の深化と拡大 4：冷戦後の東方拡大・クロアチアの加盟			前回授業での課題解決と復習		80	
第 1 1 回	ヨーロッパ統合の深化と拡大 5：Brexit で EU の縮小が加速？			前回授業での課題解決と復習		80	
第 1 2 回	Covid-19 とヨーロッパ統合 1：世界の気候変動問題とヨーロッパ			前回授業での課題解決と復習		80	
第 1 3 回	Covid-19 とヨーロッパ統合 2：ヨーロッパの Covid-19 からの復興と原子力を含むエネルギー政策の展開			前回授業での課題解決と復習		80	
第 1 4 回	グローバル化とヨーロッパ統合：ヨーロッパ統合の将来とアジア統合の可能性			前回授業での課題解決と復習		80	
〔授業の方法〕 この授業は EU のニュースや映像も取り入れながら、講義のみならず、受講生とのディスカッションの時間も設定する。したがって受講に際しては毎回の授業にアクティブに参加すべく、日々のヨーロッパ情勢・国際情勢をニュースや新聞・雑誌等でフォローしておくことが授業時間外の必須条件である。 また、Covid-19 の感染状況やヨーロッパ情勢のハブニングに応じて講義スタイル・内容・予定を変更する可能性が高いことを承知しておいてほしい。							
〔成績評価の方法〕 基本的に学期末試験または課題で評価する（85%）。受講人数によっては授業内課題・授業に対する積極性も加味する（15%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ヨーロッパを中心に国際関係を広く学ぶことを目的としており、大学のあらゆる授業が関連科目となる。
〔テキスト〕 滝田賢治・大芝亮・都留康子編著『国際関係学——地球社会を理解するために（第3版）』有信堂高文社、2021 年
〔参考書〕 坂井一成他編著『よくわかる EU 政治』ミネルヴァ書房、2020 年 宮本光雄著『エネルギーと環境の政治経済学』国際書院、2016 年 大芝亮編著『ヨーロッパがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2014 年 田中浩編著『EU を考える』未来社、2011 年 内田猛男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010 年 バンジャマ・アンジェル、ジャック・ラフィット『歴史的大実験の展望：ヨーロッパ統合』創元社、2005 年 田中素香・長部重康・久保広正・岩田賢治『新版 現代ヨーロッパ経済』有斐閣、2006 年
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業に関する疑問は授業時間に解決するように心がけてほしい。その他の質問・相談等は授業前後に受け付ける。
〔特記事項〕 ・プロジェクト型授業 ・アクティブ・ラーニング ・I C T活用

科目名		平和学特講A					
教員名							
科目No.	125331170	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		平和学特講B					
教員名		藤井 広重					
科目No.	125331180	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
大規模人権侵害が発生した紛争中および紛争後において、国際社会が果たすべき役割と課題を中心に、国連や地域機構による現場レベルにおける取り組み（国連平和維持活動 PKO、和解・事実調査委員会、法の支配、SSR 等）や国際的な刑事裁判（ICC、ハイブリッド刑事法廷）の機能を平和構築論に依拠しながら考察します。国際的な視座も重要ですが、紛争後の社会が抱える課題に対し、草の根の視座からのアプローチも重要視しています。本コース平和学特講Bでは、講師の国連、国際NGO、政府機関での実務経験を踏まえ、アフリカ地域における武力紛争と平和を中心に講義を行うことで、アフリカの紛争についての具体的な考察を行い、理解を深めます。国際協力やアフリカに興味のある方、本領域にてキャリア形成を志す方の受講を歓迎します。 国際的なキャリアを形成するために、例えば語学は重要なスキルではありますが、自分の考えを臆さずに明確に相手に伝えることができることも非常に重要です。私の現場での（ちょっと苦い）経験も踏まえながら、受講生の皆さんには、自分の考えを様々な情報からまとめ、発表する場を通して、知識だけではなく将来に役立つスキルを身に付けてほしいと考えています。 ●第1回は毎回の予習課題等、本コースでの取組みについて説明しますので、履修を検討している方は必ず参加してください。							
〔到達目標〕							
国際的なアクターが紛争中および紛争後において果たす役割と課題について整理し、グローバルな視座（国際的な分析と地域・国内からの分析の両面を併せ持った課題の把握）から平和を実現するために必要なことを考え、紛争後の社会において平和を構築すること、そして、持続可能な平和の実現に向けてアプローチすることの重要性を理解する（DP1）。そのため、日英の両言語を用いて特にアフリカ地域の具体的な事例に関する情報にアクセスできるスキルを獲得し、興味を抱いた課題について主体的に探求し続ける姿勢を身につける（DP2 および3）							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション 「講師のバックグラウンドと職務経験から得た視座」			（予習）紛争に関わる仕事について、どんな取り組みがあるのか、特に自分がどんなことに興味を持ったのか調べ、説明できるように準備をする。		60分	
第2回	平和とは何か？			（予習）教科書を読んで気になる国の事例を一つ選び1分間で説明できるように準備をする。		60分	
第3回	国連と紛争（1）紛争に関わるアクター達（国連平和維持活動等）			（予習）教科書を読んで気になる国の事例を一つ選び1分間で説明できるように準備をする。		60分	
第4回	国連と紛争（2）安保理決議を読んでみる レポート執筆のガイダンス			（予習）課題として提示した安保理決議を読み比べて、それぞれの特徴を指摘できるように準備する。		60分	
第5回	紛争下における人権侵害について考える（1）： 国際社会における枠組みの議論			（予習）教科書を読んで気になる国の事例を一つ選び1分間で説明できるように準備をする。		60分	
第6回	紛争下における人権侵害について考える（2）： 現場での取り組み			（予習）教科書を読んで気になる国の事例を一つ選び1分間で説明できるように準備をする。		60分	
第7回	ディベート（1） 第6回までの講義を踏まえ受講生の関心に合わせてテーマを決める。			（予習）ディベートの準備 必要に応じて参考資料も提示します。		120分	
第8回	人権侵害に関与する主体について考える 事例研究：南スーダン			（予習）これまでに報告した教科書の事例から気になる国を選んでリサーチクエッションを作り、3分間で説明できるように準備。		60分	
第9回	人権侵害に関与した者の「責任」とは何かについて考える			（予習）これまでに報告した教科書の事例から気になる国を選んでリサーチクエッションを作り、3分間で説明できるように準備。		60分	
第10回	国際的な刑事裁判所のジレンマについて考える：法と政治のクロスロード 事例研究：ウガンダ、ケニア			（予習）講師が執筆したコラムを中心に講義中に提示します。		60分	
第11回	平和構築と移行期正義（1）			（予習）課題レポートの執筆状況について3分で共有できるように準備。		60分	
第12回	平和構築と移行期正義（2） 事例研究：南アフリカ、シエラレオネ			（予習）課題レポートの執筆状況について3分で共有できるように準備。		60分	
第13回	ディベート（2） 第12回までの講義を踏まえ受講生の関心に合わせてテーマを決める。 ●レポートの提出期限（予定）			（予習）ディベートの準備 必要に応じて参考資料も提示します。		120分	
第14回	レポートについてのプレゼンテーションと講評			（予習）プレゼンテーションの準備		120分	
〔授業の方法〕							
本コースはインタラクティブな講義形式です。毎回、講義中にグループを作り、予習課題の共有やディスカッション、ロールプレイの時間も設ける。例えば、ディベートでは、ひとつのテーマに基づいて、賛成派、反対派、ジャッジの3名でグループをつくり、議論することを予定している。また、レポートの作成も本コースにおいて評価の一つである。レポートの作成方法についても、講義中に問い（リサーチクエッション）のたて方から詳しく説明する。本コースを通して、ニュース等での人権に関する報道に関心を持っていただきたい。現在、国際社会で議論されている人権問題についても適宜紹介するので、国連からのニュースを講義前に確認してほしい。参考 URL：http://www.un.org/News/ 予習課題の共有時にはスマホ等の電子機器を利用することも認める。							

英語を講義中に読むこともあるため、必要な方は辞書を持参すること。
〔成績評価の方法〕 授業中のリアクションペーパーの提出（不定期）（20％） ディベート(20%)2回×10点 レポート（40％） プレゼンテーション（20％）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 本講座である平和学特講 B では、講師の実務経験を踏まえ、アフリカ地域における武力紛争と平和を中心に講義を行います。予習課題にて英語を読むことがありますが、英語の能力は問いません。丁寧に予習を行うように心がけてください。講師の専門分野や教育活動等を紹介しているウェブサイトはこちらです。 https://www.fujiiah.com/
〔テキスト〕 阪本公美子・岡野内正・山中達也 編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』（ミネルヴァ書房 2021 年 3 月末刊行予定） ISBN 978-4-623-01913-5 毎週の課題にて使用します。この他に講義でレジュメを配布します。
〔参考書〕 上杉勇司・藤重博美編『国際平和協力入門:国際社会への貢献と日本の課題』（ミネルヴァ書房、2018 年） 上杉勇司・長谷川晋『紛争解決学入門―理論と実践をつなぐ分析視点と思考法―』（大学教育出版、2016 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		グローバル・イシューズ					
教員名		木村 友彦					
科目No.	125331190	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
現在の国際社会には、紛争や人権侵害、貧困や飢餓、自然災害による被害、核軍縮・核廃絶といった解決や緩和が求められる問題があり、国際連合をはじめとする国際機関やNGO(非政府組織)、各国政府など様々な主体が取り組みを続けている。この授業では、国連の役割や機能、日本による国際平和協力や開発援助への取り組み、またNGOの活動について、具体的事例にも触れながら理解を深めていきたい。							
〔到達目標〕							
国際社会における様々なアクターによる平和の実現や人道支援、開発などに向けた取り組みに理解を深める。 こうした学習を通して、DP1 やDP 3，DP 4 に掲げられた目標を達成する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	授業内容の説明			シラバスを読む。緒方貞子（1927-2019）について調べる。		120	
第2回	国連の歴史と役割			『国際連合』を読む。		120	
第3回	国連による平和維持活動の展開と事例 1			『『国際平和協力入門』』を読む。		120	
第4回	国連による平和維持活動の展開と事例 2			『『国際平和協力入門』』を読む。		120	
第5回	「移行期正義」の取り組み			『国際問題』（焦点：「移行期正義」のジレンマ）（2019 年 3 月 No. 679）を閲覧する		120	
第6回	国連による開発への取り組み			『国際連合』などを読む。		120	
第7回	『人間の安全保障』と「保護する責任」			『国際問題』（焦点：「人間の安全保障」と対外政策）（2011 年 7・8 月合併号 No. 603）を閲覧する		120	
第8回	到達度確認テスト（中間）と復習			第7回までの授業内容を見直し、テストに備える。		120	
第9回	国際社会におけるNGOの活動			NGOの活動について調べる。		120	
第10回	日本による国際平和協力への取り組み 1			『国際平和協力入門』を読む。		120	
第11回	日本による国際平和協力への取り組み 2			『『国際平和協力入門』』を読む。		120	
第12回	日本による開発援助への取り組み			『国際問題』（焦点：ODAの60年を振り返る）（2014 年 12 月 No. 637）などを読む。		120	
第13回	核軍縮・核廃絶問題や気候変動問題に対する日本の対応			『国際問題』などで関連する文献を読む。		120	
第14回	確認度到達テスト（期末）と復習			これまでの授業内容を見直し、テストに備える。		120	
〔授業の方法〕							
講義形式で授業を行うことを予定しています。							
〔成績評価の方法〕							
平常点と2回の到達度確認テストを評価の基本とします。 任意提出のレポート課題を出すこともあります。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 植木安弘『国際連合：その役割と機能』（日本評論社, 2018 年） 上杉勇司, 藤重博美編著『国際平和協力入門：国際社会への貢献と日本の課題』（ミネルヴァ書房, 2018 年）
〔参考書〕 野林健, 納家政嗣編『聞き書 緒方貞子回顧録』（岩波書店, 2020 年） 紀谷昌彦, 山形辰史『私たちが国際協力する理由：人道と国益の向こう側』（日本評論社, 2019 年） 毛利聡子『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』（法律文化社, 2011 年） 入江昭『グローバル・コミュニティ：国際機関・NGO がつくる世界』（早稲田大学出版部, 2006 年） （関連する文献は多くあるので、授業中に挙げていきたいと思います。）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		文化人類学入門Ⅰ					
教員名		細谷 広美					
科目No.	125332100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本授業はこれから文化人類学を学ぶうえでの入門の位置づけにあります。 文化人類学は「文化とは何か?」「人間とは何か?」ということ、フィールドワークを通じて”実践的”に考える学問です。 グローバル化が進展するなか、人、モノ、カネ、情報が国境を越え活発に移動しています。しかし、他方で文化、宗教、歴史的背景などの違いからくる衝突、葛藤も生まれています。異文化を知ること、「他者」とのコミュニケーションはますます重要になっています。しかし、「異文化を理解する」とはそもそもどのようなことでしょうか?それは自分にとっての「あたりまえ」を疑うことからはじまります。自分にとってのあたりまえや常識、価値観が、世界の人々や「同じ」日本人を含む「他者」にとってはあたりまえではないことを知ることからはじまります。そこで重要なのは他者への想像力です。本授業は単に知識を習得するだけでなく、考えることをはじめるための授業でもあります。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）、DP 3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 1. 文化人類学における文化の意味を習得する。 2. 文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかということを知るとともに、文化人類学におけるフィールドワークが異文化理解とどのように関わるかを学ぶ。 3. 異文化理解について考察を深める。 4. 「文化」「人種」「民族」への理解を深める。 5. 世界の多様性、文化の多様性を知る。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	導入 文化人類学の学問的対象とは？ 文化とは？ 文化はなぜ複数形なのか？			文化人類学の入門書等を読んでおく。 異文化理解について考えておく。 シラバスを読んでおく。		60 分	
第2回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（1） マリノフスキーとトロブリアンド諸島			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第3回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（2） 参与観察			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第4回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（3） 自文化中心主義と文化相対主義			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第5回	人種とは？（1） 大航海時代、進化論と人種主義			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第6回	映画			映画の背景について調べておく		60 分	
第7回	人種とは（2） フランツ・ファノンと人種 植民地主義の内面化 ポストコロニアル状況への視点			事前にファノンの文献、配布資料を読んでおく。講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第8回	人種とは？（3） 先住民と国民国家 ラテンアメリカと人種			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第9回	民族とは？（1） エスニック・グループ、エスニシティ、民族境界 国民国家と民族（ベネディクト・アンダーソン） 「日本人」とは誰か？			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第10回	民族とは？（2） 映画			映画の背景について調べておく。		60 分	
第11回	民族とは？（3） 映画			映画の背景について調べておく。		60 分	
第12回	人類学の多様な射程			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第13回	グローバル化の中の人類学			講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。		60 分	
第14回	到達度確認テスト			到達度確認テストに向けて、これまでの授業の複数をやる。		180 分	
〔授業の方法〕							
講義形式です。理解を深めるために映像資料を用いたり、映画をみたりします。							

〔成績評価の方法〕 評価は平常点によります。授業への参加状況、リアクションペーパーの提出等 30%、到達度確認テスト 70%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 1. 文化人類学の基本的考え方を学んだ。 2. 文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかを知るとともに、フィールドワークについて理解した。 3. 異文化理解、異文化コミュニケーションについて理解を深めた。 4. グローバル化と文化の関係について学んだ。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はありませんが、文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。 また、基礎力をつけ、理解を深めるために文化人類学関係の授業をできるだけ受講して下さい。 後期開講の「文化人類学入門Ⅱ」と連続しています。
〔テキスト〕 なし。
〔参考書〕 『ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ』 川口幸大著 昭和堂 『文化人類学の思考方法』 松井圭一郎他 世界思想社 『はじめて学ぶ文化人類学』 岸上伸啓著 ミネルバ書房 『詳論 文化人類学：基本と最新のトピックを深く学ぶ』 桑山敬己・綾部真雄編 ミネルヴァ書房 『ヤノマミ』 国分拓 新潮文庫 『めぐりながれるもの 文化人類学』 石井美保著 青土社 『チョンキンマンションのボスは知っている アングラ経済の人類学』 小川さやか著 春秋社 その他授業の中で適宜紹介していきます。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング ICT 活用

科目名		文化人類学入門Ⅱ					
教員名		細谷 広美					
科目No.	125332110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
グローバル化の進展にともない、異文化理解や多文化共生が求められていますが、そもそも異文化を「理解する」とはどういうことでしょうか？文化人類学では、「他者」の存在に気づき、自らにとっての「あたりまえ」や「常識」を相対化し、リアリティの多様性へと想像力を広げていくことに注目します。 前期開講「文化人類学入門Ⅰ」では、文化人類学の基本的考え方と、方法論としてのフィールドワークについて学びました。本授業では前期の授業を発展させ、具体的事例を扱いつつ、文化人類学及びフィールドワークへの理解を深めます。 本授業では、世界遺産マチュピチュ遺跡で知られるインカ帝国が栄えたアンデス地域の先住民文化に焦点をあて、その宗教、先住民と国家及び国際社会との関係をみていきます。一見、全く異質で理解不能であるかにみえる文化の基底にある論理や、短期的視点からみれば非合理にみえる行動の背後にある長期的レベルでの自然との調和（持続可能性）、生きる知恵、思考について丁寧に検討していきます。さらに先住民が経験してきた内戦、暴力を国際社会の人権や正義をめぐる取り組みに位置づけ、文化人類学の可能性を探ります。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）、D P 2（教養の修得）、D P 3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。 異文化理解への知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。 ラテンアメリカ地域や先住民から世界をみることを通じて世界の見方を相対化します。 先住民という存在について、その歴史的背景を含め理解を深めます。 多様な世界のリアリティの存在に気づき、他者がみている世界、生きている世界への想像力を鍛							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	導入部 ラテンアメリカ地域の概観			事前に『ペルーを知るための66章』を読了しておく。 授業後、配布資料、ノートを読み返す。		60分	
第2回	最初のアメリカ人、アンデスの古代文明			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第3回	インカ帝国			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第4回	大航海時代とアメリカ大陸の「発見」 インカ帝国の征服と植民地支配			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第5回	アンデス文明とヨーロッパ文明の遭遇 コンタクト・ゾーン（接触領域）			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第6回	人種と社会 文化的シティズンシップ			事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。		60分	
第7回	アンデスの宗教（1）			事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。		60分	
第8回	アンデスの宗教（2）			事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。		60分	
第9回	妖怪と他者、植民地主義、征服の記憶			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第10回	紛争、平和構築と人権、正義			事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。		60分	
第11回	映画			映画に関する小レポート。		60分	
第12回	先住民と国際社会			授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。		60分	
第13回	文化人類学の新たな課題			授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。		60分	
第14回	到達度確認テスト			到達度確認テストに向けて準備する。		120分	
〔授業の方法〕							
理解を深めるために映像資料をしょうしたり、適宜映画等をみます。							

〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況とリアクションペーパー）30%，到達度確認テスト70%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 文化人類学におけるフィールドワークについて理解を深めた。 アンデス地域の歴史と文化について知見を得た。 先住民という存在及び国際社会におけるその位置づけを理解した。 異文化理解に関する理解を深化した。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 前期開講の「文化人類学入門Ⅰ」を履修していることが望ましいです。 その他学科が開講している文化人類学関係の授業を履修すると理解と学習が深まります。 授業開始前に教科書を1度読了しておいて下さい。 ラテンアメリカの大半の地域でスペイン語が使用されているので、スペイン語を履修するとよいです。
〔テキスト〕 『ペルーを知るための66章』（明石書店）（第2版） 細谷広美編 明石書店 2000円＋税 *第1版（62章、64章）と誤って購入しないように注意して下さい。
〔参考書〕 『アンデスの宗教的世界ーペルーにおける山の神信仰の現在性』細谷広美明石書店 1997年 『大地と神々の共生ー自然環境と宗教（講座 人間と環境）』鈴木政崇編 昭和堂 1999年 『ラテンアメリカからの問いかけーラス・カサス、植民地支配からグローバリゼーションまで』西川長夫、原毅彦編 人文書院 2000年 『他者の帝国ーインカはいかにして「帝国」となったか』染田秀藤・関雄二編 世界思想社 2008年 『人類文化の現在：人類学研究』（放送大学大学院教材）内堀基光・山本真鳥編 放送大学教育振興会 201
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング 情報リテラシー教育科目 ICT活用

科目名		民族文化論					
教員名		嶺崎 寛子					
科目No.	125332120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
異文化を理解するための、文化人類学の入門講座です。文化人類学とは、フィールドワークという調査法を通じて、人間と文化を探究する学問です。文化人類学の視点から世界を見るとどう見えるか、この授業で体験してみてください。他者を知ることで自分を知り、異文化を知って自文化を問い直すことで、新たに見えてくるものがきっとあります。知らないうちに内面化している「アタリマエ」を問い直すための視座を培い、それを実際に使ってみましょう。授業では受講者数によりますが、可能ならばグループディスカッションを積極的に行います。文化人類学がどのように生まれ展開してきたかも、テーマに沿って学びます。五感をフル回転させて、学ぶ楽しさを味わってください。							
〔到達目標〕							
・ 文化人類学の学説史的な展開や、ものの見方について基礎的な知識を養う。 ・ 自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。 ・ 異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。 ・ 毎回行うグループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	文化人類学とは何か			予習：シラバスを読んで授業のテーマや目標を把握すること。 復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 2 回	環境と人間			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 3 回	ことばから考える・ 1			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 4 回	ことばから考える・ 2			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 5 回	異文化へのまなざし			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 6 回	マイクロ・アグレッションと交差性			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 7 回	世界の食文化			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 8 回	都市空間と間取り			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 9 回	世界各地の結婚			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 1 0 回	世界各地の葬送文化			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 1 1 回	贈与が紡ぐつながり			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 1 2 回	文化人類学と開発			復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 1 3 回	到達度確認テスト			復習：参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
第 1 4 回	世界の民族衣装・民族舞踊 到達度確認テストの講評			復習：到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分についてレジュメや資料を読み直して確認する。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式で進めます。毎回、即席で作ったグループ単位のグループ・ディスカッションがあります。積極的に他の受講生とコミュニケーションを取ってください。グループディスカッションについては、受講生の人数が非常に多い場合には、教育効果を鑑み、他の代替的方法を取ることがあります。また、授業はいわばライブなので、受講生の要望や必要に応じて臨機応変に進めます。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト（70%）および平常点（授業でのディスカッションへおよび全員での授業への参画度（15%）、コメントシート等の提出状況（15%）							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標に達しているかどうかを重視します。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目は特になし。文化人類学系の関連科目を並行して取ることが望ましいです。予備知識は要りませんが、提示された参考文献などを自発的に読む積極性を求めます。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。 石川栄吉・大林太良・佐々木高明他編、1994『文化人類学事典』弘文堂などの辞典類が大学図書館のどこにあるかは把握しておき、適宜参照してください。購入の必要はありません。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名	フィールドワーク論						
教員名	嶺崎 寛子						
科目No.	125332130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 文化人類学の背骨にあたるのが、フィールドワークという調査方法です。文化人類学者とは、世界中どこへでも赴き、長期間そこに住み、自分の目で見、自分の耳で聞いて、動態的な文化を体感することを通じて研究する研究者のことです。感性を磨き、できるだけ良い目と耳を持ってフィールドに居着き、フィールドワークからできるだけ多くのことを感知し、それを第三者にわかるように言語化することが、その仕事です。その文化を内面化していない人の「異人の目」は、フィールドワークを豊かにします。 この授業では、教員がフィールドワークで得た知見を共有し、フィールドワークへの理解を深め、文化人類学の面白さと深さにより一層近づきます。具体的には中東地域やムスリム移民を事例に、私たちからは一見理解しがたいもののように見える彼らの習慣や人生の折々の選択が、彼らの文脈では合理性を持つことを見ていきます。 移民社会のフィールドワークを通じて、日本のグローバル化についても考えます。							
〔到達目標〕 DPI-4（文化人類学の基本的な理念、概念、および方法論として重要なフィールドワークの手法を習得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる）を身につけるため、以下を到達目標とします。 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。 異文化理解に必要な知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。 中東諸国やムスリムの世界観や論理を学ぶことを通じて、自文化中心主義を問い直します。 ジェンダーの視点から異文化を見ることで、不可視							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 中東地域やムスリムについて			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第2回	ムスリムの論理—シャリーアと人生			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第3回	文化化と宗教1—礼拝を事例に			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第4回	文化化と宗教2—巡礼と年中行事			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第5回	フィールドワークは教えられるか？フィールドワークと「異人の目」			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第6回	名誉と暴力・ヴェールとジェンダー・オリエンタリズム			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第7回	規範と交渉する—ファトワを事例に			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第8回	フィールドを多角的に捉える—ミクロとマクロの視点			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第9回	近代国家、イスラーム、グローバル化—パキスタンを事例に			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第10回	ローカルをグローバルに生きる—アフマディーヤから考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第11回	国際移動とジェンダー			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第12回	フィールドでの安全対策と「調査されるという迷惑」について			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		60	
第13回	フィールドワークの方法			自分の調査地の選定をする。		60	

第 1 4 回	まとめ—文化人類学が照射するもの	到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分につきレジュメや資料を読み直すこと。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
〔授業の方法〕 授業はオンラインで、講義形式で行います。必要に応じて映像資料などの視聴覚教材を用います。オンラインか対面かは、今後の新型コロナウイルスの感染状況に応じて決定される大学の方針に従って決まります。 グループディスカッションも毎回ではありませんが、多めに取り入れたいと思います。 参加者同士で積極的にコミュニケーションを取ってください。 冬休みを使って実際にフィールド調査を各自で行い、結果をレポートにして提出してもらいます。感染予防のため、基本的には各自でフィールドを設定して個人で調査を行います。状況が許せば、全員参加で調査日程を組んで行う可能性もあります。			
〔成績評価の方法〕 授業参画 30%、レポート 70%。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めた。 異文化理解に必要な知見を深化させることができた。 グローバルな社会への柔軟な適応力を培った。 中東諸国やイスラムの世界観や論理を学んだ。 ジェンダーという視座から物事を見る態度を身に着けた。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 前期開講の「民族文化論」を履修していることが望ましいです。 学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目（開発の人類学、民族誌論、社会人類学、エスニック・スタディーズ、文化人類学特講、社会人類学特講等）が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。 アラビア語はイスラム文化を理解する重要なポイントなので、「アラビア語の世界」を履修するとより理解が深まります。			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 適宜授業内で示します。 森田豊子・小野仁美編 2019『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 1 結婚と離婚』明石書店 嶺崎寛子 2015『イスラーム復興とジェンダー』昭和堂 （購入の必要なし）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 質問を歓迎します。質問や相談がの方は、授業内で開示するメールアドレスに適宜メールをください。 ZOOM の URL 等は、コースパワー上に提示します。			
〔特記事項〕			

科目名		文化人類学特講 I					
教員名		石橋 純					
科目No.	125332140	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、南北アメリカ・カリブ海地域において「黒人」あるいは「アフリカ系」と呼ばれるという人びとに着目し、概念、研究史、歴史、運動史を辿ります。また、人種／民族表象が表出される文化実践の事例としては、ミクロな観点からベネズエラの都市下層の文化運動実例を、またマクロな観点からはポピュラー音楽の発展について紹介します。また、音楽と密接に結びつきながら、こんにち「アフロ性」を強烈に表現する文化実践として、民衆宗教の事例についても紹介します。							
〔到達目標〕							
1. アメリカ大陸・カリブ海地域において「黒人」あるいは「アフリカ系」と呼ばれる人びとの歴史と現状についての基本知識を身につけます。 2. 「人種」という概念には実態が存在せず、この概念により社会を解釈することは、偏見と差別を助長することを理解します。 3. 日本を含む現代社会において実践される人種主義・人種差別（レイシズム）の実践にたいする感受性を養います。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	オリエンテーションと教師自己紹介			復習課題		60	
第2回	概説1 「人種とは?」			復習課題		60	
第3回	概説2 「人種主義に抗う社会運動」			復習課題		60	
第4回	先住民の虐殺と奴隷化されたアフリカ人労働の導入			復習課題		60	
第5回	世界商品《砂糖》と奴隷制			復習課題		60	
第6回	映画から観る抵抗の歴史：「天国の晩餐」「アミスタッド」			復習課題		60	
第7回	マスメディアにおける人種主義とステレオタイプ			復習課題		60	
第8回	「混血」思想と排除されるアフリカ系人の記憶			復習課題		60	
第9回	バリオの暮らしと民衆文化：自己肯定の道のり			復習課題		60	
第10回	ラミアフロ系民衆音楽の歴史と現在1：ソンからサルサへ			復習課題		60	
第11回	ラミアフロ系民衆音楽の歴史と現在2：サルサからレゲトンへ			復習課題		60	
第12回	チャベス政権下ベネズエラにおけるアフロ系子孫の自己表象戦略			復習課題		60	
第13回	アフロ系民衆宗教：ヴードゥー、カンドンブレ、サンテリア			復習課題		60	
第14回	まとめと補遺			復習課題		60	
〔授業の方法〕							
講義による。 毎回何らかの復習課題を課す。							
〔成績評価の方法〕							
平常点：授業への参加状況や復習課題の提出状況 30％ 到達度確認テスト： 20％ 期末レポート： 50％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 文化人類学関連のなんからの入門的な科目を履修していることが望ましい。
〔テキスト〕 PDF にて配布。
〔参考書〕 授業中に指示する
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		文化人類学特講Ⅱ					
教員名		石田 慎一郎					
科目No.	125332150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、文化人類学の考え方と方法を学ぶ。 講義全体を貫く関心は、文化人類学の4つの方法的特徴、(1)文化相対主義(人類文化の多様性に対する寛容な理解)、現場主義(フィールドワークをつうじた実証研究)、全体論的アプローチ(文化・社会における部分と全体との関係を深く理解する)、比較(比較を通じた人類の多様性と普遍性の探求)を、具体的な研究事例を通じて理解することである。 第1回から第8回までは、家族内の人間関係をめぐる身近な(現代日本の)諸問題を、文化人類学的視点から批判的に思考し、文化相対主義の考え方と比較研究の実践例を学ぶ。第9回から第14回は、担当教員が実施しているケニア中央高地における文化人類学調査を参考に研究方法(フィールドワークならびに全体論的アプローチ)の具体例を学びつつ、ふたたび文化相対主義の意義と課題を考察する。							
〔到達目標〕 文化人類学の考え方と方法を学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、「文化」「社会」をキーワードに現代社会を理解するうえでの批判的視点を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	文化人類学への誘い：4つのアプローチ 文化人類学は、研究対象ではなく研究アプローチにおいてユニークな学問である。第1回講義では、文化相対主義・現場主義・全体論的アプローチ・比較の4つのアプローチについて概説することで、文化人類学の特徴を概説する。			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第2回	呼びかけのこぼれに現れる〈私たち〉の文化 文化人類学は、人間の社会的営み、私たちの日常生活のあらゆる側面を研究対象とするため研究テーマは多様である。だが、家族親族論についてとくに多大な研究蓄積をもっており、本講義でも前半はもっぱら家族親族論に相当するテーマを中心にとりあげる。それは家族がくらしと人間関係の基本となるため、人類学的に考えるうえで適した題材をとくに多く含むためでもある。第2回講義では、家族内におけるよびかけの言葉(親族呼称)を題材に、受講生をまじえた疑似フィールドワークの実験を実施し、家族の			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第3回	親と子(1)「母性愛」再考 第3回講義のテーマは「母性愛」である。ここでは、現代日本の「赤ちゃんポスト」、江戸時代の捨て子を題材に、これらを「母性愛」の対極にある営みととらえるのではない視点を提示し、受講生とともに議論する。「母性愛」を絶対善とする語り口に対して、文化相対主義的視点からの批判的考察は可能か。第3回講義ではこのような問いが重要である。			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第4回	親と子(2)「生みの親」「育ての親」再考 第4回講義でのキーワードならびに論点は、「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致に対する文化的理解である。これは文化人類学の家族親族研究において古くて新しいテーマであり、かつ現代日本において新しいかたちでの問いとして各方面において注目されている。ここでの具体的事例は、代理出産をはじめとする生殖医療技術である。			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第5回	結婚と家族：東アフリカの「女性婚」「幽霊婚」から考える 第5回講義は、前回講義の内容と同一のテーマを東アフリカの民族誌事例から発展的に議論するものである。すなわち「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致の問題を、東アフリカのヌアー、グシイはそれぞれ固有の問題で解決してきた。その具体的な事例として「女性婚」「幽霊婚」を議論する。			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第6回	男と女：『サモアの思春期』と文化相対主義 思春期特有の心理的葛藤は、人間が避けることのできない普遍的な現象であるのか。第6回講義では、少年少女が思春期特有の心理的葛藤を経験せずに大人になることのできる社会について論じたマーガレット・ミードの民族誌とそれに対する根本的批判を紹介し、人間存在に対する自然科学的説明にたいする文化的説明を指向してきた文化人類学の思想史的背景について概説する。ここでは、ミードの議論を一方的に退けるのではなく、これまでの講義で考察した家族親族論の視点からあらためてその意義について考			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第7回	前半の総括、授業内レポートへのコメント 前半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	
第8回	文化相対主義の再定位 これまでの講義では、文化相対主義的態度の重要性、普遍主義に対する強力な批判としての可能性を強調してきた。だが、文化相対主義的態度を突き詰めた先に絶対的相対主義として現れる可能性(危険性)にも目をむけていく必要がある。第8回講義では、相対主義と普遍主義との相互補完関係を、浜本満、			【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60	

	井上達夫、ロバート・レッドフィールド等の議論をふまえて考察する。		
第 9 回	文化と自由 第 9 回講義は、ウィル・キムリッカ等の議論の紹介からはじめて、文化と自由をテーマに議論をおこなう。文化人類学は、個人の自由を束縛する存在としてではなく、補強する存在として文化を語ることはいかにして可能か。こうした問題意識を中心に議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第 10 回	人類学的方法としての民族誌（1） これまでの講義をふまえたうえで、ここからは担当教員がケニア中央高地ですすめている文化人類学研究の事例を手がかりに、人類学的実践としての民族誌の具体的内容と、民族誌をふまえたうえでの比較研究の可能性を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第 11 回	人類学的方法としての民族誌（2）オルタナティブ・ジャスティス 第 11 回講義は、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ地方におけるムーマ（無罪宣誓）を題材に、いわゆる神判的紛争処理・犯罪解決の合理性について、比較分析的視点で議論をおこなう。ここでの比較対象は日本中世の鉄火起請等である。イゲンベのムーマでは、被告側が呪物を飲み込む等のうえで無罪宣誓をおこない、それに対して原告側は呪物の効果を待ち続けなければならない。裁判人は原告と被告のどちらが正しいかをその場で結論することはしない。そうした紛争処理・犯罪解決の合理	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第 12 回	人類学的方法としての民族誌（3）嗜好品と文化 第 12 回講義では、東アフリカやアラビア半島で地域固有の嗜好品として古くから利用されてきたカート（ミラー）を題材に、嗜好品をめぐる文化と政治について議論する。アメリカをはじめ一部の国ではカートは違法ドラッグとして禁止されており、ケニア産カートの輸出先となっているイギリス等においても根強い禁止論がある。カートをめぐる麻薬化の語り口に対する批判的視点をふまえたうえで、第 11 回講義では、映画『おいしいコーヒーの真実』においてのエチオピア農民のコーヒー栽培からカート裁	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第 13 回	人類学的方法としての民族誌（4）無文字社会の歴史意識 第 13 回講義では、分節リネージ体系を特徴とするニューギニア高地エンガ社会ならびにケニア西部高地グシイ社会との比較のなかで、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ社会における年齢組体系特有の時間世界・歴史意識について考察する。イゲンベ社会は、祖先の個人名を記憶しない社会でありながら、民族全体の歴史を記憶する社会でもある点で、そして円環的な時間的世界を持つ点で、上記 2 つの社会とは異なっている。本講義では、もうひとつの比較軸を小馬倣の比較分析的論考に求める。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第 14 回	後半の総括、到達度確認テスト 後半の授業であつかったテーマについてあらためて総括する。授業後半に、到達度確認テストを実施する。	【復習】これまでの授業内容を復習し、到達度確認テストにおいて十分に解答できなかった箇所を確認する。	120
〔授業の方法〕 基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーまたは授業内レポートをもちいて受講生との双方向性を高めるよう工夫する。また、映像教材を用いる。			
〔成績評価の方法〕 授業内での筆記・提出をもとめるリアクションペーパーまたは授業内レポート（50%）と到達度確認テスト（50%）を基本として総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕 各回レジメ（A4 両面印刷 1 枚）を配付する。			
〔参考書〕 購入の必要なし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		グローバル化の人類学					
教員名		鈴木 舞					
科目No.	125332160	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
グローバル化の中で、異なる背景をもつ人々が交流する機会が増大している。本授業では、世界の多様な事例に基づき、人やモノ等の流動がどのように生じているのか、また異なる文化や社会の接点で発生している課題について議論する。更に、グローバル化の中で生じている課題に対して、文化人類学がどのように貢献できるのかも検討する。 なお、授業の進捗や受講者の関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕							
DP1-1(専門分野の知識・技能の修得)を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①文化人類学の基本的な概念を理解する。 ②文化や社会の多様性について把握する。 ③人やモノ等の世界的展開について理解する。 ④グローバル化の中で生じている課題を把握し、解決策について自分の考えをまとめる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の進め方等を説明する。			[予習]グローバル化について調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		60	
第2回	文化人類学とは① ・文化人類学とは何かについて、解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第3回	文化人類学とは② ・文化人類学の新たな展開について、解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第4回	政治 ・人々のまとめ方について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第5回	経済 ・モノのやりとりについて、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第6回	家族 ・家族のあり方について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第7回	男女 ・男女のあり方について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第8回	移民 ・人々の移動について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第9回	信仰 ・人々の信仰のあり方について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第10回	紛争 ・人々の争いについて、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第11回	法 ・争いの解決や様々な決まりについて、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第12回	開発 ・国際協力について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第13回	観光 ・観光のあり方について、グローバル化との関係で解説する。			[予習]キーワードについて調べる事。 [復習]レジュメと参考書を利用して、授業の復習をする事。		90	
第14回	まとめ ・授業のまとめを行う。			[復習]レジュメと参考書を利用して、これまでの授業の復習をする事。		120	
〔授業の方法〕							
パワーポイントを使用した講義形式をとる。 毎回の授業時に、授業へのコメント等をリアクションペーパーに記述してもらう。							
〔成績評価の方法〕							
リアクションペーパーの内容(30%)、期末試験(70%)で評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①文化人類学の基本的な概念を説明できる。
②文化や社会の多様性について説明できる。
③人やモノ等の世界的展開について説明できる。
④グローバル化の中で生じている課題とその解決策について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要としないが、グローバル化について日頃から関心をもっておく事。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		現代人類学					
教員名		細谷 広美					
科目No.	125332170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
博物館はどのように生まれたのでしょうか？そもそも博物館と美術館の違いはどこにあるのでしょうか？博物館に展示されるモノと美術館に展示されるモノの間にはどのような違いがあるのでしょうか？ 何が美術作品で、何が美術作品ではないのでしょうか？それは誰が決めるのでしょうか？ 本授業では、国立民族学博物館の吉田憲司館長の『文化の「発見」－驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』を手掛かりに、文化人類学の観点から博物館、美術館、アートについて考えます。 新型コロナウイルスの影響により、国内外の博物館・美術館でオンラインを通じての展示がおこなわれるようになりました。本授業ではオンラインミュージアムを訪れオンライン展示（オンラインミュージアム）の可能性についても考察します。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）、DP 3（課題の発見と解決）を達成するために、以下を到達目標とする。 ①多様な文化、多様な価値観の存在に気づく。 ②博物館、美術館について知識を深める。 ③アートと文化の関係性への知見を深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	導入部			事前に文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。 テキストに目を通しておく		60分	
第2回	国立民族学博物館、大英博物館等のオンライン展示（ヴァーチャル・ツアー）			様々な博物館、美術館をオンラインで訪れてみる		60分	
第3回	第1章「異文化」の発見－民族誌展示の系譜			発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分	
第4回	第2章 近代日本における「自文化」と「異文化」の発見			発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分	
第5回	第3章 「異文化」と「自文化」の出会い			発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分	
第6回	第4章 民族誌展示の現在			発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分	
第7回	終章、まとめ			発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分	
第8回	アートと文化（1）			配布資料を読む		90分	
第9回	アートと文化（2）			配布資料を読む		90分	
第10回	アートと文化（3）			配布資料を読む		60分	
第11回	映画			映画に関する小レポート作成		60分	
第12回	テーマ発表			個人もしくはグループによるパワーポイントを用いた発表の準備をする。		90分	
第13回	テーマ発表			個人もしくはグループによるパワーポイントを用いた発表の準備をする。		90分	
第14回	まとめ 課題レポート提出			課題レポート作成		90分	
〔授業の方法〕							
グループ作業による発表と講義から構成されます。 新型コロナウイルスの影響で多くの美術館、博物館が閉館していることから、世界中の博物館・美術館でオンライン展示を実施しています。距離や国境に関係なく、海外の美術館・博物館を「訪れる」ことが可能になっているので、授業のなかで国内外の美術館・博物館のバーチャル・ミュージアムを訪れます。							

〔成績評価の方法〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 ゼミへの参加（プレゼンテーション、ディスカッション、リアクションペーパー） 50% レポート 50%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 文化人類学の基本的考え方、方法論を知る。 異文化理解、異文化表象への考察を深める。 自ら課題を発見し、探求する基礎力をつける。 文献の読み方を学ぶ。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 文化人類学の入門書を読んでおいて下さい。 「文化人類学入門Ⅰ」「文化人類学入門Ⅱ」等、文化人類学関係の専門科目を履修しておいて下さい。
〔テキスト〕 『文化の「発見」——驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』 吉田憲司著（岩波人文書セレクション）2014 年 （絶版になっているので、購入の必要はありません）
〔参考書〕 『人類文化の現在：人類学研究』 内堀 基光・山本真鳥編（放送大学大学院教材）放送大学教育振興会 2016 年 『ひらく美術－地域と人間のつながりを取り戻す』 北川フラム著 ちくま新書 2015 年 『越境するモノ（フェティシズム研究 第 2 巻）』 田中雅一京都大学出版会 2014 年 『文化人類学の思考法』 松村圭一、中川理、石井美保編 世界思想社 2019 年 『オリエンタリズム上・下』 エドワード・サイード 平凡社 1993 年 『文化の窮状—二十世紀の民族誌、文学、芸術』 人文書院 2003 年
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		歴史学入門					
教員名		松浦 義弘					
科目No.	125333000	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
【テーマ】歴史学とはどういう学問かを具体的な歴史叙述を通して考える。 【概要】歴史学とは何か、という問いに対する回答はこれまでもさまざまなかたちでなされてきた。この授業では、「歴史学とは何か」を抽象的に論じるのではなく、明治以後、とくに第二次世界大戦以後の日本における歴史叙述を具体的にたどりながら、歴史の意味について考えてゆくつもりである。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を目標とする。 ①歴史学とはどういう学問であるのかを、その鍵概念を含めて理解する。 ②日本の歴史学の歴史をより広い文脈のなかで理解することを通して歴史学という学問の意味を考える。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	導入			シラバスを読んでおく。		60	
第 2 回	歴史学とは何か			前回の添付資料の復習		60	
第 3 回	日本における近代歴史学の誕生			前回の添付資料の復習		60	
第 4 回	マルクス主義の導入と日本資本主義論争			前回の添付資料の復習		60	
第 5 回	戦後歴史学の誕生			前回の添付資料の復習		60	
第 6 回	運動としての戦後歴史学			前回の添付資料の復習		60	
第 7 回	中間的まとめ			前回の添付資料の復習		60	
第 8 回	戦後歴史学の歴史叙述（1）：日本史			前回の添付資料の復習		60	
第 9 回	戦後歴史学の歴史叙述（2）：東洋史			前回の添付資料の復習		60	
第 1 0 回	戦後歴史学の歴史叙述（3）：西洋史			前回の添付資料の復習		60	
第 1 1 回	戦後歴史学以後の歴史学			前回の添付資料の復習		60	
第 1 2 回	歴史学の意味とは何か			前回の添付資料の復習		60	
第 1 3 回	課題レポートの提出			これまでの添付資料の復習		120	
第 1 4 回	まとめ			これまでの添付資料の復習		60	
〔授業の方法〕							
授業は、基本的に講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加情況（30％）、課題レポート（70％）を中心に総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書
喜安朗ほか『立ちすくむ歴史』せりか書房
リン・ハント『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。なお、オンライン授業に関する情報は、コースパワーに掲載する。

〔特記事項〕

科目名		比較文化研究 A					
教員名		増田 都希					
科目No.	125333010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義のテーマは、17～19 世紀フランスの食の文化史です。 「文化」を「芸術」の類義語としてではなく、「人間社会におけるあらゆる営為・事象」を指す広い概念として理解し、当時のフランスの「食」をさまざまな角度から取り上げます。 18 世紀フランスは、中世までの料理から近代フランス料理へと転換する時代です。その変化は、食材・調理法（いかに作るか）、テーブルマナー（いかに食すか）、モラル（食をいかに考えるか）の 3 点において現れます。「大食」をタブー視するキリスト教国フランスが、一転して「美食の国」との名声を得るに至る過渡期の時代と言えるでしょう。 さらに、不平等な身分制社会のあり方に疑義が呈され、政治・経済・社会的諸改革が試みられた時代でもあり、そこでも大多数の貧しい人々への食糧供給の問題がクローズアップされました。「食」という小さな鍵穴から、フランス革命に至る激動の時代のフランス社会をのぞいてみましょう。							
〔到達目標〕							
（１）「社会史」「(新しい) 文化史」の成立背景を説明することができる。 （２）17～19 世紀フランスの「食」の問題を、当時のフランス社会における諸変化と関係づけながら説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ：授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方 ：食文化史研究の歴史			「(新しい) 文化史」の定義を調べてください。		30	
第 2 回	17～18 世紀フランスの国家と社会 ：” 繁栄の 18 世紀”、世俗化、公共圏			高校で学習した近代ヨーロッパ史を見直してください。		60	
第 3 回	大多数の人びとの食事 ：人口増加、“パン屋”としての国王、同業者組合			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 4 回	17、18 世紀フランスの「料理革命」（その 1） ：中世料理との決別			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 5 回	17、18 世紀フランスの料理革命 （その 2） ：技術革新、植民地産品、嗜好の変化			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 6 回	テーブル・マナーの洗練 ：17、18 世紀フランスにおける作法書の流行とテーブルマナー			現代のテーブルマナーの重要なポイントを整理してください。		60	
第 7 回	ここまでの小活			前回講義のレジュメを読み直し、質問事項をまとめてください。		60	
第 8 回	「ヌーベル・キュイジーヌ論争」 ：哲学としての料理			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 9 回	宗教的禁欲から美食の国フランスへ ：食のモラルの世俗化			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 10 回	ふたたび、大多数の人びとの食事 ：「小麦戦争」からフランス革命へ			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 11 回	19 世紀フランスの国家と社会 ：工業化、植民地主義、計量の時代			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 12 回	レストランの誕生と高級フレンチの成立			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 13 回	19 世紀の大多数の人びとの食事 ：都市化、軍隊と食			前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60	
第 14 回	まとめ			これまでの講義レジュメを読み直し、復習してください。		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義を中心に進める。 各講義の最後に、リアクション・ペーパーを提出すること。 なお、各リアクション・ペーパー・期末レポートの狙いは、下記「成績評価の基準」に挙げた目標と同じ。							
〔成績評価の方法〕							

「平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）55%、期末レポート 45%で評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に注目し、その達成度によって評価する。 ・17、18 世紀フランスにおける「料理革命」を調理、テーブルマナー、モラルの 3 点から説明できる。 ・フランス革命期における、「食」の政治・経済的問題の概要を説明できる。 ・フランス革命前後の食のあり方の変化を簡明に説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高校で学ぶ世界史程度のフランス史の知識を必要とします。
〔テキスト〕 プリントを適宜配布します。
〔参考書〕 個々のテーマについては講義中に紹介しますが、概説書として以下を勧めます。 ・味覚の歴史：フランスの食文化：中世から革命まで / バーバラ・ウィートン著 辻美樹訳，大修館書店，1991. ・マリー・アントワネットは何を食べていたのか：ヴェルサイユの食卓と生活 / ピエール＝イヴ・ボルペール著；ダコスタ吉村花子訳，原書房，2019. ・食の歴史 / J-L・フランドラン，M・モンタナリー編；菊地祥子，末吉雄二，鶴田知佳子訳，（全 3 巻）藤原書店，2006. （
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業後に受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		比較文化研究 B					
教員名		寺本 敬子					
科目No.	125333020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業は「グローバル・ヒストリーとしてのジャポニズム」をテーマとします。19 世紀後半のヨーロッパにおいて日本の文化や芸術が注目されることで誕生した「ジャポニズム Japonisme」という現象に焦点を当て、各国でジャポニズムが広がった歴史的経緯を多角的に分析し、比較検討します。ヨーロッパやアメリカの諸国において、「ジャポニズム」はどのように生まれ、広がったのか。また、そもそも何故ジャポニズムは生まれたのか、各国の政治・経済・文化・社会等、その背景を見ながら多角的に検討します。さらに「Japan Expo」等、21 世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と 19 世紀のそれとを比較することで、「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とします。							
〔到達目標〕							
19 世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が、とりわけ万国博覧会への日本参加を通じて広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになります。各国に広がった「ジャポニズム」について多角的に検討し、新たな文化現象が形成されるときにどのような文脈があるのか、あるいはそこにどのような摩擦があるのか、これらの問いを明らかにすること、そしてこうした問いについての社会史的なアプローチ（文化史・経済史・外交史を含む）の意義を理解することが本講義の目標です。 到達目標は、(1)19 世紀後半							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：ジャポニズムとは何か。			【予習】シラバスを読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 2 回	ジャポニズムの前史(1)日本の情報、18 世紀のシノワズリとジャポネズリ			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 3 回	ジャポニズムの前史(2)万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 4 回	フランス(1)			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 5 回	フランス(2)			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 6 回	イギリス(1)			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 7 回	イギリス(2)			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 8 回	アメリカ			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 9 回	オーストリア、ドイツ			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 0 回	他のヨーロッパ諸国(1)ベルギー、中央ヨーロッパ			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 1 回	他のヨーロッパ諸国(2)イタリア、スペイン			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 2 回	他のヨーロッパ諸国(3)北欧、ロシア			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 3 回	日本：ジャポニズムの里帰り			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 4 回	ジャポニズムの現在			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
〔授業の方法〕							
基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシートと(2)学期末試験を課します。							
〔成績評価の方法〕							
成績評価は、(1)コメントシート（40％）と(2)学期末試験（60％）の合計による相対評価となります。 ・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。 ・(2)学期末試験では、授業全体を総括した筆記試験を実施し、①講義内容を正確に理解していること、②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ている							

こと、
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。（1）講義内容を正確に理解していること、（2）参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、（3）自己の見解を具体的・論理的に展開していること。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパの歴史と文化A					
教員名		竹内 敬子					
科目No.	125333030	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 イギリスの歴史と文化を、いくつかのトピックを取り上げる形で学ぶ。 イギリスと日本の関係や、イギリスの現代と過去の関係にも留意しながら授業を進める。							
〔到達目標〕 DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. イギリスの歴史と文化の基礎的知識を身につける。 2. 過去を学ぶことで現代を相対化する力を身につける。 3. イギリスの文化・歴史を学ぶことで自国や自国史を相対化する力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	はじめに—ユニオンジャックと4つの国 イギリスは4つの国からなっています。昨年の「スコットランド独立」は、これが3つの国となる可能性をもつものでした。イギリスという国の複雑な成り立ちと4つの国の関係について学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第2回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第3回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第4回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第5回	日本とイギリス 第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第6回	日本とイギリス 第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第7回	王室の恋愛と結婚 ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディング、ヘンリー王子とメーガン妃のロイヤル・ウェディングと王室の公務からの引退、は世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第8回	王室の恋愛と結婚 ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディング、ヘンリー王子とメーガン妃のロイヤル・ウェディングと王室の公務からの引退、は世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第9回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。今年は東京で昨年から延期されたオリンピックが開催される予定です。ロンドンオリンピックの経験なども振り返りながら、イギリス人とスポーツの関わりについて考えます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第10回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。今年は東京で昨年から延期されたオリンピックが開催される予定です。ロンドンオリンピックの経験なども振り返りながら、イギリス人とスポーツの関わりについて考えます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第11回	イギリス人とスポーツ イギリスは多くの近代スポーツ発祥の地です。今年は東京で昨年から延期されたオリンピックが開催される予定です。ロンドンオリンピックの経験なども振り返りながら、イギリス人とスポーツの関わりについて考えます。			関連する文献や新聞記事を読む		60	
第12回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています			関連する文献や新聞記事を読む		60	

第13回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています	関連する文献や新聞記事を読む	60
第14回	まとめ	関連する文献や新聞記事を読む	60
〔授業の方法〕 講義形式で行う。 「イギリスのニュース」などの映像も適宜利用する。			
〔成績評価の方法〕 期末レポート（60%）およびレスポンスペーパーなどの課題（40%）。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「ヨーロッパの歴史と文化B」「イギリス文化・文化史特講A・B」。			
〔テキスト〕 授業中にレジュメを配布します。			
〔参考書〕 井野瀬久美編『イギリス文化史』（昭和堂） 近藤和彦『イギリス史十講』（岩波新書）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		ヨーロッパの歴史と文化B					
教員名		野田 恵子					
科目No.	125333040	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
「イギリス」という国の存在自体は、誰もが知っているであろうが、その具体的な像をつかんでいるものは少ないのではないだろうか。本講義では、イギリスの文化や歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、現代イギリス社会の具体的な像をつかんでもらうことを目指している。講義では、具体的なテーマごとにイギリス文化・社会の基本的な事項を概観し、イギリスの文化の特質とその背景にある歴史を見ていくことで、急激な変化のなかにある現代イギリス社会を理解する手掛かりをつかんでほしい。							
〔到達目標〕							
①イギリスの歴史と文化の基礎的知識を学ぶことで、現代社会の諸問題を多角的に見る視点を身につける。 ②他文化を学ぶことで、自文化を相対化し、多文化理解のための基本的姿勢を身につける。 ③イギリスの文化・歴史の知識を深め、受講者各自の関心領域へ応用する力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	オリエンテーションー本講義の目的と進めかたについて			シラバスを読んでおく。		30	
第2回	「イギリス人」とイギリス社会			前回の添付資料の復習		60	
第3回	階級①ー「階級社会」としてのイギリス			前回の添付資料の復習		60	
第4回	階級②ーライフコースと階級の現在			前回の添付資料の復習		60	
第5回	教育①ーエリートと大衆の境界			前回の添付資料の復習		60	
第6回	教育②ー大衆化する社会と教育の現在			前回の添付資料の復習		60	
第7回	余暇の変遷①ー消費とレジャー社会の到来			前回の添付資料の復習		60	
第8回	余暇の変遷②ー近代スポーツの誕生			前回の添付資料の復習		60	
第9回	女性とイギリス社会①ー工業化と女性			前回の添付資料の復習		60	
第10回	女性とイギリス社会②ー仕事と家庭の境界			前回の添付資料の復習		60	
第11回	家族と親密性ー「近代家族」から「多様な家族」へ			前回の添付資料の復習		60	
第12回	マイノリティとイギリス社会①「寛容な社会」の誕生（「若者文化」・「性の解放」・「同性愛解放運動」			前回の添付資料の復習		60	
第13回	マイノリティとイギリス社会②移民と多民族共生への道			前回の添付資料の復習		60	
第14回	まとめ			これまでの講義を復習する。		60	
〔授業の方法〕							
▶ 配布するレジュメ（パワーポイント）を使つての講義形式で行う（適宜、テーマに基づく映像資料も利用する）。 ▶ 毎回、リスボンズペーパーで授業の理解度やテーマについての考察などを記入してもらう。 （講義内容は授業の進行度により変更することもある）							
〔成績評価の方法〕							
レポート（60%）とリスボンズ・ペーパー（340%）で評価する。なお、全授業の三分の二以上欠席すると成績評価しないので注意すること（期末レポートを提出しても評価しないので十分に注意すること）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特に使用しない。毎回プリントを配布する。
〔参考書〕 授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパの歴史と文化 C					
教員名		寺本 敬子					
科目No.	125333050	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、19 世紀にヨーロッパで誕生した「万国博覧会」の歴史に焦点を当て、近代におけるヨーロッパの歴史と文化の特質を政治、経済、文化、社会の側面から多角的に検討します。万博は、1851 年にイギリスの首都ロンドンで初めて開催されました。当初は、イギリス（ロンドン）とフランス（パリ）において交互に開催されましたが、特に 1870 年代から他のヨーロッパ諸国や北アメリカの都市に広がっていきます。こうした地域的な広がりに加え、万博の性格もまた時代とともに変化を遂げてきました。当初は、1851 年ロンドン万博の正式名称が「すべての国々の産業製品の大博覧会」であったように、最先端の技術および製品の展示が中心でしたが、次第に植民地の展示が拡大するなど、帝国主義的性格が強まり、国威発揚の場となっていく面があります。近年の万博は、自然や食など環境問題がテーマに挙げられるなど、人類の共通課題に向けた取り組みがなされ、継続的に開催されています。本授業は、19 世紀に開催された主要な万博を時系列に沿って検討し、近代におけるヨーロッパの社会と文化の特質および変容を明らかにすることを目指します。							
〔到達目標〕							
(1) 近代において万博が果たした役割を理解すること、 (2) 万博というひとつの事象から、近代のヨーロッパの特質および変容を明らかにする多角的アプローチ（政治、経済、文化、社会など）を身につけること、以上の 2 点を主な目標とします。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：万国博覧会とは何か。			【予習】シラバスを読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 2 回	1851 年ロンドン万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 3 回	1855 年パリ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 4 回	1862 年ロンドン万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 5 回	1867 年パリ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 6 回	1873 年ウィーン万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 7 回	1876 年フィラデルフィア万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 8 回	1878 年パリ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 9 回	1888 年バルセロナ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 0 回	1889 年パリ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 1 回	1893 年シカゴ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 2 回	1897 年ブリュッセル万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 3 回	1900 年パリ万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
第 1 4 回	20 世紀の万博			【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分） や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。		60	
〔授業の方法〕							
基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシートと(2)学期末試験を課します。							
〔成績評価の方法〕							
成績評価は、(1)コメントシート（40％）と(2)学期末試験（60％）の合計による相対評価となります。 ・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。							

・(2)学期末試験では、授業全体を総括した筆記試験を実施し、①講義内容を正確に理解していること、②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、③自己
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。（1）講義内容を正確に理解していること、(2) 参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3) 自己の見解を具体的・論理的に展開していること。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパの歴史と文化D					
教員名		松浦 義弘					
科目No.	125333060	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
【テーマ】 アンシャン=レジームとフランス革命 【概要】 ヨーロッパの歴史、とくにフランスのアンシャン=レジーム（1 6 世紀～1 7 8 9）とフランス革命の歴史を、大西洋世界の動きの一部として理解する。 特に現代に繋がるような側面に重点を置いて講義したい。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を目標とする。 ①アンシャン=レジームとフランス革命についての知見を深める。 ②より大きな歴史的文脈のなかでフランス革命を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	導入			シラバスを読んでおく。		60	
第2回	大西洋世界とフランス（1）			前回の添付資料の復習		60	
第3回	大西洋世界とフランス（2）			前回の添付資料の復習		60	
第4回	アンシャン・レジームの国家と社会（1）			前回の添付資料の復習		60	
第5回	アンシャン・レジームの国家と社会（2）			前回の添付資料の復習		60	
第6回	アンシャン・レジームの国家と社会（3）			前回の添付資料の復習		60	
第7回	革命前夜の危機の諸様相			前回の添付資料の復習		60	
第8回	1789 年の断絶			前回の添付資料の復習		60	
第9回	立憲君主制から共和政へ			前回の添付資料の復習		60	
第10回	中間的まとめ			これまでの添付資料の復習		60	
第11回	フランス革命とユートピア			前回の添付資料の復習		60	
第12回	フランス革命と暴力			前回の添付資料の復習		60	
第13回	フランス革命の終結とその遺産			これまでの添付資料の復習		120	
第14回	課題レポートの提出			これまでの添付資料の復習		60	
〔授業の方法〕							
授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加状況（30％）、レポート（70％）などを中心に総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし。
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 柴田三千雄『フランス革命』岩波現代文庫 山崎耕一『フランス革命』刀水書房、3000 円＋税 松浦義弘『フランス革命の社会史』山川出版社、729 円＋税 松浦義弘『ロベスピエール：世論を支配した革命家』山川出版社、800 円＋税 アントワース・リルティ『セレブの誕生』名古屋大学出版会、5400 円＋税 これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		アメリカの歴史と文化A					
教員名		中野 由美子					
科目No.	125333070	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。 本講義では、20 世紀半ば以降のアメリカ合衆国に即して、社会史・文化史の領域における基本的なテーマについて探求することを課題とする。具体的には、戦争と大衆、経済的繁栄と大衆消費社会の変容、娯楽産業の興隆と変容などのテーマについて、国内の「人種」問題と関連付けながら検討する。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。							
〔到達目標〕							
DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の 3 点を到達目標とする。 ①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。 ②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解し、説明できる。 ③社会の諸問題を理解するために必要な一次史料を批判的に分析することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	アメリカ合衆国の歴史と文化 ―社会史的アプローチ ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 2 回	第二次世界大戦とマイノリティ（その 1） ・主にアフリカ系アメリカ人、先住民の戦争体験について映像史料の分析を行う。			前回の授業で配布した史料とテキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 3 回	第二次世界大戦とマイノリティ（その 2） ・主に日系アメリカ人の戦争体験について映像史料の分析を行う。			前回の授業で配布した史料とテキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 4 回	第二次世界大戦とマイノリティ（その 3） ・主に日系アメリカ人の戦争体験についてドキュメンタリー映像の分析を行う。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 5 回	冷戦下の繁栄と排外主義（その 1） ・経済的繁栄下での排外主義について、映像史料に基づき検討する。 ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する小テストを実施する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 6 回	冷戦下の繁栄と排外主義（その 2） ・冷戦期が「黄金時代」として回顧される理由を、映像史料に基づき検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 7 回	大衆消費社会の発展（その 1） ・戦後の繁栄と娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 8 回	大衆消費社会の発展（その 2） ・戦後の繁栄と娯楽産業の発展について、食生活の観点から探求する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 9 回	大衆消費社会の発展（その 3） ・戦後の繁栄と娯楽産業の発展について、映画・テレビ放送の観点から探求する。			テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60	
第 10 回	20 世紀の「人種」問題（その 1） ・人種の隔離から統合への動きについて、一次史料の分析を行う。 ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する小テストを実施する。			テキストの指定箇所と配布した一次史料を、よく読んでおくこと。		60	
第 11 回	20 世紀の「人種」問題（その 2） ・公民権運動の拡大について、映像史料に基づき検討する。			テキストの指定箇所と配布した一次史料を、よく読んでおくこと。		60	
第 12 回	20 世紀の「人種」問題（その 3） ・公民権運動後のアメリカ社会における「人種」に関して、複数の映像史料を比較しながら検討する。			テキストの指定箇所と配布した一次史料を、よく読んでおくこと。		60	
第 13 回	到達度確認テスト			配布資料やテキストを再度読んでおくこと。		60	
第 14 回	全体のまとめ 配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。			配布資料を、よく読んでおくこと。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。また、講義中に数回、一次史料・映像史料などを用いた史料分析のトレーニングをペアワーク・グループワーク形式で実施する予定である。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布、リアクション・ペーパーやコメントシートの提出、小テストの出題ないし回答提出の際には、コースパワーを使用する場合があるので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。							
〔成績評価の方法〕							

授業中に出す課題（リアクション・ペーパーやコメントシート等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題を含む。）＝平常点（20％程度）、小テスト（30％程度）、到達度確認テスト（50％程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、10％を上限として加点する場合がある。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に以下の点について、その到達度により評価する。 ①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。 ②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解しているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化 B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。
〔テキスト〕 有賀夏紀『アメリカの 20 世紀（下）1945 年～2000 年』中公新書、2002 年。 ISBN: 4-12-101665-3 ※(下)（＝下巻）のみ使用する。
〔参考書〕 アメリカ学会訳編『原典アメリカ史-社会史史料集』岩波書店、2006 年。 網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。 西田慎、梅崎透編『グローバル・ヒストリーとしての「1968 年」』ミネルヴァ書房、2015 年。 堀内一史『アメリカと宗教 保守化と政治化のゆくえ』中公新書、2010 年。 その他、講義中に適宜紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		アメリカの歴史と文化B					
教員名		増田 直子					
科目No.	125333080	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では「移民国家」、「多人種・多民族国家」をキーワードとして、21 世紀に至るまでのアメリカの歴史を概観し、人種・民族をめぐる政治的・社会的・文化的問題を学ぶ。多様な人びとから成り立つがゆえにアメリカ合衆国はどのような問題に直面し、それにどう対処して国家としてのまとまりを保とうとしてきたのかを考える。							
〔到達目標〕							
① 移民流入の経緯や彼らの経験やアメリカ合衆国で果たした役割を理解する。 ② アメリカ現代史の流れを知り、基礎的な知識を身に着ける。 ③ 多様な人種・民族がアメリカ合衆国のあり方に影響を及ぼしていることを理解し、その意義を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	導入：「多人種・多民族国家」アメリカ ・講義の概要、課題などを説明する。			シラバスを読み、授業の概要や進め方を把握する。 授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 2 回	アングロ・アメリカ社会の形成 ・アメリカ合衆国の基礎となった政治制度や文化を理解する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 3 回	「新移民」の流入 ・移民の質の変化と移民社会形成を理解する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 4 回	移民排斥 ・移民を受け入れるアメリカ社会の反応を学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 5 回	第二次世界大戦から 21 世紀の移民政策：移民法を中心に ・現在のアメリカの移民政策や移民に対する社会の反応を学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 6 回	黒人奴隷制度 ・奴隷制度の発展、黒人の奴隷制度への抵抗を学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 7 回	アフリカ系アメリカ人の地位向上とその課題 ・公民権運動と現代のアフリカ系が直面している状況を学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 8 回	映画の中のアフリカ系アメリカ人 ・アフリカ系アメリカ人に対する大衆文化の中のステレオタイプを学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 9 回	日本人移民 ・日本からアメリカへの移民について学ぶ			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 1 0 回	日系アメリカ人 ・「日本人」移民から日系「アメリカ人」への変容や彼らの経験を理解する			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 1 1 回	アメリカ先住民 ・アメリカ史における先住民政策と彼らの抵抗を学ぶ。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 1 2 回	アジア系アメリカ人 ・移民法改正とアジア系をめぐる諸問題を理解する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 1 3 回	ヒスパニック/ ラティーノ ・ヒスパニック/ ラティーノをめぐる諸問題を理解する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
第 1 4 回	多文化主義 ・同化の概念と多様性をめぐる論争を学修する。			授業時に配布した資料を読み、自分の言葉でまとめ、復習する。		60	
〔授業の方法〕							
講義を中心とする。 講義の内容の理解度を確認するために、授業中の小テストを数回行う。 映像や文書史料などを用いた史料分析トレーニングを行う。							
〔成績評価の方法〕							
授業中に行う小テストおよび授業への参加度（20％程度）、課題レポート（3 0％程度）、学期末試験（5 0％程度）から総合的に判断する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「アメリカの歴史と文化 A」など。
〔テキスト〕 特になし。 授業中に資料やプリントを配布する。
〔参考書〕 明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ』（第 3 版）有斐閣選書、2011 年。 加藤洋子『「人の移動」のアメリカ史 移動規制から読み解く国家基盤の形成と変容』彩流社、2014 年。 貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018 年。 西山隆行『移民大国アメリカ』ちくま新書、2016 年。 購入の必要なし。 その他、講義中に適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		日本の歴史と文化A					
教員名		有富 純也					
科目No.	125333090	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
【テーマ】前近代における仏教文化 【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、仏教を歴史的に取り上げること、日本人の「無宗教」について考えてみようと思います。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。 ・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。 ・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。		60	
第 2 回	仏教伝来			【予習】インターネットなどで「蘇我氏と物部氏」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 3 回	飛鳥寺の成立			【予習】インターネットなどで「飛鳥寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 4 回	弥勒寺と百済大寺			【予習】インターネットなどで「百済大寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 5 回	白鳳寺院の成立			【予習】インターネットなどで「白鳳寺院」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 6 回	東大寺と国分寺			【予習】インターネットなどで「東大寺と国分寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 7 回	授業内到達度確認レポート（中間）の提出とその解説			【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。		60	
第 8 回	空海と最澄			【予習】インターネットなどで「天台宗と真言宗」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 9 回	末法思想と浄土思想			【予習】インターネットなどで「空也」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 0 回	鎌倉新仏教と顕密体制論			【予習】インターネットなどで「鎌倉新仏教の開祖」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 1 回	中世の禅宗と対外関係			【予習】インターネットなどで「五山」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 2 回	戦国時代仏教論			【予習】インターネットなどで「蓮如」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 3 回	キリスト教の伝来と江戸時代の宗教			【予習】インターネットなどで「ザビエル」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 4 回	授業内到達度確認レポートの提出			【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。		60	
〔授業の方法〕							
講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。							
〔成績評価の方法〕							
2 回の到達度確認レポート（8 0 %）、数度出される課題レポート（2 0 %）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおく和良好的ですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
箕輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		日本の歴史と文化B					
教員名		樋口 真魚					
科目No.	125333100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
幕末から第二次世界大戦後に至る日本の歴史を、政治、外交、社会、思想、文化など、できるだけ幅広い領域に触れながら、大まかに概観することを目的とする。とくにこの授業では、政治体制の変化や対外戦争が人々の生活および文化を大きく変容させた点に注目する。一見すると複雑な近現代史を、より身近なものとして理解できるように努めたい。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本近現代史に関する基礎的知識を習得する。 ・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができる。 ・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。		60	
第2回	幕末の動乱と明治維新			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第3回	自由民権運動と大日本帝国憲法			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第4回	近代的軍隊の創設			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第5回	日清戦争と「国民」の誕生			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第6回	明治期の社会と文化			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第7回	日露戦争・第一次世界大戦と大正デモクラシー			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第8回	満洲事変と軍部の台頭			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第9回	日中戦争と銃後社会			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第10回	総力戦と国民生活の変容			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第11回	大正・昭和期の社会と文化			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第12回	敗戦・占領・講和			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第13回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		60	
第14回	到達度確認テストの解説、総括と展望			【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60	
〔授業の方法〕							
・講義形式の授業。 ・初学者向けの内容とする予定である。 ・毎回授業後に、CoursePower から小レポートを提出してもらう。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。 ・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはない。 ※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。 （これを使いこなしていることを前提に授業を組み立てる予定である）							
〔成績評価の方法〕							
小レポート 30%、到達度確認テスト 70%							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・日本近現代史に関する基礎的知識を習得したか。 ・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができたか。 ・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができたか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし。
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		アジア・太平洋の歴史と文化A					
教員名		樋口 真魚					
科目No.	125333110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
近代国家への道を歩み始めた明治期の日本は日清戦争を経て、台湾を植民地とした。こうして「帝国」となった日本は続いて朝鮮を植民地化し、さらには南洋諸島や満洲を自らの勢力圏に入れ、第二次世界大戦期にはアジア・太平洋地域の大半を占領するに至った。この地域の歴史と文化については、日本の存在を抜きにして語ることはできないだろう。したがって、この授業では、おもに 19 世紀半ばから 20 世紀後半までの時期を対象として、日本がアジア・太平洋地域の国々とどのように関わってきたのかを検討する。そのうえで、これらの地域の人々が「日本」や「日本人」に対してどのような眼差しを向けていたのかについても併せて考察したい。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得する。 ・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができる。 ・異文化交流の課題を多角的な視点から考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】関連する文献などを確認する。		60	
第 2 回	近世日本とアジア・太平洋地域			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 3 回	「西洋の衝撃」から明治維新			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 4 回	日清韓関係の変容と日清・日露戦争			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 5 回	韓国併合と日本の植民地政策			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 6 回	辛亥革命と第一次世界大戦			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 7 回	第一次世界大戦後のアジア・太平洋地域			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 8 回	満洲事変と「満洲国」			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 9 回	日中戦争からアジア・太平洋戦争へ			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 1 0 回	「大東亜共栄圏」の幻影			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 1 1 回	海を渡った日本人たち			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 1 2 回	第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域			【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。		60	
第 1 3 回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
第 1 4 回	到達度確認テストの解説、総括と展望			【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60	
〔授業の方法〕							
・講義形式の授業。 ・初学者向けの内容とする予定である。 ・毎回授業後に、CoursePower から小レポートを提出してもらう。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。 ・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはない。 ※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。 （これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定である）							
〔成績評価の方法〕							

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に注目して、その達成度により評価する。 ・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得したか。 ・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができたか。 ・異文化交流の課題を多角的な視点から考察することができたか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし。
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		アジア・太平洋の歴史と文化B					
教員名		有富 純也					
科目No.	125333120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
【テーマ】中華世界における歴史と文化 【概要】前近代の中国を中心に、その周辺諸国にも目を配りながら、さまざまな歴史・文化事象について検討していきます。外交や仏教などについてが中心となりますが、ラーメンやアイドルについても触れたいと思います。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。 ・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。 ・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】 シラバスを熟読する。 【復習】 中国史における王朝の変遷を確認する。		60	
第 2 回	中国の前近代史 1			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 3 回	則天武後の生涯			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 4 回	中国の前近代史 2			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 5 回	中国の前近代史 3			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 6 回	中国の前近代史 4			予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 7 回	授業内到達度確認レポート（中間）の提出とその解説			【予習】 到達度確認レポートに備える。 【復習】 到達度確認レポートを復習する。		60	
第 8 回	K-POP と現代韓国社会／東アジアアイドル文化の行方			【予習】 インターネットで韓国のアイドル文化などについて知っておく。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 9 回	仏教の道 1ーインドから中国へ			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 0 回	仏教の道 2ートルファンとはどこか？			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 1 回	仏教の道 3ー三蔵法師の旅			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 2 回	東アジアにおける肉食 1			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習する。		60	
第 1 3 回	東アジアにおける肉食 2			【予習】 高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】 参考文献などでよく復習し、期末テストに備える。		60	
第 1 4 回	授業内到達度確認レポートの提出			【予習】 到達度確認レポートに備える。 【復習】 到達度確認レポートを復習する。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式です。皆さんの理解度によっては、授業内容を大幅に変更する可能性があります。また講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。							
〔成績評価の方法〕							
2 回の到達度確認レポート（コースパワーを用いたもの。3 0 %×2）、頻繁に出される課題レポート（コースパワーを用いたもの。4 0 %）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。 ・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高等学校で世界史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 堀敏一『中国通史』講談社学術文庫、2000 岸本美緒『中国の歴史』ちくま学芸文庫、2015 岡本隆司・箱田恵子編『ハンドブック近代中国外交史』ミネルヴァ書房、2019 氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫、2016 クシュナー、バラク『ラーメンの歴史学』明石書店、2018 張競『中華料理の文化史』ちくま文庫、2013 金成☆『K-POP』岩波新書、2018 馬場紀寿『初期仏教』岩波新書、2018 石井公成『東アジア仏教史』岩波新書、2019 藤善真澄『隋唐時代の仏教と社会』白帝社、200
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化A						
教員名	佐々木 紳						
科目No.	125333130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】 中東前近代史概説 【概要】 この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀までの前近代史の概説をおこなう。前半はおよそ 15 世紀までの概説、後半は 16 世紀から 18 世紀までの概説である。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にも触れる。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。 ・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。 ・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	・授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションも含みます。） ・「中東」とはなにか？／どこか？			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 2 回	中東古代史としての古代オリエント史			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 3 回	古代末期の中東とイスラーム			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 4 回	中東地域史のアフロ＝ユーラシア的展開			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 5 回	「中世」か、「中期」か			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 6 回	世界システム論のなかの中東地域史			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 7 回	境域世界論のなかの中東地域史			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 8 回	授業期間前半の総括と確認			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。		60	
第 9 回	近世イスラーム帝国の競演（1）：ティムール朝とムガル帝国			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 10 回	近世イスラーム帝国の競演（2）：オスマン帝国の興隆			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 11 回	近世イスラーム帝国の競演（3）：オスマン帝国の近世			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 12 回	近世イスラーム帝国の競演（4）：近世帝国としてのサファヴィー朝			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 13 回	近世から近代へ、そして現代へ			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 14 回	授業期間後半の総括と確認			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。		60	

〔授業の方法〕 ・講義形式で進める。
〔成績評価の方法〕 ・授業への取り組み（40%）、課題レポート（60%） ・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。 ・課題レポートは、3000 字程度のものを 2 回課す予定である。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・関連科目①：「アジア・アフリカの歴史と文化 B」では、この授業の後編にあたる中東近現代史を扱う。 ・関連科目②：「アジア文化・文化史特講 D」では、中東地域史の一環をなすトルコ現代史を扱う。
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 ・後藤明『イスラーム世界史』（角川ソフィア文庫）KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640 ・佐藤次高『イスラーム世界の興隆』（中公文庫）中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050792 ・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』（中公文庫）中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050303 ・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化B						
教員名	佐々木 紳						
科目No.	125333140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】 中東近現代史概説 【概要】 この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀末以降の近現代史の概説をおこなう。授業期間の前半はおおよそ 18 世紀末から 20 世紀初頭までの概説、後半は 20 世紀から 21 世紀初頭までの概説をおこなう。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にも触れる。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。 ・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。 ・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションもおこないます。）			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 2 回	中東近現代史への視角：インタラクティブな現象としての近代			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 3 回	中東近代史のなかのオスマン帝国（1）：オスマン帝国の近代化			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 4 回	中東近代史のなかのオスマン帝国（2）：オスマン帝国と近代世界			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 5 回	中東近代史のなかのイラン（1）：グレート・ゲームと「メタ・マクロな国家」			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 6 回	中東近代史のなかのイラン（2）：史料から見たガージャール朝			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 7 回	中東近代史のなかのアラブ地域			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 8 回	授業期間前半の総括と確認			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。		60	
第 9 回	中東現代史の形成と展開（1）：「セーヴル体制」の出現			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 10 回	中東現代史の形成と展開（2）：自存自立型の国家と社会			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 11 回	中東現代史の形成と展開（3）：委任統治型の国家と社会			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 12 回	中東現代史から現在へ（1）：パレスチナ問題と中東戦争			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 13 回	中東現代史から現在へ（2）：アルカイダからイスラーム国へ			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。		60	
第 14 回	授業期間後半の総括と確認（授業期間全体の総括と確認もおこないます。）			【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。		120	

〔授業の方法〕 ・講義形式で進める。
〔成績評価の方法〕 ・授業への取り組み（40%）、課題レポート（60%） ・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。 ・課題レポートは、3000 字程度のものを2 回課す予定である。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・関連科目①：「アジア・アフリカの歴史と文化 A」では、この授業の前編にあたる中東前近代史を扱う。 ・関連科目②：「アジア文化・文化史特講 D」では、中東地域史の一環をなすトルコ現代史を扱う。
〔テキスト〕 とくになし。
〔参考書〕 ・後藤明『イスラーム世界史』（角川ソフィア文庫）KADOKAWA、2017 年、ISBN 97840444002640 ・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ 500 年史：オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで』（上下巻）白水社、2013 年、ISBN 9784560083284 ・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 9784622033882 ・吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』有志社、2011 年、ISBN 9784903426419 ・酒井啓子『9・11 後の現
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ・ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		古典文化研究A					
教員名							
科目No.	125333150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		古典文化研究B					
教員名		井上 秀太郎					
科目No.	125333160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
古典文化の「古典」という言葉は古典古代を指しており、また、そこには「範とすべき」という意味も込められていた。すなわち、欧米において「範とすべき」とされてきた古代ギリシア・ローマの文化のことである。実際、ギリシア・ローマの文化は現代においてもヨーロッパ文明を様々な面において規定している。ローマ時代のものに限ってみても、ラテン語は現代各国語の基底を成し、ローマ法は法制度のみならず法学教育の分野でも大きな位置を占めており、さらに言えばキリスト教もローマ帝国の下で大発展したのである。したがって、古典文化を理解することは、現代欧米文明を知るうえで必須のことであると言える。授業では古代ローマ文化に比重を置きつつ、古典文化全般に目を向け、更には後世への影響までを取り扱っていく。学生諸君においては、古典古代の文化が決して遠い過去のものではないということを理解してほしい。							
〔到達目標〕							
DP2【教養の修得】を実現するため、次の3点を到達目標とする (1) 西洋古代の歴史について基礎的な知識を得る (2) 古典文化の様々な側面について具体的な事例を通して理解する (3) 古典文化と後の欧米文化の関わりを理解する							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	西洋古典とは何か（西洋古典学という学問の成り立ち、ホメロスの叙事詩を例に）			【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第2回	弁論術と法学（キケロ、クインティリアヌス、弁論の教育、法学者たちの日常の活動）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第3回	医学（医学と宗教、アスクレピウス信仰と医療）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第4回	ローマ人と美術（海外征服とギリシア美術の伝来・複製、ポンペイの壁画）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第5回	ローマ人と工芸（陶器の様式と製陶業の発展）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第6回	ローマ人と服飾文化（羊毛の文化史、毛織物産業の発展）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第7回	浴場文化（公衆浴場と娯楽）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第8回	古代の食文化とヨーロッパの歴史（ブドウ・小麦栽培）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第9回	葬礼と文学・美術（葬送演説の伝統、石棺彫刻）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第10回	ローマの建築史と後世への影響（ネロの黄金宮殿、コンクリート建築）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第11回	ローマ遺跡と後世（建築家バラディオ、流行版画家ピラネージ）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第12回	古代都市ローマと子弟教育（グランドツアーの習慣）			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第13回	古代遺跡と現代史（ムッソリーニによる遺跡の政治利用）、到達度確認テスト			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
第14回	古代オリンピック（古代の祭典競技会と近代オリンピック）、到達度確認テストの解説			【予習】前回の授業で予告したキーワードについて事典やネットなどで概要を調べておく 【復習】配布プリントを読み返し重要な事項について説明できるようにする		60 分	
〔授業の方法〕							

授業は講義形式で行い、教科書・副読本などは使わず、すべて配布資料に基づいて進めていく。また図像史料を多数紹介し、予備知識が乏しくとも興味を持てるような授業にしていく予定である。
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み状況と到達度確認テストの結果）に基づいて評価する 内訳は 授業への取り組み状況（小テスト） 20% 到達度確認テスト 80%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する （１）西洋古代の歴史について基礎的な知識を得る （２）古典文化の様々な側面について具体的な事例を通して理解する （３）古典文化と後の欧米文化の関わりを理解する
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に無し
〔テキスト〕 特に無し
〔参考書〕 参考書は必要に応じて授業中に紹介する
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 講義時にメールアドレスを伝達する
〔特記事項〕

科目名		地域文化研究 A					
教員名		植田 喜兵成智					
科目No.	125333170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本科目は、朝鮮の通史を取り扱う。 授業では、古代から近代に至るまでの朝鮮史の展開を概観する。特に、朝鮮社会の歴史的推移を東アジアの国際情勢と関連づけながら解説する。 高校までの日本史や世界史において、高句麗・百済・新羅の古代王朝、モンゴルに抵抗した三別抄、訓民正音（ハングル）を制定した世宗大王、あるいは現在の日韓・日朝関係ともかわる朝鮮総督府の植民地支配など、いくつかの朝鮮史のキーワードについては聞いたことがある人も多いだろう。しかし、それらのキーワードが朝鮮の歴史的展開の中でどのように登場するのかを体系的に知る機会には少なかったと思う。そこで本授業では、体系的に朝鮮の歴史を学ぶことで、朝鮮という地域・文化をより深く理解することをめざす。							
〔到達目標〕							
専門分野の知識・技能を習得するため以下の到達目標を設定する。 ①古代から近代までの朝鮮史について正確な知識を修得する。 ②朝鮮史の展開を東アジアの国際情勢のなかで把握し、その推移と変化の背景を説明できる。 ③授業での知見をもとに、伝統的な朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の方法などについて説明する。			【予習・復習】シラバスを読んでおき、自身の興味関心のある時代・分野を考えておく。		30 分	
第 2 回	朝鮮半島に関する基礎知識 ・朝鮮半島の地理や時代区分などの基礎的な知識を学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 3 回	古代（１）：古朝鮮と楽浪郡・帯方郡 ・紀元前から紀元後 4 世紀ごろまでの朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 4 回	古代（２）：朝鮮三国の興亡 ・ 4 世紀から 6 世紀までの朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 5 回	古代（３）：新羅の統一と隋唐帝国 ・ 7 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 6 回	古代（４）：新羅・渤海の盛衰 ・ 8 世紀から 10 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 7 回	中近世（１）：後三国時代と高麗の成立 ・ 10 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 8 回	中近世（２）：高麗の政治と東アジア情勢 ・ 11 世紀から 13 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 9 回	中近世（３）：朝鮮王朝の建国と両班 ・ 11 世紀から 16 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 1 0 回	中近世（４）：朝鮮王朝の外交と政治・社会 ・ 16 世紀から 19 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 1 1 回	近代（１）：開国から大韓帝国へ ・ 19 世紀から 20 世紀初頭の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 1 2 回	近代（２）：植民地朝鮮の支配と解放 ・ 20 世紀の朝鮮半島の歴史について学修する。			【復習】授業レジュメ、自筆ノートを読み、講義の内容をふりかえり、レスポンスシートを作成する。		60 分	
第 1 3 回	到達度確認テスト ・ これまでの学習内容について理解度を確認する。			【予習】到達度確認テストに備えて、これまでに学修した内容を確認しておく。		120 分	
第 1 4 回	到達度確認テストの解説 ・ 授業のまとめ			【復習】到達度確認テストの結果を受けて、授業を振りかえり、到達目標と自分の理解度を点検して、不足している点を学修する。		30 分	
〔授業の方法〕							
講義形式で進める。毎回、レジュメと資料を配布する。毎回授業後にレスポンスシートを提出する。 ・ レスポンスシート：毎回の授業の理解度について確認する。 ・ 到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（30％：授業への参加状況、レスポンスシートの内容で評価） 到達度確認テスト（70％：授業全体の学修内容についての理解度で評価）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度によって評価する。

①古代から近代までの朝鮮史について正確な知識を修得しているか。

②朝鮮史の展開をその推移と変化の背景を説明できるか。

③朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『世界歴史大系 朝鮮史 1・2』山川出版社、2017 年
そのほか授業中の適宜紹介する。ただし、購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		地域文化研究 B					
教員名		近藤 宏					
科目No.	125333180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業ではラテンアメリカ地域について、多文化／多民族性という観点から考える。ラテンアメリカでは、多様な民族、文化のある社会がかたちづくられている。歴史的状況や現在の状況を、食といった身近なテーマから自然資源や暴力といったラテンアメリカに特徴的なテーマと交差させてながら、多角的に考える。また、授業資料として映画や小説なども用いる。ラテンアメリカについて知るさまざまな方法も併せて学びながら、知らないことについても理解を深められるようになることが求められる。							
〔到達目標〕							
ラテンアメリカ地域の特徴を知る 多文化、多民族状況を具体的な場面を通して想像できるようになる。 多文化的状況をさらに細かく分けて考えられるようになる 映画や小説を、知らないことを知る／考えるための材料にできるようになる							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション、授業の進め方、 「ラテンアメリカ」という名前			講義の復習		20	
第 2 回	ラテンアメリカの地理、国々、人びと			講義の復習		30	
第 3 回	ラテンアメリカ的諸概念			講義の復習		30	
第 4 回	映画『ウォーターウォー』から学ぶ 1			講義の復習		30	
第 5 回	映画『ウォーターウォー』から学ぶ 2			講義の復習		30	
第 6 回	先住民と植民地 1	ラス・カサス レドゥクション		講義の復習		30	
第 7 回	先住民と植民地 2	異文化の混交 「混血」と棲み分け		講義の復習		50	
第 8 回	食からみるラテンメリカ 1	社会の形成 ブラジル料理／ペルー料理／アルゼンチン料理		レポート準備		50	
第 9 回	食からみるラテンアメリカ 2	移動の歴史 肉食とトウモロコシ		レポート準備		30	
第 1 0 回	食からみるラテンアメリカ 3	嗜好品は誰のために 砂糖、チョコレート		レポート準備		60	
第 1 1 回	現代のラテンアメリカと多文化性 周辺から考える			レポート準備		60	
第 1 2 回	現代のラテンアメリカと多文化性 先住民から考える①地下資源			講義の復習＋レポート準備		60	
第 1 3 回	現代のラテンアメリカと多文化性 先住民から考える②地下資源			講義の復習＋レポート準備		60	
第 1 4 回	現代のラテンアメリカと多文化性 先住民から考える③パンデミック			レポート準備		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義でおこなう。映画なども授業に取り入れる。それらを鑑賞するだけでなく、知らないことを学び、考えていなかったことを考えるためのきっかけとなることを期待する。 毎回の授業で、コミュニケーションペーパーを配布する。それによって積極的に授業参加をしてほしい。授業参加は、教室にいることを意味しない。 課題レポートは、授業で学んだことを用いて文章を書くこと、またそのために必要となる情報や知識について調べていることなどを中心に評価する。							
〔成績評価の方法〕							
課題レポート（1 回、20％）、最終レポート（65％）、授業参加（15％）から総合的に評価する							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、地図を見る、知らない国名地名都市名を調べることを習慣づけてほしい
〔テキスト〕 なし。 ただし、以下の参考書については積極手に手に取ってほしい
〔参考書〕 『野蛮の言説』中村隆之 『世界の歴史（18）ラテンアメリカ文明の興亡』高橋均・網野徹也 『ラテンアメリカ 500 年』清水透 『ラテンアメリカからの問いかけ』西川長夫・原毅彦（編） 『現代ラテンアメリカ文学併走』安藤哲行 現代企画室刊行『インディアス群書』各巻
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		地域文化研究 C					
教員名		有富 純也					
科目No.	125333190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 風土記からみる地域文化 古代日本の地域文化を語るうえで、風土記は欠かせないものです。この風土記の、主に常陸・出雲・播磨の部分を読むことで、当時の日本文化のあり方を考えてみるとともに、現代につながる文化や風俗があるか、検討してみたいと思います。							
〔到達目標〕 DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①古典を現代語訳だけではなく、漢文やその書き下し文などでもある程度理解できるようになるか。 ②古代の風俗や文化について、地域差を含め理解できるかどうか。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】インターネットを利用して風土記の情報を集める。		60	
第 2 回	風土記総論と古代日本			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 3 回	常陸国風土記総記を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 4 回	常陸国風土記新治郡を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 5 回	常陸国風土記筑波郡を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 6 回	常陸国風土記行方郡を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 7 回	【ティーブレイク】韓国・木浦の地域性			【予習】韓国木浦についてインターネットで調べておく。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 8 回	出雲国意宇郡を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 9 回	出雲大社の成立			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 1 0 回	古事記スサノオ神話を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 1 1 回	出雲と大和			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 1 2 回	播磨国風土記を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 1 3 回	播磨国風土記を読む			【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。		60	
第 1 4 回	総まとめ			【予習】風土記全体を理解する。 【復習】授業全体の復習し、レポート課題に備える。		60	
〔授業の方法〕 講義形式ですが、書き下しや現代語訳を読んでもらいますので、ある程度下調べをしておいてほしいです。 なお受講生の多少によっては、方法を変更する可能性もあります。 遠隔授業の場合は zoom（URL はコースパワーに掲載予定）を利用します。							
〔成績評価の方法〕 担当時の予習量（5 0 %）、期末レポート（5 0 %）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

①古典を現代語訳だけではなく、漢文などでもある程度理解できるようになるか。

②古代の風俗や文化について、地域差を含め理解できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

日本の歴史と文化 A

〔テキスト〕

中村啓信監修訳注『風土記 上』角川ソフィア文庫、2015 年
そのほか、プリントを配布することがあります。

〔参考書〕

初回授業時にお示しします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		地域文化研究D					
教員名		草野 佳矢子					
科目No.	125333200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
1917 年革命以前のロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて、講義する。適宜、関連映像の視聴も行う。							
〔到達目標〕							
帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ロシア帝国成立前のロシア① ・キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 2 回	ロシア帝国成立前のロシア② ・モスクワ・ロシアの特徴			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 3 回	ピョートル 1 世の西欧化政策			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 4 回	女帝たちの時代			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 5 回	エカチェリーナ 2 世の統治			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 6 回	アレクサンドル 1 世とニコライ 1 世			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 7 回	アレクサンドル 2 世と大改革①			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 8 回	アレクサンドル 2 世と大改革②			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 9 回	革命運動と政治改革の試み			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 1 0 回	アレクサンドル 3 世時代のロシア			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 1 1 回	19 世紀末～20 世紀初頭のロシア			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 1 2 回	1905 年革命			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 1 3 回	帝政ロシアの崩壊			復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60	
第 1 4 回	理解度確認テスト			予習：試験に備えて、これまでの学習内容を復習する。		120	
〔授業の方法〕							
授業は配布プリントに沿って、講義を中心に進めます。 授業後、リアクションペーパーに、感想・質問などを書いて提出してください。 理解度確認テストの受験は、第 14 回目の授業を除いて 10 回以上の出席がある学生に対して認めます（20 分以上の遅刻は 0.5 回の出席とします）。 上に示された予復習時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。							
〔成績評価の方法〕							
理解度確認テスト 75%、授業への取り組み（リアクション・ペーパーの提出） 25%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ・近代ロシア史の流れ、ロシアの国家・社会の特徴を西欧のそれと比較して理解しているかに着目して評価します。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高校世界史程度の西洋史（ロシア史を含む）の知識があること。
〔テキスト〕 特定の教科書は用いません。
〔参考書〕 『ロシアを知る事典』、平凡社 世界歴史体系『ロシア史 1～3』、山川出版 世界各国史『ロシア史』山川出版社 藤本和貴夫他編著『ロシア近現代史』、ミネルヴァ書房 栗生沢猛夫『図説 ロシアの歴史』 河出書房新社 土肥恒之『図説 帝政ロシア』 河出書房新社 土肥恒之『ロシア・ロマノフ王朝の大地』講談社学術文庫 マルク・ラエフ（石井規衛訳）『ロシア史を読む』名古屋大学出版会 *参考書は購入の必要はありません。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパ文化・文化史特講A					
教員名							
科目No.	125333210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパ文化・文化史特講B					
教員名		野田 恵子					
科目No.	125333220	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、「同性愛」の歴史をたどることでイギリスにおけるセクシュアリティとジェンダーの歴史を見ていく。「同性愛」に対する社会の態度、その文化のセクシュアリティやジェンダーに関する認識のありようが端的に表れる。現在では「同性婚」が合法化されている国は少なくないが、イギリスでどのような歴史的経緯のもとに「同性婚」が認められるようになったのかを見ることで、日本での「同性愛」の社会的包摂のありようを考える手がかりにもしてほしい。							
〔到達目標〕							
①イギリスの「同性愛」やジェンダー・セクシュアリティに関する歴史と文化の基礎的知識を学ぶことで、現代社会の諸問題を多角的に見る視点を身につける。 ②他文化を学ぶことで、自文化を相対化し、多文化理解のための基本的姿勢を身につける。 ③イギリスの文化・歴史の知識を深め、受講者各自の関心領域へ応用する力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	オリエンテーションー本講義の目的と進めかたについて			シラバスを読みテーマについて理解しておく。		30	
第2回	キリスト教と「同性愛」ー「ソドミー」という罪			前回の添付資料の復習		60	
第3回	「ホモソーシャルな関係」と「同性愛」			前回の添付資料の復習		60	
第4回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ①			前回の添付資料の復習		60	
第5回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ②			前回の添付資料の復習		60	
第6回	ヴィクトリア朝とセクシュアリティ③			前回の添付資料の復習		60	
第7回	中間のまとめ			これまでのトピックの講義内容や文献などを読み、整理する。		60	
第8回	性の医療化と「同性愛者」の誕生			前回の添付資料の復習		60	
第9回	女性同性愛の歴史①ー「ロマンティックな友情」			前回の添付資料の復習		60	
第10回	女性同性愛の歴史②ー女性同性愛者の誕生			前回の添付資料の復習		60	
第11回	性科学と「同性愛解放運動」への道			前回の添付資料の復習		60	
第12回	「寛容な社会」と「同性愛」の脱犯罪化			前回の添付資料の復習		60	
第13回	「同性婚」の合法化と変容する「家族」			前回の添付資料の復習		60	
第14回	まとめ			これまでの講義を復習する。		60	
〔授業の方法〕							
▶ 配布するレジュメ（パワーポイント）を使つての講義形式で行う（適宜、テーマに基づく映像資料も利用する）。 ▶ 毎回、リスボンズペーパーで授業の理解度やテーマについての考察などを記入してもらう。 （講義内容は授業の進捗度により変更することもある）							
〔成績評価の方法〕							
レポート（60%）とリスボンズ・ペーパー（40%）で評価する。なお、全授業の三分の二以上欠席すると成績評価しないので注意すること（期末レポートを提出しても評価しないので十分に注意すること）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特に使用しない。毎回プリントを配布する。
〔参考書〕 授業中に指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパ文化・文化史特講C					
教員名							
科目No.	125333230	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		ヨーロッパ文化・文化史特講D					
教員名		天沼 春樹					
科目No.	125333240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
ヨーロッパ諸国の文化事項、時代とそれぞれの国の特色、そしてまたヨーロッパ全体との関りを意識しながら紹介・考察・分析していく。その際、①文芸②美術③音楽④そのほか文化的事項から毎回トピックをとりあげ、紹介解説し、その文化現象の内容を知るとともに、それにひそむ特性ならびに国民性を読み解いていく。③さらには、それぞれの関連性として、その文化的影響についても考察していきたい。ヨーロッパの諸国は、それぞれ文化的にも政治的にも関りが強く、単独で語られるものではない。人の流れ、物のながれ、ひいては紛争・戦争などという様々な交流がある。そんな、ダイナミックな流れのなかで、個々の文化現象のもつ意味を考えたい。 ひいては、人間の活動の総体が「文化」であるわけで、ただ芸術の領域にとどまらず、宗教をはじめ、様々な「事件・事故」のななから、テーマをとりあげていくつもりである。							
〔到達目標〕							
ヨーロッパという漠然としたイメージではなく、そこに共通して流れる意識や、反対にそれぞれの国や地域で異なる特色をすくいあげ、その総体としてヨーロッパを眺める視野を養ってもらおう。たとえば、フランス人、ドイツ人、イギリス人といった国民性はどのように現れるのか？ だが、その国民性とは？ どのような要因で生まれるのか？ 問いかけはいやまずばかりだろう。政治・経済からはじめて、個々の歴史上の出来事も、それらの国民性に由来するの否か。たとえば、なぜ宗教改革はドイツで起こったのか？ マルチン・ルターのプロテスト精神は、							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ヨーロッパ諸国の文化を概観する。イメージだけではすまされない。			ヨーロッパといわれる地域にちらばる諸国を大国だけでなくすべて網羅してみよう。まず、地図をひろげてみよう。		30分。	
第2回	ヨーロッパ人と海①地中海			地中海。大西洋、または北海といった海洋とヨーロッパ諸国の文化のかかわりはどんなものだったか？		30分	
第3回	ヨーロッパ人と海②大西洋			大航海時代の意味するもの。ヨーロッパ人は、どこへむかい、どこに行きついたのか。		30分	
第4回	戦争の文化史①			古代・中世のヨーロッパ大陸での戦争、あるいは紛争		30分	
第5回	戦争の文化史① 銃火をまじえるだけが戦争ではない！			古代・中世のヨーロッパ大陸での戦争と紛争。民族と文化の対立。なぜ人は「異教徒を殺すのか？		30分	
第6回	ヨーロッパ芸術史			絵画・彫刻・美術における文化史。宗教と芸術。		30分	
第7回	ヨーロッパ芸術史			古典的文芸。神話から伝説、伝説から国民的物語へ。		30分	
第8回	ヨーロッパ芸術史 音楽			なぜドイツは音楽家を輩出したのか？いや、それは痛切で、それぞれの国に個性ある音楽家が存在しのか？		30分	
第9回	ヨーロッパ文学の誕生？演劇史の誕生。			シェーマスピアが代表選手か？ ほんとは知らないシェークスピア。ほんとは知らない、ヨーロッパの劇作家。中世から現代まで・・・		30分	
第10回	ヨーロッパの思想・哲学			ソクラテス・プラトンからばめて、ヴィトゲンシュタインまで一気に語る力わざ。いったい彼らは何を考え、かく語りきか？		30分	
第11回	ヨーロッパ人の発明ろ発見史案内。 {そのとき彼は「ユリイカ」と叫んだ!!			「天動説から地動説へ!万有引力」の発見からはじまって、ヨーロッパ人は自然科学の発見に邁進してきたようにみえる。		30分	
第12回	独裁者列伝(政治も文化だ) ジュリアス・シーザーからはじまって、ヒトラー、ムッソリーニに終わる独裁者列伝。			実はスペインにもフランコがいた。人類はいかにして、カリスマ独裁者を求めるのか。そしてかならず・・・		30分	
第13回	現代のヨーロッパ諸国を歩いてみよう。			それらの都市や文化的特色があるのかないのか？		30分	
第14回	ルートヴィヒ・ヴィゲンシュタインはかく語りき。			「語りえぬものには沈黙せねばならない」けれども、たとえばちがついていようと、自分で考えることはいいことだ		30分	
〔授業の方法〕							
講義と資料配布による。単なる解説・説明・蘊蓄だけではなく、語られた内容から諸君が何事か疑問や知識欲を喚起してくれるような論法で論題をすすめていきたい。知識とは、何事かを自分で考え始めるきっかけにすぎない。データバンクを作るのが私の仕事ではなく、「考える頭」(ふつうはそうなのだが、たいていは考えたと思いついでいることのほうがおおいのだ。他人の説は他人の考えた結果にすぎないのだから、そこから自力でなにごとか考え出すことが大切なのではないか) と思っている。							
〔成績評価の方法〕							

レポートによる。資料の引き写しではなく、自分自身の考察を重要視します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 紀元前から現代にいたる歴史年表のようなものを参照できるようにしておいてほしい。時代の流れ、変化、変革期といったトピックに気が付くように「年表を読む」ことも勉強になります。
〔テキスト〕 テキストはとくにさだめない。毎回資料を配布する。
〔参考書〕 その都度、たくに参考になるものがあれば、提示して推薦します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。またはポータルサイトから。
〔特記事項〕 何事も、固定観念や「～といわれている」的な先入観をもたず、「なぜなんだろう」という素朴な発想でもいから、問いかけていく姿勢が大事です。まあ、もう大人なんだから「なんで、なんで？」といちいち聞かなくても、自分で深掘りしていくことです。ただし、～といわれているという通念を鵜呑みにしないことです。だれひとりジュリアス・シーザーにあった人なんかいないんだから。またアドルフ・ヒトラーの演説を日本人でドイツ語で聞いたひとだってもういないわけで、彼がどんなことってドイツ人の心をとらえていったか実感できるとはかぎらない

科目名		アメリカ文化・文化史特講A					
教員名							
科目No.	125333250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		アメリカ文化・文化史特講B					
教員名		細谷 典子					
科目No.	125333260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
2020 年、コロナ禍のアメリカ合衆国では、人種差別や経済格差が顕在化しました。COVID19 の感染率の高さ、警官によるアフリカ系アメリカ人への暴力と BLM（Black Lives Matter）運動の高まり、大統領選挙をめぐる一連の動きを見ると、公民権運動から 50 年を経た今も、人種主義が決して過去の問題ではないことを実感できます。この授業では現代アメリカ社会が内包する問題の背景を歴史的な観点から学び、社会を考察する視点を養成していきたいと考えております。							
〔到達目標〕							
アメリカ合衆国は、建国時に「自由」と「平等」理念を掲げながら、奴隷制や人種差別、移民制限等が常に国家のもんだ台として取り沙汰され、その矛盾の解消のために努力を続けてきた。その歴史と、それを解決しようと歩んできた道のりを理解し、説明できるようになることを目標とします。そのうえで、多文化社会構築のプロセスにあるアメリカ現代社会、ひいては日本の状況を考察する視座を持つことを目指します。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のし方を説明する。 「多からなる一」という理想(序章)			【予習】 序章を熟読。		60	
第 2 回	「移民の国」の理想とその歴史的展開(1 章) ・「移民の国」の理念とナショナリズムを理解する。			【予習】 第 1 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 3 回	「移民の国」の理想とその歴史的展開(1 章) ・ポスト公民権時代の「移民の国」と文化的多様性の世紀を把握する。			【予習】 第 1 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 4 回	アメリカ人種主義体制と文化的多様性(2 章) ・アメリカの人種主義、奴隷制、人種隔離制度について理解する。			【予習】 第 2 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 5 回	アメリカ人種主義体制と文化的多様性(2 章) ・公民権運動の歴史とその成果、波及効果を理解する。			【予習】 第 2 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 6 回	「単一のアメリカ」への同化(3 章) ・「人種のるつぼ」等、同化論を理解する。			【予習】 第 3 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 7 回	文化多元主義とエスニシティ(4 章) ・文化多元主義を理解する。			【予習】 第 4 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 8 回	アメリカ型多文化主義の成立と展開(5 章) ・多文化主義の始まりと運動の広がりを理解する。			【予習】 第 5 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 9 回	アメリカ型多文化主義の成立と展開(5 章) ・多文化教育を理解する。 ・多文化主義の歴史的意義を考える。			【予習】 第 5 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	多文化主義をめぐる論争(6 章) ・多文化主義を統一と考えるのか、分裂と考えるのか、双方の主張を理解する。			【予習】 第 6 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	多文化主義について議論する。			【予習】 多文化主義について議論するための準備。多文化主義の論点とその根拠を把握し、自分の意見をまとめる。		60	
第 1 2 回	ポスト公民権時代の新しい人種主義(7 章) ・現代アメリカが直面する問題を把握する。 ・従来の人種主義と現代の人種主義の相違を理解する。			【予習】 第 7 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	アメリカ多文化社会の未来へ(8 章) 今後のアメリカ社会について考察する。			【予習】 第 8 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	到達度確認テスト			【予習】 テストの準備		180	
〔授業の方法〕							
授業は講義を中心に進める。普段から教科書・ノート・プリントを使った復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないようにすること。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。 多文化主義については、それまで学んだ知識を踏まえて議論の時間をとる。議論への積極的な参加(発言)ができるよう十分に準備すること。 到達度確認テストは授業全体の学修内容についての理解度を確認する。							

〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト(50%)、議論への参加度(20%)、講義中の発言や質問、授業への積極的な参加(10%)、講義内での提出物(クイズ、感想等)(20%)による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は、アメリカ史の基礎知識。
〔テキスト〕 南川文里『アメリカ多文化社会論：「多からなる一」の系譜と現在』(法律文化社、2016年) ISBN, ISBN978-4-589-03728-2. 本体 2,800 円＋税.
〔参考書〕 必要に応じ授業内で紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業の前後に教室内で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		日本文化・文化史特講A					
教員名							
科目No.	125333270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本文化・文化史特講B					
教員名		下田 桃子					
科目No.	125333280	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、江戸時代の古文書（史料）を読みながら、江戸時代の宗教と国家・社会との関係について考えていきます。江戸時代には多様な宗教の形態があり、また多様な宗教者が存在していましたが、中でも最も中核的といえる仏教および寺院と国家・社会との関係をみていくことを通じて、江戸時代の社会のしくみに対する理解を深めてもらいたいと思います。 高校までの勉強では、歴史の教科書に書かれていることが「事実」で、その「事実」を暗記したり、それをもとに考えたりするのが「歴史」の勉強だと感じている人も多いかもかもしれません。しかし、そもそも何をもとに歴史が語られているのかというと、それは史料です。過去の史料を注意深く読み、そこから読み取れることを根拠として積み重ね、歴史を描いていくのが歴史学という学問で、史料は歴史学で最も大切にされているものだといっているでしょう。 現代に生きる私が過去の史料を読む以上、そこにはどうしても、現代社会の価値観や、自分の解釈が入ってきてしまいます。そこから完全に自由になることは難しいのですが、それでも、自分に都合のいい読み方をしないように、できるかぎり注意深く史料に向き合って、きちんと根拠を示しながら、昔の社会の様子を復元していく。このように、史料に真摯に向き合う姿勢が身につくと、歴史学だけでなく、他の学問にも、また実生活で様々な情報を収集し、判断し、何か解決策を導いていくときにも必ず役に立つことと思います。史料を読む中で、内容に加えて、そのような学問の姿勢についても感じ取ってもらいたいと考えています。							
〔到達目標〕							
DP 1（教養の習得）、DP 6（課題の発見と解決）を実現するため、以下の点を到達目標とします。 ①江戸時代の宗教、とくに仏教のありかたを通じて江戸時代の社会に対する理解を深める。 ②江戸時代の古文書の読解能力をある程度身に着ける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校日本史教科書を用い、江戸時代の部分を復習する。		60分	
第2回	江戸時代の古文書について			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第3回	史料を通じて江戸幕府の宗教政策を学ぶ その1			【予習】事前に配布された史料を予習し、現代語訳を作成する。 【復習】史料の読み方をよく確認する。		60分	
第4回	史料を通じて江戸幕府の宗教政策を学ぶ その2			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第5回	史料を通じて江戸幕府の宗教政策を学ぶ その3			【予習】事前に配布された史料を予習し、現代語訳を作成する。 【復習】史料の読み方をよく確認する。		60分	
第6回	寺院と地域社会に関する史料を読む その1			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第7回	寺院と地域社会に関する史料を読む その2			【予習】事前に配布された史料を予習し、現代語訳を作成する。 【復習】史料の読み方をよく確認する。		60分	
第8回	寺院と地域社会に関する史料を読む その3			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第9回	将軍家菩提寺と幕府・大名家に関する史料を読む その1			【予習】事前に配布された史料を予習し、現代語訳を作成する。 【復習】史料の読み方をよく確認する。		60分	
第10回	将軍家菩提寺と幕府・大名家に関する史料を読む その2			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第11回	将軍家菩提寺と幕府・大名家に関する史料を読む その3			【予習】事前に配布された史料を予習し、現代語訳を作成する。 【復習】史料の読み方をよく確認する。		60分	
第12回	将軍家菩提寺と幕府・大名家に関する史料を読む その4			【予習】事前に配布されたプリントを熟読する。 【復習】授業で学習した史料の読み方を復習する。		60分	
第13回	到達度確認テスト			【予習・復習】到達度確認テストのために、予習、あるいは復習する。		120分	
第14回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ			【復習】到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60分	
〔授業の方法〕							
史料プリントを配布し、それを受講生が読み、教員が訂正していきながら、適宜解説を加えるという形を取ります。							

〔成績評価の方法〕 授業中の史料読解能力の提示と、質問・コメントペーパーへの回答など、授業への主体的な参加度（50%）、到達度確認テスト（50%）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その到達度により評価する。 ①江戸時代の宗教、とくに仏教のありかたを通じて江戸時代の社会に対する理解を深める。 ②江戸時代の古文書の読解能力をある程度身に着ける。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高校の「日本史 B」程度の日本近世史（主に江戸時代史）の知識を理解していることを前提に授業を進める。自信がない場合は、授業開始前に教科書等で確認しておくこと。
〔テキスト〕 必要に応じて授業中にプリントを配布します。
〔参考書〕 授業中に適宜指示もしくは配布します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		アジア文化・文化史特講A					
教員名							
科目No.	125333290	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		アジア文化・文化史特講B					
教員名		木村 暁					
科目No.	125333300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この授業は「中央ユーラシアにおけるイスラームと王権」というテーマのもと、歴史学の見地と方法とに拠りながら当該テーマにかかる諸問題を講じる。ソ連解体後に脚光を浴び、人々の地理認識のなかに徐々に明瞭な像を結びはじめた中央ユーラシアというメガ地域は、古来、諸民族が行き交い、諸文明が交錯する、すぐれて動態と変容に満ちた空間となってきた。そこに広がる草原とオアシスは、古くはおもにイラン系の遊牧民と定住民が割拠し活動する舞台であったが、やがてテュルク化（6世紀～）とイスラーム化（8世紀～）の長期持続的な波にさらされ、13世紀にはモンゴル帝国、近代以降はロシア帝国と清帝国、さらにソ連と中華民国、中華人民共和国それぞれの政治支配下にその相当部分が組み込まれたことで、民族誌的にも政治的・宗教的にもきわめて複雑な組成を獲得するにいたった。そうしたなかで、ここに伝播し普及して以来、イスラームは基本的に同地域の支配的な宗教でありつづけている。 そこで、本講義ではイスラームに着目しつつ、時々王権がそれとどのような関係をとりもってきたのかを歴史的諸事件・諸事象から跡づけるとともに、その関係性のありかたや規定要因を時間軸縦断的かつ地域横断的に比較検討する。このようにイスラーム王権論の切り口から歴史を眺望することで、いくつかの新知見を導きだし、中央ユーラシアの地域構造とその特質への理解を深めたい。同時に本講義は、政治権力と宗教の関係性という普遍的なテーマの考察を通して、歴史を見る眼のみならず、歴史の基層に立ちもどりながら現在を見る眼を研ぎ澄ますことも一つのねらいとしている。							
〔到達目標〕							
この授業は以下の3点を到達目標とする。 ①中央ユーラシアという地域をよく知り、同地域にそなわる構造と特質について知見を深めること。 ②中央ユーラシア史上の具体的事例をもとに、政治権力と宗教がどのようにに関連しあい、そこにどのようなメカニズムや力学がはたらくのかを洞察する力を養うこと。 ③歴史と現在とのあいだの連続／変化／断絶の諸相、および、各時代における諸地域間の共通点と相違点を広く多角的に見渡せる力、いいかえれば、時間軸・空間軸上での比較と相対化の視座（すなわち通時的・共時的視座）を磨くこと。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——中央ユーラシア、イスラーム、王権			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第2回	中央ユーラシアのテュルク化とイスラーム化			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第3回	サーマーン朝下における正統的スンナ派学の形成			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第4回	テュルク系諸王朝の支配とペルシア語文化圏の拡大			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第5回	モンゴル帝国とイスラーム			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第6回	ティムール朝の興亡——もうひとつのルネサンス			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第7回	中央アジア発祥のスーフィズムの諸潮流			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第8回	ウズベクとカザフの諸ハン国			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第9回	オスマン帝国とスンナ派イスラーム世界秩序			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第10回	聖戦か従属か——露清帝国と中央アジア・ムスリム			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第11回	ジャディード運動——ムスリム社会の自己変革			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第12回	ブハラにおけるスンナ派・シーア派関係の変容			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第13回	ソ連とイスラーム			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
第14回	中央ユーラシアにおけるイスラーム復興			参考書①～⑧の閲覧できるもののなかから、関連しそうな部分を自分で探し出し一読することが望ましい。		60分	
〔授業の方法〕							
この授業は講義形式でおこなう。毎回の授業終了後には、受講者の理解度や興味関心・問題意識のありようを確認する目的で、講義テーマにかかわる質問ないしコメントを各自が記入したレスポンスシート（記名式）を提出してもらう。レスポンスシートの提出のしかたについては初回授業時にアナウンスする。学期途中と学期末に授業内容をふまえた課題レポートの提出（計2回）が求められる。課題レポートの具体的な要領については授業内でアナウンスする。レ							

ポートの作成に際して剽窃など不正行為をおこなった者は落第とする。 授業内では下掲の参考書（①～⑧）のほかにも参照すべき文献を随時案内する予定である。それらも準備学習に適宜役立ててもらいたい。
〔成績評価の方法〕 平常点（30％）と課題レポート2本（30％＋40％）にもとづいて総合的に評価する。平常点については、毎回の授業への取り組み（レスポンスシートの記述内容を含む）が評点の根拠となる。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 イスラームという宗教がどのような特徴をもち、スンナ派とシーア派のあいだにどのような違いがあるのかについて、基本的な知識を有することが望ましい。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 以下に掲げる参考書①～⑧はかならずしも購入する必要はないが、そのいずれもが講義内容を理解し自主的に考究をおこなううえでそれなりに助けとなるはずである。どの文献にアクセスするかは、個々人の関心やそれぞれの置かれた環境・条件にもよるであろうから、これをとくに指定することはせずに各自の判断と選択に委ねるが、可能なかぎり多くを閲覧するよう努めてほしい。 ①『中央ユーラシア史』、小松久男編、山川出版社、2000年、税込3,850円、ISBN:4-634-41340-X、購入の必要なし ②『中央アジアのイス
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		アジア文化・文化史特講C					
教員名							
科目No.	125333310	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		アジア文化・文化史特講D					
教員名		佐々木 紳					
科目No.	125333320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】 トルコ共和国と現代世界 【概要】 第一次世界大戦終結直後の1923年に成立したトルコ共和国は、人口の9割以上がイスラーム教徒であるにもかかわらず、トルコ語で「ラーイクリキ」と呼ばれる政教分離・世俗主義の原則を国是とする現代国家として知られている。ところが現在、そのトルコでは、親イスラーム政党が20年近く政権与党の座を占める「未曾有」の事態が生じている。この20年間はまた、グローバル化が進展する現代世界のなかで、トルコが政治的・経済的に存在感を高め、中東の「地域大国」としての地位を固めていく時期に重なる。この授業では、そうしたトルコ共和国の歴史を現代世界の歴史的展開のなかで考えていく。							
〔到達目標〕 DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・トルコ現代史の通時的な見取り図を描けるようになる。 ・トルコの歴史を、中東情勢や現代世界の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。 ・トルコの視点から現代世界を俯瞰することで、受講者各自のこれまでの現代史理解を相対化することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	授業の紹介と導入			【予習】 シラバスを読む。高校の世界史の教科書のなかで、トルコ共和国の歴史に関する記述がどれだけあるかをチェックしておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第2回	近代から現代へ			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第3回	トルコ共和国の成立（1）：国民国家形成と初期の諸改革			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第4回	トルコ共和国の成立（2）：歴史をつくる、言語をかえる			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第5回	戦間期の世界とトルコ（1）：セーヴル体制下のトルコ			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第6回	戦間期の世界とトルコ（2）：トルコの第二次世界大戦			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第7回	戦後の世界とトルコ（1）：戦後トルコの政治と政党			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第8回	戦後の世界とトルコ（2）：トルコの冷戦			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	
第9回	戦後の世界とトルコ（3）：戦後トルコの社会と文学			【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。		60	

第 1 0 回	戦後トルコをめぐる諸問題 (1) : EU 加盟問題	【予習】 期末の課題レポートに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第 1 1 回	戦後トルコをめぐる諸問題 (2) : キプロス、アルメニア、クルド	【予習】 期末の課題レポートに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第 1 2 回	21 世紀のトルコ (1) : 1980～90 年代	【予習】 期末の課題レポートに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第 1 3 回	21 世紀のトルコ (2) : 政治と宗教のゆくえ	【予習】 期末の課題レポートに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第 1 4 回	授業の総括と確認	【予習】 期末の課題レポートに向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
〔授業の方法〕 ・講義形式で進める。			
〔成績評価の方法〕 ・授業への取り組み (40%)、課題レポート (60%)。 ・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する判断材料とする。 ・課題レポートは、3000 字程度のものを 2 回課す予定である。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・関連科目①：「アジア・アフリカの歴史と文化A」では、トルコ共和国の前身たるオスマン帝国の歴史を含む中東前近代史を扱う。 ・関連科目②：「アジア・アフリカの歴史と文化B」では、トルコ共和国の歴史を含む中東近現代史を扱う。 ・授業では、日本史を含むさまざまな歴史的出来事に言及することになるので、高校の世界史や日本史の教科書・資料集などを活用して基本的な情報を確認するとよい。			
〔テキスト〕 とくに設けない。			
〔参考書〕 ・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 4622033887 ・今井宏平『トルコ現代史：オスマン帝国崩壊からエルドアン時代まで』〈中公新書〉中央公論新社、2017 年、ISBN 9784121024152 ・カーター・V・フィンドリー『テュルクの歴史：古代から近現代まで』（小松久男監訳・佐々木紳訳）明石書店、2017 年、9784750344690 その他の関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名	世界の宗教文化（インドの宗教と文化）						
教員名	相川 愛美						
科目No.	125334110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 グローバル化が進む現代において、私たちは異文化理解がとて大切で。様々な国で多様な宗教が信仰され、それらの宗教を理解することは、相互理解に繋がります。現在、目覚ましい発展を遂げているインドは、宗教国ともいわれるほど、宗教と社会は密接な関係を持っています。本講義では、世界の宗教の中で、インドで多く信仰されているヒンドゥー教についての基礎知識を養います。これは歴史的資料、映像資料、音楽など様々な資料を使い、ヒンドゥー教とその文化への理解を深めてもらいます。							
〔到達目標〕 ・インド、ヒンドゥー教の正しい理解と現状問題などについて理解し、広い視野と深い洞察力を身につける。 ・多様な価値観を知ることで、国際感覚を身に付け、多角的な視点が持てるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	【ガイダンス】 ・講義の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・インドについて、写真や映像を通して、簡単な概略を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】講義の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	【身近なインド①ー日本におけるインド】 ・日本とインドの交流の歴史を探る。 ・カレー、ヨガなどの私たちの暮らしから、インドが日本に与えている影響について知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第3回	【身近なインド②ーインドにおける日本】 インド社会で流通する日本の製品などから、日本がインドに与えている影響について知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第4回	【インド社会を学ぶための基礎①】 地理、言語、政治、経済、産業などインド社会を学ぶ上で必要な知識を学ぶ。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第5回	【インド社会を学ぶための基礎②】 インドの歴史について学ぶ。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第6回	【多民族国家のインド】 インドが多民族であることを知り、言語の違いなどを知り、そこから生じる社会問題を知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第7回	【インドの宗教】 インドにおける宗教について知る。 （ヒンドゥー教、イスラーム教、シク教、ジャイナ教、仏教等。）			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第8回	【ヒンドゥー教社会①ーヒンドゥー教の理念】 ヒンドゥー教の理念や儀礼について知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第9回	【ヒンドゥー教社会②ーカースト社会】 ヒンドゥー教におけるカースト社会について知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第10回	【ヒンドゥー教社会③ー通過儀礼と生活】 ヒンドゥー教徒の日常生活や、冠婚葬祭などについて知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第11回	【ヒンドゥー教社会④ー世界宗教としてのヒンドゥー教】 世界規模で信仰されているヒンドゥー教について知る。			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】授業の内容を復習し、授業で関心をもったことについて情報収集したり、関連する本を読む。		60	
第12回	【ジェンダー視点から見るインド社会】 インドのジェンダー問題について知る。 （花嫁持参金、寡婦殉死、名誉殺人等）			【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】最終レポートに向けて課題テーマを探し、作成準備を始める。		60	

第 1 3 回	【グローバル社会におけるインド】 発展し続けるインドと都市中間層の暮らしについて知る。	【予習】授業のテーマについて本やインターネットなどで調べておく。関心を持ったことや疑問に感じたことはメモしておく。 【復習】最終レポートに向けて課題テーマについて調べる。	60
第 1 4 回	総括	【予習】最終レポートなどをまとめるにあたって、質問しておきたいこと、また今までの授業の中での質問などがあればまとめておく。	60
[授業の方法] ・授業は主に講義形式で行うが、トピックに応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れたい。 ・毎回の授業で書いてもらうリアクションペーパーでは、講師が出題するテーマに沿った内容について書いてもらい、学生のリアクションペーパーの内容によっては、次回の授業でフィードバックを行ったり、質疑応答、意見交換を行う。 ・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。			
[成績評価の方法] リアクションペーパー（毎回の授業 30%）、課題レポート(1 回 30%)、期末レポート（1 回 40%） による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や、質問など授業の積極的な参加はプラスに評価する。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・ヒンドゥー教において基本的な理解ができている。 ・インドに関する基本的問題を理解し、その問題について自分の意見をしっかりと述べることができる。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 特になし			
[テキスト] 購入の必要なし 講義において、適宜レジュメ・資料を配布する。			
[参考書] 参考書は講義中に適宜示す。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ・授業終了後に教室で受け付ける。 ・随時、電子メールで受け付ける。			
[特記事項] アクティブ・ラーニング（参加者人数などの場合による。）			

科目名		国際文化研究 A					
教員名		中野 由美子					
科目No.	125334120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義の課題は、主にハリウッド映画を題材として、第二次世界大戦を経て超大国となったアメリカ合衆国の自画像の変遷を社会史・文化史的に検討することである。戦禍を免れたアメリカ合衆国は、絶対的な軍事力と経済力を誇る強国として、国際社会において圧倒的な存在感をもつ存在となった。その一方で、国内においては、人種・エスニシティにまつわる様々な矛盾や葛藤を抱え、それが次第にアメリカ社会全体を揺るがす問題として表出することになった。本講義では、このような国内外の状況の変化を踏まえ、アメリカ合衆国の自画像がどのように形成され、そして変容せざるを得なかったのかを、映画を題材として探求していく。なお、本講義では、上記のテーマに即して、適宜、史料分析のトレーニングも行う。							
〔到達目標〕							
DP1-1、DP2-1 を実現するため、以下の 3 点を到達目標とする。 ① 20 世紀の合衆国に関する社会史・文化史の基礎知識を修得する。 ② 人種・エスニシティという観点から、合衆国における娯楽産業の歴史の特質を説明できる。 ③ 映像史料を批判的に分析することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・指定テキストの特徴を理解する。			テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。		60	
第 2 回	映像の可能性―社会史的考察（その 1） ・ドキュメンタリーフィルムを題材として、映像資料の活用方法について理解する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 3 回	映像の可能性―社会史的考察（その 2） ・プロパガンダ映画を題材として、映像のもつ影響力について検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 4 回	第二次世界大戦後の経済的繁栄と映画産業 ・ミュージカル映画を題材として、国際社会におけるアメリカの表象について検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 5 回	第二次世界大戦後のハリウッドと「人種」―文化史的考察（その 1） ・ドキュメンタリー映画を題材として、「人種」問題について探求する。 ・講義の後半には、前回までの講義内容に関して小テストを実施する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 6 回	第二次世界大戦後のハリウッドと「人種」―文化史的考察（その 2） ・ミュージカル映画を題材として、「人種」問題について探求する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 7 回	映画の中の日系アメリカ人（その 1） ・第二次世界大戦前のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 8 回	映画の中の日系アメリカ人（その 2） ・第二次世界大戦後のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 9 回	映画の中の日本人 ・第二次世界大戦後のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 1 0 回	創られる先住民像 ・第二次世界大戦後の西部劇を題材として、映像史料の分析方法を学修する。 ・講義の後半では、前回までの講義内容に関して小テストを実施する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 1 1 回	国境を越える西部劇 （その 1） ・西部劇がアメリカ合衆国内においてどのように受け入れられたのかを検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 1 2 回	国境を超える西部劇 （その 2） ・西部劇がヨーロッパ・日本においてどのように受け入れられたのかを検討する。			テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
第 1 3 回	到達度確認テスト			チェックリストを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。		60	
第 1 4 回	全体のまとめ 配布資料に基づき、論点を整理する。			配布資料をよく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で行う。また、講義中に数回、一次史料などを用いた史料分析のトレーニングをペアワーク・グループワーク形式で実施する予定である。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布、リアクション・ペーパーやコメントシートの提出、小テストの出題ないし回答提出の際には、コースパワーを使用する場合があるので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。							
〔成績評価の方法〕							

授業中に出す課題（リアクション・ペーパーとコメント・シート等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題も含む。）＝平常点（20％程度）、小テスト（30％程度）、到達度確認テスト（50％程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、10％を上限として加点する場合がある。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 主に以下の点について、その到達度により評価する。 ①合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。 ②世界史全体の流れのなかに、アメリカの映画産業を位置づけ、その特質を理解しているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。アメリカの歴史と文化 A・B の他、日本を含む世界各国・地域の歴史と現状に関する科目を幅広く受講することが望ましい。
〔テキスト〕 北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ—』平凡社新書、2017年。 ※本講義では、主に第4章・第5章・第6章を扱う。 ※2017年に出版された＜新版＞を使用する。購入する際、ISBNを必ず確認すること。 ISBN: 978-4582858495
〔参考書〕 阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための62章』明石書店、2016年。 有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣、2003年。 Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed. New York: Bedford/St. Martins's: 2012. ※上記の参考書は、購入する必要はありません。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名	国際文化研究 B						
教員名	川村 陶子						
科目No.	125334130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 テーマ：「文化多様性からみる現代ドイツ」 この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国をとりあげる。メインとなる部分では、現代ドイツを構成するさまざまな「文化（多様性）の次元」を、時間的・空間的な広がり留意しつつ読み解いていく。そうした作業をとおして、ドイツという〈くに〉の成り立ちやその魅力、抱える問題や困難、それらを克服する努力などを理解することを試みる。私たちの住む日本との比較も折々に織り込む予定である。 多様なものの共生は、今日の世界において摩擦や対立を生み出す契機となりうるが、同時に活力ある社会、新たな創造性の源ともなりうる。多様性のこうした二面性を理解しつつ、そのダイナミクスをより肯定的に生かすには、社会に多様性をもたらす文化のさまざまな次元を意識することが重要である。授業ではドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを考えたい。 *授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下のことを目標とする。 ①現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解すること。 ②多様性をもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げること。 ③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養うこと。 ④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、受講者の人数や構成、現実の社会や研究の動きなどの要因をふまえて適宜修正する。） 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。			シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。		60	
第 2 回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 3 回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 4 回	《多様性からみるドイツ（1）地方とヨーロッパ①》 地理的な広がり多様な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 5 回	《多様性からみるドイツ（2）地方とヨーロッパ②》 地理的な広がり多様な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 6 回	《多様性からみるドイツ（3）冷戦と東西①》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20 世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 7 回	《多様性からみるドイツ（4）冷戦と東西②》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 8 回	《多様性からみるドイツ（5）世代と歴史・社会観①》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 9 回	《多様性からみるドイツ（6）世代と歴史・社会観②》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 10 回	《多様性からみるドイツ（7）人の移動と受け入れ・統合①》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 11 回	《多様性からみるドイツ（8）人の移動と受け入れ・統合②》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 20 世紀後半における外国人労働者の受け入れや統合に注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 12 回	《多様性からみるドイツ（9）人の移動と受け入れ・統合③》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 21 世紀における移民・難民の受け入れや統合に注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	
第 13 回	《多様性からみるドイツ（10）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と現代における展開の双方に注目する。			関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りを行う。レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。		60	

第 1 4 回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造を再確認するとともに、文化多様性を肯定的に生かすためのドイツの取り組みとその課題を総括的に議論する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。レポートを執筆する。	120
〔授業の方法〕 講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。（履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。） 毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説を行う。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を行う。授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評を行ってもらうことも検討している。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。 授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。 受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。			
〔成績評価の方法〕 平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、期末レポート 20%をめやすに総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 以下の点に着目し、その到達度により評価する。 ①現代ドイツが内包するさまざまな「多様性」を理解する。 ②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。 ③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。 ④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックを行えるようになる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 履修者は、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集を行うことが望ましい。 世界史、とくに近現代史に関する基礎知識があると授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず自主的な学習を推奨する。 ドイツの歴史や文化に関する事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。 ドイツ語に関する知識は必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。 関連科目：国際文化論、ヨーロッパの歴史と文化、ヨーロッパ文化・文化史特講、その他近現代史およびドイツ			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016 年。 浜本隆志・高橋憲編著『現代ドイツを知るための 67 章【第 3 版】』明石書店、2020 年。 森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年。 『ドイツの実情』2018 年（ドイツ外務省制作の eブック、インターネットから無料ダウンロード可能）。 ほか、開講時および授業中に適宜指示する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

科目名		国際文化研究C					
教員名		赤川 尚平					
科目No.	125334140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】 「イギリス帝国の歴史とその文化」 【概要】 この授業では主に近世以降のイギリスの対外関係史を通観し、その歴史と文化について学ぶ。歴史的展開の過程でどのような出来事が起こったのかを学ぶだけでなく、それがいかなる意味を有したのかということについて考える。その際に西洋地域のみならず、可能な限り他の諸地域における歴史的展開との関わりにも目を配ることで、物事を相対化して考える思考力を鍛える。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。 ・高校の学習から大学における学びへの架け橋となる思考の基礎を身に付ける。 ・世界史の全体の流れのなかにイギリス史を位置付け、その歴史的展開と意義について説明できるようになる。 ・諸地域における歴史的展開を比較検討することで、受講生が社会の多様性を理解し、物事を複眼的に捉える思考を身に付けることを目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・シラバスの記載事項の確認 ・講義運営、成績評価について			【予習】 シラバスを読み、講義内容についてあらかじめ確認する。 【復習】 ガイダンス内容をしっかりと確認し、今後の講義に備える。		30	
第2回	「イギリス」とはなにか ・基本用語と概念の確認、整理			【予習】 授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第3回	【第一部 イギリス帝国への道】 「グレート・ブリテン王国」誕生への道			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第4回	「イギリス帝国」の形成			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第5回	「バクス・ブリタニカ」と帝国主義の時代 ・コメントシート配布			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第6回	【第二部 イギリス文化と帝国航路】 「帝国航路」の形成			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第7回	植民地経営と食文化			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第8回	帝国を旅する人々 ・コメントシート配布			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第9回	【第三部 崩れゆく帝国と現代世界】 世界大戦の時代とイギリス帝国			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	
第10回	冷戦とイギリス帝国の解体			【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。		60	

第 1 1 回	グローバル化する世界と「帝国後」のイギリス ・コメントシート配布	【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	60
第 1 2 回	【第四部 帝国の遺産】 帝国からコモンウェルスへ	【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	60
第 1 3 回	多民族国家イギリスと移民 ・コメントシート配布	【予習】 参考文献を読み、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	60
第 1 4 回	論述式の到達度確認試験 ・電子機器以外持ち込み可	【予習】 これまでの講義内容を振り返り、試験に向けて理解の定着を確認する。 【復習】 試験の解答内容を省みる。	60
〔授業の方法〕 PowerPoint 資料を用いた講義形式で行う。必要に応じて映像資料なども使用する。 各部位にコメントシートへの記入を行ってもらい、理解の定着を確認する（Course Power のレポート機能を用いる予定）。 上記の運営方針はシラバス作成時点での想定に基づくものであり、情勢の変化や授業進行の都合によって変更となる可能性がある。			
〔成績評価の方法〕 各部位のコメントシートの内容を評価対象とする（40%）。 また、授業期間内に論述式の到達度確認試験を行う（60%）。 授業運営方針と同様、評価方法もシラバス作成時点での想定に基づくものであり、情勢の変化や授業進行の都合によって変更となる可能性がある。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、より豊かな学びの機会とするために、高校の歴史の授業の教科書や資料集を活用して基本的な情報を確認し、各自の興味・関心に応じて積極的に情報収集することを推奨する。			
〔テキスト〕 とくになし。			
〔参考書〕 適宜、授業内にて紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		国際文化研究D					
教員名		木村 友彦					
科目No.	125334150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本授業では、オセアニア（大洋州）地域の歴史や国際関係について、域内最大の国であるオーストラリアを中心に検討する。オセアニアは、英語の使用やキリスト教の普及にみられるように、欧米人による入植活動から大きな影響を受けてきた歴史があるが、現在では台頭する中国の影響も意識されるようになっている。そのなかでオーストラリアは、内政では外国による干渉を防止する法律を整備すると共に、外交安全保障政策では同盟国アメリカだけでなく日本などの連携や、近隣の太平洋島嶼国との関係の再強化を模索している。日本政府もまた、オーストラリアをはじめオセアニア地域との関係を重視するようになっている。こうした現状も意識しながら、オセアニア地域について検討を試みたい。							
〔到達目標〕							
オーストラリアを中心にオセアニア地域の歴史や国際関係について基本的理解や知識を得る。 これを通して学位授与の方針である、DP 1 や DP3、DP4 などの目標を達成する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オセアニア地域並びに人々の移住の歴史の概観			オセアニア地域に関する基本事項を確認する。		120	
第 2 回	イギリス（やアイルランド）からオーストラリアへの入植と先住民			参考書を読む。		120	
第 3 回	オーストラリア大陸におけるイギリス植民地の発展とゴールドラッシュ（1851 年～）			参考書を読む。		120	
第 4 回	欧米からのニュージーランドやハワイ、太平洋島嶼地域への入植			参考書を読む。		120	
第 5 回	白豪主義とオーストラリア連邦の発足（1901 年）			参考書を読む		120	
第 6 回	第一次世界大戦とその影響			参考書を読む		120	
第 7 回	戦前・戦中の日本とオセアニア地域の関係（移民、委任統治、戦争）			参考書を読む		120	
第 8 回	到達度確認テスト（中間）と復習			これまでの内容を復習してテストに備える。		120	
第 9 回	1940～60 年代のオーストラリアの内政と外交			参考書を読む。		120	
第 1 0 回	1970 年代からのオーストラリアの変容：多文化主義、先住民の権利向上、アジア関与の模索			参考書を読む。		120	
第 1 1 回	太平洋島嶼国の独立とその後、太平洋諸島フォーラム（南太平洋フォーラム）の設立、ニュージーランドの非核政策			参考書を読む。		120	
第 1 2 回	ハワード政権（1996-2007）とオーストラリアの「保守化」			参考書を読む。		120	
第 1 3 回	中国の台頭とオセアニア地域			参考書や近年の報道を読む。		120	
第 1 4 回	到達度確認テスト（期末）と復習			これまでの内容を復習してテストに備える。		120	
〔授業の方法〕							
講義形式で行うことを予定しています。上記の授業計画は、幾らかの変更もあり得ます。 授業の終わりにコメントペーパーを提出して頂き、次の授業で応答することも考えています。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（コメントペーパーを含む）と 2 回の確認度到達テストを基にする予定です。 任意提出のレポート課題を出し、評価対象とすることもあります。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史—多文化ミドルパワーの実験』（中央公論新社、2000 年） 山本真鳥（編）『オセアニア史（新版 世界各国史）』（山川出版社、2000 年） （どちらも出版年がやや古く最近のことは書かれていませんが、入手し易く理解の助けになると思われます。その他の参考文献は授業中に挙げたいと思います。）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		世界美術史 A					
教員名		人見 伸子					
科目No.	125334160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
現在、我々の周囲にはさまざまなイメージが溢れている。西洋美術の作品を例にとっても、画集やテレビ・ビデオ・インターネットなど多様なメディアを通して、自宅にいてもその画像イメージを見ることができる。また各地の美術館やギャラリーに足を運べば、実際の美術作品を鑑賞することが可能である。美術作品に出会った際、自分の好みにあっている、感動的だというように、いわば感覚的に鑑賞することが多いかもしれないが、その作品が意味するもの、あるいは画家が制作した際の背景や真の意図を理解したとき、作品がより身近に感じられるだろう。 この授業では西洋美術のジャンルを初めとして、基本的な知識を身につけていく。授業に出席するのみならず、日々の生活でも美術作品に触れる機会を作ってほしい。							
〔到達目標〕							
① 西洋美術のさまざまなジャンルや表現方法について学び、基本的知識を身につける。 ② 開催中の展覧会を訪れ、報告レポートを提出する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	授業の概要：絵画のジャンル ・今後の授業計画について説明。 ・西洋美術のジャンルについて理解する。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60 分	
第 2 回	歴史画Ⅰ ・旧約聖書・新約聖書を典拠とする宗教画について、テーマや具体例を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 3 回	歴史画Ⅱ ・ギリシア・ローマ神話に基づく神話画について、テーマや具体例を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 4 回	肖像画 ・現実の人物を記録した肖像画の種類を知り、具体的な作例を検証する。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第 5 回	風俗画 ・人々の日常を描いた風俗画には、さまざまな背景（ことわざや教訓）があることを学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 6 回	風景画 ・風景画の発展の歴史を知り、近代の作品も紹介する。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 7 回	静物画 ・生命のない事物を描く静物画の中に込められた多彩なメッセージを読み解く。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 8 回	遠近法 ・ルネサンス期に確立された遠近法について、その種類や具体例を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 9 回	イリュージョンイズム ・トロンプ・ルイユなど「本物そっくり」をめざした技法、視覚トリックを応用した表現法について知識を深める。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 1 0 回	線的 / 絵画的 ・ドイツの美術学者ヴェルフリンが提唱した 2 つの対照的な様式について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 1 1 回	キアロスクーロ（明暗法） ・作品にドラマチックな効果を与える明暗法について、種類や具体例を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 1 2 回	画家の工房 / アカデミー ・職人や芸術家の仕事場としての工房、美術教育の場であったアカデミーについて、その歴史や活躍した人々について理解を深める。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 1 3 回	コレクションと美術館 ・芸術家を支えたパトロンやコレクター、コレクションが公開され美術館となった例など、芸術と社会との関係について考察する。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
第 1 4 回	署名と自画像：芸術家としての自己認識 ・芸術家が自己を認識したときに始まった署名、また画家の個性があふれる自画像について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、他の事例を確認するとともに、テキストや参考図書を読んで知識や視野を広める		60 分	
〔授業の方法〕							
Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には筆記試験を実施する。							
〔成績評価の方法〕							
アンケートに基づく出席点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の筆記試験（50%）を総合して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席とレポート提出・試験が必須条件である。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 高橋裕子著『西洋美術のことば案内』小学館 2,000 円 ISBN9 78-4-09-681543-4 （購入は自由で、必須ではない）。
〔参考書〕 授業中に随時、紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。 ポータルサイトの利用も可能である。
〔特記事項〕 特になし

科目名		世界美術史 B					
教員名		山田 正樹					
科目No.	125334170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
2 万年近い歴史をもつ中国の陶磁器。長い歴史の中で精緻な造形性と器を彩る色の美しさ、華やかさが追及され、その製作技術は絶え間なく進化を続けてきた。中国陶磁史を概観しながら、東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「やきもの」「せともの」とのつながりを感じながら、美術品としての中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。							
〔到達目標〕							
中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、文化史学・考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき研鑽力を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	やきものとは何か①			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 2 回	やきものとは何か②			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 3 回	中国古代の文化と土器			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 4 回	青磁と鉄釉の発達			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 5 回	白磁の誕生と展開			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 6 回	鉛釉と三彩			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 7 回	白化粧の陶器—磁州窯系の広がり			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 8 回	宋代の名窯①（華北）			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 9 回	宋代の名窯②（華南）			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 1 0 回	元青花 釉下彩技法の誕生			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 1 1 回	明代の青花と五彩①（洪武～正徳）			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 1 2 回	明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 1 3 回	清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの			【予習】可能であれば参考書の該当箇所を確認する。 【復習】授業当日配布のプリントを確認する。美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見する。		60	
第 1 4 回	美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）			【予習】見学前日までに美術館の概要・コレクションの成り立ち、主な収蔵品などについて、HP や図録等で確認する。 【復習】見学して印象に残った作品、重要な作品について、授業プリントや参考書等をもとに調べる。		60	
〔授業の方法〕							
授業は講義を中心に進める。授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。 各レポートの狙いは以下の通り。 ・小レポート：各回の学修内容の基本的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題レポート：本講義のテーマである中国陶磁史に関する基礎的な理解が培われているかを確認する。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業態度および小レポート 14 回：50%）、課題レポート（1 回：50%）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点に着目し、その達成度により評価する。 ①中国陶磁に関する基礎的な知識を修得しているか ②美術史における、文化史学・考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得しているか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観念をもっていることが望ましい。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 ・『中国の陶磁』1～12 巻、平凡社、1995～99 年 ・葉喆民原著・出川哲朗監訳『中国陶磁史』、国書刊行会、2019 年 ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978 年 ・佐藤雅彦『やきもの入門』、平凡社、1983 年 ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂 すべて購入の必要はなし。図書館等で確認すること。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		現代社会入門					
教員名		内藤 準					
科目No.	125411100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。また、社会はどのように変化するのでしょうか。 この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」、社会の「秩序」や「社会規範」、そして「社会の変化」という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、みなさんの研究と暮らしに役立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。							
〔到達目標〕							
DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。							
①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。(DP1、DP3)							
②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。(DP1、DP3)							
③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。(DP1、DP3)							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション （以下の各回のテーマは一例です。その時々々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。）			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 2 回	現代社会の分析の基礎 1 ～社会的行為と社会規範			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 3 回	現代社会の分析の基礎 2 ～相互行為と社会的協力，コンフリクト			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 4 回	現代社会の分析の基礎 3 ～社会秩序と社会の変化			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 5 回	性の多様化とジェンダー			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 6 回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 7 回	学歴社会と機会の平等			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 8 回	貧困の連鎖と社会的排除			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 9 回	近代家族と家族の多様化			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 1 0 回	仕事と家庭，ワークライフバランス			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 1 1 回	少子高齢化と社会福祉			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 1 2 回	監視社会における自律性，リスク社会と個人化			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 1 3 回	公共性，ボランティア，町内会			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
第 1 4 回	授業のまとめ 到達度確認テスト			【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。		60	
〔授業の方法〕							
基本的に講義形式でおこないます。講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこないます。小テストの内容については前の回の授業で予告します。							
進捗と復習の必要に応じて、中間テストをおこなう可能性があります。							
授業の進捗度によって、内容が変更されることがあります。							
〔成績評価の方法〕							
平常点，小テストや課題、到達度確認テストなどから総合的に評価します。							
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，到達度確認テスト 60%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、労働社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学などを学んでいるとより理解が深まります。
〔テキスト〕 授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。
〔参考書〕 筒井淳也ほか『社会学入門』有斐閣。（購入の必要なし） 小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店。（購入の必要なし） 本田由紀編『現代社会論』有斐閣。（購入の必要なし） など、授業内で随時指定します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。
〔特記事項〕

※印刷用紙に収めきれず、この資料は2枚にわたって印刷されています。

科目名		社会学入門					
教員名		澁谷 智子					
科目No.	125411150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 社会学は、異なる人々が共存していくあり方に目を向け、時代による変化の中で、人々の関係性や規範や制度がどう作用しあっているのか、そこから生み出される社会現象の構造などを読み解いていく学問である。この授業では、そうした社会学の基本となる考え方を勉強する。							
〔到達目標〕 DP 1「専門分野の知識・技能の修得」、DP 2「教養の修得」、DP 3「課題の発見と解決に向けた力の修得」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①社会学という学問分野において、これまでどのような議論がなされてきたのかを学び、その基礎的な知識を習得する。 ②その作業を通して、社会の構造を読み解く視点と思考を身に付け、今後の勉強に役立てられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			配布資料を読み、理解する。		60	
第2回	公共空間と親密空間			授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。		60	
第3回	自殺論			配布資料を読み、理解する。		60	
第4回	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神			授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。		60	
第5回	相互行為			配布資料を読み、理解する。		60	
第6回	規律と訓練			授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。		60	
第7回	専門職の管理・献身と自己決定			配布資料を読み、理解する。		60	
第8回	組織と人間——マクドナルド化する社会			配布資料を読み、理解する。		60	
第9回	国家とグローバリゼーション			授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。		60	
第10回	家族とライフコース			配布資料を読み、理解する。		60	
第11回	ジェンダー			配布資料を読み、理解する。		60	
第12回	格差と階層、文化と再生産			文献を読み、自分の意見をまとめる。		60	
第13回	到達度確認テスト			これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。		120	
第14回	到達度確認テストの解説、歴史と記憶			到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。		60	
〔授業の方法〕							
毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行なう。授業の中で、課題を行なうこともある。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト（60％）と平常点（授業中の課題など）（40％）で、総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、「現代社会入門」がある。
〔テキスト〕 必要に応じて資料を配布する。
〔参考書〕 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『社会学（新版）』有斐閣。（3500 円＋税、ISBN978-4-641-05389-2） 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		コミュニケーション論入門					
教員名		見城 武秀					
科目No.	125411200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人とでもコミュニケーションできるほんやくコンニャクは、夢のような道具です。しかも、人工知能研究が急速に進んでいる今、ほんやくコンニャクはそう遠くない将来実現しそうな道具にも思えます。 ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、ほんやくコンニャクという道具が原理上存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょうか。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある自動翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。							
〔到達目標〕							
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまた がる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の3点を到達目標とします。							
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解すること。 （2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解すること。 （3）構造主義的翻訳観と現在の自動翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション			配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。課題文献を読む。		60	
第2回	＜モノ語り＞と現代のコミュニケーション			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第3回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第4回	“やさしさ”という呪縛			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第5回	大衆社会としての現代とコミュニケーションー現代人の「不安」			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第6回	言葉の「意味」とは何かー言葉と文化の「構造」性			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第7回	構造主義の源流ーソシュールの言語学			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第8回	言語の差異性／恣意性／体系性ー構造主義の基礎概念			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第9回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第10回	「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第11回	コミュニケーションにとって言語とは何か			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第12回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第13回	機械は言語を「理解」できるのか？			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
第14回	まとめ			配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の提出課題に基づく平常点 100%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。 （１）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。 （２）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。 （３）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 多数。授業中に適宜紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		メディア論入門					
教員名		西 兼志					
科目No.	125411250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、メディアを、「人間」と「社会＝世界」を結びつける「技術＝モノ」と定義することで、いまや私たちの環境となっているメディアを広い視点から理解できるようにしていきます。メディアの展開——書物、写真、映画、テレビ、ソーシャル・メディアなど——を辿りながら、現代社会におけるメディアの成り立ちについて考えていきたいと思います。							
〔到達目標〕							
DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディアを、狭義の「マス・メディア」として捉えることにとどまらず、より広く、人間的・社会的現象として捉えられるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション：人間・社会・技術			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第2回	メディア、情報、記号（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第3回	メディア、情報、記号（2）：メディアと情報社会			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第4回	メディア、情報、記号（3）：メディアと記号			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第5回	メディアとしての文字			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第6回	メディアとしての印刷術			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第7回	メディアとしての写真			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第8回	メディアとしての映画（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第9回	メディアとしての映画（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第10回	メディアとしてのテレビ（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第11回	メディアとしてのテレビ（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第12回	メディアと監視社会（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第13回	メディアと監視社会（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第14回	まとめ			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
〔授業の方法〕							
講義形式で進めていきます。 提出されたリアクション・ペーパーは、毎回できるかぎり取りあげ、講義に組み込んでいきます。 また、CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。 （なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50% （なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処する。）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
- ・授業で参照したメディア論の古典的なテキストをきちんと理解できているか。
- ・各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕

CoursePower に随時アップロードします。

アップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

（スクリーン上で参照するのではなく、プリントアウトしたうえ、書き込みなどができるよう用意しておくことを強く推奨します）。

〔参考書〕

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.

その他、授業中に随時、指示します。

CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		社会学史					
教員名		金 善美					
科目No.	125411500	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
社会学の歴史的な歩みをたどりながら、社会学という学問の基礎的な概念と理論について学ぶ授業である。毎回、代表的な社会学者（学説）を取り上げ、その理論・思想を生み出した時代背景や主な業績の内容、他の学問分野との関連などを解説していく。社会学が扱う領域は幅広く、また、抽象的な考え方や馴染みの薄い用語が出てくることもあるため、難しいと感じる人もいるかもしれない。授業ではそれらになるべく分かりやすくかつ具体的に解説することで、それぞれの受講者が「好きな社会学者」「今後のレポートや卒論に活用したい概念・理論」に出会うきっかけを提供したい。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）・DP2（教養の修得）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①社会学の主要な概念と理論を修得する。 ②さまざまな学説を社会学全体の流れの中で位置づけ、その特徴と意義を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する			シラバスを読み、講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。		30	
第2回	近代の成立と社会学の誕生			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第3回	ウェーバーの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第4回	デュルケムの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第5回	ジンメル社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第6回	実証主義の社会学：シカゴとコロンビア			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第7回	パーソンズの社会学と現象学的社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第8回	意味学派の社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第9回	ルーマンの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第10回	ハーバーマスの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第11回	ブルデューの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第12回	コミュニティとネットワークの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第13回	フーコーとギデنزの社会学			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
第14回	全体のとりまとめ ・これまで学んだ社会学の歴史を振り返りながら、社会と社会学の関係を考察する			テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式をとる。授業内容への理解度を確認するために、コメントペーパーの提出を求めることがある。							
〔成績評価の方法〕							
質問や発言など授業への参加状況（10%）、学期末試験（90%）で評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・社会学の大まかな歴史について、基礎的な知識を修得しているか ・特定の理論・概念を社会学史全体の流れの中で位置づけ、その特徴や意義を理解しているか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 現代社会学科の 1 年生必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）や 2 年生演習科目の内容を身につけておくと、授業内容を理解しやすい。
〔テキスト〕 『ブリッジブック社会学（第 2 版）』、玉野和志編、信山社、2400 円＋税、ISBN-10: 4797223529（購入の必要なし）
〔参考書〕 『社会学の歴史 I』奥村隆著、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641220395 『クロニクル社会学』那須壽著、有斐閣、2100 円＋税、ISBN-10: 4641120412 『社会学用語図鑑』田中正人・香月孝史、1800 円＋税、ISBN-10: 4833423111 『よくわかる社会学史』早川洋行編著、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN:9784623059904 いずれも購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		メディア史入門					
教員名		今田 絵里香					
科目No.	125411650	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	少年少女雑誌と「少年」「少女」はどのように生まれてどのように変遷したのか			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第2回	子どものメディアから「少年」のメディアへ			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第3回	「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第4回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第5回	新体詩の名手と口語詩の名手			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第6回	少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第7回	あこがれの才色兼備のお嬢さま			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第8回	完全無欠の英雄			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第9回	都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第10回	「少年」「少女」から少国民へ			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第11回	「少年」「少女」の価値の喪失（1）			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第12回	「少年」「少女」の価値の喪失（2）			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第13回	「少年」「少女」の価値の喪失（3）			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
第14回	「少年」「少女」の誕生と変遷			【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。		90	
〔授業の方法〕 講義形式。							
〔成績評価の方法〕 授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし。
〔テキスト〕 今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。
〔参考書〕 とくに指定しない。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		家族社会学					
教員名		高橋 幸					
科目No.	125431100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、家族について社会的に分析するとはどういうことなのかについて、具体的な家族社会学の知見を紹介しながら論じていく。身近で具体的な家族の問題を題材にしながら、家族の社会的機能や家族の歴史の変遷を論じる。これらを通して、家族を社会という枠組みの中で捉えられるようになることを目指す。							
〔到達目標〕							
DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得（広い視野での思考・判断）】の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を考えることができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション：家族を社会的に考えるとはどういうことか？			「自分の家族が抱える問題」について考え、自分の意見をまとめる。		60	
第 2 回	権威主義的家族観から民主的家族観へ			講義内容を踏まえ、自分の家族観について整理する。		60	
第 3 回	近代家族の個人化			講義内容を踏まえて、現代の家族が抱える問題についてまとめ、「自分の家族が抱える問題」と関連づけて考えてみる。		60	
第 4 回	現代における家族の多様化：シングルペアレント、ステップファミリー			講義内容を踏まえ、現代の家族が抱える問題と、その解決策について、自分の考えをまとめる。		60	
第 5 回	恋愛と結婚：結婚規範、少子化対策、未婚化・晩婚化			講義内容を踏まえ、少子化の原因と対策についての自分の考えをまとめる。		60	
第 6 回	対策恋愛と性：ロマンティックラブからコンフルエントラブへ、性解放、同性婚			講義内容を踏まえ、自分の恋愛観を振り返る。		60	
第 7 回	若者の性行動・恋愛行動とその多様なあり方			講義内容を踏まえ、友人や家族の恋愛観についてインタビューしてみる。		60	
第 8 回	家族生活：性別役割と家事分担、どうすれば公正なのか			講義内容を踏まえ、授業中に示された参考資料等を読む。		60	
第 9 回	「母性」をめぐる社会的議論の変化と「父親」の再発見			講義内容を踏まえ、授業中に示された参考資料等を読む。		60	
第 1 0 回	何が「理想的な」子育て方法なのか：子育て言説をめぐる歴史的变化			講義内容を踏まえ、現代で推奨されている子育て方法について調べてみる。		60	
第 1 1 回	家族を支える福祉レジームの国際比較			講義内容を踏まえ、社会における家族の機能について整理する。		60	
第 1 2 回	家族内で何が継承されるのか：文化資本、愛情、格差をめぐって			講義内容を踏まえ、家族内での継承がもたらす社会的影響や、家族に対してなされるべき社会的支援について、自分の考えをまとめる。		60	
第 1 3 回	近代家族論：専門用語の整理			講義内容を踏まえ、今後の家族政策あり方について自分の意見をまとめ、他の人と意見交換を行う。		60	
第 1 4 回	これまでの議論のまとめ			講義内容を踏まえ、現代社会の家族を取り巻く問題と対策について、自分の意見をまとめる。		60	
〔授業の方法〕							
基本的には、Zoom での講義形式で行います（事前に録画した動画を配信することもあります）。講義資料の配布や Zoom の場所の告知は、CoursePower を通して行います。							
〔成績評価の方法〕							
期末レポート（60％）と平常点（3～4 回行うコメントペーパーの提出状況、40％）で評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

特になし。毎回レジュメを配布します。

〔参考書〕

『フェミニズムはもういない、と彼女は言うけれど：ポストフェミニズムと「女らしさ」のゆくえ』（高橋幸、2020 年、晃洋書房）
その他の参考書については、毎回の授業内で提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業の質問や感想は随時メールで受け付けます。ytakahashi0505@gmail.com まで、連絡してください。

〔特記事項〕

科目名		都市社会学					
教員名		金 善美					
科目No.	125431150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
受講者の中には、大学進学をきっかけに新しい街で暮らすようになった人や、大学生になって改めてあちこちの街を歩き回るようになった人も多いのではないだろうか。本講義では、私たちのこうした日常生活の舞台としての都市を対象に、都市社会学の基本的な概念や理論、その背景にある考え方について学ぶ。また、都市における近年の社会現象・問題を積極的にとりあげ、その背景や展開、課題を検討することで現代都市への理解を深めていく。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①都市社会学の基礎知識を修得する。 ②受講者自身にとって興味深い都市現象・問題について、授業で学んだ内容と結びつけてその背景と展開を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する ・都市社会学が何を扱う学問なのかを概観する			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。		30	
第 2 回	都市とは何か？ ・都市の定義と類型、農村との違い、歴史、都市化のプロセスなどを学ぶ			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	都市論の系譜（1）都市化の問題と「シカゴ学派」のまなざし ・都市社会学の始まりであるシカゴ学派の問題意識と調査方法などを学ぶ			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	都市論の系譜（2）都市に生きる人々のつながりをめぐる議論 ・アーバンイズムとコミュニティ、パーソナル・ネットワークなど、都市に生きる人々のつながりに関する諸理論を学び、その変容を理解する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	都市論の系譜（3）情報化・脱工業化とグローバル・シティの出現 ・情報化・脱工業化がもたらす都市の構造再編を把握する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	日本都市の形成（1） ・東京大都市圏の空間・社会構造の形成やその変容を把握する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	日本都市の形成（2） ・都市化の理論的プロセスを、日本都市の事例から理解する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	都市をフィールドワークする：担当教員のフィールドワーク経験から ・都市フィールドワークの実例を学ぶ			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	インナーエリアの危機と再生：生まれ変わる東京の下町 ・インナーエリア衰退の背景を理解し、ジェントリフィケーションを含む近年の変化について考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	郊外のゆくえ：少子高齢化社会における「郊外」問題 ・郊外住宅地の現状と近年の課題について考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	グローバル化する都市の地域社会：東京のエスニック・コミュニティ ・外国人集住地域の形成を新大久保・高田馬場の実例から把握し、都市の多様性について考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	都市下層の世界 ・都市下層の社会的世界を理解する ・山谷と釜ヶ崎などの事例から、現代日本における社会的排除と格差について考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	都市の文化とまちづくり：アートを用いた地域活性化の試み ・創造都市や都市再生、地域活性化の考え方を学び、その意味や課題を考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	まちの開発と保存：京都市の景観政策と町屋保存 ・歴史的景観の保存・保全をめぐる諸議論と実践を把握し、都市計画・都市開発の原理を理解する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式が中心となる。							
〔成績評価の方法〕							
質問や発言など授業への参加状況（10%）、課題レポート（1 回：40%）、学期末試験（50%）で評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・都市社会学の基礎的な概念と理論を理解できているか。 ・現代都市の社会現象・問題の背景を理解し、的確な情報を収集した上で自分なりの言葉で論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 『都市社会学・入門』、松本康編、有斐閣、2014 年、2000 円＋税、ISBN-10: 4641220158 『よくわかる都市社会学』、中筋直哉・五十嵐泰正編、ミネルヴァ書房、2013 年、2800 円＋税、ISBN-10: 4623065057 いずれも購入の必要なし。なお、各回の参考書については授業内で適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

※印刷用紙はA4用紙に設定して印刷してください。

科目名		社会心理学					
教員名		小林 盾					
科目No.	125431200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 社会と心理がどのように関係しているのかを勉強していきます。そのために、(恋愛、結婚、幸せ、美容、食事など)さまざまな身近なトピックをとりあげ、メカニズムを分析します。授業は、グループによるプレゼンテーションを中心に進めます。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）、4（表現力、発信力）、5（多様な人びととの協働）を実現するために、 (1) 社会と心理にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のさまざまなトピックについて、メカニズムを説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第2回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第3回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第4回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第5回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第6回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第7回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第8回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第9回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第10回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第11回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第12回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第13回	トピック研究			担当教員が初回授業時に説明します		60	
第14回	授業のまとめ			担当教員が初回授業時に説明します		60	
〔授業の方法〕 グループで作業し発表します							
〔成績評価の方法〕 平常点（プレゼンテーション・授業中の発言・提出課題・レポート・小テスト・コメントシート・到達度確認テスト、グループ課題を含みます）100%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし
〔テキスト〕 初回授業時に説明します
〔参考書〕 『嗜好品の社会学』，小林盾編，東京大学出版会（購入の必要なし） 『美容資本』，小林盾，勁草書房（購入の必要なし） 『変貌する恋愛と結婚』，小林盾他編，新曜社（購入の必要なし）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します （オンライン授業の場合，CoursePower に Zoom の URL は掲載します）
〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

科目名		歴史と社会					
教員名		今田 絵里香					
科目No.	125431250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。 本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。							
〔到達目標〕 D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。 社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	「ジェンダー」の視点から歴史を見るとはどのようなことか			【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 2 回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（１） ——「主婦」の誕生			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 3 回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（２） ——日本の「主婦」の誕生			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 4 回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（３） ——現代日本の性別役割分業			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 5 回	家族の歴史——「近代家族」の誕生			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 6 回	「子ども」の歴史——「子ども」の誕生			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 7 回	日本社会と子どもの教育の歴史（１）——江戸後期の社会と子どもの教育			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 8 回	日本社会と子どもの教育の歴史（２）——明治以降の社会と子どもの教育			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 9 回	戦前日本における男女の働き方の歴史（１）——「職業婦人」の歴史			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 1 0 回	戦前日本における男女の働き方の歴史（２）——「職業婦人」の歴史			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 1 1 回	戦前の男子教育と女子教育（１）——中等教育機関			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 1 2 回	戦前の男子教育と女子教育（２）——高等教育機関			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 1 3 回	戦前の男子教育と女子教育（３）——メディアにあらわれた「女学生」			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第 1 4 回	まとめ			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
〔授業の方法〕 講義形式。							
〔成績評価の方法〕							

授業内レポート・授業内ミニレポート（80%）、平常点（20%）によって、総合的に評価を行う。
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] とくになし。
[テキスト] とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
[参考書] とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知する。
[特記事項]

科目名		ジェンダーの社会学					
教員名		坪田 美貴					
科目No.	125431300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
この講義では「ジェンダー」という視点で、テーマ別に社会を読み直していきます。 私たちは無意識のうちにジェンダーという視点で社会を理解しています。それだけでなくジェンダーは私たちのアイデンティティに深く根付いています。 そのため、目の前で起きている現象を「当たり前」だと感じ、「当たり前でない」可能性について考えにくくなっています。 そこでこの講義では、「ジェンダー」をキーワードとして社会や世界を見直すことで、「当たり前」で「普通」の事柄に対して、これまでとはどのように違う理解をできるのか、考えていきたいと思います。							
〔到達目標〕							
ジェンダーをキーワードに、社会の現象を説明できるようになる。 自分や身の回りの人の生き方や社会について、ジェンダーを切り口に理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ			【復習】配布プリントを読み直す		60	
第 2 回	ジェンダーと近代国家			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 3 回	家族関係			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 4 回	教育			【予習】参考文献の指定箇所を読む 指定の材料を集める 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 5 回	言語と映像			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 6 回	セクシュアリティ・パフォーマンス・アイデンティティ①			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 7 回	セクシュアリティ・パフォーマンス・アイデンティティ②			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 8 回	法			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 9 回	戦争・軍隊			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 1 0 回	プロダクティブ・ヘルス/ライツ			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 1 1 回	性と生殖			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 1 2 回	開発とジェンダー			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 1 3 回	国際移動①			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
第 1 4 回	国際移動②			【予習】参考文献の指定箇所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し		60	
〔授業の方法〕							
講義およびグループディスカッション。							
〔成績評価の方法〕							
平常点 50%、学期末レポート 50%。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に必要なし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013. 。 （購入の必要なし）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	労働社会学						
教員名	森山 智彦						
科目No.	125431350	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 この授業では、労働社会学の入門的講義をします。 今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るための主な手段となっています。なかでも中心的なのは、企業や役所で雇われて働く雇用労働です。 そこでこの授業では、日本的な働き方の仕組みの特徴と利点、問題点を理解することを目的とします。理解にあたっては、家族や福祉などの他の諸制度と関連づけながら、海外との比較や歴史的視点も交えて解説します。 また、働く人の権利やブラック企業、ワークライフバランスなど大学生にとって関心の高いトピックに加えて、グローバル化、AI、シェアリングエコノミーといった最新の動向も扱う予定です。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。 (1) 働き方に関する様々なトピックや問題について、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP3、DP6) (2) 働き方の仕組みや問題点について、労働者個人だけでなく企業や社会制度といった多角的な視点から考察することで、社会科学的にバランスの取れた視点を身につけます。(DP1、D)							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ===== 授業全体の内容や進め方を説明し、参考資料などを紹介します。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）			【復習】ワークシート作成。		60	
第2回	日本の雇用システムの特徴と長所・短所 1 ===== 日本的な働き方は他の国から見ると非常にユニークなものです。その根本的な特徴と仕組み（日本の雇用システム）について、海外との比較や歴史を交えて学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第3回	日本の雇用システムの特徴と長所・短所 2 ===== 今日の日本には、働き方に関する様々な問題がありますが、その背景にある日本の雇用システムの良い面と悪い面を学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第4回	日本の雇用システムの特徴と長所・短所 3 ===== 日本的な働き方は、働き方そのもののだけでなく、個人の人生設計にも大きく影響しています。日本の雇用システムと関係が深い社会制度や福祉制度について学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第5回	キャリア形成1：新卒一括採用の是非を考える ===== 日本的な働き方の下でどのようにキャリアが形成されるかを学びます。まずはその入り口である新卒一括採用制度の導入の経緯と長所・短所を解説します。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第6回	キャリア形成2：どのように仕事を覚えていくのか ===== 日本の雇用システム下のキャリア形成について、職場等で教育訓練がどのように行われ、職業経験のない若者が仕事に必要な能力をどのように身につけていくかを学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第7回	長時間労働は誰の責任か ===== 日本的な働き方の中で、大きく問題視されているものが長時間労働です。その発生原因について、雇用システム、企業、個人など多角的な視点から迫ります。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第8回	非正規雇用は必要か ===== 格差問題の大きな要因としてしばしば採り上げられる非正規雇用の問題について、歴史的な流れや背景、問題点を検討します。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第9回	自分なりのワークライフバランスを実現するには 1 ===== ワークライフバランス（WLB）の考え方は一般的に広まっていますが、その実現には様々なハードルがあります。この回ではWLBを規定する社会的な背景、制度、職場の問題を学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第10回	自分なりのワークライフバランスを実現するには 2 ===== WLBの議論は、子育て中心の議論から、介護問題や男性の育休取得といった問題に拡大しています。このような昨今の展開と問題点について学びます。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	
第11回	自分なりのワークライフバランスを実現するには 3 ===== WLBの実現に向けて、日本の具体的施策や他国の施策を紹介し、何が必要かを検討します。			【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。		60	

第 1 2 回	日本は海外からの労働者を受け入れるべきなのか ===== グローバル化や人口減少により、日本でも海外からの労働者受け入れが徐々に進んできました。外国出身の労働者と日本人が共存して働く中でどのような問題が生じているのかを学びます。	【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。	60
第 1 3 回	仕事は奪われるのか ===== AI などの自動化技術や IoT の発達により、仕事が奪われるかもしれないという議論が盛んに行われています。こうした技術の発達によって、日本的働き方にどのような変化が生じ得るかを検討します。	【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。	60
第 1 4 回	雇用されない働き方は自由な働き方なのか ===== 自営という働き方は以前からありましたが、昨今ではシェアリングエコノミーの拡大により、独立自営業という働き方も広がってきました。このような雇用されない働き方の利点と問題点を学びます。	【予習】 予習課題に関する情報収集。 【復習】 ワークシート作成。	60
〔授業の方法〕 本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。資料は CoursePower からダウンロードすることができます。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。			
〔成績評価の方法〕 平常点（授業時の課題（Q&A など）やワークシートの提出：80%）、期末レポート（20%）			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は特に必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前または並行して学ぶと、より理解が深まります。			
〔テキスト〕 特になし。			
〔参考書〕 佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学：変貌する働き方』有斐閣ブックス。 上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。 小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣アルマ。 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（アドレスは配布資料のタイトルスライドに掲載予定）。			
〔特記事項〕			

科目名		アイデンティティの社会学					
教員名		石田 仁					
科目No.	125431400	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
テーマ＝日本社会における LGBT ―アイデンティティと制度― 概要＝LGBT 等（性的マイノリティ）に対する社会の関心が高まっている。この授業では、社会学の専門科目として、LGBT 等に関するアイデンティティと、直面する困難・課題、課題を克服する制度等について扱う。社会科学の一領域であるため、量的調査・法制度にも踏み込んで論じる。それらの調査法や法制度についても、生産的かつ批判的に考察していく。							
〔到達目標〕							
DP1-1（専門分野の知識・技能の習得）、1-2（社会の諸問題に対し多角的に検討する力の涵養）、1-3（実証的研究法を通した社会の解説）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1. 日本社会における性的マイノリティをとりまく歴史・アイデンティティ・制度の諸問題を理解できる。（DP1-1） 2. 性的マイノリティの置かれた状況を示す各種調査の方法論の妥当性を生産的・批判的に考察できる。（DP1-3） 3. 性的マイノリティに対して社会がしようとしている「包摂」と、「包摂」がもたらす「排除」に目を向ける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション「LGBT プーム」、性的マイノリティ/マジョリティの分類(1)			復習 テキスト pp. 1-13, 24-44.		60	
第2回	性的マイノリティの分類(2)、カミングアウトとアウトイング・クイズ			復習 pp. 24-44.		60	
第3回	性的マイノリティにとっての学校空間 子どもへの対応・日本と世界の性教育 ・クイズ			復習 pp. 46-74.		60	
第4回	性的マイノリティのメンタルヘルスとアイデンティティ ・クイズ			復習 pp. 76-85.		60	
第5回	性別越境に対する医療・法制度のサポート ・クイズ			復習 pp. 86-102, 118-121, 128-129.		60	
第6回	婚姻とパートナーシップ制度(1) 婚姻・パートナーシップ・パートナーシップ認定制度 ・クイズ			復習 pp. 106-115.		60	
第7回	婚姻とパートナーシップ制度(2) 養子縁組、合意契約、社会保障の可能性と限界 ・クイズ			復習 pp. 116-117, 150-154.		60	
第8回	包括的な差別禁止法と日本 国際人権機関と国内法 ・クイズ			復習 pp. 122-125, 132, 154.		60	
第9回	LGBT ビジネス マイノリティの「活躍」というマネタイズ ・クイズ			復習 pp. 156-172.		60	
第10回	「LGBT 人口は13人に1人」を信じてよいか ウェブ調査の読み解き方 ・小テスト2（5-9回の内容）			復習 pp. 224-233		60	
第11回	レズビアン不可視化 クィアという政治的態度 ・クイズ			復習 pp. 84-85, 194-197, 246-253.		60	
第12回	アイデンティティを「超えて」 エスニック集住モデル LGBT から SOGI へ ・クイズ			復習 pp. 78-79, 246-253.		60	
第13回	特論：ボーイズ・ラブ(BL)は現実社会を変えるか			復習 pp. 216-221.		60	
第14回	補遺とまとめ ・クイズ			復習 これまでの範囲		120	
〔授業の方法〕							
授業は講義形式で実施する。【テキスト中心に進めるので、テキストは必ず手元に置いて授業を受けること】。必要に応じて資料を配布したり、視聴覚教材を活用する。							
〔成績評価の方法〕							
CoursePower を用いたクイズ（各回の達成度確認）を13-14回実施する。各回3-4点（予定）。評価割合：40%。 期末試験を実施する。評価割合：60%。 これに加え、取り上げるべき質問等が出た場合は加点する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特段の予備知識は必要としないが、さまざまな差別や社会問題、ジェンダーに関する問題に関心を払ってほしい。マイノリティ（少数者）の問題はマジョリティ（多数者）の問題でもある。非当事者も当事者も関心をもって受講してほしい。社会科学の科目であるため、量的調査や法制度も扱う。社会調査関係の科目をとりつつ本項目を習得すると理解が一層深まる。
〔テキスト〕 『はじめて学ぶ LGBT—基礎からトレンドまで—』、石田仁、ナツメ社、1600 円＋税。（ISBN9784816365829）
〔参考書〕 『図解雑学ジェンダー』加藤秀一・石田仁・海老原暁子著、ナツメ社。 『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』風間孝ほか著、法律文化社。 『パートナーシップ・生活と制度』（増補改訂版）杉浦郁子ほか編、緑風出版。 『セクシュアリティと法』、谷口洋幸ほか編、法律文化社。 『LGBT ヒストリーブック 絶対に諦めなかった人々の 100 年の闘い』ジェローム・ボーレン著、北丸雄二訳、サウザンブックス。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業中に受け付ける。毎回クイズに質問欄も設けるので、そちらに記入する。次回（以降）の授業で解説をする。 CoursePower に Zoom の URL は掲載します。
〔特記事項〕 ICT を活用し、学生の理解度や学習状況を継続的に把握する。 ・クリッカーもしくは投票ツールを用いてフィードバックを聴取する。 ・クイズ（各回の達成度確認）の実施によって学習状況を把握する。 ・質問・コメントがあれば次回で振り返り、フォローアップする。

科目名		コミュニティの社会学					
教員名		細淵 倫子					
科目No.	125431450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。コミュニティは社会学の中でも最も古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、現代社会におけるコミュニティの実態を把握し、直面する問題について理解を深める。なお、国内外のコミュニティ支援に関する実務経験に基づき、コミュニティに関する基本的な知識や手法について講義を行う。なお、授業後半には実務経験豊富な講師を迎え、コミュニティを取り巻く活動の実態把握だけでなく、求められる人材・人間像・スキルに関しても理解を深める。							
〔到達目標〕							
①コミュニティに関する基礎的な知識を修得する。 ②コミュニティの特質を知り、その具体的な事例について説明できる。 ③DP2-1（教養の修得）を実現するため、現代社会への関心を高め、コミュニティを分析、その結果の発信力を養うことを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明す・コミュニティについて、その概略を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	コミュニティとは何か1 ～コミュニティ概念の展開①			【予習】関連記事を読む。また、講義内容を振り返り、理解を深める。 【復習】コロナ禍で話題になったコミュニティについて調べる。		60	
第3回	コミュニティとは何か2 ～コミュニティ概念の展開②			【予習】配布資料を読み、わからなかった点をメモする。 【復習】配布資料を読み直し、事例を調べる。		60	
第4回	コミュニティとは何か3 ～コミュニティ概念の展開③			【予習】配布資料を読み、わからなかった点をメモする。 【復習】配布資料を読み直し、事例を調べる		60	
第5回	小テスト① コミュニティを分析する1 ～つながり			【予習】配布資料を読み、関連記事を見つける。 【復習】グループワークの成果をまとめる。配布資料を読み直し、事例を調べる		60	
第6回	コミュニティを分析する2 ～空間			【予習】配布資料を読み、関連記事を見つける。 【復習】グループワークの成果をまとめる。配布資料を読み直し、事例を調べる		60	
第7回	コミュニティを分析する3 ～当事者、組織			【予習】配布資料を読み、関連記事を見つける。 【復習】グループワークの成果をまとめる。配布資料を読み直し、事例を調べる。		60	
第8回	小テスト② コミュニティの中と外1 ～少子高齢化問題とコミュニティ			【予習】配布資料を読み、問題点を探す。 【復習】授業内の配布資料を読み直し、自分の意見をまとめる。添削結果を読み、修正する。		60	
第9回	コミュニティの中と外2 ～外国籍居住者とコミュニティ			【予習】配布資料を読み、問題点を探す。 【復習】配布資料を読み直し、自分の意見をまとめる。添削結果を読み、修正する。		60	
第10回	コミュニティの中と外3 ～災害とコミュニティ			【予習】配布資料を読み、問題点を探す。 【復習】配布資料を読み直し、自分の意見をまとめる。添削結果を読み、修正する。		60	
第11回	ゲストスピーカーとディスカッション（1） コミュニティの現代的展開1 ～コミュニティで守る			【予習】配布資料を読む。ゲストスピーカーへの質問を考える。 【復習】配布資料を読み直す		60	
第12回	ゲストスピーカーとディスカッション（2） コミュニティの現代的展開2 ～コミュニティをつくる／を活用する			【予習】配布資料を読む。ゲストスピーカーへの質問を考える。 【復習】配布資料を読み直す		60	
第13回	ゲストスピーカーとディスカッション（3） コミュニティの現代的展開3 ～コミュニティを活性化させる			【予習】配布資料を読む。ゲストスピーカーへの質問を考える。 【復習】配布資料を読み直す		60	
第14回	まとめ			まとめ		60	
〔授業の方法〕							
・授業は主に講義形式で行うが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業も取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。・毎回の授業にはクリッカー、視覚教材等を活用し、学生と相互会話型の授業を展開する。なお、トピックによってはクリッカー等の回答を比較表示、その場で添削指導する。毎回の授業時にはグループワークを実施し、その結果を提出してもらう。学生の意見を共有、活発な意見交換を行うことを目指す。・小テスト2回と課題レポート2回の実施を通じて、知識の定着を図る。・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
小テスト（2回：30%、第5、8回）、課題レポート（2回：30%、第7、10回）、期末レポート（40%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特になし。なお、本科目の内容は都市社会学、ボランティア・NPO の社会学、コミュニティ演習が関連科目として想定される。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 「購入の必要なし」 以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。 1. 船津衛・浅川達人『現代コミュニティ論』、放送大学出版会、2006 年、ISBN: 978-4595306235。 2. 浅川達人・玉野 和志 『現代都市とコミュニティ』、放送大学出版会、2006 年、ISBN: 97
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時、電子メールで受け付ける。
〔特記事項〕 ・ I C T 活用 ・ アクティブ・ラーニング

科目名		生活文化史					
教員名		中江 桂子					
科目No.	125431500	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
日本の近代史は西洋化や産業化などの影響から、きわめて変化の激しい時代である。この時代に日本の庶民の生活はどのように変化してきたか、および、人々はこの変化を乗り越えて、生活形式を形成してきたか。とくに、「生活」および「文化」という側面に注目しながらこの歴史を振り返ることによって、現在では当たり前になっている生活の根源を見直す授業である。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような目標を設定する。私たちが当たり前に受け止めているライフスタイルや日常の文化が、実際にはどのような歴史的な経緯を経て作られてきたかを理解し、私たちの常識を相対化することができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	生活文化、という言葉の意味するものとは何か			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 2 回	近代＝時間に縛られた衝撃。 時間管理と生活文化。 チャップリンのインパクト——生活は豊かになるのか？			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 3 回	時間管理システムの誕生。 手帳・家計簿・カレンダー・そして電子手帳へ——生活管理の文化史。			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 4 回	言語と生活—近代に創出された「国語」 唱歌の誕生・・・「国語」、および、「ふるさと」への社会的感情の創出を考える			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 5 回	姿勢（身体技法の生活史 ——座位から立位へ。伝統的日本家屋と洋風生活が人間に何を 与えた／失わせた、か？			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 6 回	世界は広がる。 旅行と旅行誌の誕生——多様な生活文化が知られるとどうなる か？			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 7 回	見ることの政治の拡大を考える。 ——博覧会から百貨店へ ——消費社会への発展と成熟とは何か			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 8 回	演歌とフォークソング ——民衆の心情を分かち合う文化と、それを支える生活史			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 9 回	ファッションの洋装化とその展開 ——日本人は民族衣装が自分で着ることができない唯一の民族？			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 1 0 回	戦争による生活変容の意味 ——欲望の縮小化はどのように可能か／政治広告を考える ——今和次郎のアイディア			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 1 1 回	戦後強くなったのは「ストッキングと女性」という言説について ——豊かさでファッションとジェンダーを考える。			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 1 2 回	料理番組と食文化の歴史 ——テレビメディアからの生活改革——目指すべき健康のあり かとは何だったのか。			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 1 3 回	お土産文化、贈答文化の未来 ——「こころの秤」の広がり現代を考える			授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。		60	
第 1 4 回	豊かな生活とは何か、という思想を考える ——「生きられた」時間と空間を求めて			授業内容の復習。 全体の復習。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式。 毎回短いコメントを書いてもらい、理解の程度を確認する。							
〔成績評価の方法〕							
毎回のコメント（30%）、課題レポート 60%、平常点 10%を基本とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代社会科学の基礎科目の知識を持つことが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Zoom のチャットなどを通じて連絡を取る、あるいは、ポータルサイトや講義前後に受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		教育社会学					
教員名		今田 絵里香					
科目No.	125431550	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、教育社会学の「ジェンダーと教育」について学んでいく。現代社会における学校教育という営みについて考えるとき、それを取り巻く社会構造を無視することはできない。現代社会においてはジェンダー、社会階層による社会的格差が存在する。そして、そのような社会的格差はなくなるどころか、ますます拡大しているといわれている。社会的格差と学校教育はどのように関連しているのだろうか。本講義では社会問題と教育問題の関連を解き明かしていく。そして現代社会における「教育」という営みについてももう一度考え直していく。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 ジェンダー、社会階層が学校教育を通して再生産されるプロセスをとらえられるようになる。 学校教育をとらえて社会の構造について考えられるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	「ジェンダーと教育」とは何か			【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第2回	「教育社会学」とは何か（1）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第3回	「教育社会学」とは何か（2）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第4回	労働市場とジェンダー			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第5回	進路とジェンダー			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第6回	かくれたカリキュラム（1）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第7回	かくれたカリキュラム（2）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第8回	ピエール・ブルデューの文化的再生産論（1）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第9回	ピエール・ブルデューの文化的再生産論（2）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第10回	ジェンダー・トラック（1）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第11回	ジェンダー・トラック（2）			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第12回	男子校・女子校・共学校			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第13回	アンソニー・ギデンズの「親密性」に関する議論			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第14回	まとめ			【予習】参考文献の指定部分を読む。これまでの学修内容を確認する。		90	
〔授業の方法〕 講義形式。							
〔成績評価の方法〕 授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし。
〔テキスト〕 とくに指定しない。
〔参考書〕 とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		文化社会学					
教員名		金 善美					
科目No.	125431600	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、社会学の視点から「文化」にアプローチしていく。まずは、社会学的な問いの対象としての「文化」概念を検討し、20 世紀以降の大衆文化の誕生を説明する。その上で、資本主義や消費社会、国民国家、グローバリゼーション、ジェンダー、観光など多様な視点に着目しながら、文化と社会の関係性や文化形成の原理を考えていく。授業では写真や映像、新聞・雑誌の記事などの資料も積極的に活用し、授業内容に関わる具体的事例を取り上げる。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①社会学の研究对象としての文化の概念を理解し、主な理論を説明できる。 ②自分が興味を持つ文化現象を発見し、その形成と変容を授業で学んだ諸理論および様々な社会変動との関連の中で論じることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。		30	
第 2 回	文化とは何か（1） ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化社会学が扱う領域を概観する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	文化とは何か（2） ・20 世紀初頭の大都市における大衆文化の開花を把握する ・シカゴ学派の都市社会学やカルチュラルスタディーズによる文化のとらえ方を理解する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	資本としての文化（1） ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	資本としての文化（2） ・東京ディズニーランドや創造都市などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解をかめる			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	差異としての文化（1） ・消費社会論や記号論、カルチュラルスタディーズなどの考え方を把握し、消費社会と文化の関係を考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 7 回	差異としての文化（2） ・ファッション雑誌やアニメキャラクターなどの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 8 回	映画から読み解く文化社会学 ・映画作品を何点かピックアップし、そこから見えてくる文化社会学のキーワードについて考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	越境する文化（1） ・文化帝国主義とオリエンタリズム、文化のグローバル化などをめぐる議論を把握する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	越境する文化（2） ・ディズニーのアニメーション、K-POP などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	ジェンダーの文化政治（1） ・アイデンティティとフェミニズム、ジェンダーという視点から現代社会と文化の関係を考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	ジェンダーの文化政治（2） ・ファッションの流行やコスプレなどの事例を検討しながら、現代日本社会で描かれる女性／男性のイメージ・役割について考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」や S. Zukin「Authenticity」などの議論から考察する ・事例として昭和ノスタルジー・下町ブームを検討する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 4 回	ネットワーキングする文化 ・ネット社会の到来による文化の変容を、市民運動や新しいプラットフォーム・メディアの登場、フェイクニュースなどの事例を挙げながら考察する			【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式をとる。毎回、受講者の授業内容への理解度を確認するために、コメントペーパーの提出を求める。							
〔成績評価の方法〕							
質問や発言など授業への参加状況（10%）、課題レポート（1 回：30%）、学期末試験（60%）で成績評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・文化に関する社会学の主な概念・理論を修得しているか ・特定の文化現象を社会変動の中で位置づけ、その背景や特質を説明できるか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 『現代文化論——新しい人文知とは何か』、吉見俊哉、有斐閣、2000 円＋税、ISBN-10: 464122076X（購入の必要なし） なお、各回の授業内容と関連する参考文献については、授業内で適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名	社会階層論						
教員名	内藤 準						
科目No.	125432100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 この講義では、現代社会のさまざまな不平等を分析する、社会階層論の授業をおこないます。社会階層論では、仕事上の地位や収入や学歴など、人びとのさまざまな上下関係を「社会階層」として捉えます。さまざまな社会階層が生じたり、時代によって変化したりする様子を実証的に分析し、社会階層が人びとの暮らしや意識に影響を与える仕組みを明らかにします。 (1) 現代社会の社会階層： 仕事や働き方、社会関係（ネットワーク）を中心に、階層的な不平等が生まれたり再生産されたりするメカニズムを検討します。親子間の社会階層の再生産、学歴社会の意味、非正規雇用の増加、ジェンダー間の不平等、人間関係の格差と社会的孤立といった現代的なトピックを検討します。 (2) 社会階層と福祉、正義： 近代社会の基礎にある「機会の平等」を中心に、正義や平等について考えます。上流・中流・下流といった階層アイデンティティや、生活満足感や幸福感などの意識、人びとが享受する生き方の自由などと、社会階層との関係について学びます。 (3) データ分析の基礎を、量的な分析手法を中心にして学びます。社会調査法・量的調査法を用いた分析結果や文献の読み方を身につけます。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。 ①現代社会の不平等について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、社会全体の状況として把握する力を身につける。(DP1、DP2、DP3) ②社会の構造から影響を受けつつ社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。(DP1、DP2、DP3) ③さまざまな不平等がどのように形成されるのか、いつ・なぜ問題になるのかを理解する。そのうえで、社会問題							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション：不平等はなぜ問題なのか ===== 授業全体の流れを説明します。社会階層論で使うデータや資料などについて説明し、残った時間で基本的な概念や、社会的な不平等が問題となる理由などについて解説します。これらの概念については該当するトピックを扱う際に復習します。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第2回	社会階層とは何か ===== 社会学的な「社会階層」の概念と、その関連概念について説明します。社会階層と社会階級との違い、社会階層が規定する社会意識としての「階層意識」についても説明します。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第3回	社会階層の再生産と機会の平等(1) ===== 親と子の社会階層の「再生産」は、社会階層論の中心的テーマの一つです。親の地位によって子の地位が決まってしまう社会は、機会が不平等で個人の努力が実を結ばない閉鎖的な社会だと考えられるからです。 はじめに、階層の再生産や機会の平等などを、データから分析する方法を学びます。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第4回	社会階層の再生産と機会の平等(2) ===== 親と子の社会階層の「再生産」は、社会階層論の中心的テーマの一つです。 ここでは社会階層の「再生産」を読み解くための、量的なデータ分析の方法と見方を学びます。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第5回	社会階層の再生産と機会の平等(3) ===== 親と子の社会階層の「再生産」は、社会階層論の中心的テーマの一つです。親の地位によって子の地位が決まってしまう社会は、機会が不平等で個人の努力が実を結ばない閉鎖的な社会だと考えられるからです。 前回学んだ方法を用いて、階層再生産をめぐる戦後から現在までの流れを分析・検討します。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第6回	社会階層と教育、学歴社会 ===== 教育は、人びとをさまざまな仕事に振り分ける媒介として機能し、本人の努力を反映する業績主義の指標とも考えられてきました。社会階層と教育、教育と仕事や収入との関係を学びます。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第7回	増加する非正規雇用と仕事の変化 ===== 近年、非正規雇用の増加に象徴される雇用の流動化が進み、新卒採用・終身雇用・性別分業という従来の職業構造は変化しつつあります。正規雇用と非正規雇用の格差や、非正規雇用の担い手の変化などについて検討します。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	
第8回	女性の労働と性別分業 ===== 今日の日本社会では女性のフルタイム就業が進み、片働きから共働きへと働き方が変わってきました。また男性の非正規雇用も増加し、夫婦ともに非正規雇用であることも珍しくなくなっています。ここでは日本社会の男女格差や、共働き夫婦のワーク・ライフ・バランス、性別分業をめぐる問題点などを検討します。			【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		60	

第 9 回	社会階層と結婚・出産、家族形成 ===== 非正規雇用の拡大や雇用の不安定化といった変化は、職業的地位や収入の格差とともに、結婚や出産などの家族形成における格差をもたらしているとされます。こうした側面から、機会の不平等について検討します。	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第 10 回	社会階層とアイデンティティ ===== 人びとは、社会の中に自らを位置づけながら生活を送っています。ここでは、日本の「総中流社会」をめぐる論争ともなった「階層帰属意識（階層アイデンティティ）」をめぐり、戦後の「中流意識」の趨勢や、人びとのアイデンティティが「個人化」している可能性などを検討します。	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第 11 回	社会階層と暮らしの満足・幸福・自由 ===== 私たちの生活満足感や幸福感、私たちの自由についての実感は、職業的な地位や経済的な裕裕さ、家族関係などによってどのように規定されているのでしょうか。こうしたさまざまな「主観的福祉」と社会階層との関連を検討します。	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第 12 回	社会階層とサポートネットワーク (1) ===== 人びとは他者との人間関係（ネットワーク）を形成し、その中で生活しています。人間関係から切り離され、支援（サポート）を得られない人びとは、社会的孤立や排除の状態にあるとされ、社会問題として近年注目されるトピックです。	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第 13 回	社会階層とサポートネットワーク (2) ===== 災害や貧困、失業などで困ったとき、他人からサポートが得られることは大きな助けとなります。しかしこうしたサポートを利用する機会は、果たして誰でも自由に使えるものなのでしょうか。 ここでは、人間関係や社会的サポートの有無にも、社会階層との関連があることを学び、その仕組みを検討します。	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第 14 回	授業のまとめ 到達度確認テスト	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
〔授業の方法〕 基本的に講義形式でおこないます。講義では学術的な概念を用いるので、到達度の確認と復習のため、適宜、小テストや中間テストをおこなう可能性があります。 なお、授業の進捗度によって、内容は適宜変更されることがあります。			
〔成績評価の方法〕 平常点、小テストや課題、到達度確認テストなどから総合的に評価します。 平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%、小テストおよび課題 30%、到達度確認テスト 60%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識はとくに必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、量的調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。			
〔テキスト〕 授業時に資料を配付し、テキストとして使用します。 その他、適宜授業内で指定します。			
〔参考書〕 以下の文献を中心に、参考図書や論文は随時指定します。（購入の必要なし） 盛山和夫ほか編，2011，『日本の社会階層とそのメカニズム——不平等を問い直す』白桃書房。 竹ノ下弘久，2013，『仕事と不平等の社会学』弘文堂。 原純輔・盛山和夫，1999，『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会。 辻竜平・佐藤嘉倫編，2014，『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』東京大学出版会。 武川正吾・白波瀬佐和子編，2012，『格差社会の福祉と意識』東京大学出版			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。			
〔特記事項〕			

科目名		ライフコースの社会学					
教員名		高橋 幸					
科目No.	125432150	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
ライフコースの社会学とは、人間の一生を社会的・歴史的コンテキスト（文脈）によって構築されていくものとみなし、人々の人生が年齢や時代、世代によって影響を受け、変化していく過程を研究するものである。本講義では、ライフコースの量的研究と、質的研究について解説し、議論する。							
〔到達目標〕							
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解する。また、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という 3 つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			授業日程と授業評価方法を確認する		60	
第 2 回	ライフコースとは何か			授業内容を踏まえ、家族の人生をライフコースという観点から捉え直してみる。		60	
第 3 回	後期近代におけるライフコースの多様化			配布資料や参考文献を読む		60	
第 4 回	ライフコース分析の道具 1：社会的地位と社会的役割、役割移行			配布資料や参考文献を読む		60	
第 5 回	ライフコース分析の道具 2：世代と時間、タイミング			配布資料や参考文献を読む		60	
第 6 回	ライフコース分析の方法：年齢・時代・コーホート（APC 効果）			配布資料や参考文献を読む		60	
第 7 回	データ分析：ライフイベントとしての音楽視聴			配布資料や参考文献を読む		60	
第 8 回	女性のライフコース：出生動向調査データを読む			配布資料や参考文献を読む		60	
第 9 回	男性のライフコース：「男らしさ」の変化			配布資料や参考文献を読む		60	
第 1 0 回	高齢期のライフコース			配布資料や参考文献を読む		60	
第 1 1 回	団塊の世代のライフコース分析：戦後日本社会論			配布資料や参考文献を読む		60	
第 1 2 回	ライフストーリー分析 1：貧困の世代間連鎖をどう止めるのか			配布資料や参考文献を読む		60	
第 1 3 回	ライフストーリー分析 2：性解放によるセクシュアリティの変化			配布資料や参考文献を読む		60	
第 1 4 回	まとめ			レポートの準備をする。		60	
〔授業の方法〕							
動画を配信するオンデマンド型、もしくは Zoom で授業をするオンライン型の講義形式を取ります。講義資料の配布や Zoom の場所の告知は、CoursePower を通して行います。							
〔成績評価の方法〕							
期末レポート（60％）と、平常点（3～4 回行うコメントペーパーの提出状況、40％）で評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。
〔テキスト〕 授業は配布レジュメで行いますので、とくに必要ありません。
〔参考書〕 ・嶋崎尚子 2008 『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット-社会学のポテンシャル）』 学文社. ・エルダー・ジール 2003 『ライフコース研究の方法』明石書店. ・エルダー・ジール 2013 『ライフコース研究の技法』明石書店.
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業に関する質問や感想は随時メールで受け付けます。メールアドレスは、のちのち履修者向けにお知らせします。
〔特記事項〕

科目名		ボランティア・NPOの社会学					
教員名		高田 昭彦					
科目No.	125432200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
今の社会を動かしているのは企業と行政です。しかしそれらを支えているのは市民です。その市民が企業と行政に働きかけて社会を動かす原動力となっているのがボランティアとNPOです。 ボランティアとNPO、テレビや雑誌でよく見かけますが、根本的な相違は、ボランティアは個人、NPOは組織を指すところにあります。NPOは、ボランティアの自発的参加に支えられた市民の自主的な組織です。NPOが社会的に注目され始めたのは1998年のNPO法の成立からですが、市民の自主的・自立的な活動は1960年代から市民運動として顕著になってきていました。講義ではその動きを、幾つかの論文と1冊の書物で追っていきます。 テキストで取り上げる論文の内容は、NPOとは何か、NPOとボランティア、NPOと企業、NPOと行政、NPOの実際として幾つかの団体例を取り上げます。そしてNPOが生まれた源流としての市民活動の動きを、NPO法の成立を軸とした『市民運動としてのNPO』（高田昭彦）の中の各章で追っていきます。							
〔到達目標〕							
学生諸君に、自発的かつ自主的に考えて信頼できる繋がりを持った人、すなわち有名人やマスコミの意見を鵜呑みにするのではなく、自分で見て、考えて、行動する人、つまり「市民」になってもらうことを目指します。そのために、それを実践している市民活動に焦点を合わせ、それについて相互にディスカッションして各自の考えを磨いていきます。 そして、個人の自発的活動（つまりボランティア活動）がやがて社会を大きく変えていくようになっていくことを実感してもらえればと思っています。 諸君の中に秘められた新しいアイデアが発揮・							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	山岡義典のエッセイ「NPO時評」を読んで、日本のNPO全般について考えてみる。			山岡義典「NPO時評」より、「ルール・モデルの可能性」「2つのNPOの20年の軌跡」「NPO化する地縁組織」「日本社会の基層に流れる民衆・市民の組織力と組織文化」「市民に開かれた魅力的な拠点を育ててほしい」を読む。		60分	
第2回	NPOは何かということと、日本社会におけるNPOの現状について把握する。			山岡義典「NPOの現代的意義」山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』ぎょうせい、2005年12月、を読む。		70分	
第3回	NPOとボランティアとの関連について把握する。			早瀬 昇「NPOとボランティア」山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』ぎょうせい、2005年12月、を読む。		60分	
第4回	NPOと企業との関連について把握する。			田代正美・山岡義典「NPOと企業の社会貢献——企業とNPOの望ましい関係」山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』ぎょうせい、2005年12月、を読む。		70分	
第5回	NPOと行政との関連について把握する。			久住 剛「“NPO—行政関係”原論」山岡義典編『NPO基礎講座（新版）』ぎょうせい、2005年12月、を読む。		70分	
第6回	日本の環境NPOの実際の活動（静岡県三島市）を見る。			渡辺豊博「市民・住民参加の環境改善活動を組織化する——グラウンドワーク三島の事例から」を読む。		60分	
第7回	日本の教育NPOの実際の活動（東京都王子・大田・新宿）を見る。			奥地主子「子どもにかかわる民間教育活動を組織化する——東京シュレの事例から」を読む。		60分	
第8回	ここからは、高田昭彦『市民運動としてのNPO』風間書房、2018年を読んでいきます。 先ず、1～10ページ、21～42ページ。			序＋「復興期・高度成長期からネットワーク導入時まで」、「市民運動としてのネットワークの展開」を読む。		70分	
第9回	同、42～65ページ。			「NPOの発見とその後の市民運動」を読む。		60分	
第10回	同、65～96ページ。			「NPO法の提案から成立まで」「NPO法成立後の市民運動の動向」を読む。		60分	
第11回	日本におけるNPOの基盤整備に大きな影響を与えたアメリカのNPO・市民運動の実際を見ていく。同、129～150ページ。			高田昭彦「1980年代のアメリカの草の根市民運動」を読む。		60分	
第12回	新しい市民運動の原型として「反原発運動ニューウェーブ」を取り上げて、その盛衰を見ていく。同、151～172ページ。			高田昭彦「1990年代の市民運動の原型」を読む。		60分	
第13回	パートナーシップを取り入れた先駆的なまちづくり運動として、川越・一番街の町並み保全活動を見ていく。同、173～209ページ。			高田昭彦「パートナーシップによるまちづくりー川越・蔵造りの町並み保全運動」を読む。		70分。	
第14回	「市民運動としてのNPO」のまとめとして、市民活動の歴史的な意味を考えていく。同、97～126ページ。			高田昭彦「1990年代の市民運動がもたらしたもの——“市民”による“公的空間”拡大のメカニズム」を読む。		70分。	
〔授業の方法〕							
授業の進め方は以下の通りです。 配付したテキスト、学生諸君が購入した書籍を基に、ディスカッション形式で授業を進めます。 1) 先ずテキストを読んで、全体の感想と、気になったこと・疑問に思ったことなどを1つ考えてきてください。 2) 授業では先ず数人に全体の感想を尋ねます。その時に、テキストの解説や用語説明を高田がします。 3) 次にグループ分けをして、少人数で各自考えてきた疑問点を相互に開示してディスカッションします。 4) 次に各グループがそこで話されたことを報告します。							

5) その後、話題になった複数の疑問点についてみんなでディスカッションします。疑問点の解決よりも、その解決に向けてのプロセスを重視します。
〔成績評価の方法〕 毎回の授業への参加度（出席状況、テキストの理解、発言状況、授業への提案等）60%。 到達度確認テスト（期末試験）40%。 なお、試験問題は、「授業で配布したテキストから、各自問題を設定し、それについて論ぜよ」です。事前に考えてきて、試験場で答案用紙に解答してください。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、後期火曜日 4 限の「武蔵野地域研究」（成蹊教養カリ）があります。 これは、武蔵野市における市民活動団体の実際の活動を、その団体の代表あるいは事務局長に語っていただいています。今回は 2019 年度の『武蔵野地域研究報告書』から、武蔵野市に特徴的な市民活動・NPO をピックアップして読んでいくと共に、報告していただいた本人や、新しく活動を始めた方を教室にお招きして話してもらうことにしました。 成蹊大学の学生諸君にとって、身近な地域の市民活動ですので、「ボランティア・NPO の社会学」の実践
〔テキスト〕 テキストは、高田昭彦『市民運動としての NPO——1990 年代の NPO 法成立に向けた市民の動き』風間書房、2300 円＋税、ISBN978-4-7599-2230-1。 この書籍を、風間書房のご好意で、直接メールで注文すれば、書籍代＋消費税＋郵送料を含めて 2000 円で諸君に直接送ってきてくれることになりました。風間さんからのみなさんへのお知らせ文は次の通りです。 「風間書房 pub@kazamashobo.co.jp あてに、直接メールで注文する。 成蹊大学高田昭彦先生の教科書購入希望、お名
〔参考書〕 山岡義典編『NPO 基礎講座』（1～3）、ぎょうせい、1997 年～1999 年。（新版 2005 年）（購入の必要なし。図書館にあります。） 山岡義典編『NPO 実践講座』（1～3）、ぎょうせい、2000 年～2003 年。（購入の必要なし。図書館にあります。） なお、関連科目で取り上げた武蔵野市の市民活動団体が載っている『武蔵野地域研究 報告書』（冊子）は、成蹊大学本館 1 階北側の「大学ボランティア支援センター」に全部（2010 年度から 2019 年度まで 9 冊）あります。諸君の知りたい団体が載っている号は差し上げ
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 学生からの相談は、授業終了後に教室で受け付けます。 授業終了後に、メールで高田に直接質問を送ってきても構いません。必ず回答します。 興味をもった団体を訪問したい場合も連絡してください。仲介をします。訪問の日時や場所は、先方と直接話し合って決めてください。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		スポーツ社会学					
教員名		稲葉 佳奈子					
科目No.	125432250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本講義は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、現代社会について考察することを目的とする。スポーツは、その場・その時かぎりの実践にとどまらず、社会の要請に応じてさまざまな意味や価値が付与された「社会」そのものとしての側面をもつ。そうした視点から、スポーツが抱える文化的・社会的意義や課題についての知識を身につけるとともに、現代社会におけるスポーツの位置づけについて理解を深めていく。							
〔到達目標〕							
DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解し説明することができる。 ②スポーツの意味や課題を社会学的な視点から考察することができる。 ③スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			シラバスの内容を把握する。		60	
第2回	スポーツの成立と発展			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第3回	近代オリンピックと社会（1）			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第4回	近代オリンピックと社会（2）			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第5回	資本主義とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第6回	学校とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第7回	「男らしさ」とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第8回	スポーツにおける「性」			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第9回	「障害」とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第10回	社会運動とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第11回	グローバル化とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第12回	これからの社会とスポーツ			講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。		60	
第13回	到達度の確認			前回までの学修内容を整理・確認する。		60	
第14回	まとめ			前回確認された自己の到達状況をもとに、全体的な学修内容を復習する。		60	
〔授業の方法〕							
○各回の内容に即した資料（パワーポイント、ビデオ教材、配布資料など）を用いながら、講義形式で授業を進める。 ○授業内でおこなうワークを活用し、適宜受講生とのコミュニケーションをはかる。 ○授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業時のワークへの取り組み）50%および到達度確認課題50%をもとに、総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

○授業時のワークに積極的に取り組んでいるか。

○到達度確認課題において以下の 3 点が表現できているか。

1. スポーツにかかわる諸現象について社会学的な視点から理解・考察し、説明することができる。

2. スポーツが内包する現代的な課題を理解し、説明することができる。

3. 現代社会の

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

必要に応じて CoursePower を通じて資料を配付する。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		経済社会学					
教員名		藤原 翔					
科目No.	125432270	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
経済社会学は経済現象や経済的行為を社会的にとらえる社会学の一領域である。すでに経済学が経済を対象とした固有の方法として存在しているが、本講義では社会学（者）がどのように経済現象や経済的行為にアプローチしてきたのか、その歴史の変遷を示したうえで、現代における経済社会学の関心およびその意義を明らかにする。講義では経済社会学の理論的な側面だけではなく、様々なトピック（例えば制度、ネットワーク、ジェンダー、労働、社会階層、家族、教育、学校など）を取り上げた上で、現代社会の諸問題に関する理論的な見方そして社会調査や実験による測り方についての理解を深める。なお、受講者の関心に従って内容を変更する場合もあるので、初回のガイダンス時に積極的に関心や問題意識を示してもらいたい。							
〔到達目標〕							
(1) 経済社会学の歴史の変遷をおさえる (2) 現代における経済社会学の特徴とアプローチを理解する (3) 関心のある社会・経済的現象について、経済社会学の理論や方法を適用する 知識を身につけるだけではなく、それを活用した社会の見方を習得することを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業で扱う内容、進め方、復習の仕方、コメントの書き方、 評価の方法を説明する。 受講者の関心について把握する。			【予習】第1回目の授業で皆さんには経済や社会と関連した 各自の関心をコメントシートに記入し、提出してもらうの で、論文、著書、ニュースなどをみて、準備をしてください。		60	
第2回	経済社会学の特徴 ・社会学は経済学的に、経済学は社会的になっているという 見方もあり、両分野の垣根は低くなっているともいわれていま す。その上で、どのような関心の違いや特徴があるのかを明ら かにする。			【復習】経済学的なトピックと考えられているものを調べる。 それに対して社会学がどのようにアプローチしてきたの か（してこなかったのか）Google Scholar や CiNii などで調 査する。		60	
第3回	経済社会学の過去と現在 ・社会学者がどのように経済現象にとりくんできたのかを明ら かにし、その一般的な関心を共有する。また近年の経済社会学 の動向を紹介する。			【復習】関心のあるトピックについて重点的に調べてみる。		60	
第4回	経済社会学の重要トピック 1 ・マクロ社会学的視点からみた経済について検討する。			【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1 つをとりあげ 重点的に調べる。		60	
第5回	経済社会学の重要トピック 2 ・経済制度と経済行動の社会学について検討する。			【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1 つをとりあげ 重点的に調べる。		60	
第6回	経済社会学の重要トピック 3 ・企業、組織、産業の社会学について検討する。			【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1 つをとりあげ 重点的に調べる。		60	
第7回	社会現象を観察する ・社会をとらえるためには観察が必要である。どのように観察 するべきか、その注意点を検討する。			【復習】学術的な社会調査や政府・民間の研究所がおこなう 調査で、2 つの変数についてどのような結果が報告されてい るのかを調べる。		60	
第8回	社会現象と因果関係 ・社会調査などで観察された関連は因果関係を意味するわけでは ない。因果関係を考えるうえで気をつけなければならないこと を検討する。			【復習】社会学では因果関係はどのようにとりあげられてきた のかを調べる。		60	
第9回	経済と社会の見方・測り方 ・社会をモデルでみるための方法を中心に説明する。			【復習】とりあげた複数の方法のうち、1 つをとりあげ重点 的に調べる。		60	
第10回	仕事、職業の社会学 1 ・これまで社会学が仕事や職業にどのようにアプローチしてきた のかを説明する。また近年の格差論との関連も明らかにする。			【復習】格差のメカニズムを複数の視点からとらえる。		60	
第11回	仕事、職業の社会学 2 ・職業、仕事、階級がひとびとの経済生活とどのように関連し ているのかを明らかにする。			【復習】格差生成のメカニズムをモデルとして示す。		60	
第12回	教育制度の社会学 ・学校と他の制度との関連を明らかにする。またジェンダーの問題 についても同時に扱う。			【復習】日本における学校制度がもし今と異なっていたら、 人々の行為にどのような変化が見られるのかを理論的に予測 する。		60	
第13回	文化と消費の社会学 ・文化と消費における格差の実態とメカニズムを説明する。 到達度確認テスト ・これまでの授業の内容をふまえた社会現象の生成メカニズム についての説明を行い、授業についての理解を確認する。			【復習】ある文化的活動や消費について、なぜ階層的な格差 が生じるのかについて複数のメカニズムを考える。また授業 で扱わなかった活動・消費について予測する。		60	
第14回	到達度確認テストの解説・質疑応答 ・理解度について確認し、解説する。 国際比較からみた経済と社会 ・まとめとして、国際比較の視点から、経済と社会にアプロ ーチする方法を、実証分析を例に示す。			【復習】関心のある国の制度を調べ、日本とどのような違い があるのか、またそれが人々の行為にどのように異なる影響 を与えるのかを考える。		60	
〔授業の方法〕							

配布資料を基に講義形式で行うが、受講生からの質問・疑問を歓迎する。毎回、授業終了後に授業内容を踏まえた上での課題・コメントを提出することが求められる。
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や課題の提出状況，70%）と授業時のレポート（到達度確認テスト，30%）で成績評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にない。
〔テキスト〕 特にない。必要な資料については配布する。
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 随時、電子メールで受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		科学技術の社会学					
教員名		高 艸 賢					
科目No.	125432300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
私たちの生活のなかには、様々なかたちでテクノロジーや科学的知識が入り込んでいます。例えば、翌日の予定を決めるために天気予報を見るとき、私たちは天気予報を通じて得られる知識を科学的知識として受け取り、「科学的」であるがゆえにその知識に信頼を寄せています。しかし、このような場合に私たちが用いている「何が科学的知識なのか」という基準は本当にきちんと根拠づけられたものになっているのでしょうか。この講義ではこれまでの科学哲学・科学社会学が論じてきた様々な「科学の基準」について学んだ後、地球温暖化問題・代替医療・歴史修正主義といった自然科学・社会科学にまたがる具体的な問題を題材に、科学とそうでないものの境界はいかにして引くことができるのかを考えていきます。さらに、授業の後半では科学・技術が近代社会にどのように介入してきたかについても学びます。							
〔到達目標〕							
「何が科学であり、何が科学でないか」に関する基準を理解できるようになる。また、その基準を応用することで、現代社会における科学と疑似科学の線引きをめぐる問題について、自ら思考できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション 講義内容・講義の進め方と、成績評価についてそれぞれ説明します。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業の形式を把握しておいてください。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認してください。		30 30	
第 2 回	科学・学問の歴史 西洋における科学・学問の歴史を概観し、現在のような諸科学の専門分化に至る過程を学びます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 3 回	科学の論理(1) 科学と疑似科学 科学と疑似科学の境界を明確に区別するためにはどうしたらよいのかという問題関心が科学哲学においてどのようにして生まれてきたのかを学び、そうした考えの有効性と限界について幾つかの事例をもとに考えます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 4 回	科学の論理(2) 帰納と演繹 古くから科学の正当な方法として論じられてきた帰納的推論の性質とその限界について学びます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 5 回	科学の論理(3) 反証可能性 科学と疑似科学を分ける基準として提示された反証可能性の概念と、それに対する批判について学びます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 6 回	科学の論理(4) パラダイムと科学者集団 科学哲学者トマス・クーンが導入したパラダイム論の基本的な考え方を学びます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 7 回	科学の論理(5) 自然科学と社会科学 自然科学と社会科学はどのように違うのか、社会科学の「科学性」の基準はどのように考えるべきか、について学びます。			【復習】授業で扱った科学哲学の内容について、伊勢田（2002）や別途授業中指示した参考文献を読んでみましょう。		60	
第 8 回	議論を呼ぶ科学(1) 地球温暖化懐疑論 地球温暖化問題の概要と、「地球温暖化問題など本当は存在しない」とする懐疑派の議論について検討します。			【復習】地球温暖化問題について授業中指示した参考文献を読んだり、映像作品の続きを見たりしましょう。温暖化懐疑論と創造科学のような言説との類似点・差異はどのあたりにあるか考えてみましょう。		60	
第 9 回	議論を呼ぶ科学(2) 歴史修正主義 ナチスドイツによるホロコーストの実在性を否定するなど、自国の過去の戦争犯罪を否認するタイプの議論は歴史修正主義と呼ばれます。ドイツや日本の事例をもとに、歴史修正主義の主張においていかにして疑似科学的な主張が用いられているのかを学びます。			【復習】歴史修正主義の問題について授業中指示した参考文献を読んだり、映像作品の続きを見たりしましょう。欧米の歴史修正主義と日本の歴史修正主義の異同について考えてみましょう。		60	
第 1 0 回	議論を呼ぶ科学(3) 代替医療 西洋医学とは異なる治療法として人々の間で存在感を増しつつあるのが代替医療です。代替医療をめぐる言説を「科学／非科学」の問題との関係において検討します。			【復習】代替医療についての授業中に指示した文献や記事を読んでもみましょう。		60	
第 1 1 回	議論を呼ぶ科学(4) ポストトゥルース 客観的事実を軽視する近年の「ポストトゥルース」状況の出現について、その背景となっている要因を考えます。			【復習】ポストトゥルースについての授業中に指示した文献や記事を読んでもみましょう。		60	
第 1 2 回	社会に介入する科学／技術(1) 統計と社会 統計学はその誕生の当初から社会に介入する知として用いられてきました。ここでは、統計がいかに社会のコントロールに用いられてきたか、統計を読む際の注意点などを学びます。			【復習】授業中に指示した文献や記事を読んでもみましょう。		60	
第 1 3 回	社会に介入する科学／技術(2) 公害・原発と社会 科学／技術が社会に介入することで社会に深刻な被害を与えてしまった事例として、公害と原発をとりあげます。			【復習】公害問題・原発問題について授業中指示した参考文献を読んでもみましょう。		60	
第 1 4 回	社会に介入する科学／技術(3) AI と監視社会 AI やアルゴリズムの技術が犯罪予測などに用いられるようになった現代において、科学技術に基づいた新たな形の管理・監視が日常生活の中に浸透しつつあることを学びます。			【復習】授業中に指示した文献や記事を読んでもみましょう。		60	
〔授業の方法〕							

シラバスに沿ってスライド・配布資料を使用した講義を行います。前半 7 回は下記の教科書などにに基づき、科学哲学と科学社会学の基本的な考え方について講義します。後半 7 回は、前半の内容を踏まえつつ具体的なトピックについて講義します。
〔成績評価の方法〕 ①講義中盤に締切となる中間課題（1,200 字程度）（20%）、②講義最終回終了後に締切となる最終課題（2,400 字程度）（50%）、③その他の平常点（授業への参加状況・コメントシート提出など）（30%）の三つの項目で成績判定を行います。中間課題と最終課題の内容は連続しています。提出された中間課題には講評を付けて返却します。最終課題は、その講評を踏まえてよりよいもの書き直すことが求められます。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。
〔テキスト〕 『疑似科学と科学の哲学』、伊勢田哲治、2002 年、名古屋大学出版会、978-4815804534、3080 円
〔参考書〕 各トピックに関連する参考文献は授業内で適宜指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		グローバリゼーションの社会学					
教員名		渡部 厚志					
科目No.	125432350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 朝、身支度を整え、朝食を取る。授業の時間に合わせて家を出て、電車に乗る。途中、コンビニで用事を済ませてからキャンパスに到着する。たったこれだけのことが、何カ国もの国、何百人もの人たちの仕事に支えられています。私たちがあたりまえにしていることで、誰かが新しいチャンスを得たり、大事にしていたものをなくしてしまったりすることもあるかもしれません。グローバリゼーションが進み、世界中を結ぶ人、もの、金、情報の交流と支え合いが当たり前になった世界に私たちは暮らしています。 では、グローバリゼーションはいつから始まったのでしょうか。グローバリゼーションの時代とは、それまでの時代と何が違うのでしょうか。グローバリゼーションは、人を幸せにしているのでしょうか、それとも不幸にしているのでしょうか。グローバリゼーションという言葉が現れてもう何十年も経ちましたが、こんな基本的な問いについてさえ、決まった答えはありません。そのうえ、グローバリゼーションは現在進行中で、重要なプレーヤーや大事な出来事が、毎日のように入れ替わっていきます。 この講義では、グローバリゼーションに関連して世界で起きている様々な出来事を紹介しながら、「私たちの生活に密接に関わる」にもかかわらず「立場によって見方が異なり、毎日のように状況が変わっていく」課題を知り、考え、対処の仕方を決めていく練習をしていきたいと思います。							
〔到達目標〕 3つのポイントに重点を置き、グローバリゼーションが進行する現代社会について、基本的な論点と、具体的なトピックを考える力を伸ばすことをめざします。 1) グローバリゼーションに関する基本的な論点（論点の食い違い）を学習し、立場によって見方が異なる課題をいくつかの方向から検討する方法を身につける。 2) グローバリゼーションが毎日の暮らしに現れる場面（日本、アジア、アフリカなどのケース）に触れ、離れた場所で起きているできごとと私たちの暮らし、過去に起きたできごとと今の社会とのつながりを見つける発想を身につける							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション グローバリゼーションは「正解」がない、日々変わっていく問題です。このような問題をどのように考えたいのか？14回の講義を通じて鍵となる2つのメッセージを提示します。 14回の講義予定、レポート課題、評価方法の概要を紹介します。			予習として、学生自身の生活と「離れた場所や人」との接点を探し、3項目をノートに書き出しておくこと。		60	
第2回	変わる世界と私たちの暮らし：「食べること」を例に 健康的だとされ外国でも人気のある「日本食」も、それ以外に私たちが食べているものも、食料供給システムのグローバリゼーションで実現されたものです。しかし、世界中に広がってしまった「フードシステム」は、例えば外国の農地収奪、水産資源の乱獲や水の大量利用、農家の経営難、食品加工工場で働く労働者の環境など、さまざまな問題を生んでいます。食と農の安全と安心を取り戻そうとする動きは、食と農、消費者と生産者の「関係を結び直す」ことでもあります。			予習として、「食」と「農」に関連する過去1年のニュースから興味あるテーマを取り上げ500字程度の解説文（概要、気になった点）を書いておくこと（講義で使用します。以下同じ）。		60	
第3回	人の移動と労働のグローバルな構造化：フィリピンの「英雄たち」と家族 世界中で2億人を超える人が生まれた国とは違う国で暮らしています。なかには、国民の10人に1人が外国にいるという国もあります。移民や移動労働者は、グローバルに展開される経済と社会の活動に欠かせませんが、彼らは受入国でただ「働く」だけの人ではなく、家族やコミュニティとの国境を越えたつながりを保っていることが多くあります。この回では、フィリピン出身の移民とその人達の家族のケアを例に、グローバリゼーションによる豊かさや安全の「階層化」を考え			予習として、学生自身や家族の「ケア（例：育児、介護、家事など）」を誰が担っているのか、その負担がこの20年でどのように変わったのかを調べ、500字程度にまとめておくこと。		60	
第4回	グローバリゼーションの歴史（1）グローバリゼーションの前のグローバリゼーション グローバリゼーションは20世紀後半の新自由主義でも19世紀の帝国主義でもなく、大航海時代の前から起きていたのだという人たちもいます。ヨーロッパ中心のグローバリゼーションが起きる前に、世界の各地にはモノ、情報の活発な交流がありました。また、各国の経済や社会が発展した20世紀やグローバリゼーションの進む現代でも、日常的に国境を超えた移動や交流を行う生活をする人は数多くいます。金融、IT、移民などとは異なるグローバリゼーション			予習として、自分の関心ある分野または地域で、日常的に国境を超える活動（仕事、買い物、情報交換など）が行われているケースがないか調べ、500字程度の解説文（概要、グローバリゼーションとの関係についての考察）を書いておくこと。		60	
第5回	グローバリゼーションの歴史（2）ポスト産業化時代の都市における「二極化」 金融、製造、情報通信が国境を超えてつながった結果、一部の大都市とそれ以外の都市や地方との間に、これまでとは異なる役割の分担が起きています。このシフトは、国の経済成長に国家・政府が果たしてきた役割を再編するとともに、都市では仕事や住居などの面で、富裕層と貧困層・不安定な暮らしをする人々たちへの「二極化」につながっています。この回では、グローバリゼーションに関する主な論点の一つについて考えてみます。			予習として、富裕層と貧困層や不安定な暮らしをする人々たちへの「二極化」に関連する過去1年のニュースから興味あるテーマを取り上げ、500字程度の解説文（概要、気になった点）を書いておくこと。		60	
第6回	グローバリゼーションと地域（1）「私たち」のなかの「異質な人々たち」 グローバリゼーションが、国の経済、社会や文化を壊すと思うかもしれませんが、しかし、国境の中には同じ文化を共有する国民（だけ）が暮らしているという形こそ、グローバル経済に参入する中で各地の国が作り上げてきたものです。一方、国の形を作る中で、内側に「異質な人々たち」が発見ないし発明されていくことや、グローバリゼーションが進行する現代の世界で、			予習として、大都市とそれ以外の地域（郊外、農村など）との「違い」に関する過去1年のニュースから興味あるテーマを調べ、500字程度の解説文（概要、グローバリゼーションとの関係についての考察）を書いておくこと。		60	

	そのような「異質性」が、「私たちの国の経済、社会、文化」を守りたい、豊かにしたいという政治や社会の運		
第7回	グローバリゼーションと地域（2）「私たちらしい」発展 グローバリゼーションが「農民の暮らしを壊す」ことは、グローバリズムに反対する人たちの主な論点の一つです。ただし、こういう論点が、ときに「農民は先祖代々の土地をずっと守っていきたくて願っている」というような、外の人の願望を押し付けてしまうことにもなりかねません。社会、経済、自然の環境が変わっていく中で、毎日の行動や将来の希望も変わっていきます。グローバリゼーションに影響されながら生きている人たちが「守るもの」や「変えるもの」について考察します。	予習として、学生自身や友人、家族の「仕事」が、他の国や地域とどのように関係するのか、その関係は過去 20 年でどのように変わったのかを考察し、500 字程度にまとめておくこと。	60
第8回	安全と安心（1）安全が「公共インフラ」ではない世界 グローバリゼーションが進むと、国家の機能が弱体化すると言われる。安全・安心もそのように切り詰められることのある機能のひとつです。国家に頼ることなく安全を確保する方法を探すという試みは、先進国にも途上国にも多くの例がありますし、グローバリゼーション以前からの例もあります。ただ、グローバリゼーションへの対応（適応）は、そのように「自分たちで安全を確保する」方法をやや極端なものとする場合があります。そのことを、アフリカとアメリカを例に考察します。	予習として、安全や安心に関する過去 1 年のニュースから興味あるテーマを一つ取り上げ、500 字程度の解説文（概要、グローバリゼーションとの関係についての考察）を書いておくこと。	60
第9回	安全と安心（2）福島原発事故のあとで グローバリゼーションは、経済、社会や環境のリスクに大きな影響を与えています。リスクが顕在化したときに受けるダメージは特定の地域やグループの人に集まることが多く、リスクに対処する技術や資源も、誰もが平等に持っているわけではありません。それでも、リスクに対処して生きていく方法を探るなかで、地域やグループ（例えば住民と外部専門家）の新しい関係が生まれることもあります。福島原発事故のあとで行われた地域の試みを例にグローバリゼーションが進む中で「安全・安心」を作る方法を考	予習として、気になる「リスク」を一つ取り上げ、そのリスクが現実になったときに誰が被害をうけるのか、どんな方法で対処できるのかを考察し、500 字程度でまとめておくこと。	60
第10回	デジタル・グローバリゼーション（グループディスカッション①） 1990 年代以降、急速に発展したデジタル技術は、私たちの日常生活を便利にただけではなく、社会や経済のあり方そのものを大きく変えています。例えば、国境を超える人と人との情報のやり取りは時間差なく行われるようになり、世界中の人々が協力して仕事をするのが容易になりました。お金やものを、お店で売り買いするのではなくアプリを介して他の人とやり取りするようなこともできるようになりました。一方で、過去数十年間に渡って地域や国の経済を支えていた仕事が	今、私たちが日常的に使っているデジタル技術（スマートフォン、パソコン、ソーシャルメディア、オンライン学習等）のどれかを取り上げ、それらがなかった時代に、どうやってニーズを満たしていたかを考え、500 字程度にまとめること。	60
第11回	持続可能な世界を求めて（1）SDGs と私たち 国家による企業活動への規制が緩和され、多国籍企業の力が国家を凌ぐほどになっていることは、現代のグローバリゼーションの特徴のひとつです。企業の役割は、ものやサービスを作って消費者に売るだけではありません。ものやサービスの生産、流通、消費のあり方に関するルールを政府や国際機関と協力して作ったり、地方自治体と一緒に地域の活性化に貢献したり、消費者と一緒に新しいサービスやものを開発したりします。このような、従来の役割を超える活動が、グローバルやローカルな社会に果	予習として、身近な企業の CSR 報告をウェブサイトなどで入手し、地域や環境・社会・経済のサステナビリティに貢献する方法を調べ、500 字程度の解説文（概要、気になったこと）を書いておくこと。	60
第12回	持続可能な世界を求めて（2）持続可能な地域と暮らしを作る 試行錯誤 地域の資源をうまく活用して地域の社会や経済を豊かにしていこうという取り組みが、世界中に広がっています。なかには 2030 年や 2050 年など、未来の地域の姿を描く野心的な計画を作る地域もあります。ただ、地域も世界も毎日のように状況が変わっていくので、「計画通り」に進むことはまれです。この回は、日本とアルメニアの、まったく異なる状況にある 2 つの地域の取り組みを例に、変化する状況や予想外の出来事から学び、新しい仲間や目的を得て、柔軟に形を変え	予習として、学生が育った地域または今住んでいる地域で作られている未来のビジョンや計画を読み、私たちがどんな方法で参加できるのか調べ、500 字程度の解説文（概要、グローバリゼーションとの関係についての考察）を書いておくこと。	60
第13回	これからの地域の作り方（グループディスカッション②） 地域の経済や社会を取り巻く環境が変わっていく中で、これまでと同じ方法を維持するだけでは、地域の豊かさを維持していくことが困難になるケースがあります。この授業では、かつて、産業化時代に鉱山で繁栄していたものの、20 世紀後半の閉山以降、経済の縮小、少子高齢化と人口減少に悩まされている地域を例に、地域の暮らしを維持したり、もういちど経済や社会を元気にする方法を、受講者といっしょに考えて見ます。	予習として、学生が育った地域または今住んでいる地域での、「地域おこし」の活動を調べ、500 字程度の解説文（概要、グローバリゼーションとの関係についての考察）を書いておくこと。	60
第14回	まとめ：グローバリゼーションと社会と私たち これまでの 13 回で、日本や他の国の毎日の暮らしに現れる様々なグローバリゼーションの形を見してきました。また、現代のグローバリゼーションや、ずっと昔のグローバリゼーションの姿も見してきました。最終回では、これまで考察してきたポイントを振り返り、最初に提示した 2 つのメッセージを考え直します。	授業で紹介したトピックのうち、もっと深く勉強してみたいトピックを一つ選び、以下の 3 点を含めてまとめる。 1) 選んだトピック 2) そのトピックと、あなた自身やあなたの家族、友人の毎日の暮らしとの接点 3) そのトピックと関連して、国内外で起きている経済、社会、政治、環境などの変化 字数制限：1000 字	60
〔授業の方法〕 すべての回でパワーポイントを使用します。使用するパワーポイントは、授業二日前までに Course Power 上にアップロードします。 講義の途中で、各回の予習課題（500 字解説文）を学生に発表、議論してもらいます。 また、第 10 回、13 回は、グループディスカッションの時間を長く取ります。			

〔成績評価の方法〕 講義への参加 100% ・第2回から第14回の予習で準備した解説文 ・講義中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		社会福祉概論					
教員名		松崎 実穂					
科目No.	125432400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
流動化が進む今日の社会の中で、私たちが、働いてお金を稼ぎ、心身の健康を保ち、子どもを育てていこうとする時、「健康で安心し、満足できる生活状態」を意味する「well-being」から学ぶことは多い。この授業では、社会福祉の基本的視点と体系、具体的な制度を学ぶことを通して、生活の質を良くする仕組みについて考える。							
〔到達目標〕							
D P 2「課題の発見と解決」、D P 7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の問題を理解する。 ②福祉サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	日本の社会保障制度の特徴と変遷			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第2回	社会保障の役割と機能			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第3回	現代の貧困			配布資料を読み、自分の考えをまとめる。		60	
第4回	社会福祉の法律			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第5回	少子高齢化時代とライフコース			これまでの授業内容を受け、自分自身に引きつけながら、意見をまとめる。		60	
第6回	家族・ジェンダーと社会福祉			授業の内容に即して、自分の意見をまとめる。		60	
第7回	社会保険とは何か			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第8回	公的年金制度・医療保険制度			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第9回	雇用保険制度など、社会福祉の体系			テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。		60	
第10回	ソーシャルワーク、高齢者福祉①			文献を読み、自分の意見をまとめる。		60	
第11回	高齢者福祉②			文献を読み、自分の意見をまとめる。		60	
第12回	障害者福祉			文献を読み、自分の意見をまとめる。		60	
第13回	子ども家庭福祉			文献を読み、自分の意見をまとめる。		60	
第14回	到達度確認テスト			これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。		120	
〔授業の方法〕							
毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト（60％）と、授業中の課題（40％）で、総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「老人福祉論」がある。
〔テキスト〕 授業で配布するプリント 厚生労働省,『令和 2 年版 厚生労働白書』（インターネットで閲覧可能）.
〔参考書〕 山縣文治・岡田忠克編, 2016, 『よくわかる社会福祉 第 11 版』ミネルヴァ書房. 最低賃金を引き上げる会, 2009, 『最低賃金で 1 か月暮らしてみました。』亜紀書房. 湯浅誠, 2008, 『反貧困―すべり台社会からの脱出』岩波新書. 神原文子, 2010, 『子づれシングル―ひとり親家族の自立と社会的支援―』明石書店. など 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		社会福祉事業史					
教員名		澁谷 智子					
科目No.	125432450	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
今の“福祉”につながる制度は、どのような時代状況の中で生まれ、どう変化してきたのか。また、国や社会によって“福祉”をめぐる考え方や制度にどのような特徴があるのか。この授業では、主に近代以降の欧米と日本の社会福祉の歴史を学び、異なる時代や社会の福祉のあり方との比較を通して、現在の日本の福祉制度の位置付けを知る。							
〔到達目標〕							
DP 1「教養の修得」、DP 2「課題の発見と解決」、DP 6「文化現象の総合的理解」、DP 7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の 2 点を到達目標とする。 ①社会福祉の分野において、基本的な概念や主要な政策とされてきたものを知り、重要な法律や団体、人物等の名とその関係性を理解する。 ②時代の流れがどう政策に反映されてきたのかを知り、動いていく時代の中で、福祉はどのように変化していけばいいのか、自分なりの意見を持てるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イギリスの産業革命と工場法、新救貧法			配布資料を読み、理解する。		60	
第 2 回	イギリスの民間社会福祉——貧困調査、慈善組織協会（COS）、セツルメント運動			授業の内容に即して、考えたことを書く。		60	
第 3 回	アメリカの社会福祉とソーシャルワーク			配布資料を読み、理解する。		60	
第 4 回	社会保険の誕生——ドイツとイギリス			授業に関連する映像を見て、考えたことを書く。		60	
第 5 回	戦争と人的資本の健康管理——ベヴァリッジ報告と戦後イギリス福祉国家の形成			配布資料を読み、理解する。		60	
第 6 回	北欧の社会福祉とノーマライゼーションの理念			授業の内容に即して、考えたことを書く。		60	
第 7 回	明治の産業発展と救貧制度、慈善救済事業			配布資料を読み、理解する。		60	
第 8 回	恐慌と社会事業の成立——方面委員制度、セツルメント運動、救護法制定、児童・母子保護			授業の内容に即して、考えたことを書く。		60	
第 9 回	戦争と戦後の国民生活——厚生省の創設、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法の制定			配布資料を読み、理解する。		60	
第 1 0 回	高度経済成長と福祉六法体制——精神薄弱者福祉法、老人福祉法、母子福祉法の制定			授業の内容に即して、考えたことを書く。		60	
第 1 1 回	70 年代の福祉国家の危機と再編——イギリス等の福祉政策の転換、日本型福祉社会構想、日本の社会福祉計画			配布資料を読み、理解する。		60	
第 1 2 回	高齢社会と介護保険制度の創設、東アジアの社会福祉			授業の内容に即して、考えたことを書く。		60	
第 1 3 回	到達度確認テスト			これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。		120	
第 1 4 回	到達度確認テストの解説、質疑応答			到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。		60	
〔授業の方法〕							
毎回プリントを配布し、必要に応じて映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト（60％）と平常点（授業中の課題など）（40％）で、総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、「社会福祉概論」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。
〔テキスト〕 授業で配布するプリント
〔参考書〕 清水教恵・朴光駿編著，2011，『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房。 金子光一，2017（初版 2005），『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ。 いずれも購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		環境社会学					
教員名		高田 昭彦					
科目No.	125432500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 SDGs により環境は幅広い注目を集めています。環境問題には、地球温暖化や廃プラスチックなどのグローバルな問題、水俣病や四日市喘息、原発事故など経済発展の負の部分についてのナショナルな問題、景観保全や里山保全、地域での自然エネルギーへの転換などのローカルな問題があります。それらを社会学の枠組みから具体的な事例に即しながら考えていきます。 授業では、まず環境問題全体を概観し、次に環境社会学についての理論枠組みに関する論文を読み、その次に環境問題に取り組む具体的事例を取り上げます。そして日程が合えば、武蔵野市で活動しているいくつかの環境団体等を取り上げ、実際に訪問します。							
〔到達目標〕 環境問題について、それが起こるのはこの社会に一定の仕組みや構造があるからだということを理解することを目指します。 そして、その仕組みや構造は、それによって不利益を被っている人たち、それを疑問に思っている人たちが連携しあって活動すれば、改善されるあるいは変えることができるということ、すなわち環境問題は人々の力によって解決することができるということを実例を通して見ていきます。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	今回の授業の内容と方法について説明する。授業の進め方の参考にするために、受講者の環境への問題関心を尋ねる。			各自が自分の関心のある環境問題を考えてくる。それについてネットで検索してみるのもいい。		60 分	
第2回	才津「世界遺産の保全・白川郷」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第3回	家中「石垣島白保のイノー」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第4回	藤村「“みんなのもの”とは何か」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第5回	鬼頭「アマミノクロウサギの“権利”という逆説」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
第6回	井上孝夫「環境問題のカラクリ」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
第7回	森久「瀬港保存運動と地域社会」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
第8回	藤川賢「福島原発事故における被害構造の特徴」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第9回	船橋晴俊「社会的ジレンマ論」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第10回	船橋「社会的ジレンマの諸類型」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
第11回	山本「原子力災害における環境社会学の役割」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		60 分	
第12回	森岡正博「自然を保護することと、人間を保護すること」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
第13回	高田昭彦「川越式ネットワークー川越一番街の重要伝統的建造物群保存地区の制定をめぐる」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		80 分	
第14回	高田昭彦「反原発運動ニューウェーブの研究」を読む。あるいは宮本憲一「日本における環境問題の政策形成」を読む。			配付された論文を、各自が読んで、感想と、問題点を考えてくる。		70 分	
〔授業の方法〕 配布したテキストを基に、対話形式で授業を進めます。 学生は、テキストを読んで、感想と問題点を考えてくる。 受講者の人数によっては班に分けることもあります。 環境保護活動の実地を知りたいという受講生には、武蔵野市の環境系の市民団体を紹介します。							
〔成績評価の方法〕 毎回の授業への意欲とテキストの理解、問題提起の力、議論の進め方。60%で評価。 期末試験（問題は事前に発表します）。40%で評価。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、新聞や雑誌等に出ている環境関連の記事には目を通しておくことが望ましい。
〔テキスト〕 テキストとなる論文は、一つ前の授業で全員に配布する。 人数が多い場合は、PDF で配信する。
〔参考書〕 以下は参考です。 『環境社会学研究』（2008 年～2020 年）。図書館にあります。 『成蹊大学 武蔵野地域研究 報告書「武蔵野市の NP0・市民活動」（2012 年度～2019 年度）』。本館 1 階北の大学ボランティア支援センターにあります。読みたい環境系の市民活動団体が載っている冊子があれば、センターの人に言ってもらってください。無料です。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に、教室で受け付けます。質問等は歓迎です。 授業に対して、疑問や提案があれば、高田にメールしてください。直接回答します。 メールアドレスは最初の授業で言います。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

※印刷用紙にはありません。印刷用紙は本文と異なる場合があります。

科目名		社会調査入門					
教員名		荒井 悠介					
科目No.	125433100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、を実現するために、社会調査の意義と諸類型について、基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	社会調査とはなにか			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 2 回	社会調査の目的と意義			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 3 回	社会調査史			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 4 回	調査方法論			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 5 回	倫理規定			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 6 回	調査で出会う問題			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 7 回	質的調査事例			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 8 回	量的調査事例			【予習】教科書 166～167 ページ、184～185 ページを読む 【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 9 回	国勢調査			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 1 0 回	統計的調査			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 1 1 回	事例研究			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 1 2 回	調査と信頼関係			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 1 3 回	内容分析			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
第 1 4 回	社会調査が明らかにするもの			【復習】 CoursePower 上に提示した課題を行う		60	
〔授業の方法〕 講義。							
〔成績評価の方法〕 平常点 50%, 提出物（論文・レポートなど） 50%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 社会調査士資格の関連科目（カリキュラム A）。課程登録者以外でも履修できます。
〔テキスト〕 金井雅之・小林盾・渡邊大輔編『社会調査の応用』弘文堂，ISBN: 978-4335551512
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 初年次教育

※印刷用紙に貼るには、この表は表紙となる欄目がのりより。

科目名		社会調査の方法					
教員名		小林 盾					
科目No.	125433150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するために、社会調査による資料収集について、基礎的知識と理論的枠組みを理解できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション：社会調査の方法とは何か			（復習）配布資料を再読する		60	
第 2 回	調査目的と調査方法			（復習）配布資料を再読する		60	
第 3 回	調査方法の決め方			（復習）配布資料を再読する		60	
第 4 回	調査企画と設計			（復習）配布資料を再読する		60	
第 5 回	仮説構成			（復習）配布資料を再読する		60	
第 6 回	対象者の選定の諸方法			（復習）配布資料を再読する		60	
第 7 回	サンプリング法 1 全数調査と標本調査			（復習）配布資料を再読する		60	
第 8 回	サンプリング法 2 無作為抽出、標本数と誤差			（復習）配布資料を再読する		60	
第 9 回	質問文・調査票の作り方			（復習）配布資料を再読する		60	
第 1 0 回	調査の実施方法 1 調査票の配布・回収法			（復習）配布資料を再読する		60	
第 1 1 回	調査の実施方法 2 インタビューの仕方			（復習）配布資料を再読する		60	
第 1 2 回	調査データの整理 1 エディティング、コーディング、データクリーニング			（復習）配布資料を再読する		60	
第 1 3 回	調査データの整理 2 フィールドノート作成、コードブック作成			（復習）配布資料を再読する		60	
第 1 4 回	まとめ			（復習）配布資料を再読する		60	
〔授業の方法〕 講義およびグループワーク							
〔成績評価の方法〕 平常点（授業中の発言・提出課題・レポート・小テスト・コメントシート・到達度確認テスト，グループ課題を含みます）100％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 社会調査士資格の関連科目（カリキュラム B）。課程登録者以外でも履修できます。
〔テキスト〕 『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邊大輔編，弘文堂，ISBN978-4335551512
〔参考書〕 とくになし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します （オンライン授業の場合，CoursePower に Zoom の URL は掲載します）
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		質的調査入門（資料分析）					
教員名		坪田 美貴					
科目No.	125433250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
会話分析、ドキュメント分析、内容分析などを中心に、質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。							
〔到達目標〕							
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類			【復習】配布プリントを再読する		60	
第2回	フィールドワーク1：目的とデータ収集方法			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第3回	フィールドワーク2：事例			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、フィールドワークを行ったミニレポートを書く		120	
第4回	会話分析1：目的とデータ収集方法			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第5回	会話分析2：事例			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第6回	ライフヒストリー分析1：目的とデータ収集方法			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第7回	ライフヒストリー分析2：事例			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、会話分析かライフヒストリー分析を用いたミニレポートを書く		120	
第8回	ドキュメント分析1：目的とデータ収集方法			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第9回	ドキュメント分析2：事例			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す		90	
第10回	内容分析1：目的とデータ収集方法			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90	
第11回	内容分析2：事例			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、内容分析を使ったミニレポートを書く		120	
第12回	質的調査の企画・設計とデータ収集			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う		120	
第13回	質的調査の公表と倫理			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す		90	
第14回	質的調査の動向と今後の展開			【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す		60	
〔授業の方法〕							
講義および演習形式。							
〔成績評価の方法〕							
提出物（論文・レポートなど。40％）、平常点（30％）、議論への貢献度（30％）によって、総合的に評価を行う。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 社会調査士資格の関連科目（カリキュラム F）。課程登録者以外でも履修できます。
〔テキスト〕 とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
〔参考書〕 とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		質的調査法（インタビュー）					
教員名		金 善美					
科目No.	125433350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
学生が「私は社交的な性格ではないので、インタビューとか無理かも」と話すのをよく聞きます。しかし、本当にそうなのでしょうか。インタビューを含む質的調査において重要なのは、専門知識をもとに的確な調査設計をし、調査倫理を守りつつデータをかき集め、相手（現地）の立場に寄り添いながらそのデータを丁寧に解釈していくことです。漠然とした「社交性」で済むならば、私たちが大学でわざわざ社会調査を学ぶ必要はないでしょう。 本授業では、社会調査の方法のうち、質的調査に関する基礎的知識と手法を身につけます。具体的には、インタビューや参与観察などについて、各手法の特徴と意義、実施のプロセス、調査時の注意点、調査倫理などを事例とともに見ていきます。レポート・卒論のために質的調査をする予定の人、インタビューや参与観察という手法について具体的に知りたい人の受講をお勧めします。ぜひ質的調査の世界の奥深さ、面白さ、豊かさに触れてみてください。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、次の3点を到達目標とする。							
①質的調査の各手法に関する基礎的知識を修得する。							
②質的調査を用いた代表的な調査研究について知り、その内容と意義を説明できる。							
③授業で学んだ知識と手法を応用し、自分が関心を持つ研究対象に関する調査計画を立てられる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法、授業時間外の実習内容などについて説明する			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。		30	
第2回	社会調査と質的調査 ・社会調査の意味、質的調査と量的調査の違いについて解説する ・質的調査の特徴と種類、意義、調査倫理などを学ぶ			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第3回	インタビュー（1） ・インタビュー法の種類、プロセス、実習時の注意点、記録の作成方法などを解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第4回	インタビュー（2） ・インタビューの場における相互作用やラポールをめぐる議論、インタビューが持つ社会的意味について考察する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第5回	ライフストーリーインタビュー（1） ・ライフストーリー法の意味や実施のプロセス、実習時の注意点、意義などを解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第6回	ライフストーリーインタビュー（2） ・ライフストーリー法における語りの解釈や分析について解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第7回	参与観察（1） ・参与観察法の意味や具体的プロセス、調査対象者との関係性づくり、実習時の注意点などについて解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第8回	参与観察（2） ・現場の探し方や現場での過ごし方、参与観察という方法が持つ意義、フィールドノートの取り方などについて解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第9回	「調査する私」をめぐる諸問題 調査における様々な困難や調査者と対象者の間の権力関係、調査者の立場性（ポジショナリティ）について考察する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第10回	質的データの分析と論文の執筆（1） ・様々な質的データの整理・分析方法を説明する ・優れた質的研究の条件や、「薄い記述」と「分厚い記述」の違いを解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第11回	質的データの分析と論文の執筆（2） ・質的データ分析の実際を調査事例を挙げながら解説する			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第12回	質的研究の実例（1） ・受講者の個人発表と講評を行う			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第13回	質的研究の実例（2） ・受講者の個人発表と講評を行う			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
第14回	質的研究の実例（3） ・受講者の個人発表と講評を行う			【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。 また、自分の調査研究への応用を考えてみる。		60	
〔授業の方法〕							
毎回授業の前半では講義、後半ではグループでのディスカッションを行う。事前に資料を配布し、読み込んでくることを求める回がある。なお、すべての資料は Coursepower を通じて配布する。							
〔成績評価の方法〕							
授業中の発言や質問、グループディスカッションへの参加状況（40%）、第12回～14回の個人発表（60%）で評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・質的調査の各手法に関する基礎的な知識を修得しているか ・研究事例に用いられた調査方法を把握し、その特徴と意義について説明できるか ・調査のテーマや対象の特徴を考慮し、適切な調査計画を立てることができるか
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 社会調査士課程の資格対応科目（F）に該当する科目であるが、資格取得を目指さない人も自由に受講できる。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641150370 『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』、桜井厚、せりか書房、2800 円＋税、ISBN-10: 4796702377 『質的データ分析法』、佐藤郁哉、新曜社、2100 円＋税、ISBN-10: 4788510952 いずれも購入の必要なし。その他の参考書については、授業内で随時紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		メディア調査					
教員名		石堂 彰彦					
科目No.	125433400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
一見すると無秩序、あるいは断片的にみえるメディアの情報には、「メッセージ」が隠されています。本講義では、メディアを調査することで何がわかるのか、調査・研究事例をもとに検討していきます。また、さまざまなメディアの特性や調査方法など、実際に調査をおこなうさいに必要な実践的知識も習得します。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①各メディアの特徴や資料特性、資料へのアクセス方法、調査方法を説明できる。 ②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の概要説明、進め方について			シラバスを読み、講義の概要を把握する。		30	
第2回	メディア関連の既存調査 ・既存の調査を把握することが調査の第一歩。			ネット上などにある調査報告書を読み、データの読み方や利用のしかたを考える		90	
第3回	新聞の特性と調査事例 ・新聞の特徴と資料としての特性、アクセス方法、調査事例を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第4回	新聞（記事）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第5回	新聞（投書・広告）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第6回	雑誌の特性と調査事例 ・雑誌の特徴と資料としての特性、アクセス方法、調査事例を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第7回	雑誌の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第8回	テレビの特性と調査事例 ・テレビの特徴と資料としての特性、アクセス方法、調査事例を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第9回	テレビの調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第10回	ネットの特性と調査事例 ・ネットの特徴と資料としての特性、アクセス方法、調査事例を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第11回	ネット（ニュースメディア）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第12回	ネット（SNS）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第13回	複数メディアの調査方法 ・複数のメディアを組み合わせた調査について、具体的な目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
第14回	まとめ ・講義の総括			配付資料や講義内容を再確認し、調査方法に対する理解を深める		90	
〔授業の方法〕							
配付資料等を用いた講義形式で進行する。 ・レポートでは、講義の到達目標に達しているかどうかを確認する。 ・コメントは、調査のアイデアや講義内容にかんする質問や意見、感想等を記述する。コメントに対する回答は必要に応じて講義中に提示する。							
〔成績評価の方法〕							
レポート 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

①各メディアの特徴や資料特性、資料へのアクセス方法、調査方法を理解しているか。

②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は不要。関連科目は、メディアや社会調査に関する科目全般。

〔テキスト〕

特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕

初回講義時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。メールでも随時受け付ける。メールアドレスは初回講義時に提示する。

〔特記事項〕

科目名		情報社会論					
教員名		西 兼志					
科目No.	125434100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、50 個（程度）のキーワード（「脱工業社会」「知識社会」「情報産業」「記号資本主義」「認知資本主義」「物語消費」「データベース消費」「ディズニー化」「感情労働」「アテンション・エコノミー」「監視社会」「フィルター・バブル」など）を取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、次のような到達目標を設定します：情報社会、さらに現代社会をメディア論の観点から位置づけられるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 2 回	キーワード 1～4			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 3 回	キーワード 5～8			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 4 回	キーワード 9～12			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 5 回	キーワード 13～16			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 6 回	キーワード 17～20			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 7 回	キーワード 21～25			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 8 回	キーワード 26～30			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 9 回	キーワード 31～34			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 1 0 回	キーワード 35～38			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 1 1 回	キーワード 39～42			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 1 2 回	キーワード 43～46			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 1 3 回	キーワード 47～50			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
第 1 4 回	まとめ			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60 分	
〔授業の方法〕 講義形式で進めていきます。 講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。 （なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）							
〔成績評価の方法〕 平常点で評価します（授業への参加度〔≠出席回数〕＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げたキーワードを理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
ポータルサイトを通じて随時、配布します。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
配布された資料はプリントアウトした上で、参照できるようにしておくことを推奨します。

〔参考書〕
授業中に随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		メディア文化論					
教員名		伊藤 昌亮					
科目No.	125434150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア文化のあり方を論じます。出版、放送、音楽、ネットのそれぞれの領域から、メディア文化の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。また、メディア文化について考えるための枠組みとなる概念や、関連するトピックについて論じます。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①メディア文化の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。 ②メディア文化をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第2回	メディア文化とは			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第3回	メディアイベント			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第4回	出版メディアとその文化			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第5回	放送メディアとその文化			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第6回	音楽メディアとその文化			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第7回	ネットメディアとその文化			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第8回	授業内レポート①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第9回	広告表現の展開①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第10回	広告表現の展開②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第11回	笑い			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第12回	都市伝説			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第13回	ゲストトーク			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第14回	授業内レポート②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。授業はオンラインで実施します。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、到達度確認レポート：50%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に随時指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。必要に応じて CoursePower に Zoom の URL を掲載します。
〔特記事項〕

科目名		ネットワーク社会論					
教員名		伊藤 昌亮					
科目No.	125434200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
ネットワーク社会のあり方を、その歴史的な経緯と理論的な分析との両面から論じます。「環境編」では、インターネットやスマートフォンなどのテクノロジーに注目し、ネットワーク社会の成り立ちとその動向を捉えます。「理論編」では、ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論として、複雑ネットワーク論、ソーシャルキャピタル論などを取り上げます。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①ネットワーク社会の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。 ②ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。 ③ネットワーク社会に固有の社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第2回	【環境編】 ケータイからスマートフォンへ			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第3回	【環境編】 Google 革命の衝撃			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第4回	【理論編】 複雑ネットワーク①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第5回	【理論編】 複雑ネットワーク②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第6回	【理論編】 複雑ネットワーク③			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第7回	授業内レポート①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第8回	【環境編】 iPodは何を変えたのか			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第9回	【環境編】 オープンソースとシェア			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第10回	【理論編】 ソーシャルキャピタル①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第11回	【理論編】 ソーシャルキャピタル②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第12回	【環境編】 SNS 社会の到来			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第13回	【環境編】 SNS 社会の進展			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第14回	授業内レポート②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。授業はオンラインで実施します。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に随時指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。必要に応じて CoursePower に Zoom の URL を掲載します。
〔特記事項〕

科目名		メディア産業論					
教員名		伊藤 昌亮					
科目No.	125434250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。テレビ、新聞、出版、音楽、アニメ、ゲーム、ネットのそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。また、編集者としての実務経験に基づき、メディア産業の実状について論じます。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。 ②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第2回	インフォデミック			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第3回	テレビ産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第4回	番組から動画へ			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第5回	新聞産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第6回	出版産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第7回	音楽産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第8回	授業内レポート①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第9回	アニメ産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第10回	ゲーム産業の成り立ち			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第11回	ネット産業の成り立ち①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第12回	ネット産業の成り立ち②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第13回	メディアミックス			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第14回	授業内レポート②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に随時指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。必要に応じて CoursePower に Zoom の URL を掲載します。
〔特記事項〕

科目名		メディア制度史					
教員名		堀口 剛					
科目No.	125434300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 近現代日本において、メディアは飛躍的な発展を遂げました。そして、その発展に合わせて、さまざまな制度・規制も登場しました。 では、そうした制度・規制はどのようなものだったのでしょうか。 本講義では、日本のメディアに関する制度の歴史について、とりわけ戦前・戦中期の言論統制とメディア制度との関係を中心に取り上げていきます。							
〔到達目標〕 日本のメディアをめぐる制度に関して、その歴史的な展開を理解することを目標とします。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			【復習】配布した資料を読み直す。		30	
第 2 回	出版法と新聞紙法			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 3 回	新聞検閲制度の運用			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 4 回	法外便宜措置としての「内閣」			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 5 回	ラジオ制度			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 6 回	治安維持法と横浜事件			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 7 回	映画と検閲			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 8 回	映画法の制定			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 9 回	情報局の設立			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 1 0 回	「一県一紙体制」への統合			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 1 1 回	戦時下における出版			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 1 2 回	占領下のマスメディア			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 1 3 回	戦後放送制度の確立			【復習】配布した資料を読み直す。		60	
第 1 4 回	到達度確認テストと講義のまとめ			【復習】これまでに配布した資料を読み直す。		60	
〔授業の方法〕 配布した資料に基づいてオンラインで講義を行っていきます。							
〔成績評価の方法〕 毎回の講義で提出するコメント 60％ 到達度確認テスト 40％							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくにありません。
〔テキスト〕 とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。
〔参考書〕 とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		マス・コミュニケーション論					
教員名		奥野 昌宏					
科目No.	125434350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
マス・コミュニケーションの存在を抜きにしては現代の社会も文化も語ることはできません。マス・コミュニケーションは、私たちの意識や行動あるいは社会のさまざまな動きと深くかかわっているからです。現代社会にあつては、マス・コミュニケーションがそれだけ社会的に重要な位置を占めているということでもあります。しかしながら一方で、こうしたかかわりの深さに対応するだけの適正な理解が私たちに共有されていないのも事実です。 この授業では、マス・コミュニケーションにかんする理論と実態を紹介することによって、マス・コミュニケーションにかんする知的関心の喚起と的確な理解を促したいと考えています。理論的検討と現実分析の双方から、まさに現代の重要な問題領域であるマス・コミュニケーションについて考察したいと思ひます。 なお、マス・コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと考えています。これらの話題との関係等で下記の授業計画を変更することがあります。							
〔到達目標〕							
D P 1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の①～③を到達目標とします。 ①マス・コミュニケーションにかんする知識を修得する。 ②マス・コミュニケーションにかんする問題意識と知的関心を高める。 ③マス・コミュニケーションと社会にたいする自らの視点を獲得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	コミュニケーションの原理 （＊冒頭に授業の進め方等について説明します。）			自分とマス・コミュニケーションとのかかわりを考えておく。		6 0 分	
第 2 回	マス・コミュニケーションの特質			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 3 回	マス・コミュニケーションと擬似環境			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 4 回	まとめと達成度確認			第 1 回～第 3 回の復習と内容の整理		9 0 分	
第 5 回	マス・コミュニケーションの受容と読み（１）			今回の内容についての予習		6 0 分	
第 6 回	マス・コミュニケーションの受容と読み（２）			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 7 回	マス・コミュニケーションと政治（１）			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 8 回	マス・コミュニケーションと政治（２）			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 9 回	まとめと達成度確認			第 5 回～第 8 回の復習と内容の整理		9 0 分	
第 1 0 回	近代日本の社会とメディア			今回の内容についての予習		6 0 分	
第 1 1 回	戦後日本の社会とメディア			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 1 2 回	現代のマスメディア（１）			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 1 3 回	現代のマスメディア（２）			前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習		6 0 分	
第 1 4 回	まとめと達成度確認			第 1 0 回～第 1 3 回の復習と内容の整理		9 0 分	
〔授業の方法〕							
資料を参照しながら講義形式で進めます。必要に応じて視聴覚素材も使います。 授業の進行に即して小テスト等を行ったり、特定テーマについてコメントを求めたりします。							
〔成績評価の方法〕							

まとめテストの成績 70%、平常点（小テスト・コメントの実績、授業への取り組み等）30%を基本として総合的に評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識や先修科目はとくに必要ありません。
〔テキスト〕 とくに定めません。講義資料を逐次提供します。
〔参考書〕 竹内郁郎他編著『新版メディア・コミュニケーション論 I』『同 II』北樹出版、2005 年（I）2, 400 円 ISBN4-89384-990-5、（II）1, 800 円 ISBN4-89384-999-9 春原昭彦他編『ゼミナール 日本のマス・メディア（第 2 版）』日本評論社、2005 年、2, 300 円、ISBN4-535-51330-9 天野勝文他編『新現代マスコミ論のポイント』学文社、2004 年、2, 600 円、ISBN4-7620-1309-9 S. J. パラン、D.K. デイビス著、宮崎寿子監訳『マス・コミュニケーション』
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		メディア・リテラシー論					
教員名		見城 武秀					
科目No.	125434400	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「メディアと主体的・批判的に付き合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。 この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材として解説します。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。							
〔到達目標〕							
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の2点を到達目標とします。 （1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。 （2）（1）の理解に基づき、現実におこなわれている「							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。		60	
第2回	メディア・リテラシーとは何か			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第3回	メディアの文法性-登場人物の「心の声」はどう表現される？			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第4回	メディアの文脈依存性-なぜ変身アイテムはくり返し壊れるのか？			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第5回	2つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（1）			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第6回	2つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（2）			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第7回	メディアに対する批判性とは何か（1）―ナマ信仰／リアル信仰の問題点			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第8回	メディアに対する批判性とは何か（2）―反映主義的メディア批判と構成主義的メディア批判			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第9回	ドキュメンタリーは嘘をつく			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第10回	メッセージを意味づけるフレームの多層性			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第11回	なぜ「やらせ」は繰り返されるのか？―「事実主義」および「中立・公正・客観主義」の問題点			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第12回	フェイクニュースとファクトチェックをめぐる議論の問題点			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第13回	1964 年東京／2012 ロンドン／2016 リオ・デジャネイロ―3つのオリンピックにおける映像メディアの役割を比較することで見てくること			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
第14回	まとめ			配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の提出課題に基づく平常点 100%（学期末試験は実施しない）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。 （１）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。 （２）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		ジャーナリズム論					
教員名		石堂 彰彦					
科目No.	125434450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
今日、世界の多くの国や地域において、人びとは分断と対立、格差、憎悪、そして権力の専横にさらされている。それは日本も例外ではない。このような状況において、人びとに事実を伝えるジャーナリズムの重要性は日ごとに増大している。しかしジャーナリズムは同時に、さまざまな批判にもさらされている。ジャーナリズムはその役割を十全に果たしているといえるのか。本講義では、現代社会においてジャーナリズムが直面する問題と、ジャーナリズムが果たしてきた役割について、できるだけ多くの事例を参照しつつ検討していく。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を説明できる。 ②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・講義の全体像、進行のしかた、参考文献などについて説明する。ジャーナリズムにかんするアンケートも実施する予定。			【予習】シラバスを読み、講義の概要を把握する。		30	
第2回	ジャーナリズムの歴史と役割 ・ジャーナリズムはなぜ必要とされるのか、その歴史を振り返りつつ考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第3回	ニュースとは何か ・ジャーナリズムが報じる「ニュース」について、その実態と問題点を考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第4回	ネット時代のニュース環境 ・スマートフォンの普及によって劇的に変化しつつあるニュース接触環境について考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第5回	新聞ジャーナリズムの基本 ・新聞ジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第6回	新聞ジャーナリズムの実態 ・新聞ジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道内容に即して考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第7回	テレビジャーナリズムの基本 ・テレビジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第8回	テレビジャーナリズムの実態 ・テレビジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道内容に即して考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第9回	ジャーナリズムと情報公開 ・ジャーナリズムにおける公文書などの「情報」の重要性について考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第10回	雑誌ジャーナリズムの基本と実際 ・雑誌ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な事例に即して考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第11回	オルタナティブ・ジャーナリズムの基本と実際 ・既存ジャーナリズムとは異なるオルタナティブ・ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道内容に即して考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		90	
第12回	ジャーナリズム・リテラシー ・ここまでの議論を整理しつつ、われわれはジャーナリズムとどのように付き合っていけばよいのかを考える。			【復習】配付資料等により論点を再確認する。		60	
第13回	到達度確認テスト ・講義の到達目標に達しているかどうかを確認する。			【予習】講義全体を振り返り、到達度確認テストに備える。		120	
第14回	テストの講評とまとめ			【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する。		60	
〔授業の方法〕							
配付資料や映像資料、スライドを用いながら講義形式で進行する。適宜求めるコメントによって、受講者の理解を確認しつつ進める。ただし、情勢の変化や講義の進捗状況等に応じて内容を変更することがある。 ・到達度確認テストでは、講義の到達目標に達しているかどうかを確認する。 ・コメントは、講義内容にかんする質問や意見、感想等を記述する。コメントに対する回答は必要に応じて講義中に提示する。							
〔成績評価の方法〕							
到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況） 50%により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。

②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は不要。関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

〔テキスト〕

特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕

原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書（新赤版 1170）、2009 年、ISBN 9784004311706（購入の必要なし）

その他の参考書は初回講義時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。メールでも随時受け付ける。メールアドレスは初回講義時に提示する。

〔特記事項〕

科目名		出版メディア論					
教員名		今田 絵里香					
科目No.	125435100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。 文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	出版文化をどのようにとらえたらよいのか			【復習】配布プリントと参考文献を読む		90	
第2回	総合雑誌——学歴貴族と教養主義			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第3回	婦人雑誌——「主婦」と新しい家族			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第4回	大衆雑誌——反教養主義			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第5回	「少年文学」叢書と愛子叢書——近代の子ども			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第6回	少年少女雑誌——都市新中間層の子どものジェンダー			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第7回	『赤い鳥』『少年戦旗』——童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第8回	本と戦争			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第9回	戦後の異性愛文化と雑誌（1）——少年少女雑誌			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第10回	戦後の異性愛文化と雑誌（2）——美少年・美少女の創出			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第11回	戦後の子ども雑誌			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第12回	少年少女雑誌と読者たち（1）			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第13回	少年少女雑誌と読者たち（2）			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
第14回	まとめ			【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む		90	
〔授業の方法〕 講義形式。							
〔成績評価の方法〕 授業内レポート・授業内ミニレポート（80%）、平常点（20%）によって、総合的に評価を行う。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] とくになし。
[テキスト] とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
[参考書] 今田絵里香『「少女」の社会史』勁草書房、2007 年。 今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知する。
[特記事項]

科目名		映像メディア論					
教員名		西 兼志					
科目No.	125435150	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
現在の映像メディア、そしてメディア文化一般において、＜アイドル＞は欠かすことができないものとなっています。この授業では、＜アイドル＞というメディア的形象を切り口にして、現在のメディア文化のあり方を考えると同時に、メディアの理論の重要な概念を身につけることを目指します。							
〔到達目標〕							
D P 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディア文化・メディア理論の展開を理解することで、各自が身近なメディア現象をメディア論の観点から分析できるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第2回	1980 年と＜アイドル＞			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第3回	メディア環境と＜アイドル＞（1）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第4回	メディア環境と＜アイドル＞（2）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第5回	メディアの現象学と＜アイドル＞（1）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第6回	メディアの現象学と＜アイドル＞（2）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第7回	メディア・ハビトゥスと＜アイドル＞			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第8回	リアル化するメディア環境と＜アイドル＞			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第9回	＜キャラ＞と＜アイドル＞（1）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第10回	＜キャラ＞と＜アイドル＞（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第11回	「卒業」と＜アイドル＞（1）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第12回	「卒業」と＜アイドル＞（2）			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第13回	メディア行為と＜アイドル＞			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第14回	まとめ			教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
教科書に沿って、＜アイドル＞文化の展開を辿ると同時に、メディア理論を理解できるようにしていきます。テキストに沿って進めるので、テキストを手許に用意しておくことが必須となります。また、CoursePower にアップロードした授業資料へのアクセスは、出席に必須となります（未アクセスの場合は、出席にカウントしません。）（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）							
〔成績評価の方法〕							
授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50%（なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処する。）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディアの理論を＜アイドル＞という観点から理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
授業までに教科書に目を通し、授業で扱われるメディアの理論がどのようなものかを十分把握しておくようにしてください。

〔テキスト〕
西兼志『アイドル／メディア論講義』東京大学出版会、2017。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016。
その他は、CoursePower に随時アップロードします。
アップロードした授業資料へのアクセスは、出席に必須となります（未アクセスの場合は、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名	広告論						
教員名	高橋 千暁						
科目No.	125435200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 広告は、今、大きく動いています。ソサエティ 5. 0 環境を背景とした情報戦略の緻密化、We b 進化とグローバル化拡大からプレーヤーの役割・機能・産業モデルがドラスティックに変化しています。短期的効果だけにシフトした広告展開ではなく、綿密なマーケティング&情報戦略に基づく統合的コンテンツの役割=コンテンツマーケティングが、より重要になってきています。 この授業では、講師の広告マンとしての足かけ約 4 5 年間の実務経験を活かして、広告市場の変遷と広告産業の現状、そして次代への展望をグローバルへの視点、we b マーケティングの視点、そして広告産業ビジネスモデルの変革視点として講義していきます。 また、小課題設定による広告クリエイティブ発想演習と課題レポートを複数回実施し、授業の理解と広告クリエイティブの基本であるコトバとイメージーションつくりに関するコーチングも行っていきます。							
〔到達目標〕 広告とはマーケティングコミュニケーションであり、その本質は「コトバ」と「イメージーション」にあります。 本講義では、 ①広告＝マーケティングコミュニケーションの社会的意味と役割を理解するための歴史的認識を深め、現代社会におけるその役割と課題を理解していくと共に、 ②広告コンテンツの本質であるコトバとイメージーション力を豊かに、そして他者のイメージーションを理解していくための発想法の基本を身につけていくことを目標とします。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修の目安（分）
第 1 回	ガイダンス ● 広告論講義の背景、授業内容、進め方を説明 ● 最新の広告事例（世界／日本）を紹介 広告市場の現状を講義 ● 広告市場規模推移、産業特性、メディア特性 ● マーケティングコミュニケーションの基本理論			【予習】 シラバスをよく読んでおくことと、テレビ・雑誌・We b（P C／スマホ）等での広告に出来るだけ多く接触していく。 【復習】 電通ホームページから日本の広告統計のデータ及び分析を読み、日本の広告市場の現状を確認していく。			6 0 分
第 2 回	世界の広告史概要 ● 広告の起源である古代エジプトから 2 0 世紀までの世界の広告の全体潮流 ● 2 0 世紀以降の経済と広告市場の中心となり、現在も世界の広告をリードし続けている米国の広告発展史			【復習】 1 9 世紀末から 2 0 世紀初頭に花開いたアールヌーヴォーの文化運動とその作品群に触れていくことで、広告表現進化を確認していく。 米国文化史に関連した書籍・資料も合わせて触れてみることで、米国発の広告発展を確認していく。			6 0 分
第 3 回	戦後日本の広告進展と日本型産業モデル成立 ● 戦後日本の広告の歩みと、電通が先導構築していった日本型広告産業モデル ● 時代を映し出していた、広告作品、新聞広告とテレビCMを中心に多くの事例紹介			【復習】 日本の戦後世相に関連した資料・新聞縮刷版等で戦後文化史も学習。 時間にゆとりがあったら汐留カレッタのアドミュージアムで日本の広告表現の歴史を視察・確認していく			6 0 分
第 4 回	日本の広告産業の組織変革と広告戦略立案機能 ● 電通と博報堂の組織・機能の変遷と次代への課題 ● 広告戦略立案手法を学習 ・ マスメディア戦略／SP 戦略 ／PR 手法の特性 ・ We b プランニング手法			【復習】 電通・博報堂のホームページにアクセスし、両社の沿革と機能、企業ビジョン等を確認していく。			6 0 分
第 5 回	広告クリエイターから見ていく現代の広告コンテンツ ① 佐藤可士和の表現世界 ・ アートからのソリューションへ ● 小課題による発想演習①			【復習】 佐藤可士和のホームページ及び著作等にアクセスし、最新のアートワークを通して現代社会との関わりを理解していく。			6 0 分
第 6 回	広告クリエイターから見ていく現代の広告コンテンツ ② 澤本嘉光の表現世界 ・ ブランデッドエンターテインメント＝コンテンツ展開の旗手 ● 発想演習①の評価			【復習】 澤本のフェイスブック・YouTube 等にアクセスしていくことから理解を深めていく。			6 0 分
第 7 回	広告クリエイターから見ていく現代の広告コンテンツ ③ 森本千絵の広告表現世界 ・ やわらかく、温かい、ハッピーアートワーク ● 小課題発想演習②			【復習】 森本千絵のフェイスブック or ホームページにアクセスし、最新のアートワークに接触していくことから理解を深めていく。			6 0 分
第 8 回	広告クリエイターから見ていく現代の広告コンテンツ ④ 篠原誠・菅野薫・佐藤雄介の広告表現世界 ・ コンテンツとしての広告クリエイティブワーク ● 発想演習②の評価			【復習】 篠原・菅野・佐藤の映像作品を YouTube 等で確認していく			6 0 分
第 9 回	ブランディング広告① ◎ ブランド価値の構築と広告マネジメント ・ ブランド価値構造化モデル ・ HONDA 企業ブランディング ● 小課題発想演習③			【復習】 授業の中で紹介していくブランド本に接触し、ブランディング手法への理解を深めていく。			6 0 分

第10回	ブランディング広告② ◎アサヒビールスーパードライのケーススタディ ・戦後最大のサクセスブランディングストーリー ・対麒麟ラガービールブランド戦略 等 ●発想演習③の評価	【復習】 アサヒビール及び麒麟ビールのホームページにアクセスし、最新のビールCMを視聴することで理解を深めていく。	60分
第11回	ブランディング広告③ ◎コカコーラのブランディングケーススタディ ・世界最強ブランドの日本でのブランディングの推移を広告表現展開から分析 ●小課題発想演習④	【復習】 日本コカコーラのホームページにアクセスし、企業沿革、商品ライン等を確認し、最新の商品／ブランド広告を視聴することで理解を深めていく。	60分
第12回	ブランディング広告④ ◎資生堂のブランディングケーススタディ ・資生堂企業／商品ブランディングの変遷と現状 ・T S U B A K I、マキアージュ等ブランド戦略 ●発想演習④の評価	【復習】 資生堂のホームページにアクセスし、企業沿革、企業理念、商品ライン等を確認し、合わせて最新の商品／ブランド広告を視聴することで理解を深めていく。	60分
第13回	ブランディング広告⑤ ◎サムソン&アップル グローバルブランディングケーススタディ ・S a m s u n g ブランディング ・アップルブランディング ●小課題発想演習⑤ ●期末レポート課題の発表	【復習】 サムソン・アップルのホームページ等にアクセスし、最新企業戦略とブランディング戦略を確認していく。 また講義1～13のレジメを確認しながら課題レポートをまとめていく	120分
第14回	コンテンツマーケティング総括 ・コンテンツマーケティング潮流 ・SNSブランニング ・ダイレクトレスポンス広告 ●発想演習⑤の評価 ●授業全体総括	【復習】 講義14のレジメを再度読み込み、授業への理解を高めていく	60分
〔授業の方法〕 広告事例・ケーススタディを中心とした講義を行っていく。 テレビコマーシャルやWEB広告等の画像、映像をできるだけ見せていきたい。 5回／5テーマを設定しての発想演習と、課題を設定しての期末レポートを実施していく。			
〔成績評価の方法〕 課題設定による期末レポート評価50%、小課題設定による発想演習の評価等の平常点50%を合わせたの成績評価を行う。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点を考慮した評価を行っていく ①広告に関する歴史的認識と今後の課題についてどう理解できたか ②ブランディングの手法とブランディング広告に関する認識 ③広告コンテンツ事例研究と演習を通しての広告的発想力			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 広告の「今」を主テーマとしていくため、テレビ・雑誌・屋外広告・インターネット、モバイル／スマホ等を通してのWEB広告等、日常的な広告に出来るだけ接触し、その背景や狙いを考えていって欲しい。 関連科目：広告史・マーケティング論・メディア論・心理学・言語学・美学・コミュニケーション論			
〔テキスト〕 特に設定しない。 毎回、講義の要旨をプリントした資料を CoursePower で配布していく。			
〔参考書〕 「シリウスの道」（藤原伊織著：文芸春秋社） 「帝王の誤算」（鷹匠裕著：角川書店） 「コトラーのマーケティング4.0」（フィリップ・コトラー著：朝日新聞出版） その他、講義の中で適宜、紹介していく。 購入の必要なし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後にコメントシートを配布し質問を受け付け、次週に質問への対応を行っていく。			
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング 5回の個人発想演習の実施とその評価&レビューを行っていく			

科目名		デジタル・メディア論					
教員名		伊藤 昌亮					
科目No.	125435250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
デジタルメディアのあり方を、特にそこから形成される集合行動という観点から論じます。理論面では、デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる社会理論として、集合行動論、社会運動論、大衆社会論、集合知論などを取り上げます。現象面では、デジタルメディアをめぐる新しい社会現象として、フラッシュモブ、デモ、ネット右派、炎上などを取り上げます。							
〔到達目標〕							
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。 ②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第2回	デジタルメディアとは何か			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第3回	フラッシュモブ①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第4回	フラッシュモブ②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第5回	出会い			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第6回	デモ①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第7回	デモ②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第8回	授業内レポート①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第9回	炎上①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第10回	炎上②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第11回	フェイクニュース			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第12回	ネット右派①			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第13回	ネット右派②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
第14回	授業内レポート②			【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60	
〔授業の方法〕							
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 伊藤昌亮『フラッシュモブズ-儀礼と運動の交わる場所』（NTT 出版） 伊藤昌亮『デモのメディア論-社会運動社会のゆくえ』（筑摩書房） 伊藤昌亮『ネット右派の歴史社会学-アンダーグラウンド平成史 1990-2010 年代』（青弓社） 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。必要に応じて CoursePower に Zoom の URL を掲載します。
〔特記事項〕

科目名		情報デザイン論					
教員名		高橋 裕行					
科目No.	125435300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 「情報が多すぎる」と思ったことはありませんか？ 「デザインって難しそう」と思ったことはありませんか？ 情報が人間の尺度を超えて膨大に増え続けている現在、必要なときに必要な情報を手に入れ、編集し、新たな価値や質をもったものとして発信するような情報デザインが強く求められています。 この授業では、情報デザインの諸手法（収集/編集/発信）を紹介するとともに、実践を通じてそのスキルを身につけます。 しっかり丁寧に指導しますので、情報デザインの基礎スキルが身につくことでしょう。							
〔到達目標〕 1. 情報デザインの概略を理解する。 2. 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本概念と特徴を理解する。 3. 上記の諸手法を実践するための知識とスキルを身につける。 なお、授業は以下の「21世紀スキル」の10のスキルの習得を念頭において構成されている。 1. 創造性、イノベーション 2. 批判的思考、意思決定、問題解決 3. 学び方の学習、メタ認知 4. コミュニケーション 5. コラボレーション 6. 情報リテラシー 7. I							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	インプット手法1（情報の収集）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第2回	インプット手法2（情報の収集） 課題：吉祥寺の隠れた魅力（グループワーク）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第3回	プロセス手法1（情報の整理と発想） 課題：ピーチ君を有名にする方法（グループワーク）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第4回	アウトプット手法1（情報の表現）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第5回	アウトプット手法2（情報の表現） 課題：世界でたった一つの私のお店（個人）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第6回	ワークショップデザイン1（概論）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第7回	ワークショップデザイン2（問いのデザイン）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第8回	ワークショップデザイン3（遊びのデザイン）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第9回	ワークショップデザイン4（問いと遊びの接合）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第10回	ワークショップデザイン5（設計）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第11回	ワークショップデザイン6（実施） 課題：ワークショップの設計（グループワーク）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第12回	ワークショップデザイン7（ふりかえりの技法）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第13回	ワークショップデザイン8（実施） 課題：ワークショップの設計（個人）			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
第14回	まとめ			復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーを作成する。		60分	
〔授業の方法〕							

・スライドを使った講義と、学生によるプレゼンテーションを交互に行います。 ・グループワークを行います。 ・授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。
〔成績評価の方法〕 ・リアクションシートへの記入 30%、課題発表 70%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

科目名		メディアの理論					
教員名		西 兼志					
科目No.	125435350	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
あらゆるものが産業化されていく現代社会において、文化もその例外ではありません。この授業では、文化産業をめぐる重要な文献を取り上げ、その展開を辿ることで、現代社会を理解するにあたって不可欠な考え方を身につけることを目指します。							
〔到達目標〕							
D P 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：文化産業・メディア文化、さらに現代社会一般を広い視点から位置づけられるようになること。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 2 回	文化産業とメディア（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 3 回	文化産業とメディア（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 4 回	文化産業論の源流（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 5 回	文化産業論の源流（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 6 回	文化産業と複製技術（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 7 回	文化産業と複製技術（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 8 回	文化産業と群衆（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 9 回	文化産業と群衆（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 1 0 回	文化産業と精神分析（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 1 1 回	文化産業と精神分析（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 1 2 回	文化産業と感染（1）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 1 3 回	文化産業と感染（2）			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
第 1 4 回	まとめ			配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で進めていきます。 講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。 （なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）							
〔成績評価の方法〕							
平常点で評価します（授業への参加度〔≠出席回数〕＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・文化産業（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
ポータルサイトを通じて随時、配布します。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
配布された資料はプリントアウトした上、手許で参照できるようにしておくことを推奨します。

〔参考書〕
授業中に随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

科目名		サブカルチャー論					
教員名		飯塚 邦彦					
科目No.	125435400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、70 年代後半以降の、日本のサブカルチャーがどのように成長したかを知ることを通じて、現在の私たちの文化や生活を考えていく。 具体的には、70 年代半ばから始まるおたく文化の成立と成長、および 90 年代後半から始まるネット文化の成立と成長をみていく。これらは成立当初は「サブカルチャー」であったが、現在はメインストリームカルチャーとしての地位を得ている。この変化がどのようなものであったのかをみていき、そしてそれらが私たちの現在の生活、経済、政治などに、どのように関わっているかを考察していく。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①文化の歴史的流れをつかみ、それを理解するための主な理論を説明できるようになる。 ②文化の歴史的流れと政治・経済の関わりを知り、そこから現在の文化・社会のあり方を考えられるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・本講義の目的 ・成績評価について ・文化を研究する理論枠組みを紹介			「サブカルチャー」とはなにかを調べておく 現在の「サブカルチャー」には何があるかを調べておく		60	
第 2 回	前提としての全共闘運動（1965～73） ・文化運動としての全共闘運動 ・マンガ、音楽、映画、演劇などが若者文化として成長 ・ミニコミ、自主製作（音楽、映画）の流行			（予習）全共闘運動についての動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。その上で授業に臨む（以下同様）。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。質問がある場合はネット経由で質問する（以下同様）。		60	
第 3 回	マンガを創作する動きからコミックマーケットの成立へ（1975～78） ・「COM」と「ぐら・こん」による漫研活動の活性化 ・「24 年組」の登場による少女マンガの変革とファンの増加			（予習）コミックマーケットの成立の背景になる動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 4 回	アニメブームの到来…第一次おたく文化爆発（1979～84） ・「ガンダム」放送によるアニメファンの増加 ・「アニメブーム」が到来、アニメと関連産業が急速に産業化			（予習）第一次アニメブームに関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 5 回	「キャプテン翼」ブーム…第二次おたく文化爆発（1985～89） ・同人誌界では 85 年後半からキャプテン翼ブームが大爆発。 ・即売会、印刷所、「女性向け」マンガが急速に産業化。			（予習）キャプテン翼ブームに関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 6 回	バブル経済下の文化（1989～1994） ・東京一極集中の文化、テレビの影響力について ・「恋愛」の市場化、産業化 ・連続幼女誘拐殺人事件によるオタクパッシング ・「ボーイズラブ」の勃興			（予習）バブル期の文化に関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 7 回	「エヴァンゲリオン」とネット文化の萌芽（1995～1999） ・「エヴァ」の放送と破綻→「パソコン通信」で考察が行なわれる ・Windows95 と 98 が発売され、インターネットが急速に一般化。初期のネット文化が勃興			（予習）ネット文化の始まりに関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 8 回	「2 ちゃんねる」の登場と深夜アニメの隆盛（2000～2010） ・おたく文化とネット文化の結びつきを考察 ・ネットユーザーに「自分たちは下位の存在である」という自己認識が広まる→その影響を考察			（予習）「2 ちゃんねる」の広まりに関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 9 回	UGC の一般化とおたく文化のグローバル化（2010～2020） ・初音ミク、MMD、ニコニコ動画、Vtuber など、「自分で作る」コンテンツが拡大。 ・おたく文化は、サブカルチャーから、国家によってオーソライズされた「日本独自の文化」になっていく。			（予習）おたく文化が「公認」の文化になっていく動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 1 0 回	追補① アイドル文化とおたく文化の関係 ・80 年代～00 年代のアニメに見るアイドルの様子 ・おたく文化を前提としたグループアイドルの成立			（予習）アイドル文化とおたく文化の関係に関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 1 1 回	追補② かつこ付きの「サブカル」との関係 ・90 年代半ばに成立した「サブカル」とはなにか ・おたく文化とどのような権力闘争を繰り広げたのか			（予習）「サブカル」に関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 1 2 回	考察① 文化産業論からの分析 ・文化産業論の諸理論から見た「おたく文化」 ・産業として巨大化したための地位向上では？			（予習）文化産業論に関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 1 3 回	考察② 文化社会学からの分析 ・文化社会学の諸理論から見た「おたく文化」 ・サブだったものがいかにメインストリームに移行するかを考える			（予習）文化社会学に関する動画を見て、分かったことや疑問点をまとめる。 （復習）理解できた点、質問したい点をまとめる。		60	
第 1 4 回	まとめ 現在のサブカルチャー ・おたく文化が現在のサブカルチャーに果たす役割は？ ・今後のサブカルチャーはどうなるのか？			（予習）これまでの授業・動画で分かったこと、疑問点をまとめ、自分の考えをまとめておく。 （復習）期末試験に備え、授業で述べられたことをまとめておく。		60	
〔授業の方法〕							

講義形式で行なう。あらかじめ授業に関する動画（30 分程度）を用意しておくので、それを見て、分かったこと、疑問点をまとめた上で、授業に臨む。授業の終わりには質問に答える時間を設ける。毎回リアクションペーパーを書いてもらう（ネット上のフォームに書き込む）が、そこに疑問や質問を書いてもよい。
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況、毎回のリアクションペーパーの提出状況など） 30％ 期末レポート 70％
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 文化社会学
〔テキスト〕 特になし 購入の必要なし
〔参考書〕 『おたくの起源』、吉本たいまつ、NTT 出版、978-4757142091 絶版のため、無理に購入する必要はない。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。随時電子メールや Teams で受け付ける。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング（反転授業）

科目名		メディアとアート					
教員名		高橋 裕行					
科目No.	125435450	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
メディアとは何でしょうか？アートとは何でしょうか？ メディアとは、コミュニケーションの媒（なかだち）となる、モノやコトです。 アートにとって、メディアは、ものを作るときにも、他人に見せるときにも、記録し保存するときにも、必要不可欠なモノです。 かつてなく資本主義とグローバリズムが進展した時代にあって、わたしたちは世界のさまざまなアートに触れる機会を持っています。しかし、一方で、現代のアートは難解でとっつきにくいとも言われ、一部のアーティストや愛好者の閉じたサークルのなかにあるということもできます。他方、表現の自由と公共性、著作権のあり方についての議論も高まってきました。 この講座では、現代アートの起源を歴史的に振り返ると共に、現代において、メディアを通じ、より開かれたアートを享受し、提供するにはどうしたらよいか、考えます。							
〔到達目標〕							
・現代アートが置かれた状況を理解する。 ・現代アートの起源を知る。 ・展覧会の作り方の概略と、メディアの活用について理解する。 ・メディアアートの概略を理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	導入 ・授業内容、進め方、講師の紹介と、基本概念の整理を行う			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第2回	現代のアートが置かれた状況1 資本主義とグローバリズム			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第3回	現代のアートが置かれた状況2 表現の自由と公共性			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第4回	現代のアートが置かれた状況3 著作権とコモンズ			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第5回	現代アートの起源 美術館の歴史			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第6回	現代アートの起源 デュシャンにはじまる			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第7回	現代アートの起源 コンセプチュアルアート			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第8回	展覧会の作り方1 企画する			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第9回	展覧会の作り方2 制作する			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第10回	展覧会の作り方3 運営する、記録する			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第11回	メディアアートへの招待1			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第12回	メディアアートへの招待2			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第13回	メディアアートへの招待3			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
第14回	まとめ・ふりかえり			復習：授業内容を振り返り、リアクションペーパーを作成する。		60	
〔授業の方法〕							
基本的には、スライドを使った講義形式で進めます。履修生の数に応じて、グループ・ディスカッションやミニ・ワークショップ、意見発表の時間を設けます。授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。							
〔成績評価の方法〕							

課題レポート 50%、リアクションペーパー50%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくになし
〔テキスト〕 とくになし
〔参考書〕 とくになし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		現代社会研究A					
教員名							
科目No.	125437100	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		現代社会研究 C					
教員名							
科目No.	125437200	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		現代社会研究 D					
教員名							
科目No.	125437250	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーA					
教員名		槇原 彩					
科目No.	125511150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーB					
教員名		槇原 彩					
科目No.	125511250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーC					
教員名							
科目No.	125511350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーD					
教員名							
科目No.	125511450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーE					
教員名							
科目No.	125511550	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		トピック・セミナーF					
教員名							
科目No.	125511650	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		ラテン語					
教員名		井上 秀太郎					
科目No.	125512100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
ラテン語はキリスト教やローマ法と共にヨーロッパ文明の基底をなすものである。ラテン語に関する知識があるか否かは、ヨーロッパの文化・芸術を理解するうえで今でも重要な要素となっており、その点にこそラテン語を学ぶ意義があると言える。この授業では初級文法を半年かけて学び、辞書を使って独力で簡単なラテン語文を読むことが出来るようになることを目指す。							
〔到達目標〕							
DP2【教養の修得】を実現するため、次の3点を到達目標とする (1) ラテン語の基礎的な文法事項を理解する (2) 単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る (3) 単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	文字と発音（母音の長短・アクセントの位置）			【予習】教科書の序章を熟読 【復習】教科書序章の単語を声に出して音読		90 分	
第2回	動詞の活用（第1～4活用）			【予習】教科書第1・2課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第3回	名詞と形容詞（第1・2変化の名詞と形容詞）			【予習】教科書第3課を熟読 【復習】名詞・形容詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第4回	動詞（未完了過去と未来）			【予習】教科書第4・5課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第5回	前置詞と名詞（前置詞の格支配と名詞の第3変化）			【予習】教科書第6・7課を熟読 【復習】名詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第6回	動詞（完了形）			【予習】教科書第8課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を音読		90 分	
第7回	形容詞と名詞（第3変化形容詞と専格の用法）			【予習】教科書第9・10課を熟読 【復習】形容詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第8回	不定詞（対格＋不定詞の構文）			【予習】教科書第11課を熟読 【復習】例文を繰り返し音読		90 分	
第9回	比較の表現（形容詞の比較級と最上級）			【予習】教科書第12課を熟読 【復習】比較級・最上級の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第10回	代名詞（指示代名詞と関係代名詞）			【予習】教科書第13課を熟読 【復習】関係代名詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第11回	受け身の表現と特殊な動詞（受動態の現在形と能動形欠如動詞）			【予習】教科書第14・15課を熟読 【復習】受動態および能動形欠如動詞の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第12回	受け身の表現と分詞の用法（受動態の完了形、現在分詞と絶対的専格）			【予習】教科書第16・17課を熟読 【復習】現在分詞の活用表と絶対的専格の例文を繰り返し音読		90 分	
第13回	接続法（接続法の活用と用法、動形容詞）			【予習】教科書第18課を熟読 【復習】接続法の活用表と例文を繰り返し音読		90 分	
第14回	接続法の用法（間接話法、間接疑問文、条件文）			【予習】教科書第19・20課を熟読 【復習】接続法の例文を繰り返し音読		90 分	
〔授業の方法〕							
授業は講義形式で文法事項および例文の解説を中心に進めていく。折に触れて練習問題も解説を交えつつ取り組んでいく。							
〔成績評価の方法〕							
授業への取り組み（予習や授業中の質疑応答）（50％）、授業内で実施するテスト（50％）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する

- (1) ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
- (2) 単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
- (3) 単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無し

〔テキスト〕
岩崎務（著）『ニューエクスプレス ラテン語（CD 付）』白水社 2011 年 ISBN 978-4-560-08580-6

〔参考書〕
特に無し

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールアドレスは授業時に伝達する。

〔特記事項〕

科目名		古典ギリシア語					
教員名		水元 彬人					
科目No.	125512150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本講義では、古典ギリシア語の文字、発音、初級文法を扱う。本講義で扱う初級文法は主に、名詞の格変化、時制などによる動詞変化である。名詞や形容詞が文中での働きに応じてどのような形になるのか、そして動詞が時制、法、相、人称や数によってどのようにに変化するのかを、具体的に理解し覚えていてもらいたい。予備知識は特に必要としない。 古典ギリシア語を学ぶことの目的や意義はもちろん人それぞれだろうが、西洋文化と関わりがある人全てにとってこの言語は学んでおきたいものかもしれない。たとえば、古典ギリシア語で書かれた作品は様々な分野において重要な位置づけにあるため、それらの作品の原文を読めるようになりたいと思う人や、読めると便利かもしれないと考える人たちにとって、広く本講義は役立つだろう。古典ギリシア語で書かれた作品として、たとえば文学に興味がある人はギリシア悲劇や喜劇（またはそれらの中に色々な形で現れるギリシア神話）を思い浮かべるかもしれない。また、哲学に興味がある人はプラトンの対話篇やアリストテレスの著作を思い浮かべるかもしれないし、歴史に興味がある人はヘロドトスやトゥキディデスによる歴史書、弁論作家による法廷弁論などを思い浮かべるかもしれない。これらの作品は、ジャンルは多岐にわたるものの、いずれも原文で読むためには古典ギリシア語の初級文法を最低限理解していなくてはならない。 また、言語全般に興味を持っている人にとっても、古典ギリシア語の学習は大いに役立つだろう。様々な言語の文字や発音、文法に興味があるという人や、現代ギリシア語をより深く理解したいという人、文法や語を通じて西洋文化の源に触れたいという人にとって、本講義で扱う各事項は具体例として参考になるはずである。							
〔到達目標〕							
DP2（教養の修得）を実現するため、 ①古典ギリシア語の文字や発音を身につける ②古典ギリシア語の格変化や動詞の変化に慣れる ③古典ギリシア語の学習を通じて、西洋文化についての理解を深める							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・ガイダンス（授業の内容や進め方、予習復習の仕方について） ・ギリシア語文字、発音、アクセントについて学ぶ			予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章		90 分	
第 2 回	・ギリシア語文字、発音、アクセントの再確認 ・動詞の現在直説法能動相を学ぶ			予習：教科書 III 章 復習：教科書 III 章		90 分	
第 3 回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（1） ・第一変化名詞の変化を学ぶ（2）			予習：教科書 IV-V 章 復習：教科書 IV-V 章		90 分	
第 4 回	・動詞の未来直説法能動相を学ぶ ・第一変化の女性名詞を学ぶ（3）			予習：教科書 VI-VII 章 復習：教科書 VI-VII 章		90 分	
第 5 回	・小テスト（一回目） ・第一変化の男性名詞を学ぶ ・動詞の未完了過去直説法能動相を学ぶ			予習：教科書 VIII-IX 章 復習：教科書 VIII-IX 章		90 分	
第 6 回	・第二変化名詞の変化を学ぶ ・第一第二変化の形容詞を学ぶ			予習：教科書 X-XI 章 復習：教科書 X-XI 章		90 分	
第 7 回	・前置詞を学ぶ ・動詞のアオリスト直説法能動相を学ぶ			予習：教科書 XII-XIII 章 復習：教科書 XII-XIII 章		90 分	
第 8 回	・直説法能動相本時称、副時称の人称語尾を学ぶ ・ $\mu\iota$ 動詞の直説法現在を学ぶ			予習：教科書 XIV-XV 章 復習：教科書 XIV-XV 章		90 分	
第 9 回	・小テスト（二回目） ・動詞の現在完了、過去完了直説法能動相を学ぶ ・指示代名詞、強意代名詞を学ぶ			予習：教科書 XVI-XVIII 章 復習：教科書 XVI-XVIII 章		90 分	
第 1 0 回	・疑問代名詞、不定代名詞を学ぶ ・動詞の直説法中動相（現在、未完了過去、未来）を学ぶ			予習：教科書 XIX-XX 章 復習：教科書 XIX-XX 章		90 分	
第 1 1 回	・人称代名詞を学ぶ ・動詞の直説法中動相を学ぶ（アオリスト、現在完了、過去完了、未来完了）			予習：教科書 XXI-XXII 章 復習：教科書 XXI-XXII 章		90 分	
第 1 2 回	・再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞を学ぶ ・動詞の直説法受動相、動詞の主要部分を学ぶ			予習：教科書 XXIII-XXV 章 復習：教科書 XXIII-XXV 章		90 分	
第 1 3 回	・小テスト（三回目） ・能相欠如動詞を学ぶ ・約音動詞を学ぶ			予習：教科書 XXVI-XXIX 章 復習：教科書 XXVI-XXIX 章		90 分	
第 1 4 回	・接続法・希求法について学ぶ ・授業のまとめ			予習：教科書 XXXIV・XLIII 章 復習：教科書 XXXIV・XLIII 章		90 分	
〔授業の方法〕							

授業内では、文字の学習から始めて、毎回まずはその日扱う文法事項の解説をし（講義）、その後練習問題を通じて慣れてもらう（演習）。取り扱う文法事項の順番は基本的にはテキストに沿うが、時間の都合上割愛せざるを得ない部分は参加者の自習にまかせる場合もある。古典語は難しそうだと感じている人もついてきてくれるよう、英文法等も比較対象に出しつつ、講義は進める。 自分の理解や暗記がうまく進んでいるかチェックしてもらうために、授業 4 回につき一度ほどのペースで、基礎的な問題を用いた小テスト（15 分程度）を実施する。小テストの出題範囲は、一回目：第 1 回～第 4 回、二回目：第 5 回～第 8 回、三回目：第 9 回～第 12 回となる。
〔成績評価の方法〕 平常点（授業・演習への参加状況：70%、授業内小テスト 3 回分：30%）による総合評価。 学期末試験および期末レポートは実施しない。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語と英語/特になし/ラテン語，西洋史，欧米各国文学
〔テキスト〕 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波 2012 年）
〔参考書〕 特になし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は授業終了後に教室で受け付ける。Course Power に掲載するメールアドレスに質問を送ってもよい。
〔特記事項〕

科目名	展示から探る歴史・文化（東洋文庫ミュージアム開館 10 周年記念特別展）						
教員名	牧野 元紀						
科目No.	125512200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】知れば知るほど面白くなる東洋学ワールド。その一大拠点である東洋文庫の本の森を探索しよう！ 【概要】日本が世界に誇るアジア研究の殿堂、東洋文庫。毎回の授業は所属研究員によるユニークな研究、貴重な図書資料の活用と保存、研究活動における最新の取り組み、ミュージアムの展示による一般への普及・学習支援等を中心に詳しく論じる講義と現場での見学会から構成される。							
〔到達目標〕 DP6【文化現象の総合的理解】を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・日本を代表するアジア研究の拠点である東洋文庫の活動を総合的に理解する。 ・履修者各自が大学における今後の自発的学修、研究において東洋文庫を積極的に利活用できるようにする。 ・多様性に富むアジアの社会を理解すべく歴史資料からアプローチすることを体得する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	「東洋とは？東洋文庫とは？」 【講師】牧野元紀（研究員） 【内容】東洋文庫は日本国内では最大最古、世界でも 5 指に数えられる東洋学の研究図書館である。創立以来の歩みと今日の主な活動を紹介する。			【予習】東洋文庫のホームページ (http://www.toyo-bunko.or.jp/) に各自でアクセスし、概要を把握しておく。		60	
第 2 回	「東洋文庫の研究活動紹介—その継承発展とコロナ禍の影響—」 【講師】會谷佳光（研究員） 【内容】東洋学の研究図書館である東洋文庫の研究活動について概説する。とくに、研究活動の継承や発展にとって重要となる若手研究者の育成、およびコロナ禍の影響による研究活動の現状と課題について紹介する。			【予習】東洋文庫の研究活動の全体像を理解するため、東洋文庫のリサーチページ (http://www.toyo-bunko.or.jp/research/) を確認しておく。		60	
第 3 回	「研究データベースの構築と公開」 【講師】相原佳之（研究員） 【内容】近年、「オープンサイエンス」という言葉をよく耳にするが、そこでは研究成果や研究データを広く公開することで、専門家以外でも気軽に参与できる研究が目指されている。それを推進するための強力な道具が、データベースやデジタルアーカイブである。講義では、東洋文庫などの事例をもとに、データベースがどのような理念で構築されているのかを理解し、受講者自身でもデータベースやデジタルアーカイブを活用できるようになることを目指す。			【予習】東洋文庫が構築する研究データベースの概要を理解するため、東洋文庫リポジトリのページ (https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/) を確認しておく。		60	
第 4 回	「アジア研究の動向—文理融合型アジア資料学（コディコロジー）とは」 【講師】徐小潔（研究員） 【内容】電子端末でも資料や本が読める時代にあつて、東洋文庫は「モノ」としての書物に研究価値を見出している。自然科学の先端技術を駆使した新しい歴史研究の手法を紹介し、書物に記された文字情報からは見えてこない「本」の秘密に迫る。			【予習】東洋文庫のオンライン・ジャーナル『Modern Asian Studies Review / 新たなアジア研究に向けて』Vol.8 (http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html) に掲載している関係論文を確認しておく。		60	
第 5 回	「研究図書館における資料管理のあり方とその活用」 【講師】瀧下彩子（研究員） 【内容】東洋学の専門図書館として、東洋文庫は様々な言語・形態の資料を所蔵している。これらの資料を有意義に活用するため、所蔵資料の目録化とその利用について、特定テーマを意識した目録の作成や、これを利用した資料の探索の実践について具体例を示して講義する。			【予習】事前に東洋文庫のデータベースの概観をつかんでおくこと。タブレットまたはノート PC を持参することが望ましい。		60	
第 6 回	「東洋文庫ミュージアム見学」 【講師】岡崎礼奈（研究員） 【内容】各自で 10 月～12 月中の都合の良い日時で訪問する。ミュージアムを見学し、展示の内容、資料の見せ方など全般に対する所感をレポートにまとめて提出すること。			【予習】事前にミュージアムのホームページを見て、展覧会の概要など基本情報を調べておくのが望ましい。		60	
第 7 回	「資料保存の方法と実践」 【講師】篠崎陽子（研究員）・（非常勤職員 1 名） 【内容】貴重な資料群を、今の研究に生かしつつ、将来に残して行くための、資料保存措置のあり方について考える。保存修復作業の実技映像を教材として使用する。			【予習】大学図書館で保存修復措置がほどこされた資料をさがし、その方法についてメモを作成しておくこと。		60	
第 8 回	「研究図書館における資料整理とレファレンスサービス I」 【講師】櫻井徹（研究員）・山村義照（研究員） 【内容】100 万冊を超える東洋文庫の蔵書。これらの資料の海をどのように管理し、また利用者を目的の資料へと導くのか。和書の整理、目録、分類作業の実践を通じて、研究図書館のユーザビリティについて考える。			【予習】第 5 回、第 7 回の内容を復習し理解しておくこと。		60	
第 9 回	「研究図書館における資料整理とレファレンスサービス II—中東諸言語資料を活用する—」 【講師】原山隆広（研究員） 【内容】東洋文庫は、豊富なアジア諸語の資料を所蔵し、なかでもアラビア語・ペルシア語・トルコ語などの中東諸語による資料は利用者も多い。これらの資料の整理から研究資源としての活用までを概説する。			【予習】第 8 回の講義内容を応用した内容となるので、復習しておくこと。		60	

第 1 0 回	特別講演「近年発見の中国墓誌から読み解く国号「日本」——遣隋使・遣唐使の時代」 【講師】 氣賀澤保規（研究員） 【内容】 私たちの国号「日本」はどこからきているか。いつ「倭」から「日本」に変わったのか。それを知る手がかりが、近年中国で発見された墓誌という石に刻まれた史料から与えられた。それらを読み解きながら、東アジアの視点に立って、国号の成り立ちを考え、日本史の原点に迫る。	【予習】 高校の日本史や世界史の教科書、また歴史の概説書で、①「日本」という国号の由来、「倭」という名称の意味がどう記述されているか、②また日本はなぜ J A P A N と呼ばれるか、を調べておいてほしい。 世界のどの国においても、国名の成り立ちは自国史の原点として大変重視されています。	60
第 1 1 回	「博物館入門—博物館のなかの東洋文庫ミュージアム」 【講師】 篠木由喜（研究員） 【内容】 博物館の歴史を概観し、その中での東洋文庫ミュージアムの位置づけをみていく。	【予習】 博物館概論の関連書籍に目を通しておくこと。	60
第 1 2 回	「展示における図書資料、歴史資料の活用—東洋文庫の展覧会を例に」 【講師】 岡崎礼奈（研究員） 【内容】 東洋文庫ミュージアムで開催中の展覧会を一例に、歴史・文化をテーマとした図書資料中心の展示をいかに一般に向けて魅力的なものにするのか、その工夫について考える。	【予習】 展示を見学した際に何が印象的だったか（展示資料、解説、展示手法など）を整理しておくこと。また、東洋文庫ミュージアムのホームページで過去の展覧会についても内容を確認しておくのが望ましい。	60
第 1 3 回	「博物館で遊ぶ、学ぶ—博物館における教育普及・学習支援」 【講師】 篠木由喜（研究員） 【内容】 博物館で行われる多様な教育普及・学習支援活動の目的・到達地点を確認し、東洋文庫ミュージアムで有効な学習支援活動について考える。	【予習】 博物館の様々な学習支援の取り組みついて、ホームページ等で調べておく。	60
第 1 4 回	総合講評 【講師】 牧野元紀（研究員）	【予習】、これまでの学修内容を確認する。	120
〔授業の方法〕 講義形式。毎回異なる専門をもつ東洋文庫所属の研究員が担当する。東洋文庫の見学等も含む。授業の関連資料は CoursePower にアップロードするので適宜ダウンロードすること。			
〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況、リアクションペーパーの回答内容）60%、試験（あるいはレポートの提出）50%の総合で成績評価をつける。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕 関連のプリントを CoursePower 経由で配布する。			
〔参考書〕 ・ス波義信監修・牧野元紀編『時空をこえる本の旅 50 選』（東洋文庫、2010 年） ・東洋文庫編『記録された記憶—東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』（山川出版社、2015 年） ・東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』（勉誠出版、2015 年）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業開始前と授業終了後に受け付けるほか、CoursePower あるいはメールで受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		文化政策学					
教員名		槇原 彩					
科目No.	125541100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		アート・アドミニストレーション					
教員名		槇原 彩					
科目No.	125541110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		地方自治体の文化行政					
教員名		槇原 彩					
科目No.	125541120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		文化政策と法					
教員名		小林 真理					
科目No.	125541130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
近年（2017 年、2018 年）、文化政策に関する重要な法律に関して改正が立て続けに行われた。文化芸術基本法、そして文化財保護法の一部改正は、文化そのものの振興、指定文化財の保存だけでなく、福祉や教育、観光、外交といった幅広い分野との連携が期待されている。この改正は、これまでの法律とどのような点が異なり、どのような点が変わらず維持されていることなのか。文化に関わる個別法は、戦後文化財保護法を筆頭として、それぞれの領域の課題を解決するために制定され、改正されてきた。文化政策は、国および地域（あるいは人類）の文化を振興（そのために保護）することを通じて国民を豊かにすることを目的とするものであり、文化の創造・振興（普及）・保護を対象とする政策領域である。これらを実現していくために、様々な関連の法律が存在している。法律は、単なる規範ではなく、よりよい文化社会の実現に資するものでなくてはならない。法律を十分に使いこなしていく、あるいは、実態とかけ離れていることがあれば改正をしていく必要もある。先にあげた今回の法律改正を契機に、改めて文化政策に関連する法律が、これまでどのような意味を持ち（どのような問題を孕み）、これからどのような方向性が目指されていくのかということを体系的に明らかにするのが本講義の目的である。							
〔到達目標〕							
公共政策における文化政策がどのような法律や、そこに含まれる原則や価値によって動いているのかを理解する。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	本講義の受け方と知っておかなければならない基本的な知識（法律の構造と、法律の読み方）、憲法と国際条約の枠組みを知る。			法律に使われる用語等について、基本的な知識を復習する。		120	
第 2 回	文化政策の基礎となる法 1－（1）文化芸術基本法（1）			文化芸術基本法が制定される経緯について、学び復習する。		60	
第 3 回	文化政策の基礎となる法 1－（2）文化芸術基本法（2）			文化芸術基本法の内容について、理解を深める。		60	
第 4 回	文化政策の基礎となる法 2－（1）著作権法（1）			著作権法の法律の全体像を理解する。		60	
第 5 回	文化政策の基礎となる法 2－（2）著作権法（2）			著作権法の現代的課題について理解する。		60	
第 6 回	文化政策の基礎となる法 3－（1）文化財保護法（1）			文化財保護法が制定される経緯について理解した上で、法の全体像を理解する。		60	
第 7 回	文化政策の基礎となる法 3－（2）文化財保護法（2）			文化財保護法の展開について、現代的課題を理解する。		60	
第 8 回	文化政策の場・組織を支える法 1 文化政策における法人論			文化政策を担う法人がどのような法律によって規定されるかを理解する。		60	
第 9 回	文化政策の場・組織を支える法 2 公立文化施設に関する法－PFI、指定管理者制度、コンセッション等			公立文化施設に関する法についての多様な法律を理解する。		60	
第 1 0 回	文化政策の場・組織を支える法 3 社会教育関連法－公民館、図書館に関する法律			公民館、図書館に関する法律について理解をする。		60	
第 1 1 回	文化政策の場・組織を支える法 4 博物館に関する法律			博物館法、その他関連法について理解する。		60	
第 1 2 回	文化政策の場・組織を支える法 5 興行場法、劇場法			舞台芸術関係を扱う施設に関する法律を理解する。		60	
第 1 3 回	社会の多様性と向き合うための法 1 障害者文化芸術活動推進法、日本語教育推進法			障害者文化芸術活動推進法・日本語教育推進法成立の経緯と運用について理解する。		60	
第 1 4 回	社会の多様性と向き合うための法 2 アイヌ施策推進法			アイヌ施策推進法が制定される経緯と運用について理解する。		60	
〔授業の方法〕							
講義形式で、理解度を測るためのコメントシートの提出、小テストや小レポートを課します。なお、法律の条文を参照することが必要になるので、それらを参照するための準備は必要になります。インターネットにアクセスできる状態か、あるいは事前に次回扱う法律名を伝えますので法律の条文が参照できるように準備をしてほしいと思います。							
〔成績評価の方法〕							

コメントシート等、平常での課題の提出状況 50%。最終的な試験を 50% で評価をします。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 一般教養として、法学の授業を受けたことがあることが望ましい。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		舞踊論					
教員名		中島 那奈子					
科目No.	125541140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
この授業では、様々なダンスを学びながら、ダンスとは何かを考えるのが主題です。テーマに沿って、欧米と日本、アジアにおける現代の舞踊ジャンルである、タンツテアターからコンテンポラリーダンス、日本舞踊、舞踏を取り上げます。また、舞台芸術の分野において近年ドラマトゥルクという役割が取り入れられつつありますが、ダンスとは何かを分野やテーマに沿って考えながら、教員の実務経験を活かした、ダンスドラマトゥルクの具体的な仕事も紹介していきます。							
〔到達目標〕							
沢山のダンス作品やダンスの映像をみて、新しい知識を得ながら、地域や社会でおきていることと、ダンスを重ねて考えます。ダンスとは何かを考えることによって、自分と社会や環境との関わりや、他者への理解に繋げていくことを目指します。欧米と日本、アジアのダンス的なものを概観しつつ、それを理論的に分析し議論する過程で、ダンスにおいてドラマトゥルクが果たす役割への理解を深めます。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション 授業の進め方について			（予習）シラバスを読みあらかじめ講義内容を把握する。（復習）授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。		60	
第2回	ピナバウシュなどのドイツのタンツテアターについて			（予習）ドイツの舞踊史について『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読する。		60	
第3回	日本の芸能における舞踊について			（予習）日本の舞台芸術史について『民俗と芸術のあいだ』を参考に、把握しておくこと。		60	
第4回	日本舞踊について			（予習）『日本の舞踊』を熟読しておく		100	
第5回	（暗黒）舞踏について			（予習）『大野一雄一稽古の言葉』を熟読すること。		100	
第6回	コンテンポラリーダンスについて			（予習）国内外のコンテンポラリーダンスについて『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読しておくこと。		60	
第7回	アジアの芸能における舞踊について			（予習）アジアの芸能について調べておくこと。		60	
第8回	ポストモダンダンスを中心にパフォーマンス・アートとダンスとの接点を探る			（予習）1960年代のポストモダンダンスについて『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』の該当箇所を熟読すること。		60	
第9回	ダンス作品の上映と小テスト			（予習）これまでの授業内容の復習		120	
第10回	ダンスのドラマトゥルギー ダンス創作での実践と理論の関係について			（予習）論考『ダンス・ドラマトゥルク』を熟読すること。		60	
第11回	ダンスドラマトゥルクの仕事1 ダンスにおけるドラマトゥルクの仕事を取り上げ検証する			（予習）『ドラマトゥルク 舞台芸術を進化／深化させる者』の序章を熟読すること。		60	
第12回	社会とダンス 地域のコミュニティや障がい者、病人、ジェンダー、セクシュアリティとの関連でダンスを作ることにについて			（予習）『生きるための試行 エイブル・アートの実験』を熟読すること。		60	
第13回	<古い>とダンス ダンサーの古いとは何か 大野一雄やイヴォンヌ・レイナーについて			（予習）『古いと踊り』序章を熟読すること。（復習）授業内容について振り返り、小テストに備える。		100	
第14回	授業のまとめと小テスト			（予・復習）授業内容について振り返り自分の考えをまとめる。		120	
〔授業の方法〕							
ディスカッションを加えた講義を中心に、授業毎のコメントシート提出、数回の記述式小テストを実施します。前半は様々な分野でのダンスを概観し、歴史的な参照例を学び、後半はトピックごとに講義を進めていきます。ダンス作品についてより多くの事例を映像を用いて学んでいきます。作品が面白い面白くないと感じるだけでなく、教室での議論を経てさらなる理解に至るため、ダンスの様々な分析方法や理論を紹介していきます。							
〔成績評価の方法〕							
平常授業での議論への参加度・貢献度（30％）と、提出するコメントシート（30％）、上映したダンスや授業内容を確認する授業内の小テスト二回（40％）で、成績評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。
〔テキスト〕 『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』、鈴木晶編、平凡社、2012 ISBN:4582125239 価格:¥6,980 『日本の舞踊』、渡辺保、岩波書店、1991 ISBN:4004301750 価格:¥864 「ダンス・ドラマトゥルク——ニューヨーク・ダウンタウンダンスの現場から」『シアターアーツ』中島那奈子、AICT（国際演劇評論家協会）日本センター 32(秋)2007 年 『ドラマトゥルク 舞台芸術を進化／深化させる者』平田栄一朗、三元社、2010 『大野一雄一稽古の言葉』、大
〔参考書〕 『ハンプルク演劇論』、G.E. レッシング、南大路振一訳、鳥影社、2003 年 『ピナ・バウシュ タンツテアターとともに』、ライムント・ホーゲ、五十嵐茜子訳、三元社、1999 ISBN:488303271X 価格:¥4,447 老いと踊りウェブサイト (agingbodyindance.tumblr.com) ほか。 購入の必要なし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。また随時、電子メールで受け付けます。ポータルサイトで教員のメールアドレスを周知します。
〔特記事項〕

科目名	アート・ジャーナリズム						
教員名	鈴木 理映子						
科目No.	125541150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 芸術作品は、ある日突然、天才的な感性や技術を持った人によって、いちから生み出されるものではありません。アートにかかわるジャーナリズムの仕事は、対象となる作品の構造を捉えると同時に、それを成立させた背景（技術、歴史、制度など）を読み解き、現代の社会において、それがどのような意味を持つのか、「面白い」「かっこいい」とどまらない言葉を編み出し、伝えていくことにあります。 この授業では、演劇情報誌や舞台芸術祭でのメディア編集、原稿執筆の実務経験に基づき、芸術作品の見方、それを伝えるための知見、スキルについて講義、演習、グループワークによる実習を実施します。 特に講義では舞台芸術（演劇、ミュージカル、ダンスなど）が中心的な話題にはなりますが、受講者のみなさんが取り扱うジャンルはそれに限るものではありません。							
〔到達目標〕 DP2、4、5を実現するため、下記の4点を到達目標とする ①芸術作品の生産と需要の構造について、多面的にとらえることができる。 ②作品や作家の活動を始めとする文化芸術が関係するさまざまな事象について、その背景を探る姿勢を身につける ③以上の2点を踏まえたうえで、より効果的なプレゼンテーションを実現するためのスキル、知識を身につける ④グループワークにおいて、多様な意見を聞きつつ、コミュニケーション能力を用い、チーム内での役割を果たせる							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、進め方を説明する。 ・視聴覚資料等選定のため、アンケート調査を実施する。			＜予習＞シラバスをよく読み、内容を理解する。		60分	
第2回	舞台芸術の生産のしくみ ・舞台芸術がどのようにつくられ、社会に位置づけられるのかを、新聞雑誌など、複数の記事、映像資料を参照しつつ分析する。			＜予習＞舞台芸術に関する新聞、雑誌、ネットの記事などに目を通しておく。（個別の作品の告知ではない記事を推奨する）		60分	
第3回	メディアの多様性とその役割 ・多様化するメディアのあり方 ・舞台芸術とメディアの関係 ・メディアとジャーナリズムの関係			＜予習＞前回配布の資料に目を通す。		60分	
第4回	舞台芸術を支える法律、制度 ・文化芸術基本法、劇場法など文化芸術を支える法制度の概要、その理念を知る。 ・上記を踏まえた日本の公共劇場の試み、現状について知る。筆する			＜予習＞前回配布の資料に目を通す。		60分	
第5回	舞台芸術を知る／伝える① ・舞台芸術・現代芸術の視点 現代社会と芸術の関係において重要となる、いくつかのトピックを紹介 ・配布するシートに自分が取り組みたいテーマ、ジャンル等をまとめて提出する			＜復習＞芸術に関するメディアにはどのようなものがあるか。自分が取り扱いたいジャンルやテーマについても考えておく。		60分	
第6回	舞台芸術を知る／伝える② ・小テスト ・グループ分け／顔合わせ			＜予・復習＞ 前回紹介された＜視点＞をもとに、実際にどんな作品があるか調べてみる。また、自分が取り扱いたいジャンルやテーマについて考えを深める。		60分	
第7回	舞台芸術を知る／伝える③ ・企画ミーティング 大まかな方向性と、メディアのあり方を定める			＜予・復習＞ 自分が取り扱いたいジャンルやテーマについて考えを深める。特に具体的な取材対象や方法をイメージする。		60分	
第8回	舞台芸術を知る／伝える④ ・具体的な記事（目次）を決め、そのための準備に必要なことを洗い出し、報告する			＜予・復習＞企画会議の内容をまとめ、今後の課題、タスクを洗い出す。必要に応じリサーチを進める。		60分	
第9回	舞台芸術を知る／伝える⑤ ・ここまでのミーティング、作業の内容、および課題についてまとめ、報告する ・グループごとに実際の作業を進める			＜予・復習＞ここまでの作業の内容を振り返り、今後の課題、タスクを洗い出す。必要に応じリサーチを進める。		60分	
第10回	舞台芸術を知る／伝える⑦ ・ここまでのミーティング、作業の内容、および課題についてまとめ、報告する。 ・グループごとに実際の作業を進める			＜予・復習＞前回までの進捗をまとめ、今後の課題、タスクを洗い出し、必要に応じリサーチ、作業を進める。		60～90分	
第11回	舞台芸術を知る／伝える⑧ ・グループごとに進捗状況を報告、フィードバックを受ける ・グループごとに実際の作業を進め、公開のための準備を進める			＜予・復習＞前回までの進捗をまとめ、今後の課題、タスクを洗い出し、必要に応じリサーチ、作業を進める。		60～90分	
第12回	舞台芸術を知る／伝える⑨ ・グループごとに進捗状況を報告、フィードバックを受ける ・次回のゲスト講義に備えて予習し、質問をとりまとめる			＜予習・復習＞成果物を完成させる。それについてのプレゼンテーション資料も作成する。		60～90分	
第13回	舞台芸術を知る／伝える⑩ ・舞台芸術の制作や広報の現場に関わるゲストを迎え、観客やメディアとの関係づくりなどについて話を聞く。			＜予習＞事前配布の資料をもとにゲスト講師についてリサーチし、質問をまとめる。		60～90分	
第14回	まとめ：各グループごとに、成果物について発表する。			＜予習＞成果物を完成させる。それについてのプレゼンテーション資料も作成する。		60分	

〔授業の方法〕 ・序盤は、講義をベースとし、中盤以後は、グループワークを通じて、芸術を扱う媒体を実際に製作していく。グループワークでは、適宜フィードバックを行う。 ・グループワークにあたっては事前に取り扱うジャンル、やってみたい企画などを個人でまとめる回をもうけ、その内容をもとにグループ編成を行う。 ・到達度を知り、授業の運営に生かすため、コメントシートの記入を課すことがある。 ・授業の内容は進捗により、一部変更することがある。
〔成績評価の方法〕 平常点（授業での発言や質問、グループワークでの貢献度）50%、成果物（小テスト含む）50%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 下記の 3 点に着目し、評価する。 ①芸術作品の生産と需要の構造を多面的にとらえ、作品や作家の活動を始めとする文化芸術が関係するさまざまな事象について、その背景、論点を見つけ出せる。 ③上記の論点を、より効果的に伝達するための考え方、技術を理解している。 ④グループワークに
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 舞台芸術、現代芸術に関心を持ち、その魅力や意義を他者に伝えたいという意欲を持つこと。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 特になし。授業中に適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で、もしくは電子メールにて随時受け付け。
〔特記事項〕 ・プロジェクト型授業 ・初年次教育

科目名		上演芸術論					
教員名		李 知映					
科目No.	125541160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
本科目では、「日本演劇」をテーマに、授業では明治維新以降から現代に至る日本の舞台芸術作品を講義と映像を通して概観します。多様な日本の演劇作品を参照しながら、現代の舞台芸術について理解を深めます。							
〔到達目標〕							
DP2 及び DP 6 を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解を深める。 ②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解を深める。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	オリエンテーション ・授業の全体像、進め方、学習・復習の仕方等を説明する。 ・舞台芸術の魅力とは？			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		30	
第 2 回	開国、明治時代：「西洋演劇」の輸入			【予習】文化芸術に係る法律について調べる 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 3 回	新劇の誕生			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 4 回	宝塚			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 5 回	1960 年代 寺山修司			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 6 回	1960 年代 暗黒舞踏			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。		120	
第 7 回	小テスト① 現代演劇と伝統芸能			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		120	
第 8 回	1970 年代 高度経済成長：つかブームほか			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 9 回	1980 年代 バブル経済の時代：野田秀樹の登場			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 1 0 回	1990 年代 バブル崩壊：静かな演劇？			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 1 1 回	2000 年代 ロスト・ジェネレーション世代の演劇			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 1 2 回	2010 年代 10（テン）世代の演劇			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第 1 3 回	上演芸術の未来 ＊コロナ関係も交わりながら			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。 7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。		120	
第 1 4 回	小テスト② まとめ及びフィードバック			【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。		90	
〔授業の方法〕							
授業は講義式を中心に進めるが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、2 回の小テストと 1 回の課題の実施を通じて、知識の定着を図る。 ＊外部からの実演家を招聘することも検討している。 ＊対面授業を予定しているが、コロナの状況によっては大学の方針に従ってオンライン（ZOOM）授業を行う。							
〔成績評価の方法〕							

成績は平常点によるもの。具体的には小テスト（2回：30％）や課題（20％）、授業への参加度・積極性等（50％）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解しているか。 ②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解しているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし、上演芸術に興味を持っていること。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配る乃至コースワークに上げておく。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		芸術文化行政特講 A					
教員名							
科目No.	125541170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
[テーマ・概要]							
[到達目標]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
[授業の方法]							
[成績評価の方法]							
[成績評価の基準]							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		芸術文化行政特講 B					
教員名		李 知映					
科目No.	125541180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
本科目では、「文化産業」をテーマに話を進めていく。「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、経済活動に対する芸術文化の貢献への関心も高まるなど、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。文化産業における文化概念は、狭義の芸術ジャンルのみならず、広告、建築、デザイン、各種メディア、ゲーム、ソフトウェアなどを包括する。本講義においては、芸術文化と産業・経済の複雑な関係について、文化産業論以外に、文化政策学や文化資源学等も利用し、その歴史や理論等を多角的にみていきたい。							
〔到達目標〕							
①芸術文化と経済・産業の複雑な関係について、その歴史や理論を踏まえて多角的に理解する。 ②日本社会、とりわけ地域経済の持続可能な発展のために、文化産業論の観点から、芸術の創造・発信、流通・雇用・消費（マーケット）、そしてコミュニティ形成（再生）の諸問題について、その全体像を具体的にイメージし、新たな価値創造の提案ができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明 文化とは何か ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化産業論が扱う領域を概観			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		30	
第 2 回	文化経済とは			【予習】文化経済について考える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 3 回	文化政策の根拠			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 4 回	文化芸術と経済			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 5 回	資本としての文化 ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 6 回	文化産業 ・アドルノとホルクハイマーなどの議論から考察			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。		120	
第 7 回	小テスト① 文化産業と地域社会			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		120	
第 8 回	創造産業、クール・ジャパン			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 9 回	創造都市とは			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 0 回	現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」や S. Zukin「Authenticity」などの議論から考察する			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 1 回	各自（乃至グループ）の研究調査に基づく報告会①			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	各自（乃至グループ）の研究調査に基づく報告会②			【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。		60	
第 1 3 回	各自（乃至グループ）の研究調査に基づく報告会③			【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、出た問題に取り組む。7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。		120	
第 1 4 回	小テスト② まとめ及びフィードバック			【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。		90	
〔授業の方法〕							
授業は講義形式で行う。具体的な事例も検討しながら、歴史的、体系的に学ぶ。後半はグループワークも行う。上記に示されていた準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、小テスト 2 回を実施を通じて、知識の定着を図る。 ＊現段階では対面授業を予定しているが、コロナ 1 9 の状況をみながら本学の方針に従ってオンライン授業（ZOOM）に変わる可能性もある。							
〔成績評価の方法〕							
成績はプレゼンテーション（1 回：30％）と小テスト（2 回：30％）や授業への参加度・積極性等（40％）による総合評価。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①文化産業とは何かを理解できているか。 ②芸術文化と経済・産業の複雑な関係について、その歴史や理論を踏まえて多角的に理解できているか。 ③地域経済の持続可能な発展のために、文化産業論の観点から、芸術の創造・発信、流通・雇用・消費（マー
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 「文化政策学など芸術行政コースの授業を履修済み乃至履修している、或いは文化芸術に興味を持っていることが望ましい。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配布することもある。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		写真論					
教員名		日高 優					
科目No.	125541190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 写真はいま、スマートフォンやインスタグラムなどの普及によって、私たちにとってますますアクセスが容易となり、身近な存在になっています。そして、芸術文化の実践という観点からも、その存在は多様化しつつ重要性を増していると言えます。しかし、そんな写真という映像について、深く考察する機会は限られているのではないのでしょうか。写真は、人類史上初めて出現した、カメラという機械による知覚像です。本授業では、写真を学ぶ上での基礎的事項をおさえたうえで、写真の本質について考察する写真論を展開します。特に、写真論において重要な以下の 4 つの論点について、毎回紹介する具体的な写真作品のありようと照らし合わせながら、考察を進めていきます。 ・論点 1 カメラの知覚と人間の知覚 ・論点 2 光 ・論点 3 身体 ・論点 4 リアリティ ・論点 5 記憶 〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、基礎的事項をおさえたうえで写真という映像の本質、写真論の重要な論点について学び、写真の存在意義について考察することにより、芸術文化の実践として、具体的な写真映像を分析しながらその価値を発見できる力を身につけることを目標とします。 〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション 1 ・授業内容、進め方等を説明する。 ・写真論とは何か、写真論の意義について説明する。			復習：レジュメをもとに、写真論とは何を問題にしているのか、その問題系についての理解を深めてください。		60	
第 2 回	イントロダクション 2 ・写真術誕生の歴史的背景について説明する。 ・写真術誕生の意義について説明、考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真術誕生の歴史的意義、人類史的意義について理解を深めてください。		90	
第 3 回	写真論の論点 1——カメラの知覚と身体知覚(1) ・カメラという機械の知覚の特質について説明し、具体的な写真（『光画』や新興写真等の作例）を通してその特質を考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだカメラという機械の知覚の特質について理解を深めてください。		90	
第 4 回	写真論の論点 1——カメラの知覚と身体知覚(2) ・カメラという機械の知覚と人間の身体知覚の差異を説明する。 ・異質な二つの知覚の協働として、写真の原理を説明し、具体的な写真（木村伊兵衛、土門拳等）を通してその問題を考察する。 第 1 回課題			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ二つの知覚の差異について理解を深めてください。		90	
第 5 回	写真論の論点 2——光(1) ・写真原理の原点にある光の問題について、初期写真家たちの問いかけを紹介・説明し、考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真原理、その原点としての光の問題、初期写真家たちの問いかけについて理解を深めてください。		60	
第 6 回	写真論の論点 2——光(2) ・写真原理の原点にある光の問題について、現代の写真家たちの問いかけを紹介・説明し、考察する。 第 2 回課題			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ光の問題、現代写真家たちの問いかけについて、理解を深めてください。		180	
第 7 回	・第 1 回～第 6 回までの内容を総合して、振り返りのまとめの講義をおこなう。 第 1 回達成度確認テスト提出			到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認してください。提出後、復習してください。		180	
第 8 回	写真論の論点 3——身体(1) ・第 1 回達成度確認テスト（前回授業提出）のポイント解説をおこなう。 ・身体知覚の拡張という観点から、スナップショットについて考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだスナップショットについて、理解を深めてください。		90	
第 9 回	写真論の論点 3——身体(2) ・身体知覚の拡張という観点から、アレ・ブレ・ボケ写真について考察する。 第 3 回課題			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだアレ・ブレ・ボケ写真について、理解を深めてください。		60	
第 10 回	写真論の論点 4——リアリティ(1) ・写真と絵画の比較の観点から、リアリティについて考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真と絵画のリアリティの問題について、理解を深めてください。		90	
第 11 回	写真論の論点 4——リアリティ(2) ・写真と絵画の相互作用という観点から、ハイパーリアリズムについて考察する。 第 4 回課題			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだハイパーリアリズムについて、理解を深めてください。		60	
第 12 回	写真論の論点 5——記憶(1) ・映像の拡がりや深さの観点から、写真と記憶の問題を考察する。			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ映像の拡がりや深さとしての記憶の問題について、理解を深めてください。		90	
第 13 回	写真論の論点 5——記憶(2) ・写真の時間性の観点から、写真と記憶の問題を考察する。 第 5 回課題			予習：配布資料を読んでおいてください。 復習：レジュメをもとに、今回学んだ写真の時間性の観点と記憶の問題について、理解を深めてください。		90	

第 1 4 回	・授業全体の内容を総合して、まとめの講義をおこなう。 第 2 回達成度確認テスト提出とポイント解説	到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認してください。提出後、授業全体を振り返ってください。	180
〔授業の方法〕 講義を中心に、授業内に出す課題、達成度確認テストを実施します。講義には、配布資料を用います。			
〔成績評価の方法〕 授業中に出す課題（7 点×5 回） ・内容は、授業内容で説明した原理やキーワードなどを説明する問題を解くこと、授業内容に関する考察を書くことなどです。 ・コースパワーで一定期間内に提出。 第 1 回達成度確認テスト 25 点 ・テストの内容は、主に、写真を分析しながら概念やキーワードを説明する問題です。 ・コースパワーで一定期間内に提出。 第 2 回達成度確認テスト 40 点 ・テストの内容は、授業で確認した論点から、写真を分析・考察する問題です（事前説明あり）。 ・コースパワーで一定期間内に提出。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。写真論の重要な論点を理解し、具体的な写真を分析するにあたって、的確に写真論の論点を展開して考察できるかに着目し、その達成度により評価します。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 資料を配布します。			
〔参考書〕 日高優『現代アメリカ写真を読む デモクラシーの眺望』、青弓社、2009 年（購入の必要なし）。 日高優（監修）『映像と文化 知覚の問いに向かって』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局 藝術学舎、2016 年（購入の必要なし）。 その他、授業時に紹介します。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		制作実習 F					
教員名							
科目No.	125541450	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本語教育概論					
教員名		吉田 昌平					
科目No.	125551110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
日本語教育がどのようなものかを知ることを目的としています。 日本語学習者のイメージを持つための課題をします。その後、ひらがななどの文字、学習者がよく質問する文法、異文化コミュニケーションをテーマにペアまたはグループで課題に取り組みます。 日本語教員に重要なのは学習者とのコミュニケーション力です。そのため「課題や活動への積極的な取り組み」「積極的に意見を述べる」「周囲をみて行動できる」この3つの点が要求されます。							
〔到達目標〕							
DP4-1（表現力、発信力）と DP5-1（多様な人々との協働）を実現するために、以下の点を到達目標とします。 1. ペアまたはグループワークで沈黙せず、自分の意見を的確に伝えることができる。 2. ペアまたはグループワークで考えることを放棄せず、協働を続けることができる。 3. ペアまたはグループワークで得た意見や知識を発展させることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス、アイスブレイキング 宿題：初級学習者が書いた文を読んで気づいたことをできるだけたくさん書き出す。			日本語教育について調べる。		60 分	
第2回	初級学習者が書いた文を読んで気づいたことをもとにペアまたはグループで話し合い発表する。			日本語教育の初級レベルについて調べる。		60 分	
第3回	直接法のと媒介語を使った指導法を体験する。			直接法と媒介語を使った指導法について調べる。		60 分	
第4回	ひらがな 課題1 ひらがなを練習するゲームを考える			国語教育、日本語教育でのひらがな練習やゲームを調べる。		60 分	
第5回	クラスでゲームをやる ピア評価（学生同士で評価する）			ピア評価について調べる		60 分	
第6回	カタカナ なぜ外国人にカタカナが通じないか。			カタカナについて調べる		60 分	
第7回	異文化1 日本語の教室には様々な人種がいる。			異文化摩擦について調べる		60 分	
第8回	異文化2 日本語教室には様々な人種がいる。			イスラム教について調べる		60 分	
第9回	漢字1 課題2：漢字の導入方法を考える			国語教育、日本語教育の漢字導入方法を調べる		60 分	
第10回	課題2の発表 ピア評価			日本に来る外国人観光客について調べる		60 分	
第11回	外国人の質問に答える			外国人がよくする質問を調べる		60 分	
第12回	日本語の丁寧形と普通形			丁寧形と普通形を調べる		60 分	
第13回	最終課題 これまで学んだことを題材にペアで3つクイズを作って提出する。			これまで学んだことを復習する		60 分	
第14回	みんなが作ったクイズでクイズ大会			クイズの問題に関連する情報を調べる。		60 分	
〔授業の方法〕							
参加型授業です。毎回ペアまたはグループで課題に取り組みます。 課題では、グループメンバーと協力してゲームを作り、クラスで実施します。 宿題は、クラスでの活動を円滑にするために必ずやらなければなりません。 課題の目的は、日本語教育現場で教員がしていることを体験し、教材作成技術、指導技術を学ぶことです。 ペア、グループワークの目的はコミュニケーション力向上だけでなく、実際の日本語教育クラスでペア、グループワークを実施する技術を学ぶためでもあります。							
〔成績評価の方法〕							

成績：宿題 (30%)、課題 40%、最終課題 10%、平常点（授業活動への参加度や態度、課題への取り組み、提出物など）
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 特に以下の点に着目し評価する： 1. 課題や活動への積極的な取り組み 2. 積極的に意見を述べる 3. 周囲をみて行動できる
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。
〔テキスト〕 ありません。必要に応じて資料を配布します。
〔参考書〕 必要に応じてお知らせします。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブラーニング

科目名		日本語教育方法論					
教員名		小田切 由香子					
科目No.	125551120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
授業に活用される様々なゲームや活動を体験し、その効果的な使い方について考えます。 ここで取り扱うテーマは「ゲーミフィケーション」「エデュテイメント」です。 「ゲーミフィケーション」はゲームの要素や特徴を他の分野で活かすことです。 「エデュテイメント」教育（エデュケーション）と娯楽（エンターテインメント）を組み合わせた教育です。 2つのテーマを授業で実践しながら、どのような問題乗り越えなければならないか考え、問題乗り越えるアイデアを出し合います。この活動を通じてゲーミフィケーションとエデュテイメントを先生の視点と学習者の視点の両方から分析します。							
〔到達目標〕							
DP1-1[専門分野の知識・技能]専門分野に関する知識・技能を修得している], DP4-1[表現力・発信力], DP5-1（多用な人々との協働 ミュニケーション＋協調性＋チームワーク） これらを目的として、以下のようなことができるようになります。 1. 教育にゲームを活用するときのアイデアと技術を身につく。 2. 対面授業とオンライン授業でのゲームの活用知識が身につく。 3. 楽しい授業を組み立てる力がつく。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス、アイスブレイキング 日本語学習者の動画を見てグループで話し合う。			アイスブレイキングについて調べる		60 分	
第2回	ゲームで学生を話させる 宿題1：ゲームの感想をコースパワーに入れる			語学教育で使われるコミュニケーションゲームについて調べる		60 分	
第3回	日本語能力試験について グループワーク：穴あき資料を埋めながらグループでやる。 日本語能力試験聴解試験「即時応答」を体験する 宿題2：即時応答会話を楽しく練習する教材を作る			日本語能力試験について調べる		60 分	
第4回	課題1 グループでアイデアを出し合い教材を作る			日本語能力試験「即時応答」問題について調べる		60 分	
第5回	課題1 教材をクラスで実施 ピア評価（学生同士で評価する）			友達が実施した即時応答教材についてコメントをまとめる		60 分	
第6回	課題1 教材実施のつづき			友達が実施した即時応答教材についてコメントをまとめる		60 分	
第7回	アリバイゲーム体験 宿題3 新しいアリバイゲームを作る：アリバイゲームのやり方を利用して、容疑者尋問以外の状況で使えるものを考える			語学教育で学習者に話させるコツについてネットで調べる		60 分	
第8回	課題2 グループで自分のアイデアを出し合い、新しい「アリバイゲーム」を作る			新しいアリバイゲームを作る		60 分	
第9回	課題2をやってみる ピア評価			友達の作ったゲームへのコメントをまとめる		60 分	
第10回	課題2をやってみる ピア評価			友達の作ったゲームへのコメントをまとめる		60 分	
第11回	課題2をやってみる ピア評価			友達の作ったゲームへのコメントをまとめる		60 分	
第12回	ゲーミフィケーション、エデュテイメントについて			ゲーミフィケーション、エデュテイメントについて調べる		60 分	
第13回	最終課題：日本語教育で使えるようなゲームやテレビ番組、まんが、アニメなどをさがす。			自分の好きなゲームやテレビ番組をクラスで活用するアイデアを考える		60 分	
第14回	最終課題発表			友達のアイデアへのコメントをまとめる		60 分	
〔授業の方法〕							
参加型授業です。 出された課題についてまず一人で取り組み、そのあとペアまたはグループで取り組みます。創意工夫が要求されます。 課題評価はピア評価（学生同士で評価する）です。友達から学ぶ姿勢が大切です。 テストはありません。							
〔成績評価の方法〕							

成績は以下の通りです： ・宿題（1回）10% ・課題（3回）50% ・最終課題 30% ・平常点（グループワークへの積極的な取り組み、授業中の態度や行動、宿題などの提出など）10%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点を重視します 1. ペアまたはグループワークで沈黙を作らないで積極的に意見を交換する 2. 課題を楽しむ態度 3. 創意工夫の努力
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 指定なし 必要に応じて資料を配布します
〔参考書〕 必要に応じて紹介します
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		日本語教育事情					
教員名		小田切 由香子					
科目No.	125551140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
参加型授業です。 日本語教育の現場で使える教材やゲームを作ったり、活動を企画する力を養います。 ペアやグループで課題に取り組みながら、日本語教育についても基礎的な知識や指導技術を学びます。 また、現在の日本語教育がどのような状況かについても触れます。 このシラバスは諸事情により変更することがあります。							
〔到達目標〕							
DP1-1[専門分野の知識・技能]専門分野に関する知識・技能を修得している],DP4-1[表現力・発信力], DP5-1（多用な人々との協働 ミュニケーション+協調性+チームワーク）,DP6-1 [自発性・積極性] 以上の目標を実現するため、以下のことができるようになります。 1. 日本語教育の教材に関する知識を得て、それを利用した活動ができる。 2. 日本語教育の基礎的な指導技術を学ぶことができる。 3. 教材作成技術とそれを実施する技術を学ぶことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス、アイスブレイキング 日本語教育の話すゲームや活動を体験する。			日本語教育の教材をどれでもいいので一冊読む。		60 分	
第 2 回	日本語学習者ってどんな人？			日本語学習者についてネットで調べる		60 分	
第 3 回	日本語教育より英語教育の授業の方が面白い？			英語教育の授業についてネットで調べる		60 分	
第 4 回	日本語教育での漢字学習 宿題 1 これからいやいや漢字学習を始める人が漢字を楽しい と思える教材を考える。			日本語教育の漢字の教え方についてサイトで調べる		60 分	
第 5 回	課題 1 グループで自分の考えた教材を発表しあい、いい点わ るい点、悪い点の改善点について話し合う。グループで 1 つ選 び教材を作る。			日本語教育、国語教育の漢字学習を開始するときの教材をネ ットで調べる		60 分	
第 6 回	課題 1 の 教材作成			さらに漢字教材を調べる		60 分	
第 7 回	課題 1 の教材発表 ピア評価（学生同士で評価する）			友達の発表した教材についてコメントをまとめる		60 分	
第 8 回	オンライン教材 課題 2 グループワーク：指定されたサイトやアプリについて調 べる。			日本語教育のオンライン教材をネットで調べる		60 分	
第 9 回	課題 2 発表：オンライン教材／アプリの紹介			日本語教育のオンライン授業サイトをネットで調べる		60 分	
第 1 0 回	教材の選び方 課題 3 指定された学習者に適した教材をさがす。			日本語教育の教材をネットで調べる		60 分	
第 1 1 回	課題 3 教材の紹介			友達が紹介した教材について、コメントをまとめる		60 分	
第 1 2 回	日本語教育の現状			現在の日本語教育についてネットで調べる		60 分	
第 1 3 回	最終課題：生の素材を教材化する 個々に作成開始			自分が好きな題材を教材にするアイデアを考える		60 分	
第 1 4 回	最終課題発表			友達が発表したアイデアについてコメントをまとめる		60 分	
〔授業の方法〕							
参加型授業です。 ペアまたはグループで課題に取り組みながら、教材の選び方、作り方、使い方を学びます。 テストはありません。 評価で重要視するのは： 1. ペアやグループワークで積極的に意見を言う（人任せにしない） 2. 課題に積極的い取り組み 3. 教材作成技術と使い方を身につける							

〔成績評価の方法〕 成績は以下の通りです： ・宿題（1回）20%，課題（3回）40%，最終課題 30%，平常点（グループワークへの積極的な取り組み、授業中の態度や行動、宿題などの提出など）10%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 特に以下の点を重視します： 1. ペアやグループワークで積極的に意見を言う（人任せにしない） 2. 課題に積極的い取り組む 3. 教材作成技術と使い方を身につける
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 指定なし 必要に応じて資料配布
〔参考書〕 必要に応じて紹介します
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		言語学講義（言語と社会）					
教員名		八木橋 宏男					
科目No.	125551150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕 本講義で主として扱う「認知言語学」（cognitive linguistics）「社会言語学」（sociolinguistics）「語用論」（pragmatics）は、言語に関わる諸問題を認知や社会との関係で追求する言語学の分野である。音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。これらは、言語を閉じた記号体系とは考えないことから、「開放系言語学」ということができる。 授業では、「ことばと社会」の関係性に関する理解をディスカッション（ないしはそれに類する）形式で深化させていく。この授業を通して、開放系言語学の基本概念をしっかりと身に付け、身の回りにある様々な言語現象を分析的に捉える視点を涵養してもらいたい。 なお、授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP1-2（教養の修得）、DP-3（課題の発見と解決）、DP1-4（表現力、発信力）、DP1-6（自発性、積極性）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ① 開放系言語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的に捉えられるようにする。 ② 言語の社会性を理解し、語学を教える教員として必要な「言語現象を分析的に見る眼」を養成する。 ③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積させることで、絶							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「言語学の歴史と対照研究の動向」を把握する。			【予習】第1章を熟読。		90	
第2回	カテゴリー化 ・カテゴリー化と言語の関係を理解する。			【予習】第2章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第3回	事態把握 ・事態把握と言語の関係を理解する。			【予習】第3章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第4回	メタファ・メトニミ・シネグドキ ・比喩表現の社会性を理解する。			【予習】第4章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第5回	文法化 ・社会的な要請により言語がどう文法を備えるに至ったか理解する。			【予習】第5章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第6回	構文 ・言語の様々なレベルで慣習的な構成体が見られることを理解する。			【予習】第6章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含めて具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第7回	メンタル・コーパス ・日常のコミュニケーションが言語知識としていかに蓄積されているかを理解する。			【予習】第7章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第8回	スキーマ・意味拡張 ・言語表現の意味の拡がりについて理解する。			【予習】第8章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第9回	言語変化 ・言語のバリエーション、ジェンダーや世代をはじめとする言語現象の変化について理解を深める。			【予習】第9章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第10回	バリエーション ・言語表現の多様性および言語によって異なる好まれるコミュニケーション方略について理解を深める。			【予習】第10章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第11回	ボライトネス ・face という概念を知り、positive / negative face の観点から分析できる言語現象について理解を深める。			【予習】第11章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第12回	コンテキスト ・言語によって異なる（と想定される）コンテキストの型を理解する。 ・言語相対論の概略を把握し、言語現象を対照的に捉える手法を理解する。			【予習】第12章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。		90	
第13回	言語選択 ・バイリンガルの種類・知能のほか、コードスイッチングを理解する。			【予習】第13章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、バイリンガル教育の成否のポイントについてまとめる。		90	
第14回	ふりかえりー開放系言語学の今と、日本語教育の明日ー ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を日本語教育に活かす工夫を学修する。			【予習】第14章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語教育に活かすポイントをまとめておく。		90	
〔授業の方法〕 ・主に講義形式で行われるが、毎回ディスカッション（グループワーク）や質疑応答を行う双方向のやり取りも実施する。したがって、予復習に加え、積極的な参加が求められる。 ・各回のテーマや基本概念の知識・分析方法に関する理解を深めるため、予復習については、授業内で詳細に指示する。 ・平常点として成績に組み込まれるレポートに関しては、認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックと日本語教育の接点に関する理解を測るテーマにする予定である。							

・授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。
〔成績評価の方法〕 ・学期末試験および期末レポートは実施しない。 ・平常点（授業・ディスカッションへの参加状況等 50%、宿題レポート提出 50%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な貢献をプラスに評価する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ① 認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックおよび基本概念を正しく理解し、身の回りの言語現象を分析的に捉えられているか。 ② 言語と社会の関係性を客観的に分析し、論理的に説明できるか。 ③ ディスカッションに積極的に参加すると
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 予備知識は特に求めないが、学問を敬う心と、ことばに対する知的好奇心を持って取り組むことが重要である。
〔テキスト〕 『事例で学ぶ英語学入門－異文化コミュニケーションのための日英対照研究－』、多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇著、朝倉書店 （2021 年 8 月刊行）
〔参考書〕 必要に応じて、授業中に適宜指示する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 ・アクティブ・ラーニング

科目名	日本語の学習と習得						
教員名	野山 広						
科目No.	125551160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕 本講義では、異文化間教育や多文化教育の実践課題の一つとして捉えられる日本語教育の中で、「日本語の学習と習得」に焦点を当てる。具体的には、国内外における外国語／第二言語としての自国語の教育政策・施策の現状について触れながら、今後期待される日本語の学習の在り方や、習得に向けた言語環境の整備の在り方について考察する。その考察を深め、日本語教育（学）を学ぶことの意味・意義、可能性について知るために、意見交換や対話の時間を出来るだけ作りたい。							
〔到達目標〕 日本語教育に関連した知識や知見を獲得し、重要項目に関する議論・考察を深めることにより、まずは学生自身の自尊感情の確認を行う。その確認を通して、日本語の学習や習得及び関連した領域・分野に携わる際の基本姿勢や醍醐味についての理解促進を目指す。 そして、地域の日本語教育（子ども、成人、老人の日本語教育も含む）や、学びの実践現場（日本語学習、使用、習得の場）において、その言語生活の基盤（エンジン）となる日本語を使ったコミュニケーション力やリテラシーの力を獲得することの大変さや重要性等に改めて気付く機会・場を							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	1. ガイダンス 授業概要・目標等の説明 授業の目標、スケジュール等の説明。本授業における日本語教育（学）や日本語学習、習得の在り方とは何か、またこの授業に参加するための準備として何が必要で、どのような観点から日本語教育に焦点を当てていくのかなどについて説明する。			日本語教育、日本語の学習、習得などのキーワードに関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 2 回	2. 日本語教育の展開（1） 日本語教育の展開に関連して、中国帰国者／インドシナ難民に対する日本語教育、海外帰国子女／外国人児童・生徒に対する教育の展開、現状について概観する。			日本語教育の展開に関連して、対象者別の日本語教育に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 3 回	3. 日本語教育の展開（2） 1989 年～90 年の入管法の改正・施行、2000 年前後の日本語教育の政策・施策の転換点、2018 年～19 年の「日本語教育推進基本法」の成立（予定）、2019 年 4 月の入管法の新改正による影響、その後の政策・施策の展開、課題等について概観する。			「日本語教育推進基本法」に関する情報（条文、記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 4 回	4. 子どもの日本語教育と日本語の学習/習得（1） 日本語教育にとって重要な課題の一つである子どもの日本語習得に関して、言語環境整備という観点から考察する。			子どもの日本語教育、学習、習得に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 5 回	5. 子どもの日本語教育と日本語の学習/習得（2）－言語環境整備の重要性という観点から 日本語教育にとって重要な子どもの学び（学習/習得）に関して、言語環境整備の重要性という観点から考察する。			子どもの日本語学習/習得の促進に向けた言語環境整備に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 6 回	6. 子どもの日本語教育と日本語の学習/習得（3）－複言語・複文化主義という観点から 日本語教育にとって重要な子どもの教育、学習に関して、複言語・複文化主義という観点から考察する。			複言語・複文化主義（多言語・多文化主義）に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 7 回	7. 日本語教育と地域日本語教育（1） 日本語教育の重要課題の一つである「地域日本語教育」の誕生とその展開について概観する。			地域日本語教育、学習、習得に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 8 回	8. 日本語教育と地域日本語教育（2） 日本語教育の重要課題の一つである「地域日本語教育」におけるネットワークの重要性について触れる。			日本語の習得、学習や社会参加に繋がるネットワーキング（連携、協力、繋がり、協働等）に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 9 回	9. 日本語教育と地域日本語教育（3） 日本語教育の重要課題の一つである「地域日本語教育」におけるコーディネーターの存在・役割の重要性について触れる。			地域におけるネットワーク構築や日本語習得、学習を支えるコーディネーターに関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 10 回	10. 日本語教育と地域日本語教育（4） 日本語教育の今後の重要課題の一つと捉えられる日本語の摩滅、喪失の問題と、その対応策について考察、展望する。			学習や習得に関連して、第二言語/外国語として習得した日本語/言語の「摩滅」「喪失」に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 11 回	11. 諸外国の事例（1）ドイツ、韓国、フランス、アメリカ、イギリス等 1960 年代以降外国人労働者や移民を多く受入れてきた国々（移民の受入れ先進国）の受入れ施策や言語教育政策・施策について概観する。			ドイツ、韓国、フランス、アメリカ、イギリス等の移民（政策）に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 12 回	12. 諸外国の事例（2）スウェーデン、オーストラリア、カナダ等 特に多文化主義的な外国人受入れ政策を展開してきた国々の基本姿勢及び子どもに対する言語教育推進のための政策・施策展開の展開等について概観する。			スウェーデン、オーストラリア、カナダ等の移民（政策）に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 13 回	13. 諸外国の事例（3）日本の現状を概観しながら 1～12 の講義の内容や日本の現状を踏まえて、レポート（最終レポート）の作成に向けて、移動してきた住民の言語生活の基盤となる日本語学習や習得の環境整備の充実に向けて、今後どのような政策・施策が必要か等について考察する。			教育の政策・施策に関連した、例えば「（義務教育）教育機会確保法」や夜間中学に関連した情報（記事、論文、著作等）を入手して、読んでおくこと。		60 分～90 分	
第 14 回	14. まとめ 1～13 の内容・議論・対話（意見の擦り合わせの経験）等を踏まえ、日本語の学習、習得に関連したテーマを自分で決め、最終レポートのテーマ、概要、計画（案）について各人発表する。また発表内容やこれまでの授業内容等について振り返りな			1 回～13 回までに入手した情報の中で、自分自身が特に興味を持った情報（記事、論文、著作等）を入手して（その内容を把握し）、発表の準備をしておくこと。		60 分～120 分	

	がら、コース全体の総括を行う。		
〔授業の方法〕 日本語の学習、習得だけでなく、一旦習得した言語の摩滅、消失等に関する考察を深め、日本語教育（学）を学ぶことの意味・意義、可能性について知るために、毎回の講義の中で、意見交換や対話（意見の擦り合わせ）の時間を作る。 また、毎回の授業の終わりに、その回の授業内容や次回の授業内容に関連した課題（小さなタスク）を出すので、次の授業の準備として、その課題を行ってることが期待される。その課題に対応した小レポートを毎回提出し、授業中のディスカッション、意見交換に参加して、さまざまな知識や知見を蓄積していくことが、最終的に最終レポートの充実に繋がることとなる。			
〔成績評価の方法〕 全体の8割以上の出席が前提である。授業の過程で課される小レポートや最終レポートを通して理解度・達成度を評価し、授業中の意見交換やグループワーク（協調活動）への参加状況、出席率などによって、授業への貢献度を評価する。 評価の割合は、理解度・達成度 60%（毎回の課題＝タスクへの小レポート 20%、最終レポート 40%）、貢献度 40%（授業での発表等 30%、出席状況 10%）によって行なう。なお、もし課題提出が遅延する場合は、事前に理由を述べること。その理由次第では、ペナルティを課す場合がある（最終レポートの点			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 自分自身の言語の学習、習得に関する歴史/経緯に関する振り返り（省察）と、その関連知識			
〔テキスト〕 以下の著作をテキストとして、その内容を踏まえながら、講義内容に応じて、適宜、プリントを配布する。 なお、購入することは必須ではないが、授業の理解をより深めるために購入することを期待する。 テキスト① 『日本語教育の過去・現在・未来 第1巻 社会』野山広・石井恵理子編集・水谷修監修（2009），凡人社 テキスト② 『日本語が話せないお友だちを迎えて～国際化する教育現場からの Q&A～』（2010） 河原俊昭・山本忠行・野山広編・著（2010），くろしお出版			
〔参考書〕 以下の著作を本講義の参考書とする。 なお、これらの本を購入する必要はないが、図書館等で借りられるのなら、借りて読むことを推奨する。 参考書① 『「移動する子どもたち」のことばの教育を創造する－ESL 教育と JSL 教育の共振－』 川上郁雄・池上摩希子・齋藤ひろみ・石井恵理子・野山広共編(2009)，ココ出版 参考書② 『日本語を学ぶ／複言語で育つ—子どものことばを考えるワークブック—』 川上郁雄・尾関史・太田裕子著（2014），くろしお出版			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 基本的に、授業終了後に（教室で）受け付ける。			
〔特記事項〕 ・対話重視の参加型授業			

科目名		言語の構造					
教員名		吉田 昌平					
科目No.	125551170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 前期
〔テーマ・概要〕							
言語の音/発音に興味をもっている人のための授業です。人間の（ほぼ）全ての言語音の発音の仕方と聴き方を身体で学びます。全体を知った上で、特定の言語の具体的な音と、音韻変化（ある音が他の音に変わる）と変化の条件について頭で学びます。 物質が分子から構成され、分子は原子から構成されるように、人間の言語も分節されるのが特徴で、文は句から、句は語から、語は形態素から、形態素は脚から、脚は音節から、音節は音素から構成されます。この授業で扱うのは、「音素」という抽象化された音と「異音」という物理的な音です。最先端の音韻理論が提唱する音の「原子」もわかりやすく紹介します。							
〔到達目標〕							
DP1-1[専門分野の知識・技能]専門分野に関する知識・技能を修得している 具体的には・・・ 1. 国際音声文字の全ての音を発音できるようにする。http://www.ipachart.com/ 2. 日本語教育能力試験、日本語の構造の音声・音韻体系の準備となる。 DP2-1[教養の修得]広い視野での思考・判断：人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。 具体的には・・・ 3. 本授業で学んだことを自分の							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	アイスブレイカー、IPA（国際音声記号）紹介 基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 映画「マイ・フェア・レディ」部分視聴			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		20	
第2回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 子音調音点、口腔断面図 映画「マイ・フェア・レディ」部分視聴 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第3回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 子音調音法 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第4回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 非排気流子音 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第5回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 基本母音 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第6回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 音素・異音、最小対、相補分布 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第7回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 日本後のアクセント、拍・音節・フット 音韻変化と音韻規則 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第8回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 日本後のアクセント、拍・音節・フット Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第9回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 音韻変化と音韻規則 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第10回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 最先端の音韻論 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第11回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 日本語教育能力検定試験過去問題 Debriefing			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第12回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 日本語教育能力検定試験過去問題 Debriefing IPA 音産出・認識テスト			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ）		60	
第13回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） 日本語教育能力検定試験過去問題 Debriefing IPA 音産出・認識テスト			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
第14回	基本稽古（IPA 素振り、聴き取り） IPA 音産出・認識テスト			IPA 音の産出・認識練習（ http://www.ipachart.com/ ） インストラクターが指示した課題・宿題等。		60	
〔授業の方法〕							
授業は毎回、発音・聴き取り練習から始めるので、遅刻しないでください。 講義の他、グループで問題を解く活動を行います。Debriefing は、その日に学んだことを確認する授業の最後に行うグループ活動。							

〔成績評価の方法〕 IPA 音産出・認識テスト（３０％）：学期末に実施。インストラクターが見せるカードにある発音記号を発音します。 宿題・小テスト（６０％）：宿題は締め切り後の提出は受け付けません。 平常点（１０％）：授業や活動における、参加度・貢献度を評価します。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。
〔テキスト〕 教室と Web 上で教材を配布します。Web からダウンロードした教材は、各自でプリントしてください（大型ディスプレイのタブレット、PC 可。携帯不可）
〔参考書〕 特にありません。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後にテレ会議内で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		対照言語学（日英対照）					
教員名		長谷川 明香					
科目No.	125551180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
対照言語学とは、複数の言語を対比して共通点と相違点を探る学問分野である。我々が外国語を学んだり翻訳したりしようとするとき、自分の母語や他の外国語との違いに驚かされることがよくある。この講義では、単語の意味や文の構造について、現代日本語、現代英語を題材に対照し分析する。こうした作業を通じて、複数の言語にまたがる共通点を把握すると同時に、1 つの言語を見ているだけでは気づくことのできない（あるいは気づきにくい）「その言語らしさ」について考察を深めていく。							
〔到達目標〕							
DP 1（専門分野の知識・技能）、DP 2（教養の修得）、DP 3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ・ 具体的な語や熟語の意味について、日本語と英語の違いを適切に把握できる。 ・ 文の意味と形の対応関係について、日本語と英語の違いを体系的に分析できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス ・ 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等の説明をする ・ 世界の言語を紹介しながら、「ことばを対照させる」とは何かを考える			【予習】シラバスを熟読する。		20	
第 2 回	語彙（1）語の意味の広がり			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 3 回	語彙（2）語の意味の背後			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 4 回	出来事をどう言語化するか			提出課題を行なう		90	
第 5 回	移動を表わす構文（1）自分が動くときの言い方			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 6 回	移動を表わす構文（2）ものを動かすときの言い方			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 7 回	到達度確認テスト 1			【予習】到達度確認テスト 1 に備え、これまでの復習をする		90	
第 8 回	・ 他動詞と自動詞 ・ 使役とは何か、典型的な語彙的使役構文の特徴			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 9 回	非典型的な語彙的使役構文（1）鍵がドアを開けた			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 1 0 回	非典型的な語彙的使役構文（2）法隆寺を建てたのは聖徳太子か			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 1 1 回	非典型的な語彙的使役構文（3）使役と受身のあいだ			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 1 2 回	「する」型と「なる」型			【予習】指定されたタスクを行なう 【復習】授業で取り上げた例文を、独力でも適切に分類・分析できるか確認する		60	
第 1 3 回	到達度確認テスト 2			【予習】到達度確認テスト 2 に備え、これまでの復習をする		90	
第 1 4 回	日英語の好まれる言い回し			【予習】この授業全体を振り返り、自分の理解できていないところがないか確認する 【復習】提出課題を行なう		90	
〔授業の方法〕							
主に講義形式で進めるが、必要に応じて、発言を求めたり、ペアワーク・グループワークをしてもらう。予習復習を怠らないこと（なお、上で示された準備学修の時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと）。 課題は、主に、自分の力で、問題点に気づけるか、例を適切に分析できるかを確認するためのものである。 到達度確認テストは、主に、授業で学修した内容についてきちんと身につけているかを確認するためのものである。							
〔成績評価の方法〕							
平常点（35%）、課題（25%）、到達度確認テスト（40%）により総合的に評価する。 「平常点」は、予習復習状況、授業への参加状況、コメントシートの内容により判断する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点に着目し評価する。

- ・ 具体的な語や熟語の意味について、日本語と英語の違いを適切に把握できるか。
- ・ 文の意味と形の対応関係について、日本語と英語の違いを体系的に把握し、自分の言葉でまとめられるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識を前提としない。

〔テキスト〕
特になし（資料を配布を配布する）

〔参考書〕
『明解言語学辞典』、斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）、2015 年、三省堂、本体 2,200 円＋税、ISBN978-4-385-13578-6、購入の必要なし。
その他の参考文献は授業時に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
短時間であれば授業終了後に教室内で受け付ける。メールアドレスは改めてアナウンスする（ポータルサイトか **CoursePower** に掲載予定）。

〔特記事項〕

科目名		日本語教授法					
教員名		吉田 昌平					
科目No.	125551200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
日本語教授法の知識を得ることを目的としています。同時に日本語教員の役割を理解することも期待されます。 実際に日本語教員が関わるショートビジットの留学生への対応などを課題として、より実践的に日本語教育能力県試験に出題される知識を学ぶように活動が組み立ててあります。 また、知識を得ると同時に日本語教員に重要なコミュニケーション力を身につけられるように参加型の授業にしています。							
〔到達目標〕							
PD1-1(専門分野の知識・技能)、PD4-1(表現力・発信力)、PD5-1(多様な人々との協働 ミュニケーション+協調性+チームワーク)を実現するために、以下の項目を到達目標とする 1. 教授法に関する重要な用語を理解し覚えている。 2. 教授法について自分の意見が言える。 3. ペアまたはグループ活動で他人にまかせず、自分から積極的に動くことができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス、アイスブレイキング 日本語教員の役割1			日本語教員は学習者に何をするのか調べる		60 分	
第2回	日本語教員の役割2 課題1 ショートビジット留学生のために日本滞在予定を作る			留学生にはどのような留学のタイプがあるか(長期、短期、ショートビジットなど)を調べる		60 分	
第3回	課題1の発表 ピア評価(学生同士で評価) 宿題:学習観の変遷と学習理論・言語観の資料を読む。			ピア評価について調べる 学習観の変遷と学習理論・言語観について調べる		120 分	
第4回	学習観の変遷・学習理論・言語観1 グループになり指定されたトピックについて話し合いまとめ、発表する。 クイズ:学習観と理論を表にまとめる			学習観の変遷と学習理論・言語観についてさらに調べる		60 分	
第5回	英語教育で使われているゲーム 宿題2 学校で使える楽しいゲームをさがす			ゲーミフィケーションについて調べる		60 分	
第6回	課題2 ゲームをクラスで実施 ピア評価			授業でゲームをするときにコツについて調べる		60 分	
第7回	教授法1 1 アプローチとメソッド 2 文法訳読法 そのほか			ベルリッツ・メソッドを調べる		60 分	
第8回	教授法2 オーディオ・リンガル・メソッド そのほか			オーディオ・リンガル・メソッドを調べる		60 分	
第9回	教授法3 オーディオ・リンガル・メソッドの練習を体験する 課題3 ミニマル・ペアを作る			ミニマル・ペアを調べる		60 分	
第10回	教授法4 コミュニケーションにつながる教授法で使われる活動を体験する			話させる活動を調べる		60 分	
第11回	教授法5 タスク中心の教授法			タスクについて調べる		60 分	
第12回	教授法6 オーディオ・リンガル・メソッドとコミュニカティブアプローチを比べる			コミュニカティブアプローチを調べる		60 分	
第13回	教授法7 人間的な教授法			サジェストペディアを調べる		60 分	
第14回	これまでの教授法のまとめと 教授法について感想を交換する 最終課題:教授法はどのように活用すべきか?自分の意見を書く。			教授法について流れをまとめる		60 分	
〔授業の方法〕							
ペアまたはグループワークが中心の参加型授業です。意見を交換たり、課題に取り組むことで日本語教員に必要なコミュニケーション力と協働技術を学びます。 教授法は日本語教員の資格試験である日本語教育能力検定試験にも出題される項目なので、言葉の説明だけでなく実際に体験しながら理解した上で覚えるようにします。 課題が多いのは、グループ活動をしながら知識を得ることを目的としているためです。							
〔成績評価の方法〕							

成績：宿題 10%, クイズ 10 %, 課題 60%, 最終課題 10%, 常点（授業活動への参加度や態度、課題への取り組み、宿題提出など）10%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 特に以下の点に注目して評価します。 1. クラスでの課題が円滑にいくように宿題や予習をしているか。 2. ペアまたはグループ活動で沈黙せず、積極的かつ的確に自分の意見を伝えているか。 3. 教授法の特徴や関連重要用語を理解し覚えているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。
〔テキスト〕 特にありません。毎回資料を配布します。
〔参考書〕 必要に応じてお知らせします。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブラーニング

科目名		日本語教育実習／c					
教員名							
科目No.	125551320	単位数	1	配当年次	3 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕

科目名		日本語教育実習／d					
教員名							
科目No.	125551330	単位数	1	配当年次	3 年生	開講時期	2021 後期
〔テーマ・概要〕							
〔到達目標〕							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回							
第 2 回							
第 3 回							
第 4 回							
第 5 回							
第 6 回							
第 7 回							
第 8 回							
第 9 回							
第 1 0 回							
第 1 1 回							
第 1 2 回							
第 1 3 回							
第 1 4 回							
〔授業の方法〕							
〔成績評価の方法〕							
〔成績評価の基準〕							

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
〔特記事項〕